

人権・同和問題に関する住民意識調査報告書

2020（令和2）年12月

栗東市教育委員会

【目次】

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計等	1
3. 報告書の見方	1
II. 調査結果	2
1. 世の中のあり方や人間の生き方への考え方について	2
2. 人権・同和問題への考え方について	13
3. 同和問題について	71
4. 差別や人権侵害について	90
5. 地区別懇談会について	97
6. 人権・同和教育に関する取り組みについて	103
7. 部落差別解消推進法に関する認知度等について	111
8. 市民が思う、栗東市の人権尊重に対するまちの姿について	116
9. 人権・同和問題に関する自由意見、回答者ご自身のことについて	117
資料編（調査票）	119

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、部落差別をはじめとするあらゆる人権問題について、市民意識の現状を把握することで、本市がこれまで実施してきました人権啓発活動の効果と課題を明らかにし、今後の人権・同和問題への取り組みに活用していくための基礎資料とするものです。

2. 調査設計等

- ・調査地域：栗東市全域
- ・調査対象者：満20歳以上の住民3,000人を対象に無作為抽出
- ・調査期間：令和2年8月5日～令和2年8月28日
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- ・回収状況：配布数：3,000件
回収数：1,342件、回収率：44.7%
有効回答数：1,342件、有効回答率：44.7%

3. 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

◇図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

◇本文中の「ポイント」とは、「%」の差を表しています。

◇考察の中では選択肢を「○○○○」と記載しています。同類の選択肢を示す場合、『○○○○』と記載する場合があります。

(例)「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」⇒『そう思う』
「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」⇒『そう思わない』

◇グラフ及び表の「N数 (number of case)」は、標本数（集計対象者総数）を表しています。

Ⅱ．調査結果

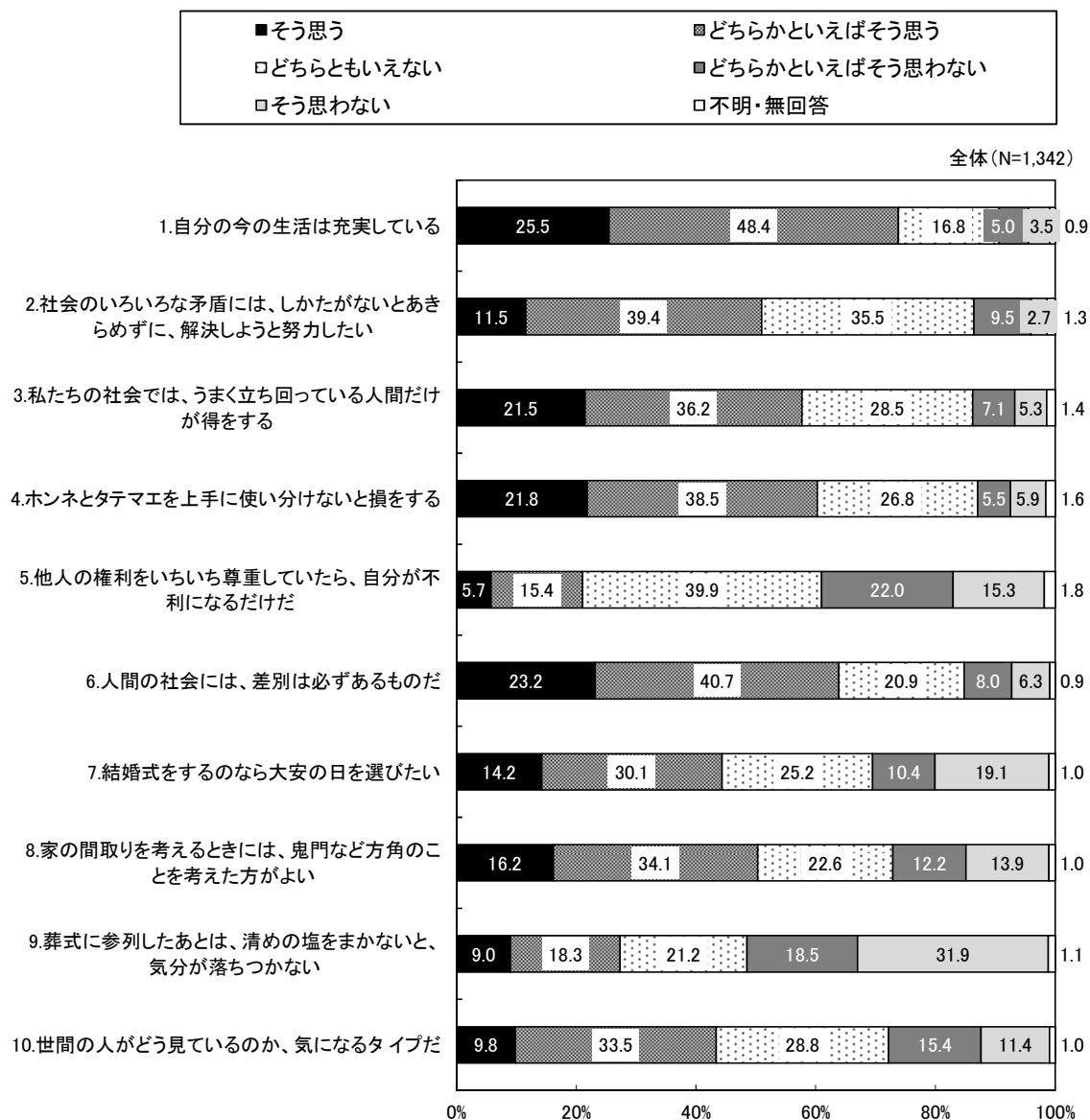
1. 世の中のあり方や人間の生き方への考え方について

問1. 世の中のあり方や人間の生き方について次のような意見があります。あなたはどのように思われますか。それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体

世の中のあり方や人間の生き方についてみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「1. 自分の今の生活は充実している」が73.9%と最も高く、次いで「6. 人間の社会には、差別は必ずあるものだ」が63.9%、「4. ホンネとタテマエを上手に使い分けないと損をする」60.3%となっています。

一方で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、「9. 葬式に参列したあとは、清めの塩をまかないと、気分が落ちつかない」が50.4%と最も高く、次いで「5. 他人の権利をいちいち尊重していたら、自分が不利になるだけだ」が37.3%、次いで「7. 結婚式をするのなら大安の日を選びたい」が29.5%となっています。



■基本属性別

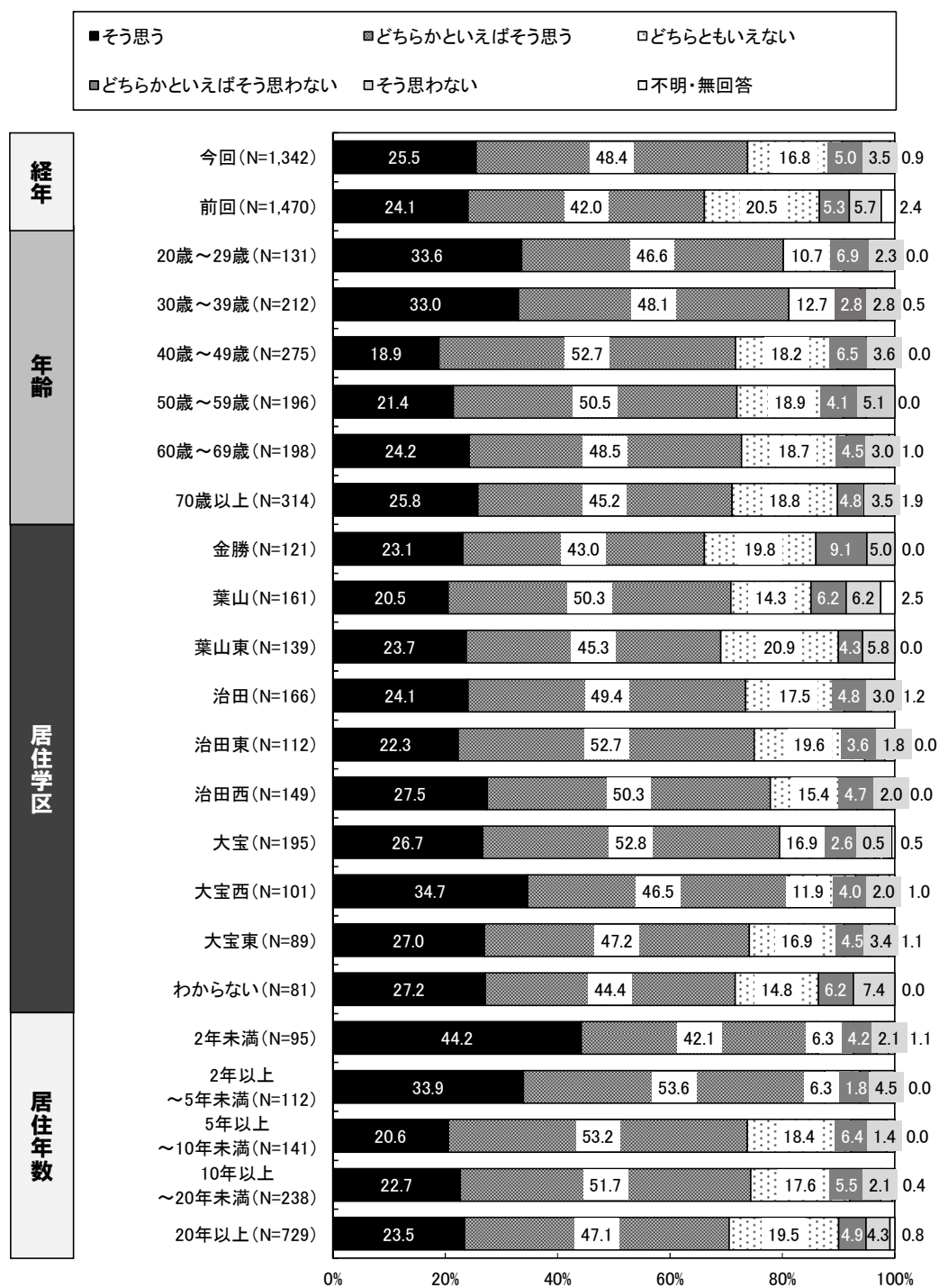
問 1-1. 自分の今の生活は充実している

前回調査と比較すると、『そう思う』が 7.8 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20～39 歳において「そう思う」が3割強と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、大宝西において「そう思う」が3割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年未満において「そう思う」が4割強と他の年数と比べて高くなっています。



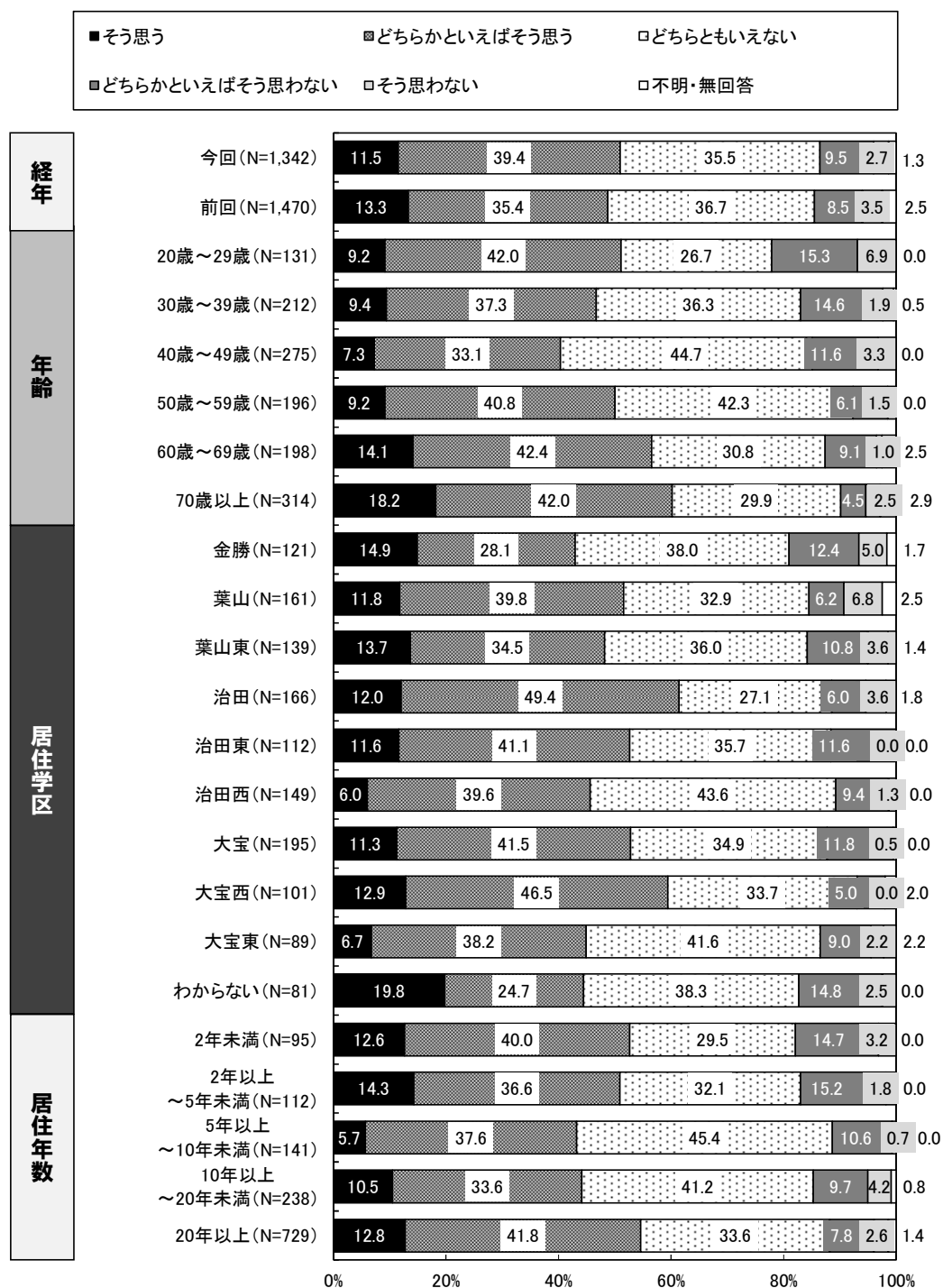
問 1-2. 社会のいろいろな矛盾には、しかたがないとあきらめずに、解決しようと努力したい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 2.2 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30～49 歳を除いて『そう思う』の割合が5割以上と高くなっています。

居住学区別にみると、治田において『そう思う』が6割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、5年以上～20 年未満においては『そう思う』が5割以下であり、他の年数と比べて低くなっています。



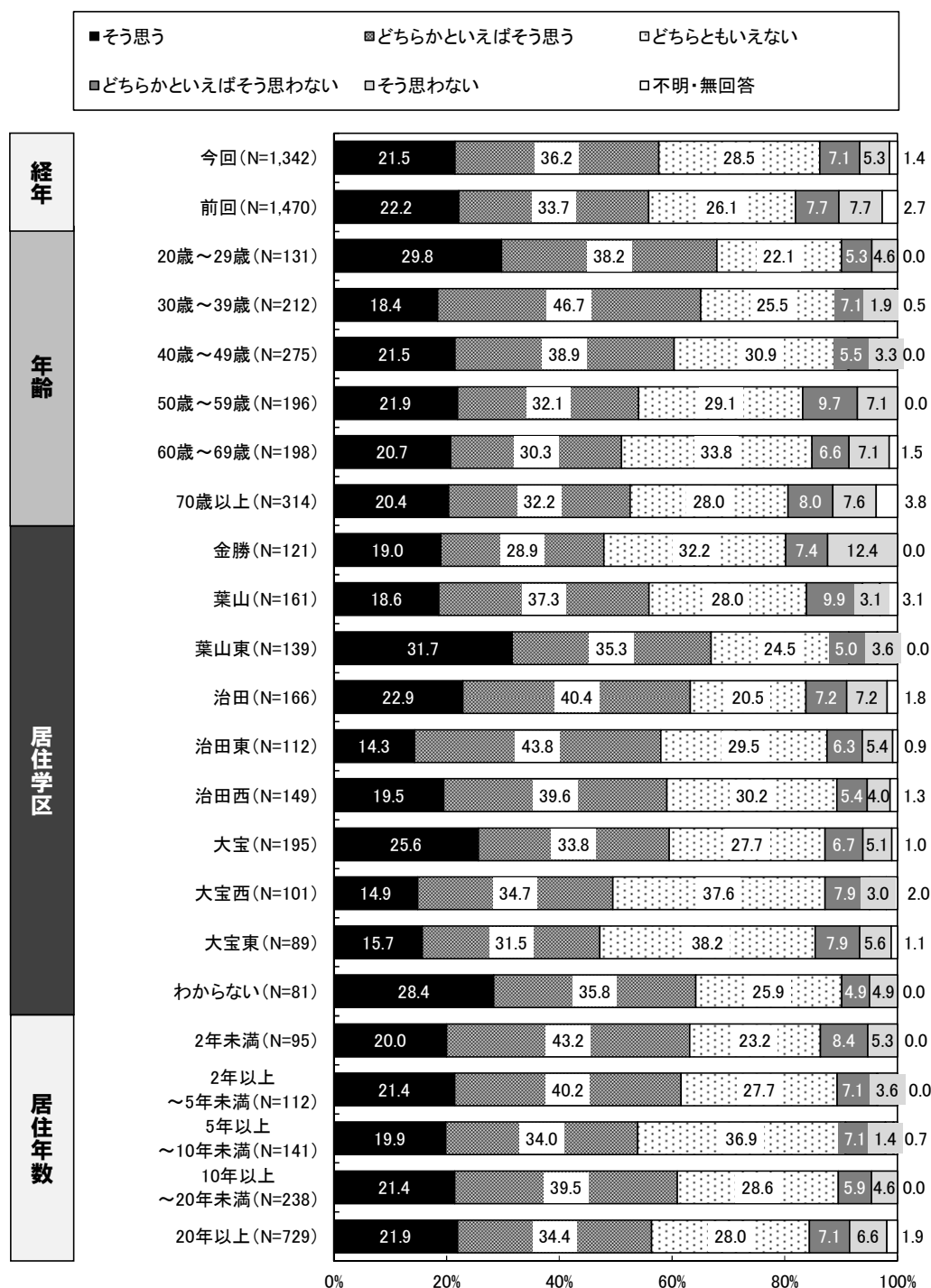
問1-3. 私たちの社会では、うまく立ち回っている人間だけが得をする

前回調査と比較すると、『そう思う』が1.8ポイント高く、『そう思わない』が3.0ポイント低くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて『そう思う』が低くなる傾向が見られます。

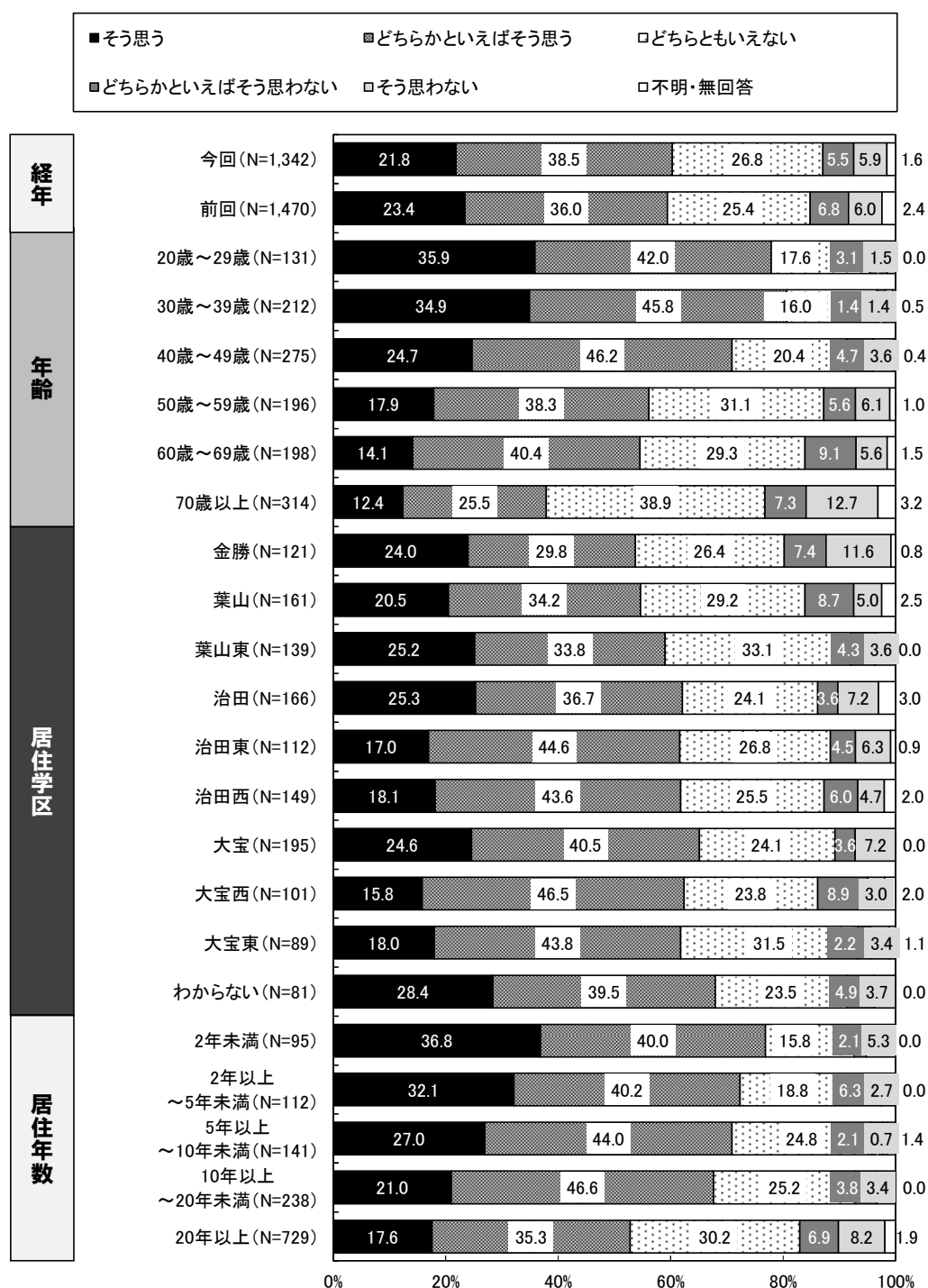
居住学区別にみると、葉山東において「そう思う」が3割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、『そう思う』が全ての年数で5割以上を占めていますが、中でも2年未満、2年以上～5年未満、10年以上～20年未満が6割を超えています。



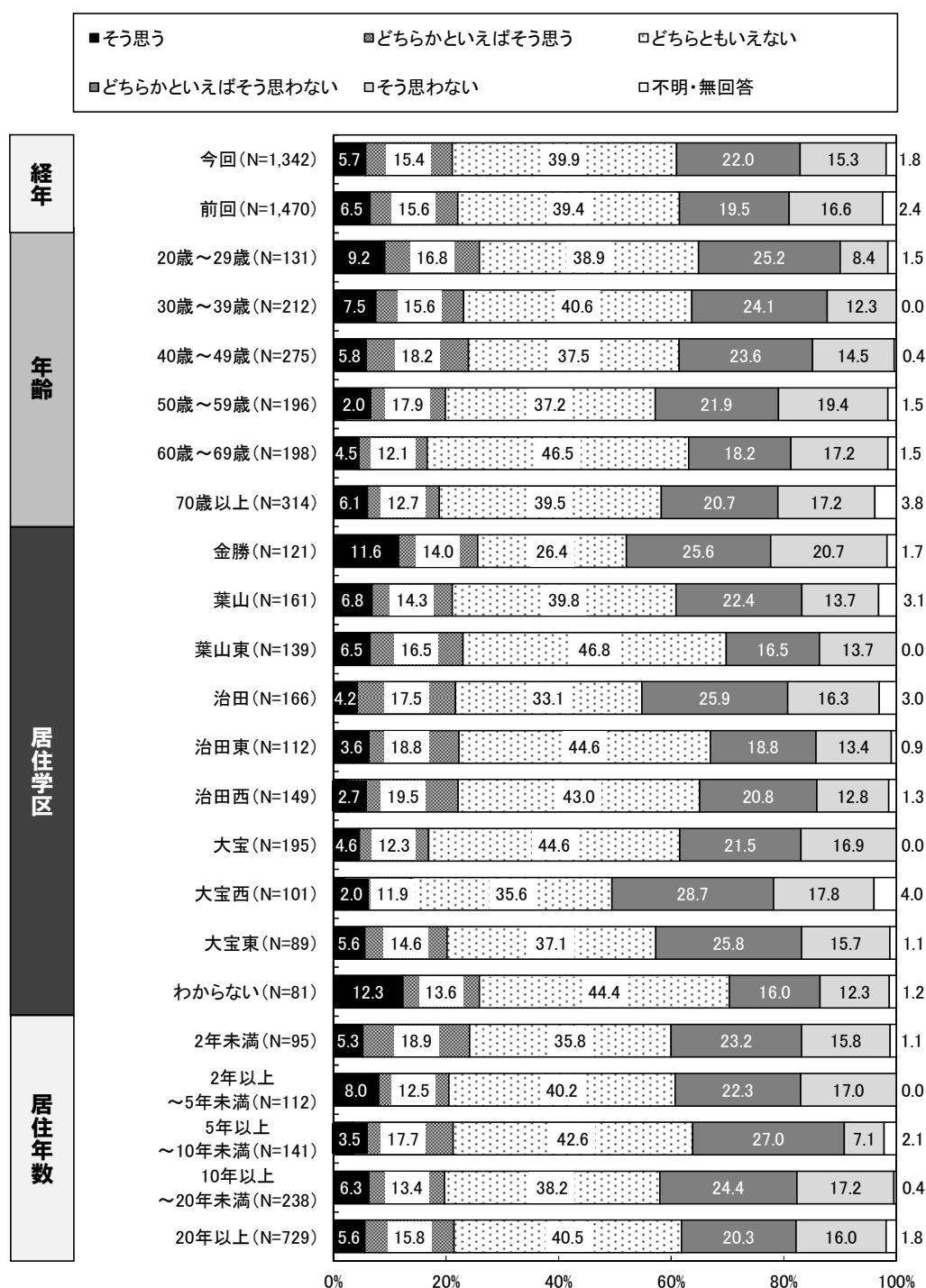
問1-4. ホンネとタテマエを上手に使い分けないと損をする

前回調査と比較すると、『そう思う』が0.9ポイント高く、『そう思わない』が1.4ポイント低くなっています。
 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて『そう思う』が低くなる傾向が見られます。
 居住学区別にみると、金勝において「そう思わない」が1割強と他の地区と比べて高くなっています。
 居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が低くなっています。



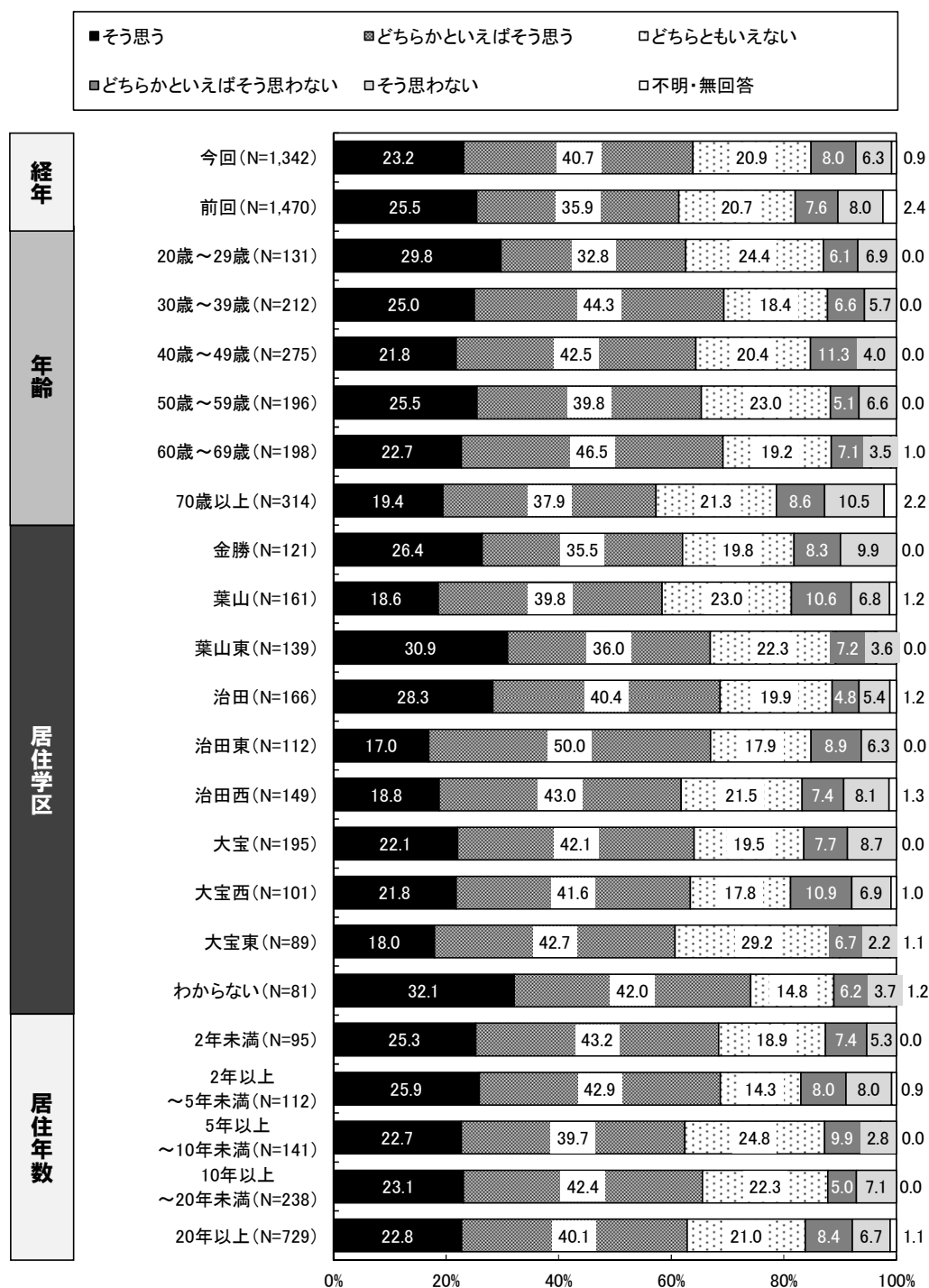
問 1-5. 他人の権利をいちいち尊重していたら、自分が不利になるだけだ

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.0 ポイント低く、『そう思わない』が 1.2 ポイント高くなっています。
 年齢別にみると、50 歳以上において『そう思う』が 2 割弱と若い年代と比べて低くなっています。
 居住学区別にみると、大宝西において『そう思う』が 1 割強と他の地区と比べて低くなっています。
 居住年数別にみると、2 年未満において『そう思う』が 2 割強と他の年数と比べて高くなっています。



問 1-6. 人間の社会には、差別は必ずあるものだ

前回調査と比較すると、『そう思う』が 2.5 ポイント高く、『そう思わない』が 1.3 ポイント低くなっています。
年齢別にみると、20 歳～69 歳において『そう思う』が6割強と、70 歳以上の年代と比べて高くなっています。
居住学区別にみると、葉山東において「そう思う」が3割強と他の地区と比べて高くなっています。
居住年数別にみると、5年未満において『そう思う』が7割強と他の年数と比べて高くなっています。



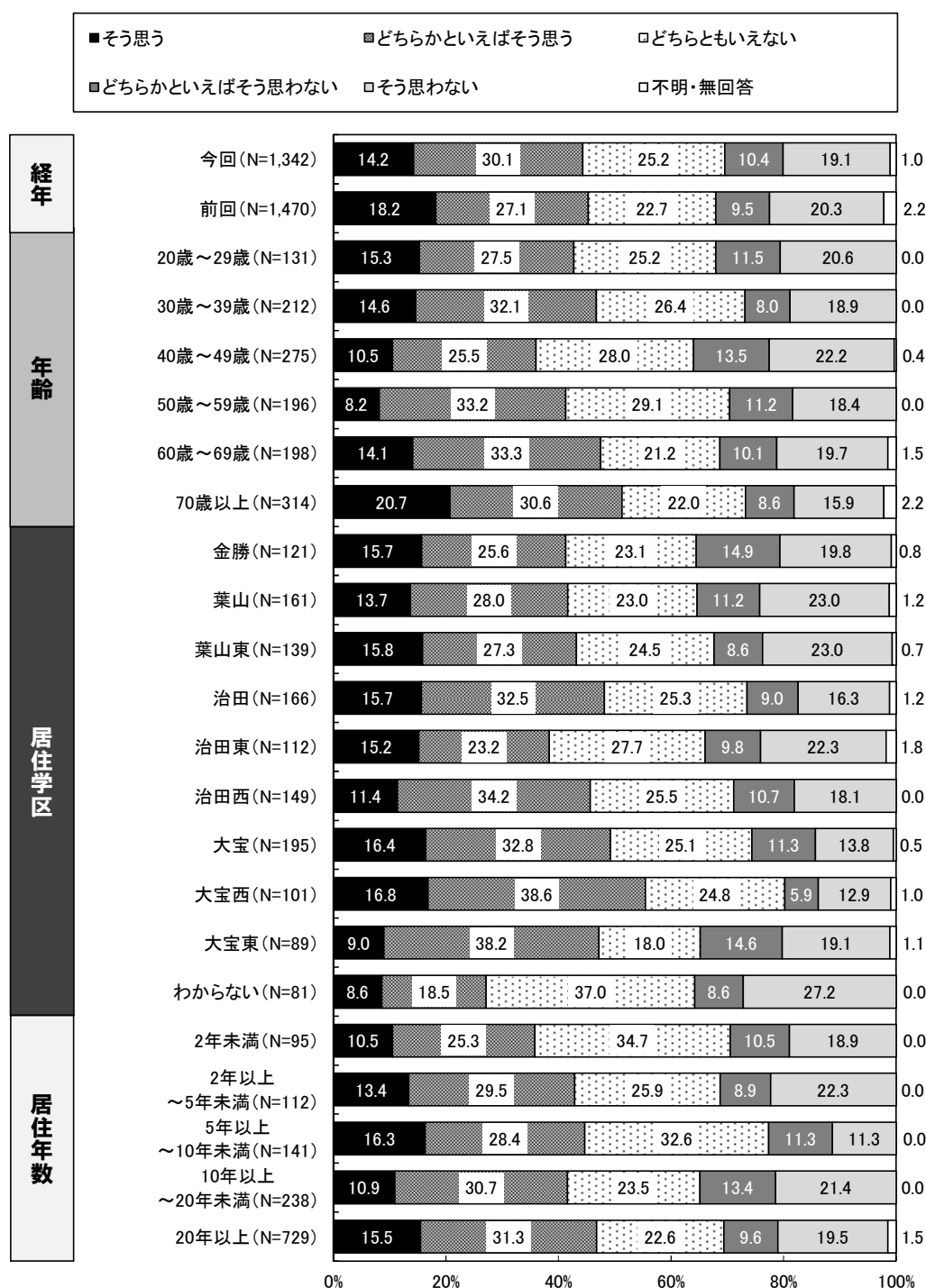
問 1-7. 結婚式をするのなら大安の日を選びたい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.0 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、70 歳以上において『そう思う』が5割強と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、大宝西において『そう思う』が5割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、20 年以上において『そう思う』が5割弱と他の年数と比べて高くなっています。

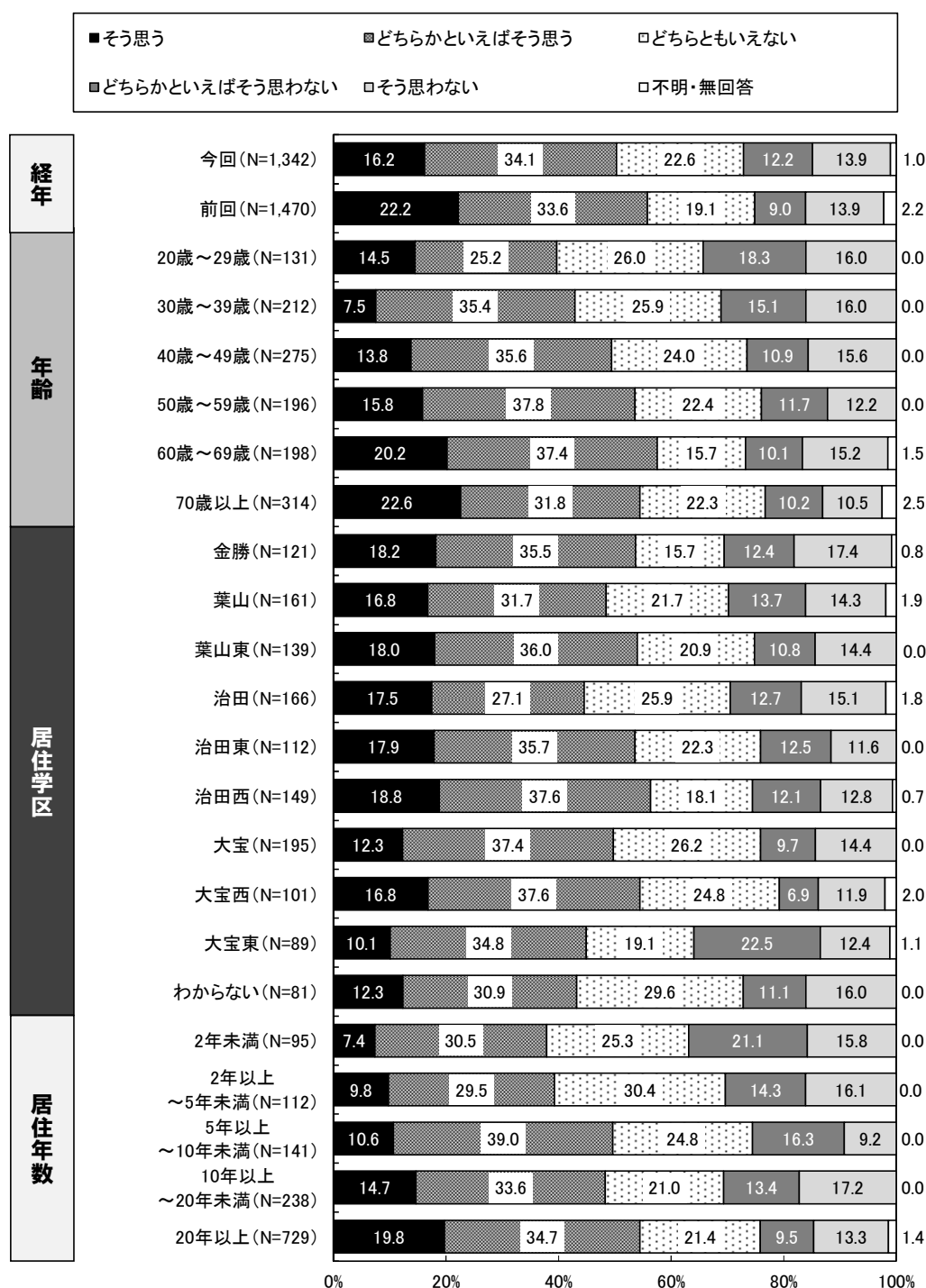


問1-8. 家の間取りを考えるとときには、鬼門など方角のことを考えた方がよい

前回調査と比較すると、『そう思う』が5.5ポイント低く、『そう思わない』が3.2ポイント高くなっています。
年齢別にみると、年代が高くなるにつれて『そう思う』が高くなる傾向が見られます。

居住学区別にみると、大宝東において『そう思わない』が3割半ばと他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、5年以上において『そう思う』が5割弱～5割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



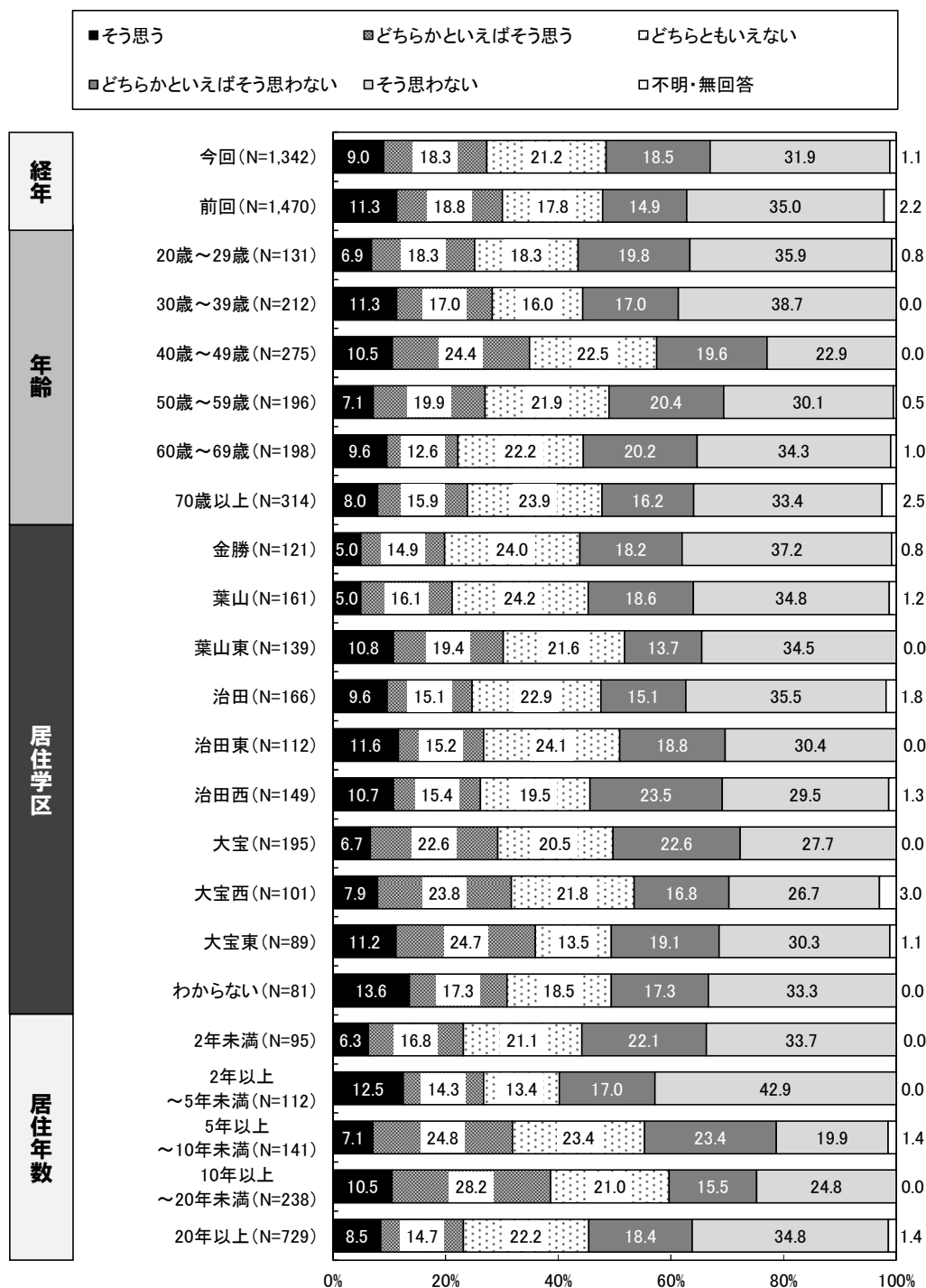
問 1-9. 葬式に参列したあとは、清めの塩をまかないと、気分が落ちつかない

前回調査と比較すると、『そう思う』が 2.8 ポイント低く、『そう思わない』が 0.5 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、40 歳～49 歳において『そう思う』が3割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、大宝東、大宝西、葉山東において『そう思う』が3割～3割半ばと他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年未満～20 年未満においては『そう思う』の割合が、年数が上がるにつれて高くなっていますが、年数が 20 年以上では他の年数より割合は低くなっています。



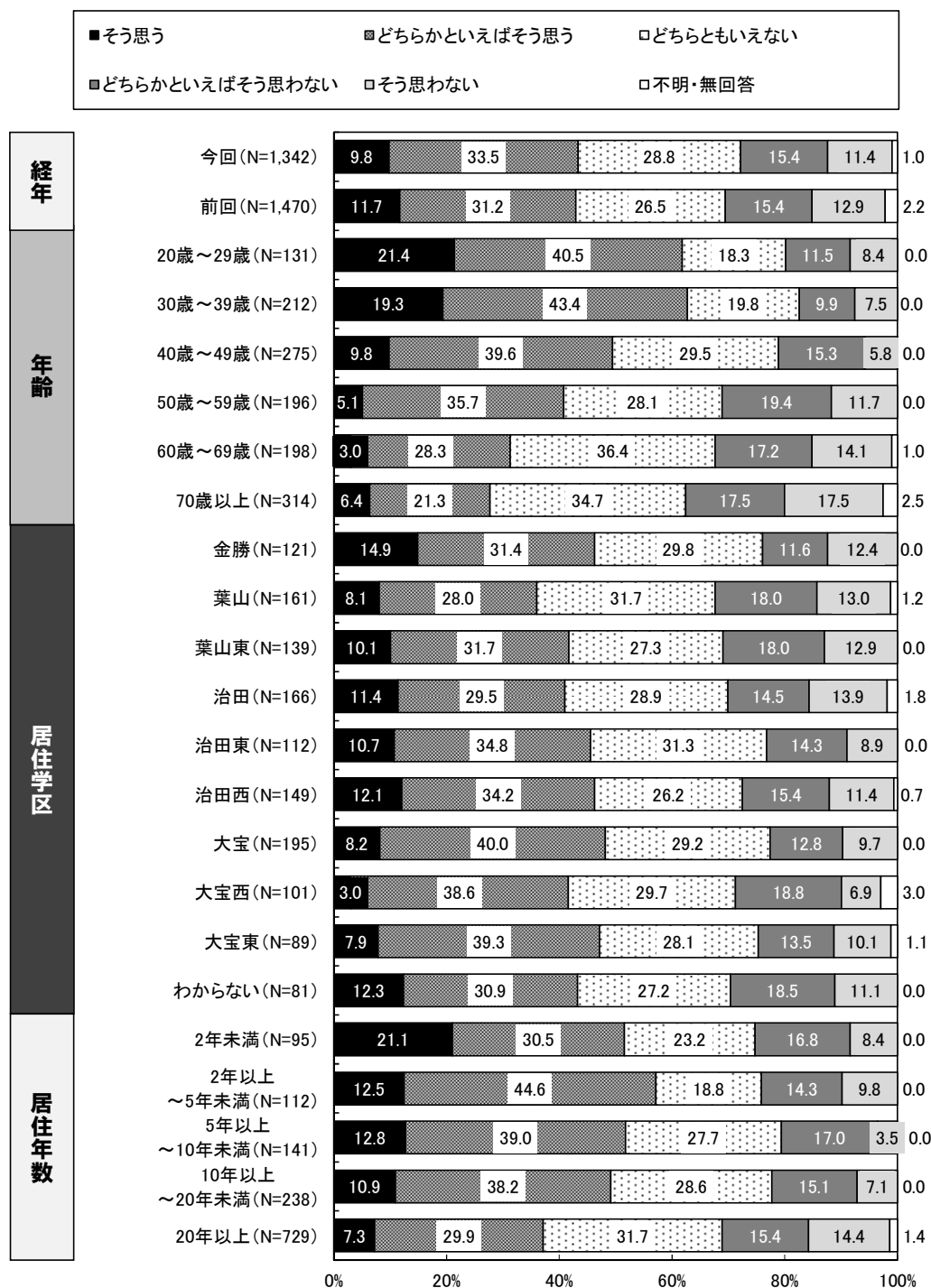
問 1-10. 世間の人がどう見ているのか、気になるタイプだ

前回調査と比較すると、『そう思う』が 0.4 ポイント高く、『そう思わない』が 1.5 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、39 歳より若い年齢において『そう思う』が6割以上と他の年代と比べて高く、30 歳以降は年代が上がるにつれ割合が低くなっています。

居住学区別にみると、葉山において『そう思う』が3割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～5年未満において『そう思う』が6割弱と他の年数と比べて高く、20 年以上は3割半ばと低くなっています。



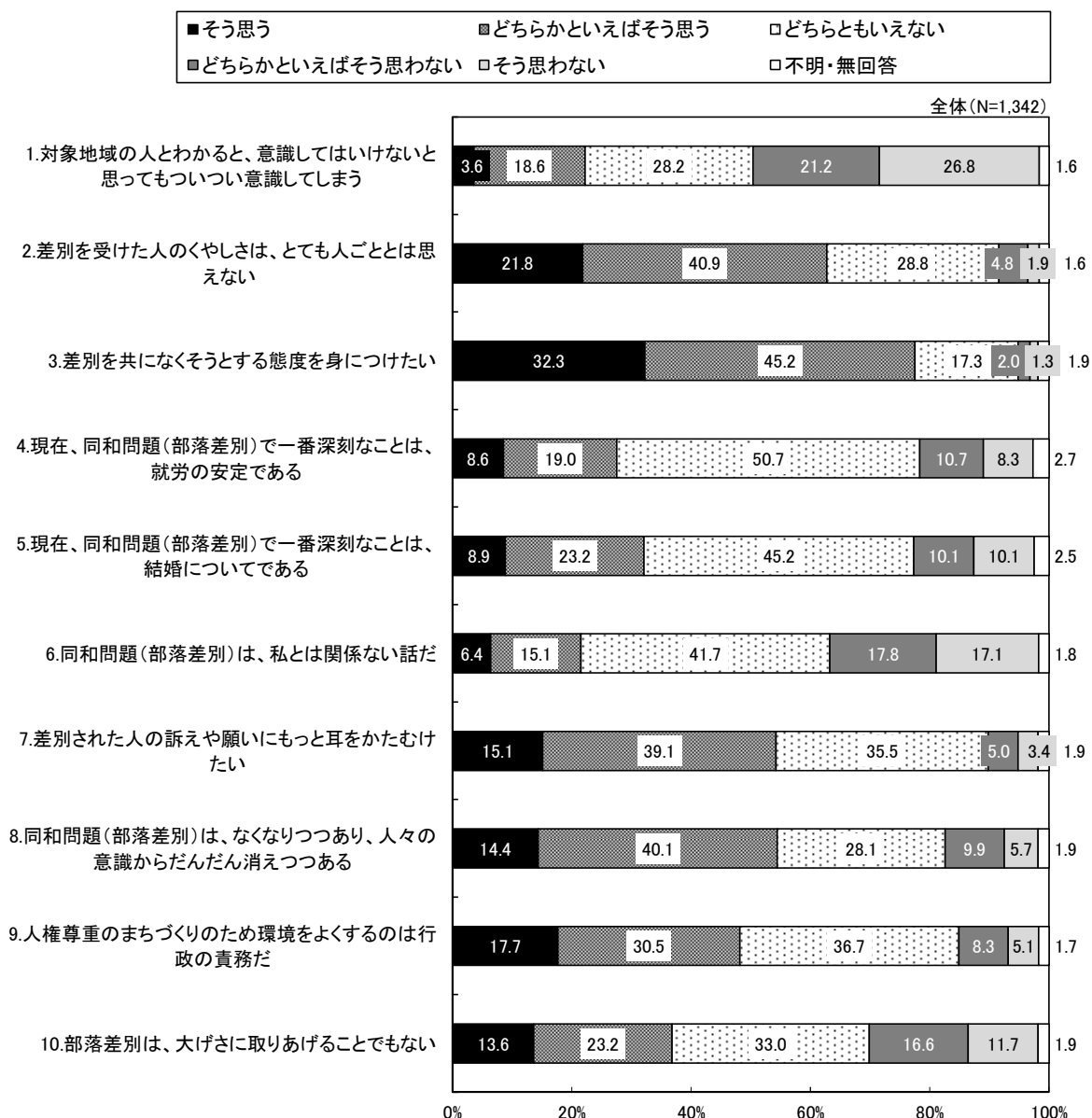
2. 人権・同和問題への考え方について

問2. 人権・同和問題をめぐってさまざまな意見があります。あなたはどのように思われますか。
それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

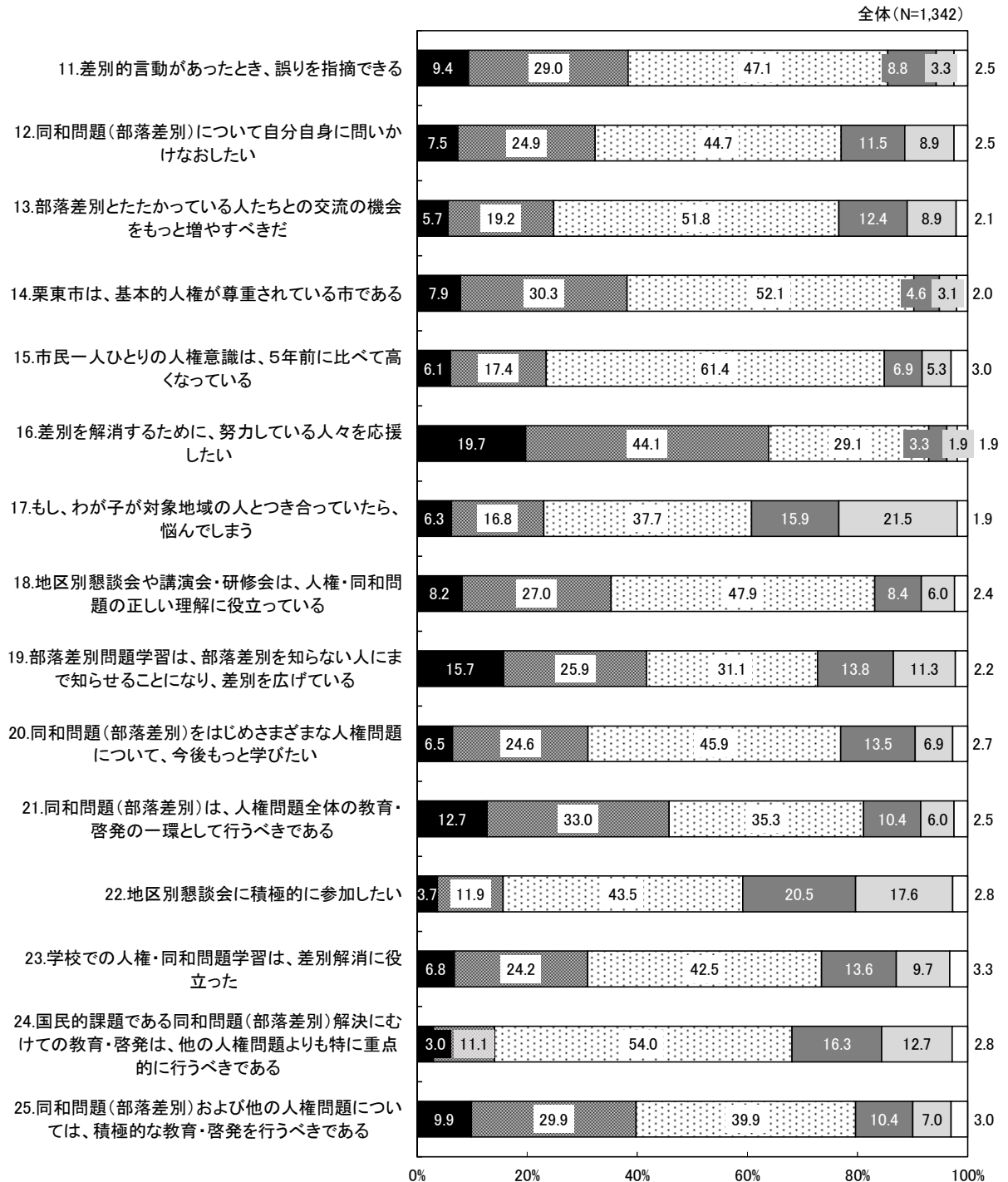
■ 1～39 の設問について

人権・同和問題についてどう思うかについてみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「39. さまざまな人権問題の解決には、人を信頼し、認め合える豊かな人間関係づくりが大切である」が 86.8%と最も高く、次いで「38. 命の大切さ、人間の尊厳、人間らしい生き方を学ぶのも人権学習である」が 85.8%、「3. 差別を共になくそうとする態度を身につけたい」が 77.5%となっています。

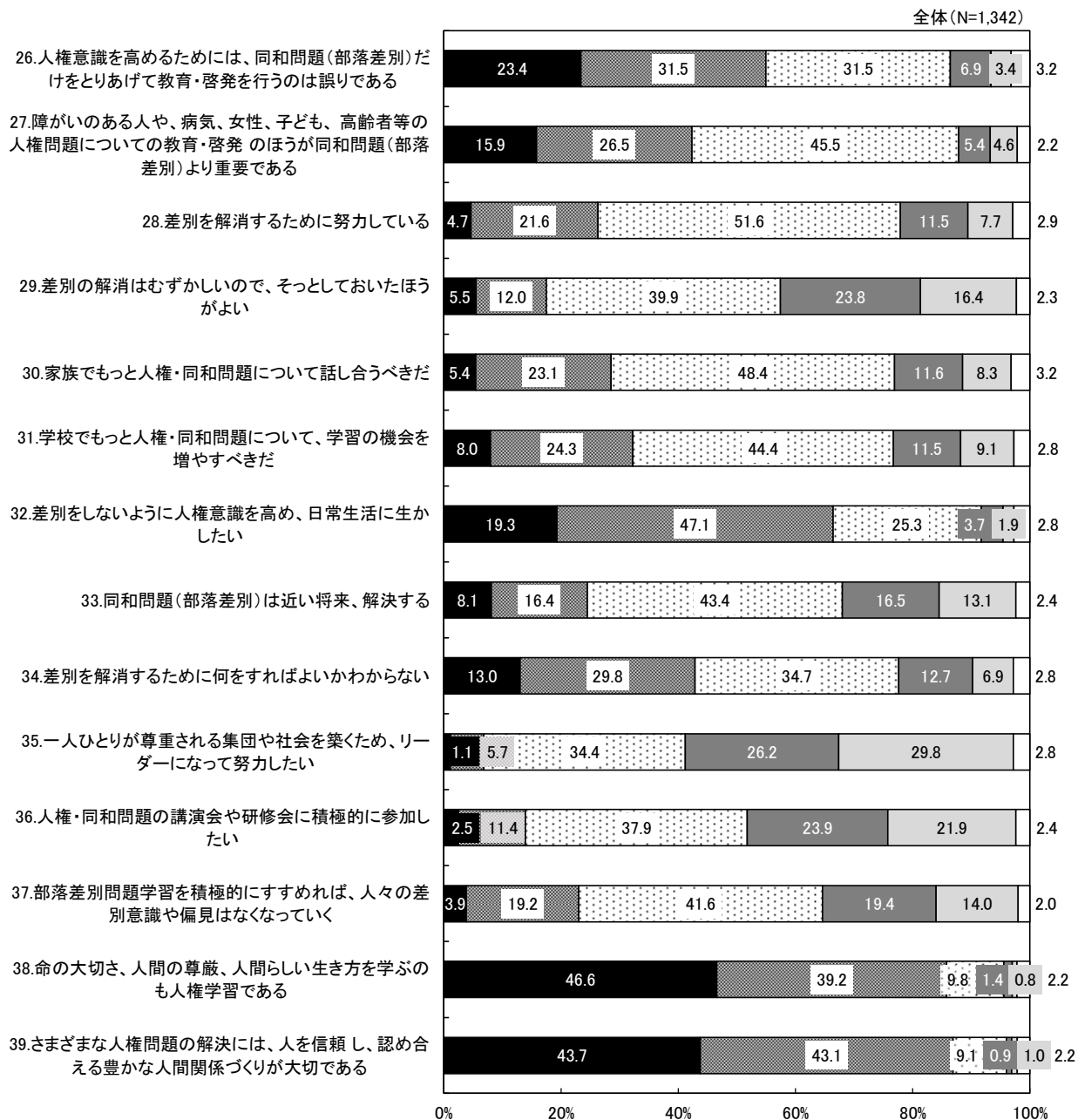
一方で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、「35. 一人ひとりが尊重される集団や社会を築くため、リーダーになって努力したい」が 56.0%と最も高く、次いで「1. 対象地域の人とわかると、意識してはいけないと思ってもついつい意識してしまう」が 48.0%、「36. 人権・同和問題の講演会や研修会に積極的に参加したい」が 45.8%となっています。



■ と思う	■ どちらかといえば思う	□ どちらともいえない
■ どちらかといえばそう思わない	□ そう思わない	□ 不明・無回答



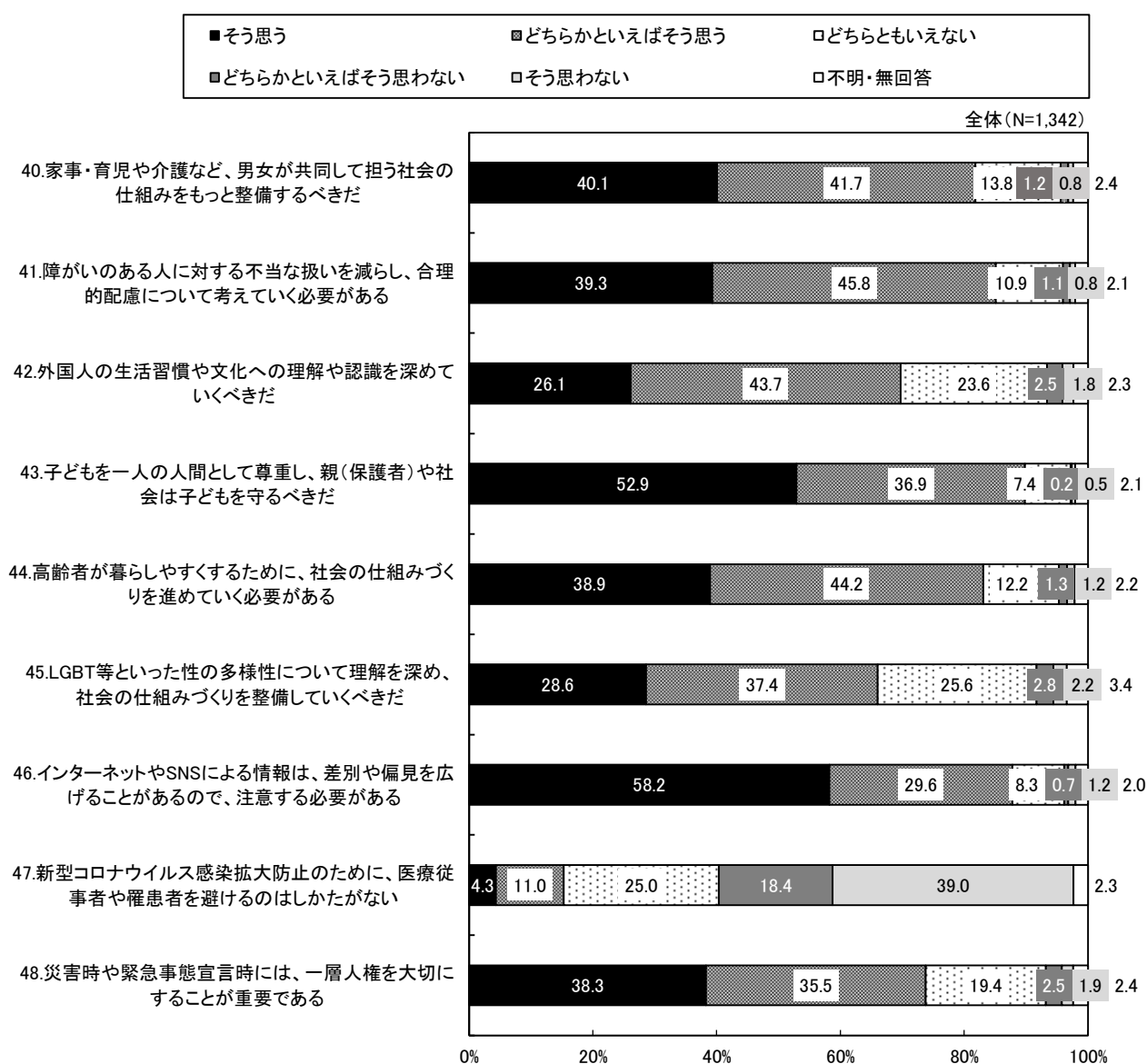
■ と思う	▨ どちらかといえば思う	□ どちらともいえない
▨ どちらかといえばそう思わない	□ そう思わない	□ 不明・無回答



■40～48 の設問について

人権・同和問題についてどう思うかについてみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「43. 子どもを一人の人間として尊重し、親（保護者）や社会は子どもを守るべきだ」が 89.8%と最も高く、次いで「46. インターネットやSNSによる情報は、差別や偏見を広げることがあるので、注意する必要がある」が 87.8%、「41. 障がいのある人に対する不当な扱いを減らし、合理的配慮について考えていく必要がある」が 85.1%となっています。

一方で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、「47. 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、医療従事者や罹患者を避けるのはしかたがない」が 57.4%と最も高くなっています。



※49. の設問は 65 ページに記載しています。

■基本属性別

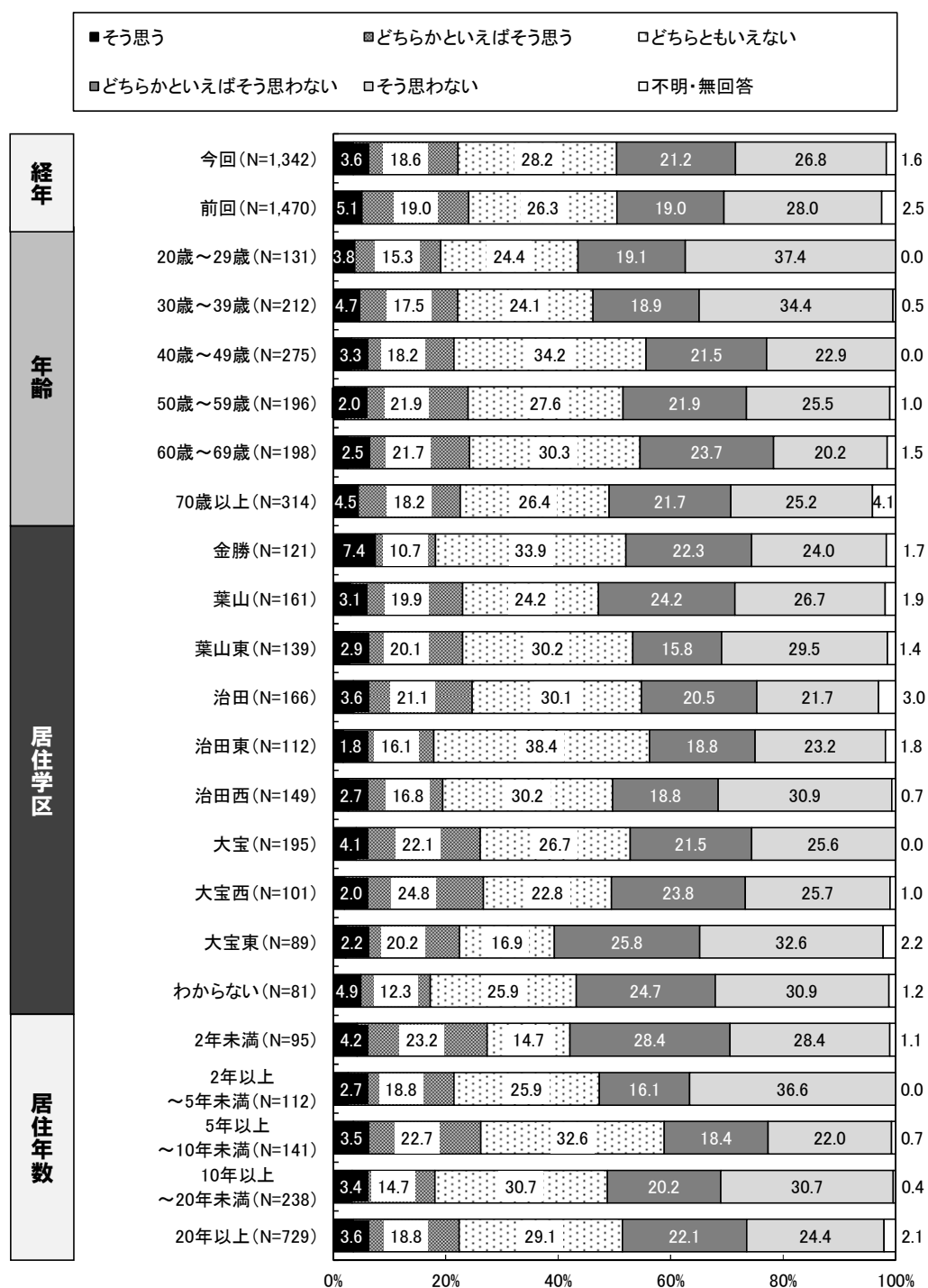
問2-1. 対象地域の人とわかると、意識してはいけないと思ってもつつい意識してしまう

前回調査と比較すると、『そう思う』が1.9ポイント低く、『そう思わない』が1.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20歳～29歳において『そう思う』が2割弱と他の年代と比べて低くなっています。

居住学区別にみると、金勝、治田東、治田西において『そう思う』が2割弱と他の地区と比べて低くなっています。

居住年数別にみると、2年未満、5年以上～10年未満において『そう思う』が2割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



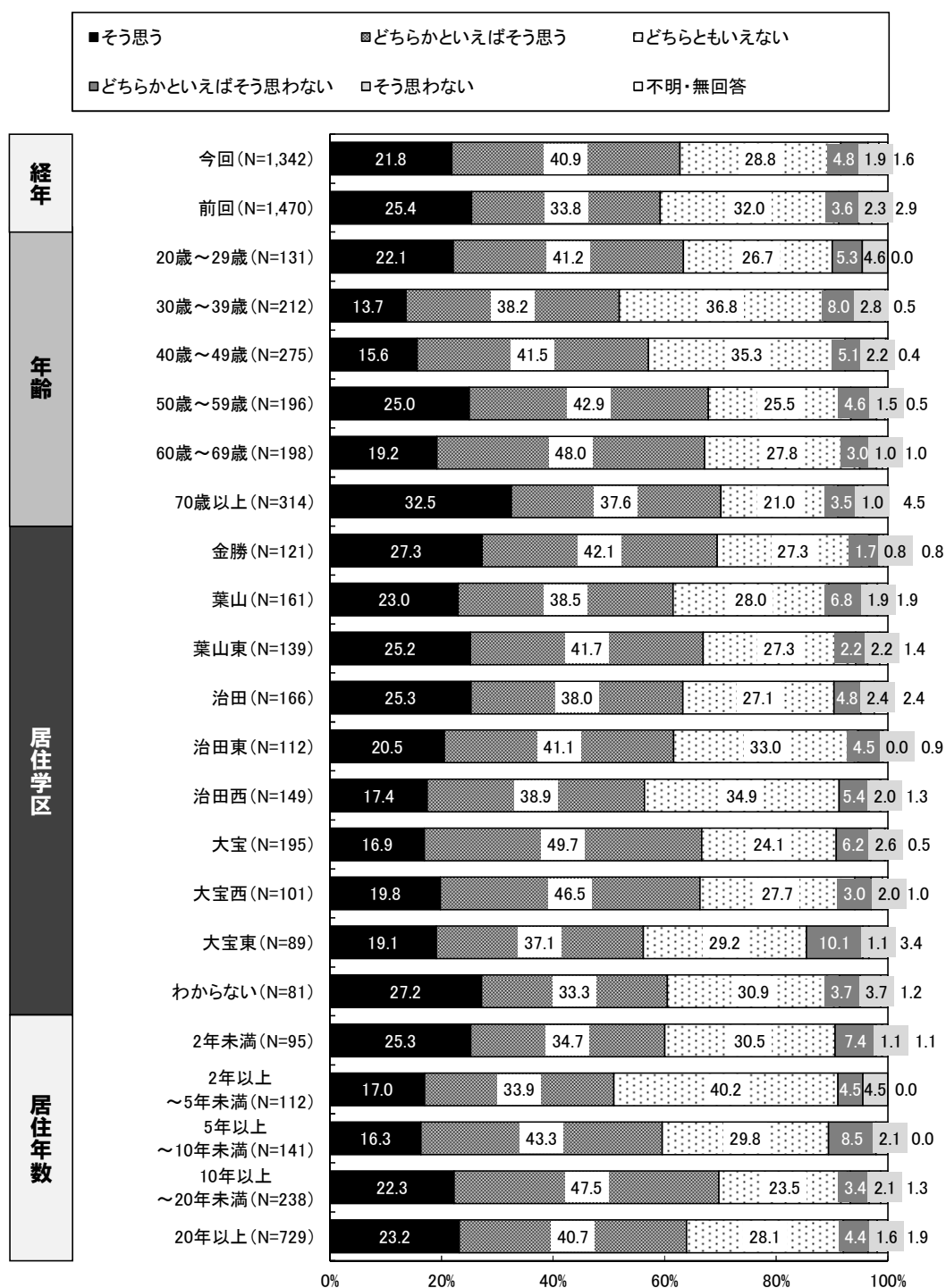
問2-2. 差別を受けた人のくやしさは、とても人ごととは思えない

前回調査と比較すると、『そう思う』が3.5ポイント、『そう思わない』が0.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30歳～49歳を除いて『そう思う』の割合が6割以上になっています。

居住学区別にみると、治田西、大宝東において『そう思う』が5割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

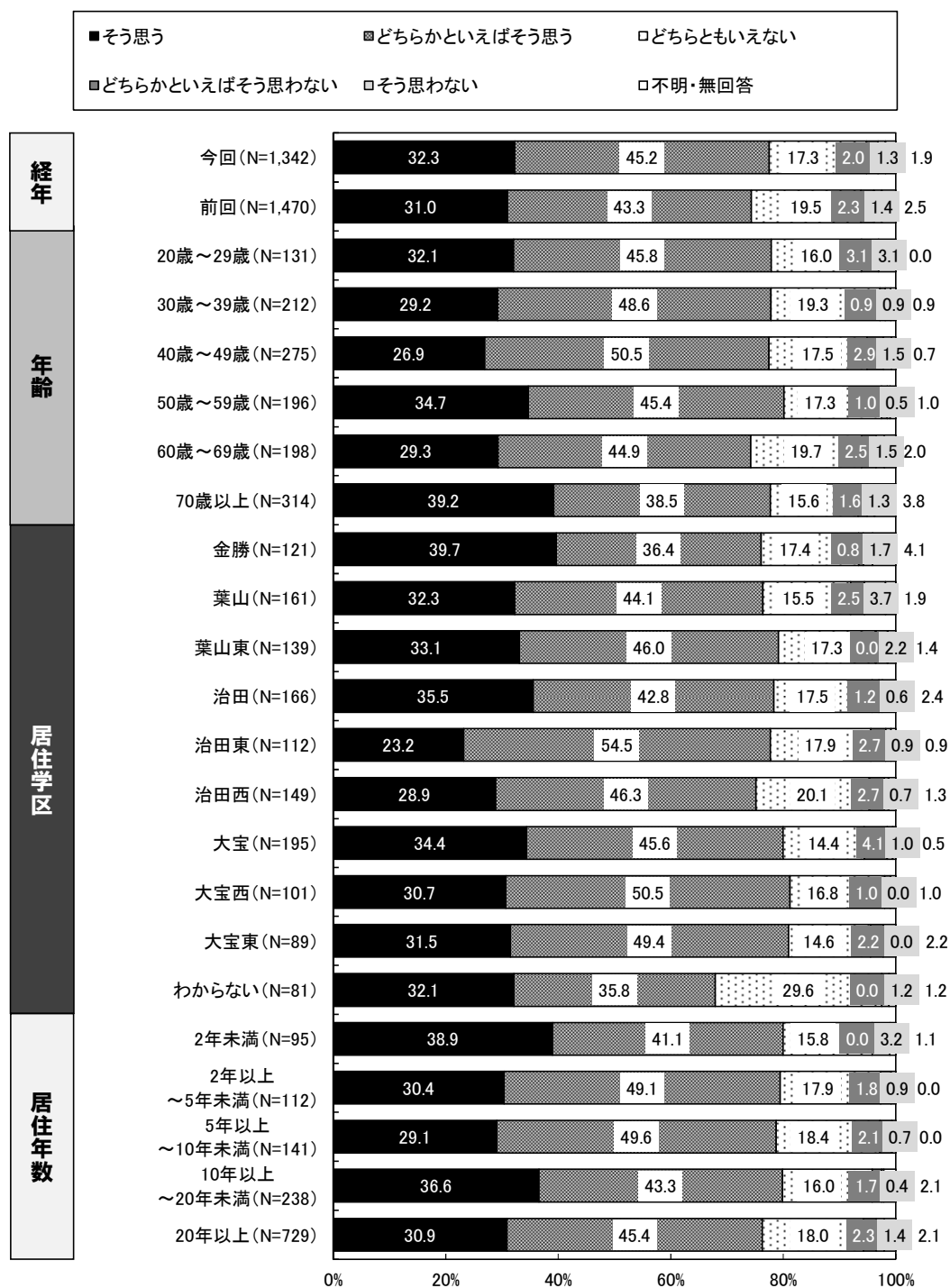
居住年数別にみると、10年以上～20年未満において『そう思う』が7割弱と他の年数と比べて高くなっています。



問2-3. 差別を共になくそうとする態度を身につけたい

前回調査と比較すると、『そう思う』が3.2ポイント高くなっています。

年齢別、居住学区別、居住年数別全てにおいて、『そう思う』の割合が7割以上と高くなっています。



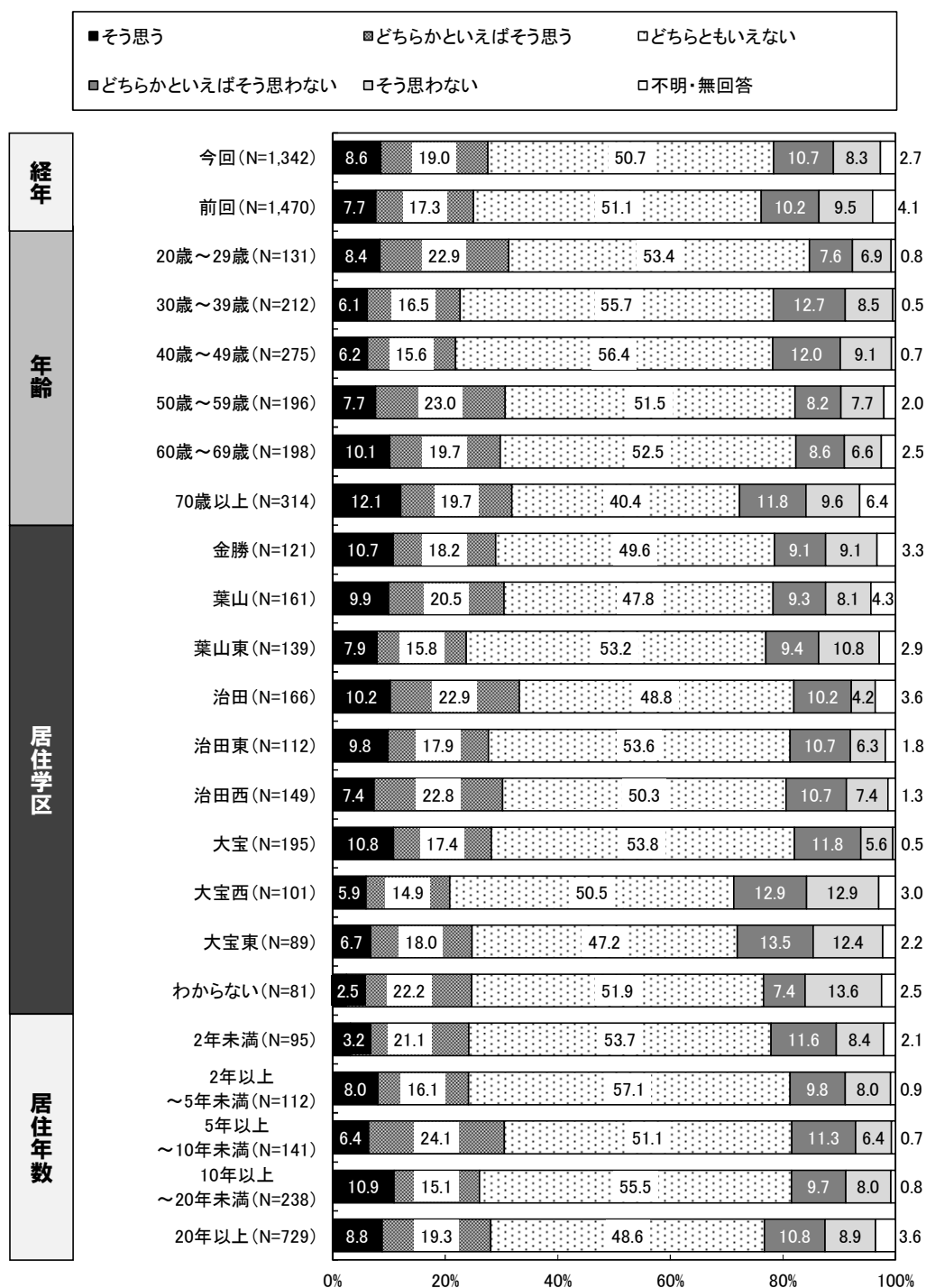
問 2-4. 現在、同和問題（部落差別）で一番深刻なことは、就労の安定である

前回調査と比較すると、『そう思う』が 2.6 ポイント高く、『そう思わない』が 0.7 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、30 歳～49 歳において2割強と他の年代と比べて低くなっています。

居住学区別にみると、大宝西と大宝東において『そう思わない』が2割半ばと他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、5年以上～10年未満において『そう思う』が3割強と他の年数と比べて高くなっています。



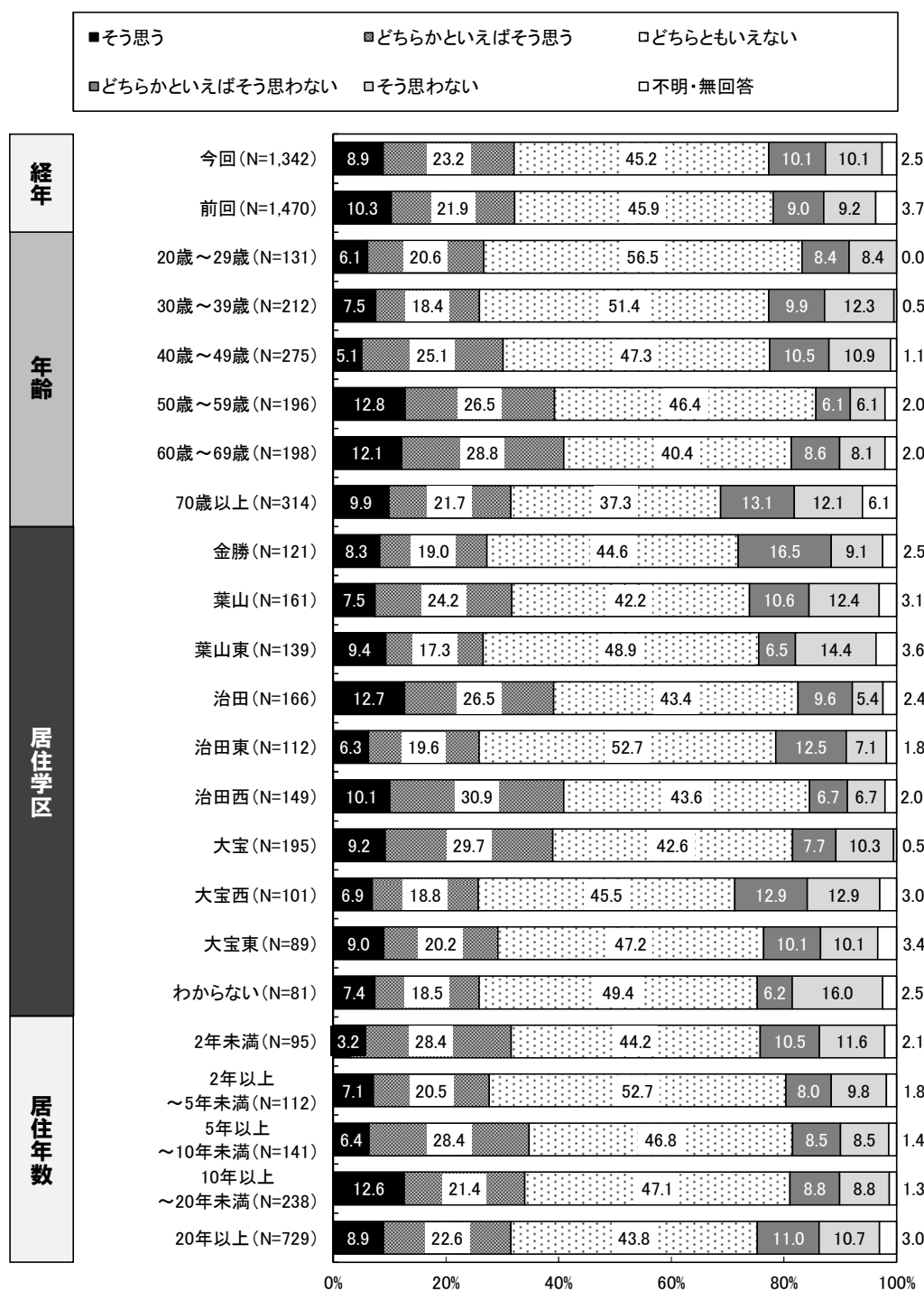
問2-5. 現在、同和問題（部落差別）で一番深刻なことは、結婚についてである

前回調査と比較すると、『そう思う』がほぼ同数、『そう思わない』が2.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、50歳～59歳において『そう思う』が4割と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、治田、治田西、大宝において『そう思う』が4割と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年未満と20年以上において『そう思わない』が2割強と他の年数と比べて高くなっています。



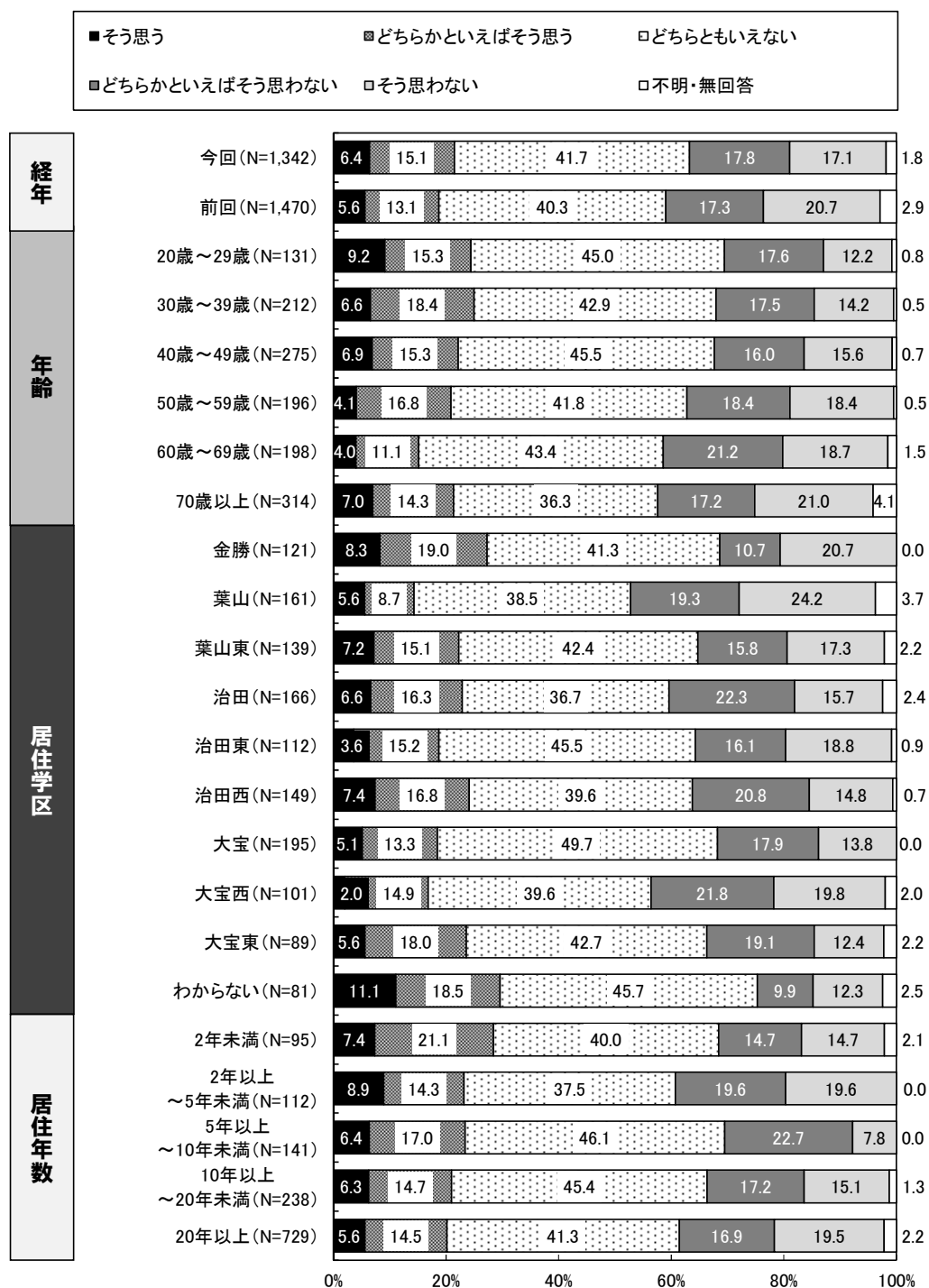
問2-6. 同和問題（部落差別）は、私とは関係ない話だ

前回調査と比較すると、『そう思う』が2.8ポイント高く、『そう思わない』が3.1ポイント低くなっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれて『そう思わない』の割合が高くなる傾向があります。

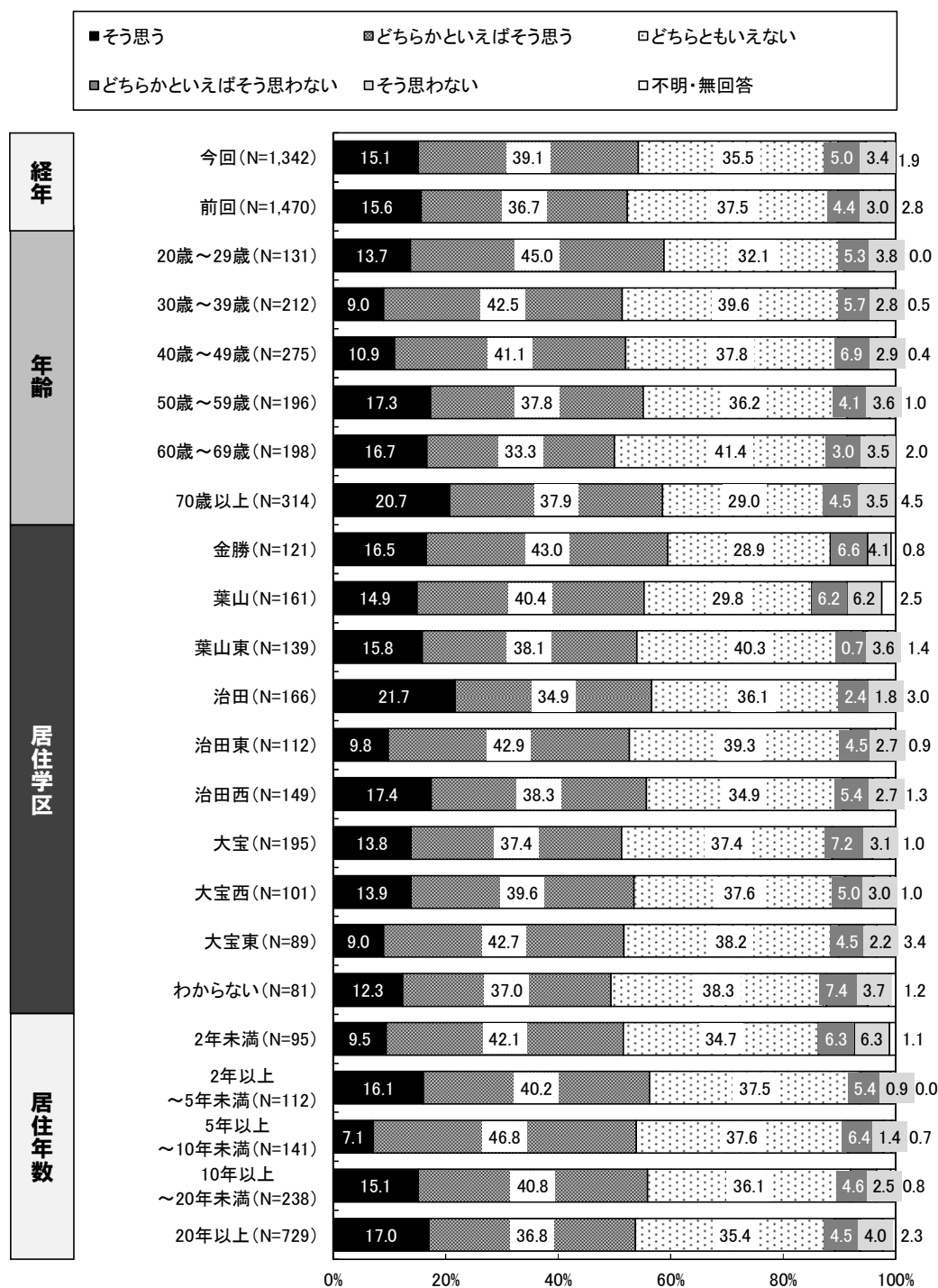
居住学区別にみると、葉山、大宝西において『そう思わない』が4割を超えており、他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思う』が低くなる傾向があります。



問 2-7. 差別された人の訴えや願いにもっと耳をかたむけたい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.9 ポイント、『そう思わない』が 1.0 ポイント高くなっています。
年齢別にみると、70 歳以上において「そう思う」が2割強と他の年代と比べて高くなっています。
年齢別、居住学区別、居住年数別の全てにおいて『そう思う』が5割以上となっています。



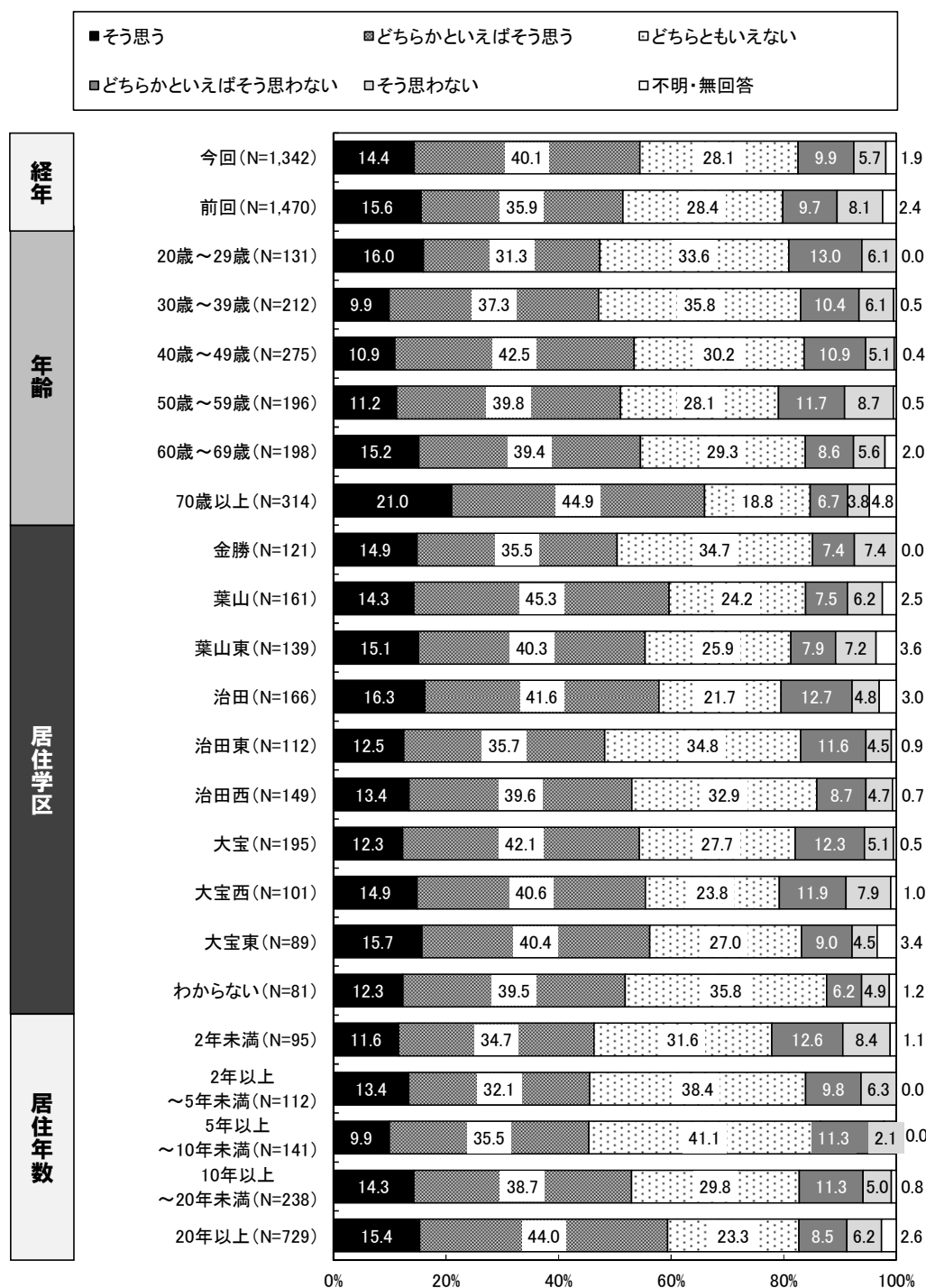
問 2-8. 同和問題（部落差別）は、なくなりつつあり、人々の意識からだんだん消えつつある

前回調査と比較すると、『そう思う』が 3.0 ポイント高く、『そう思わない』が 2.2 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、70 歳以上において『そう思う』が6割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

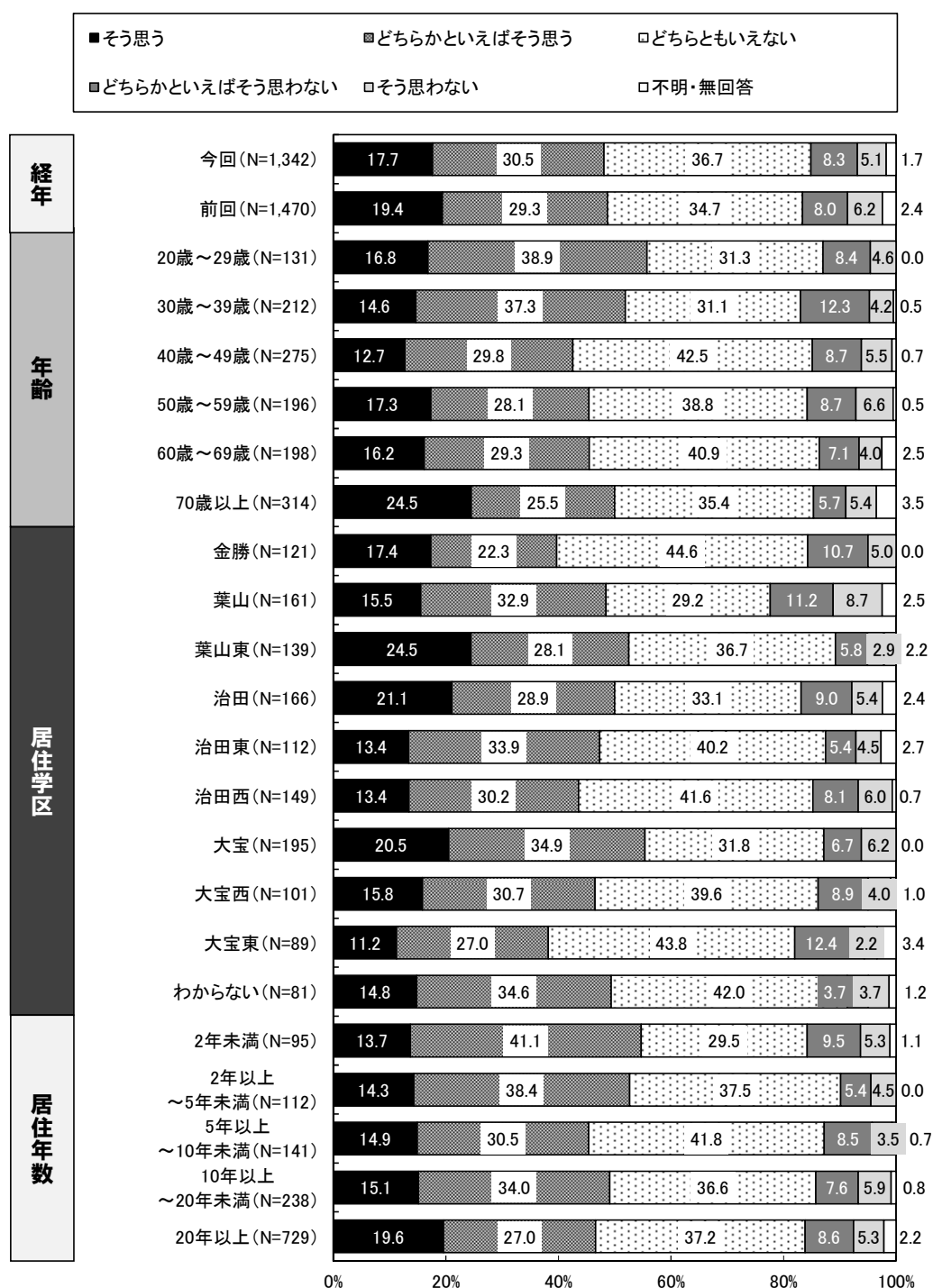
居住学区別にみると、大宝西において『そう思わない』が2割と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなる傾向があり、20 年以上においては5割を超えています。



問2-9. 人権尊重のまちづくりのため環境をよくするのは行政の責務だ

前回調査と比較すると、『そう思う』が0.5ポイント、『そう思わない』が0.8ポイント低くなっています。
年齢別にみると、20歳～29歳において『そう思う』が5割半ばと他の年代と比べて高くなっています。
居住学区別にみると、大宝において『そう思う』が5割半ばと他の地区と比べて高くなっています。
居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が低くなる傾向があります。



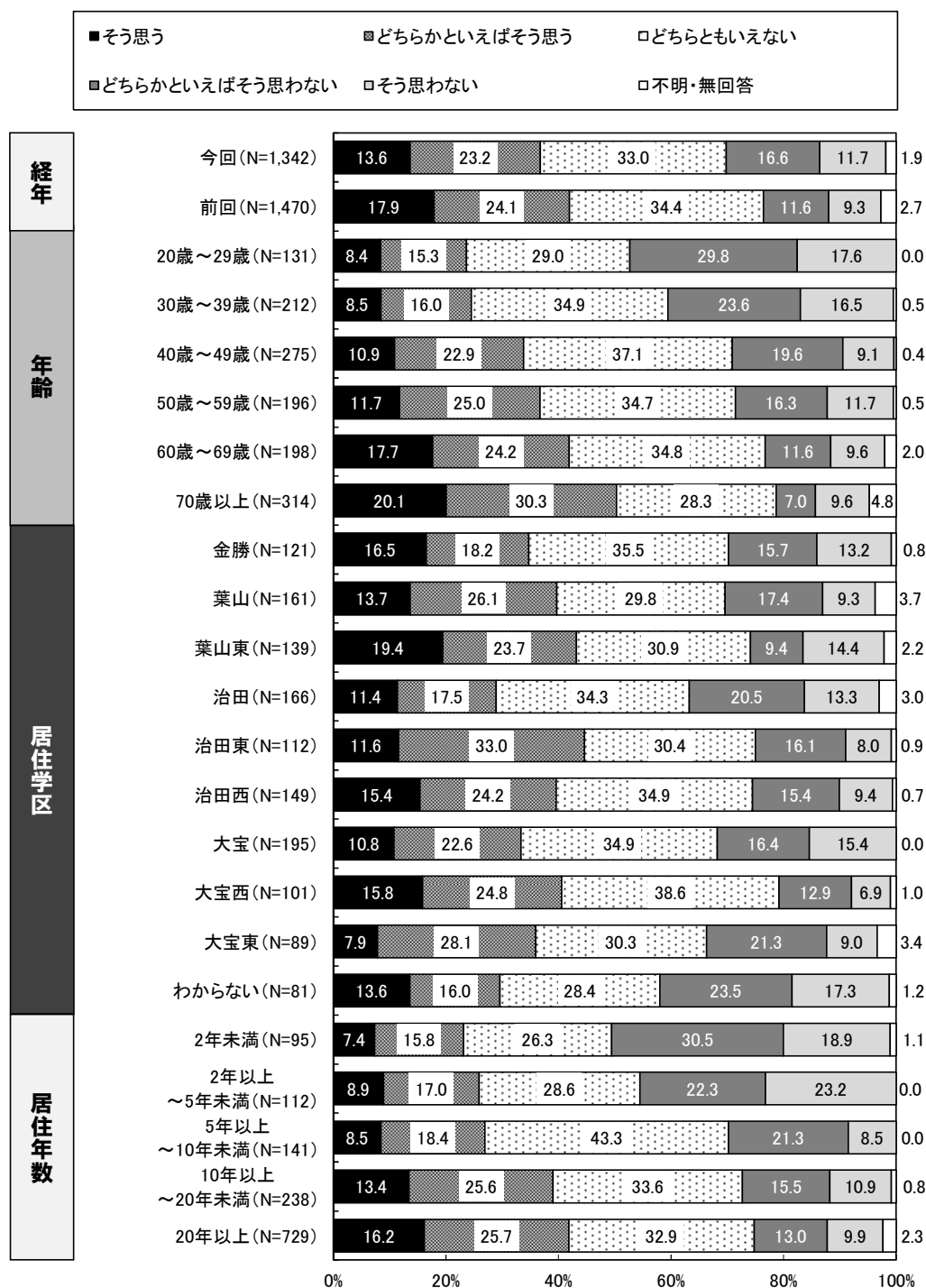
問2-10. 部落差別は、大げさに取りあげることでもない

前回調査と比較すると、『そう思う』が5.2ポイント低く、『そう思わない』が7.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなっています。

居住学区別にみると、葉山東、治田東、大宝西において『そう思う』が4割以上と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなっています。



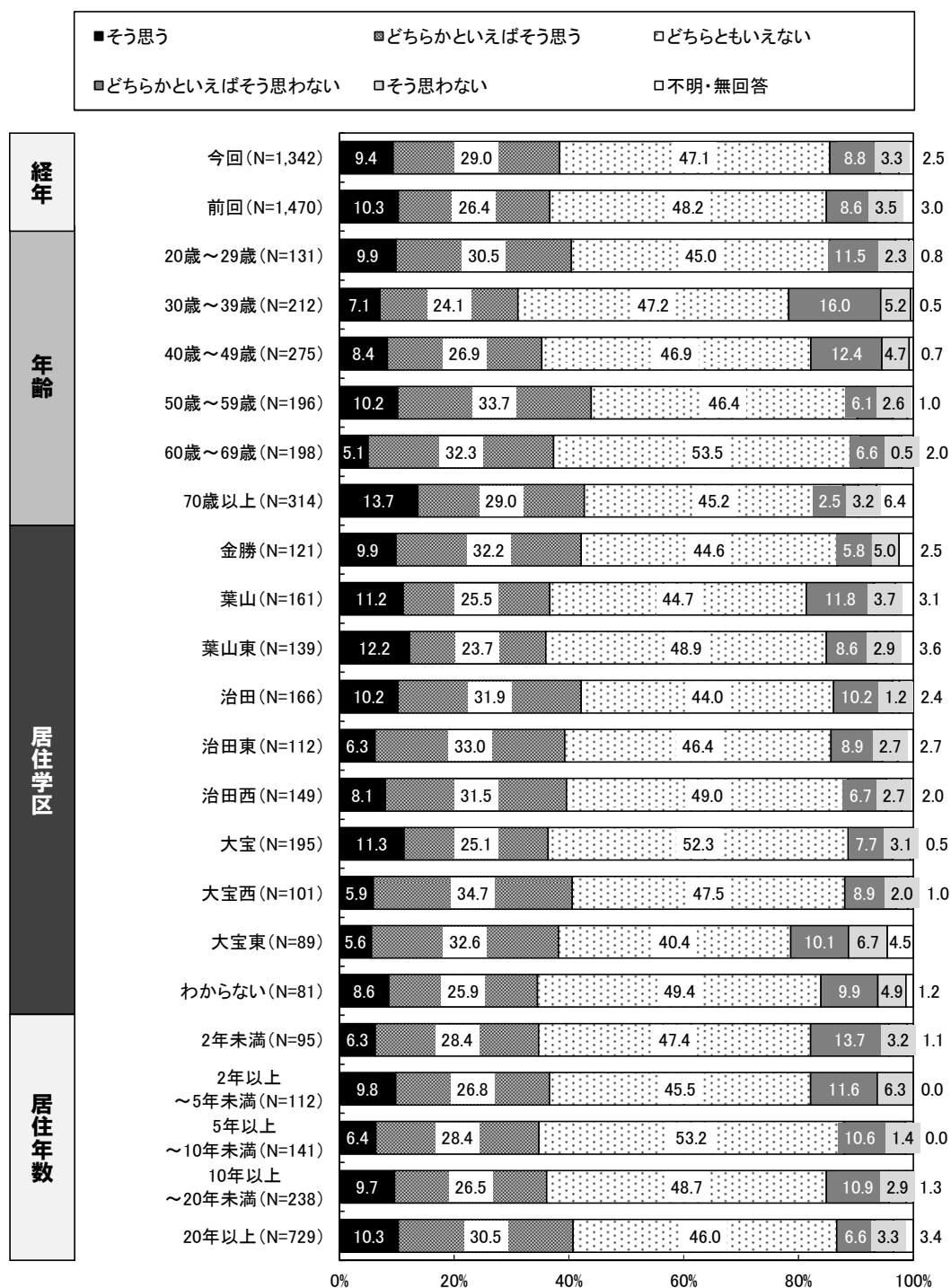
問2-11. 差別的言動があったとき、誤りを指摘できる

前回調査と比較すると、『そう思う』が1.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30歳～49歳において『そう思う』が3割台と他の年代と比べて低くなっています。

居住学区別にみると、金勝、治田、大宝西において『そう思う』が4割台と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、全ての年数において『そう思う』の割合が3割半ば～4割に分布しています。



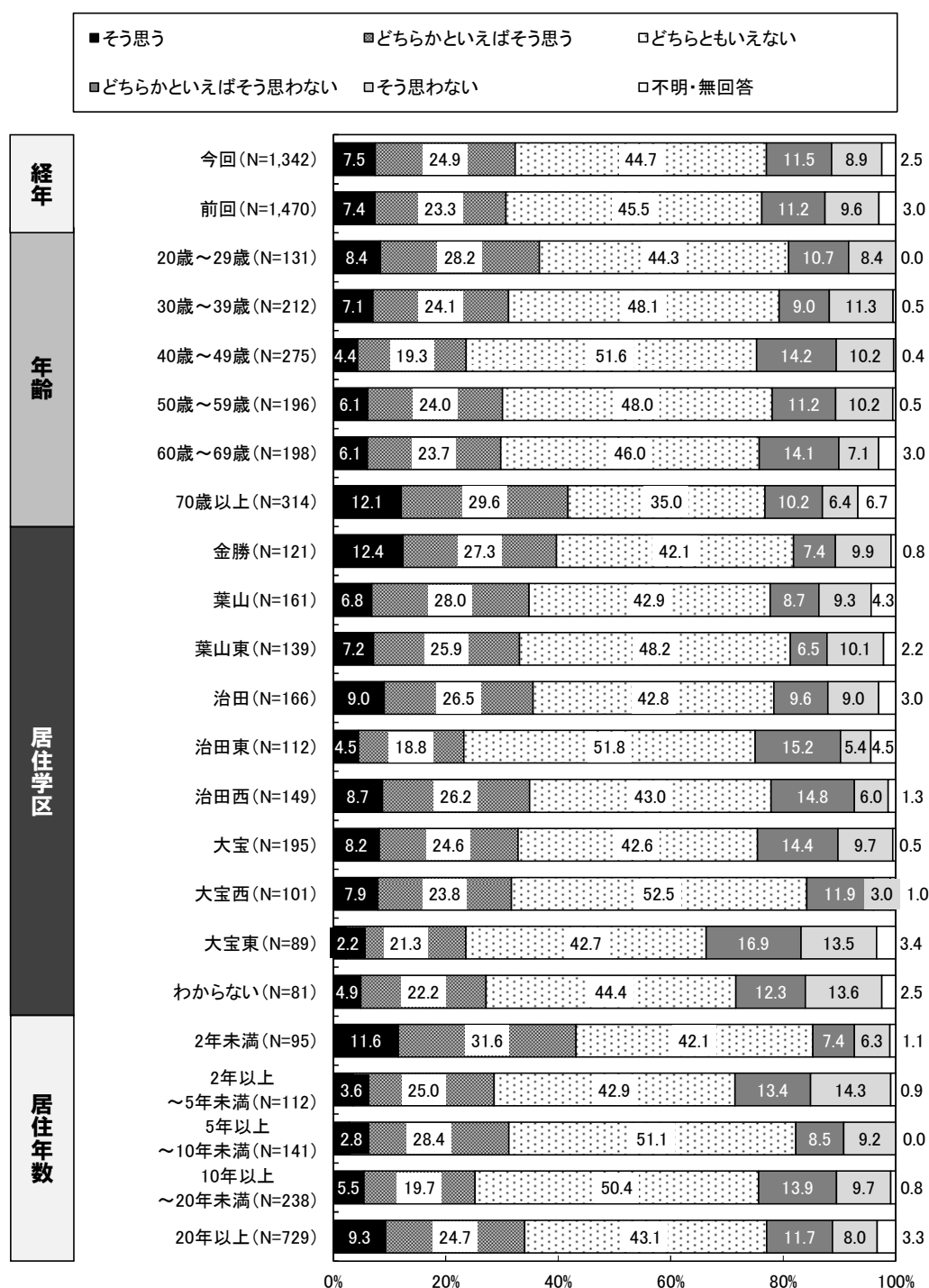
問 2-12. 同和問題（部落差別）について自分自身に問かけなoshたい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.7 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、70 歳以上において『そう思う』が4割強と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、大宝東において『そう思わない』が3割と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年未満において『そう思う』が4割強と他の年数と比べて高くなっています。



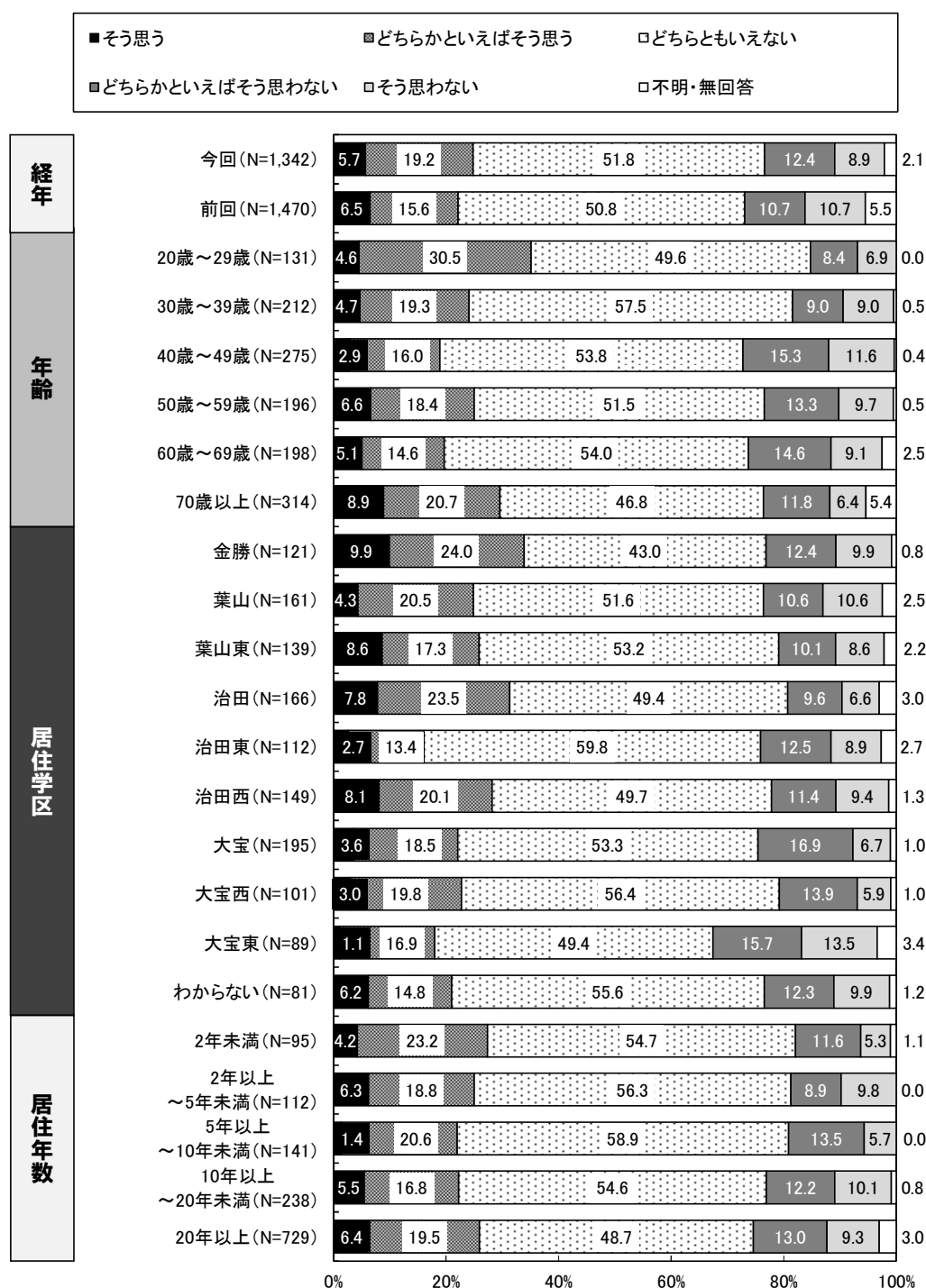
問 2-13. 部落差別とたたかっている人たちとの交流の機会をもっと増やすべきだ

前回調査と比較すると、『そう思う』が 2.8 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20 歳～29 歳において『そう思う』が3割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

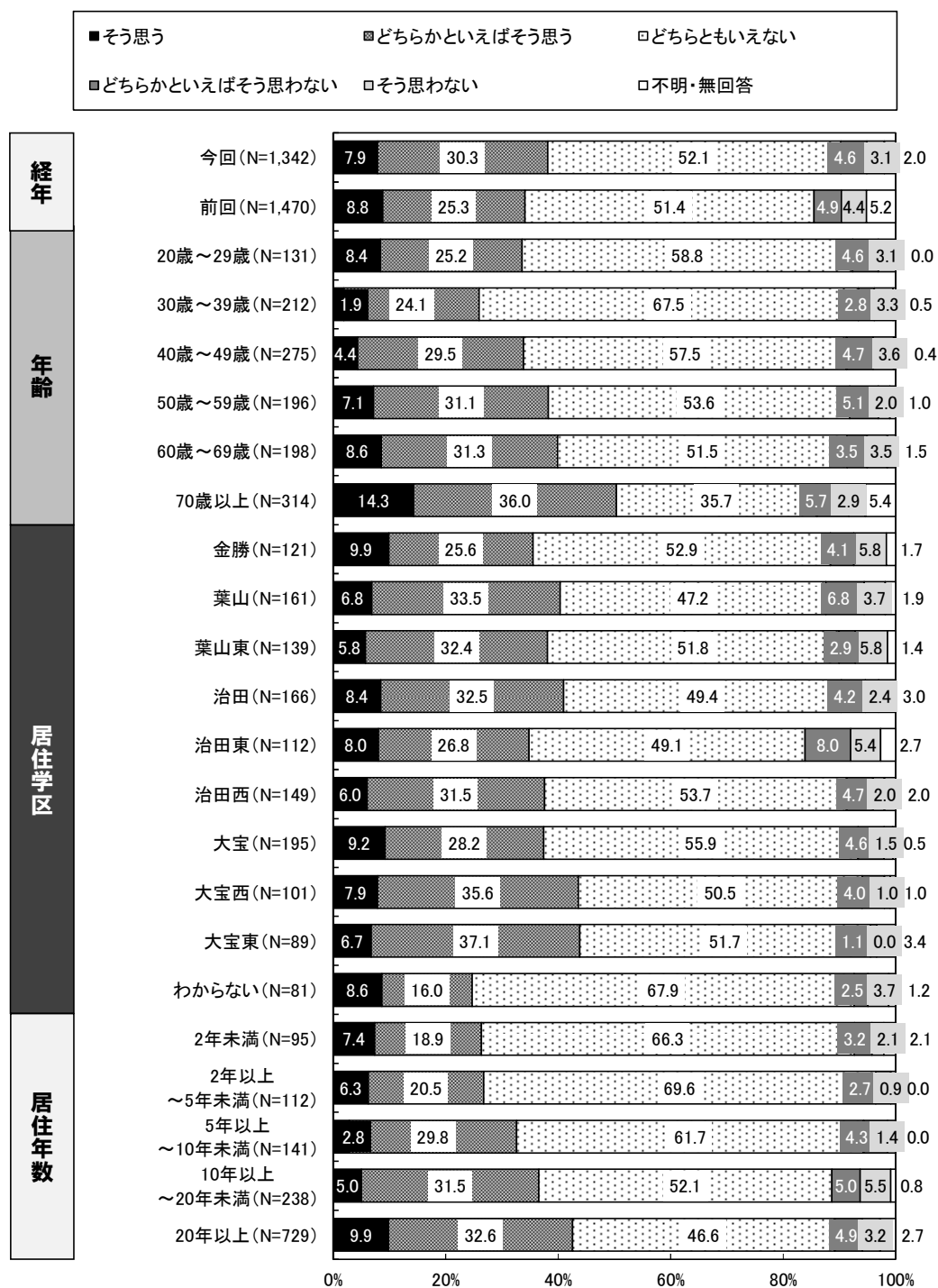
居住学区別にみると、金勝と治田において『そう思う』が3割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思わない』の割合が高くなっています。



問 2-14. 栗東市は、基本的人権が尊重されている市である

前回調査と比較すると、『そう思う』が 4.1 ポイント高く、『そう思わない』が 1.6 ポイント低くなっています。年齢別と居住年数をみると、年代や年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなる傾向があります。居住学区別にみると、全地区において『そう思う』の割合が3割半ば～4割半ばに分布しています。



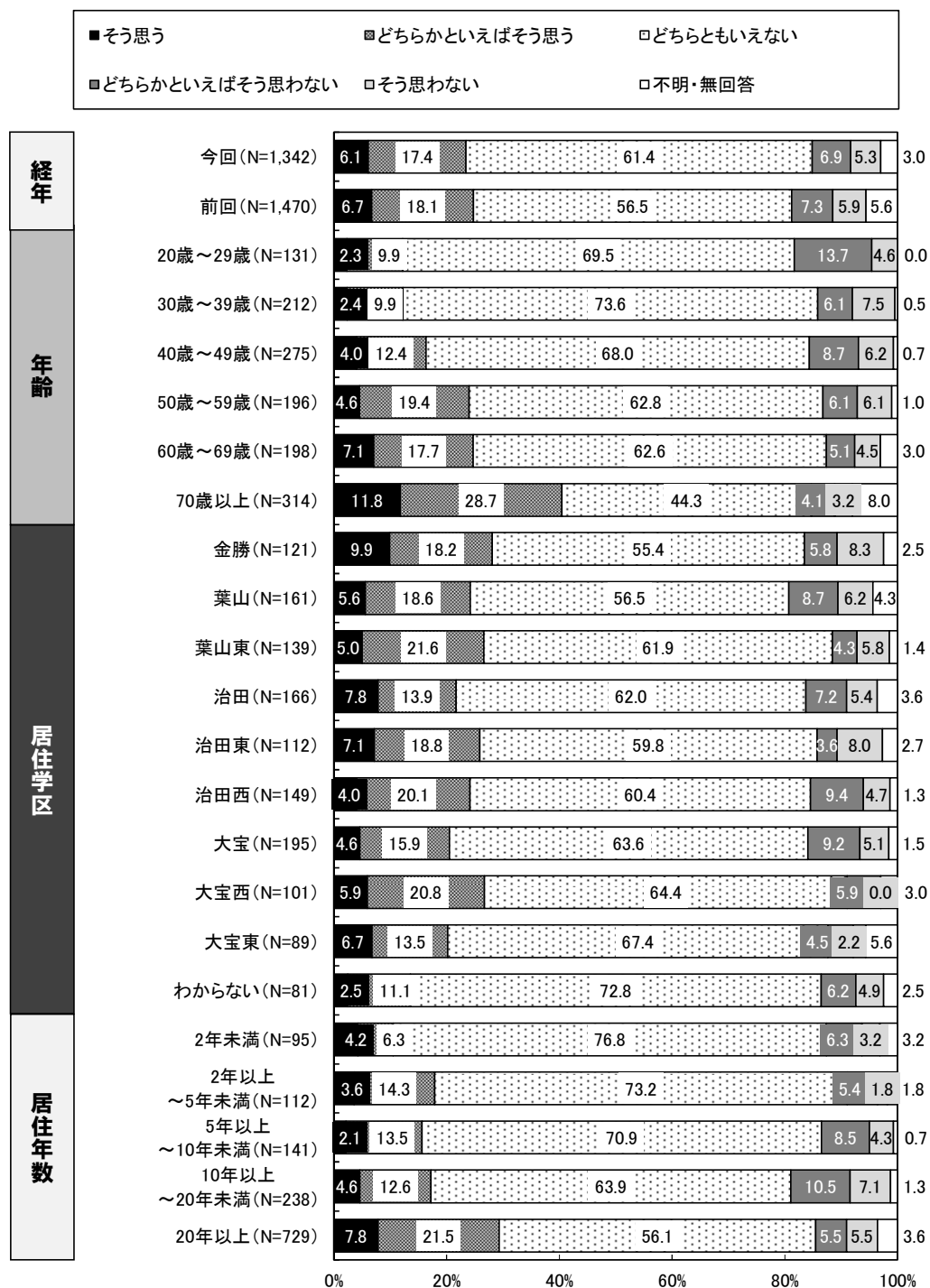
問 2-15. 市民一人ひとりの人権意識は、5 年前に比べて高くなっている

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.3 ポイント、『そう思わない』が 1.0 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなっています。70 歳以上においては4割を占めています。

居住学区別にみると、金勝において『そう思う』が3割弱と最も高くなっていますが、他の地区においてもその割合は2割台に分布しています。

居住年数別にみると、5年以上から年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなっています。



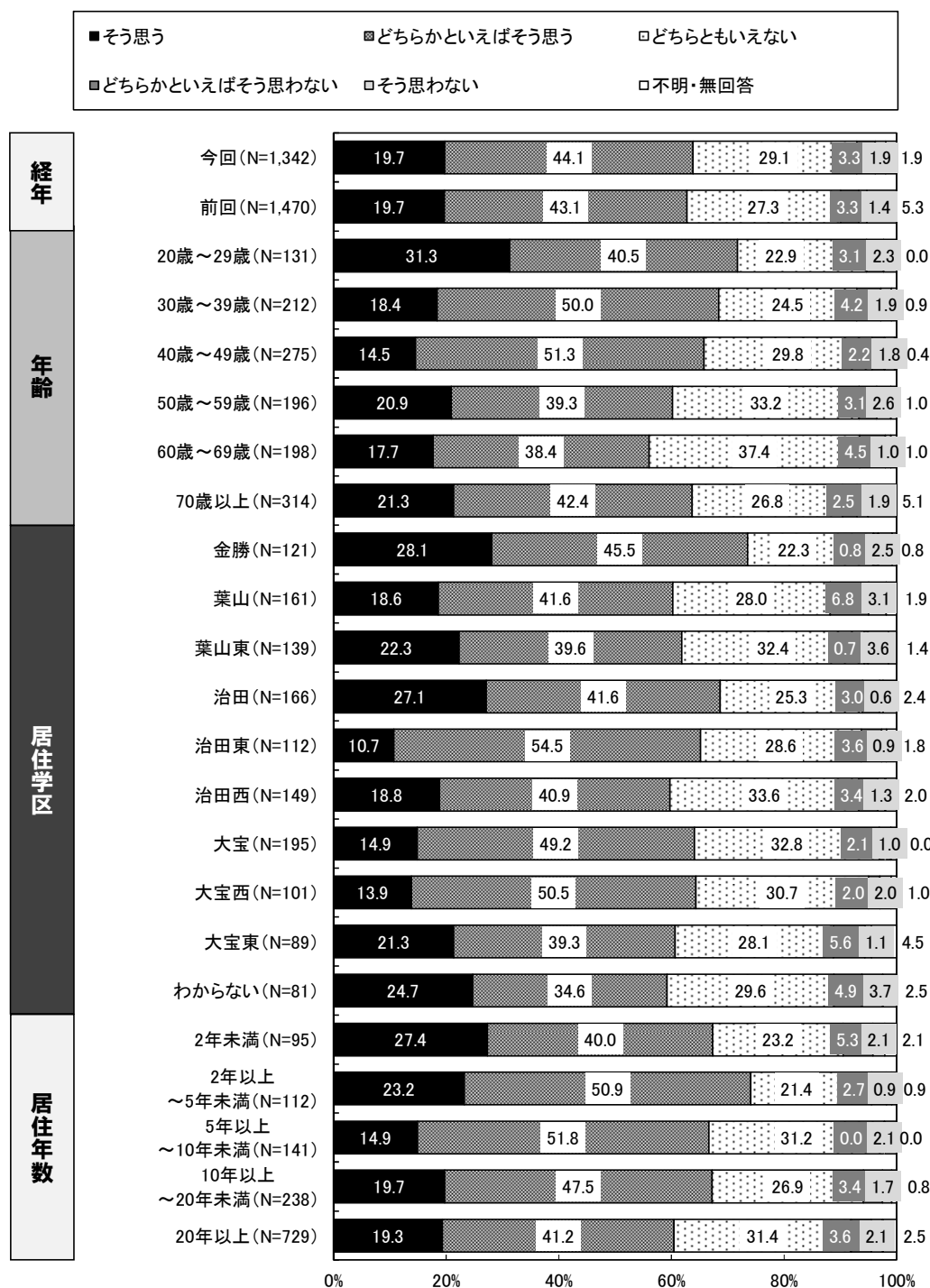
問 2-16. 差別を解消するために、努力している人々を応援したい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.0 ポイント、『そう思わない』が 0.5 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20 歳～39 歳において『そう思う』が 7 割強と他の年代と比べて高くなっています。

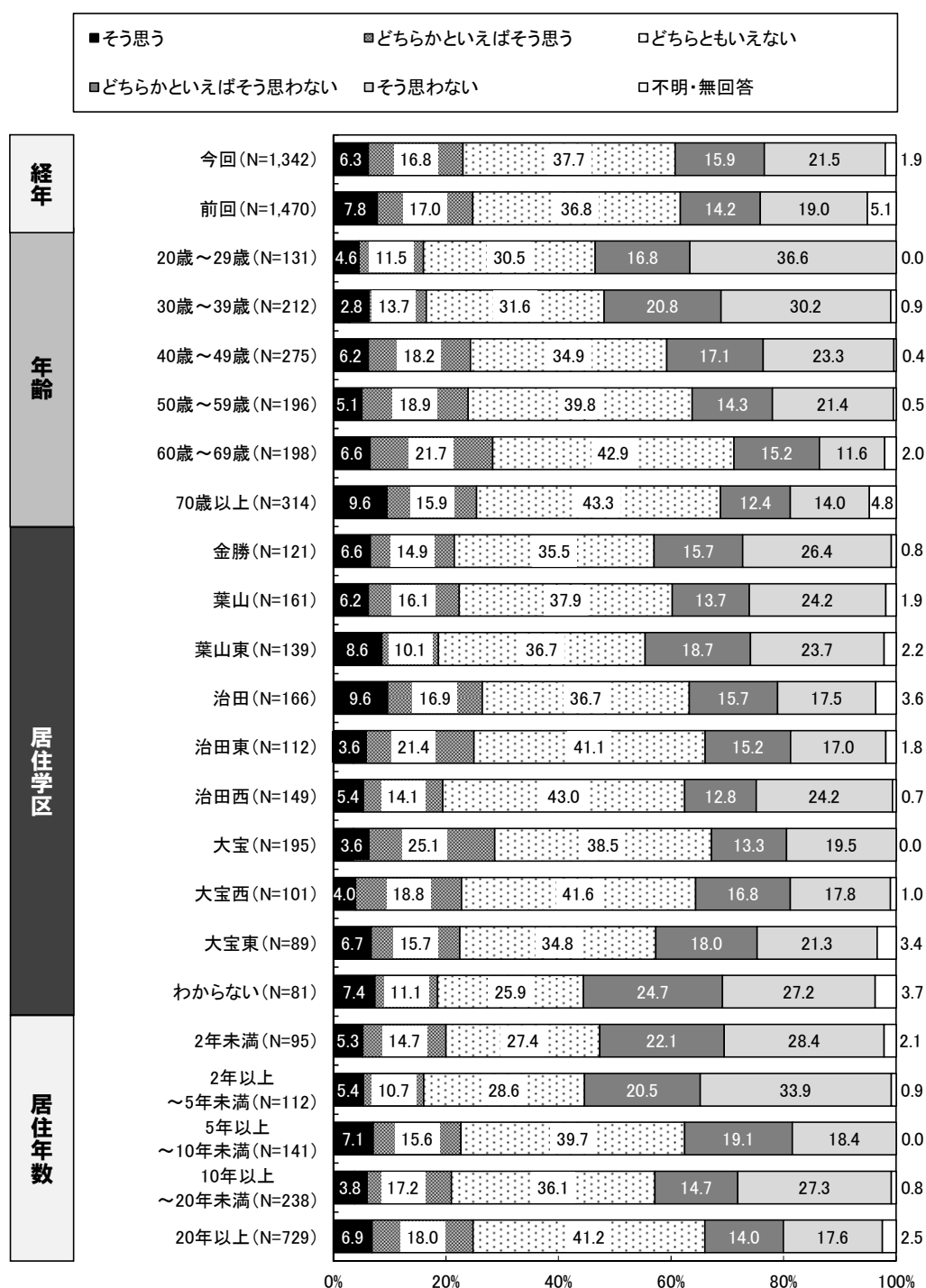
居住学区別にみると、金勝において『そう思う』が 7 割半ばと他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2 年以上～5 年未満において『そう思う』が 7 割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



問 2-17. もし、わが子が対象地域の人とつき合っていたら、悩んでしまう

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.7 ポイント低く、『そう思わない』が 4.2 ポイント高くなっています。
 年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『そう思わない』の割合が低くなる傾向があります。
 居住学区別にみると、金勝と葉山東において『そう思わない』が4割強と他の地区と比べて高くなっています。
 居住年数別にみると、5年未満において『そう思わない』が5割以上と他の年数と比べて高くなっています。

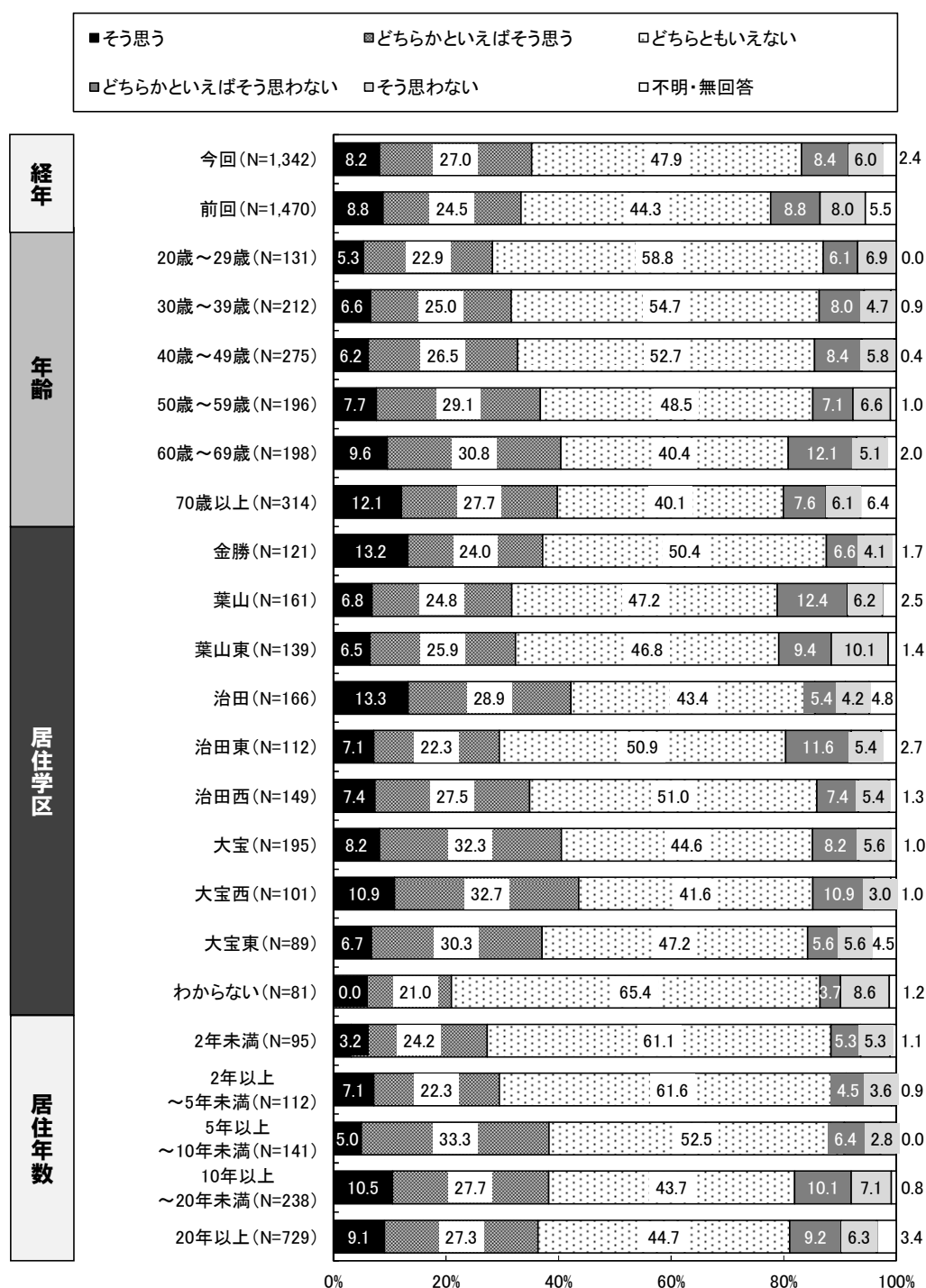


問 2-18. 地区別懇談会や講演会・研修会は、人権・同和問題の正しい理解に役立っている

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.9 ポイント高く、『そう思わない』が 2.4 ポイント低くなっています。
年齢別にみると、年代が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなる傾向があります。

居住学区別にみると、治田、大宝、大宝西において『そう思う』が4割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、5年以上において『そう思う』が3割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



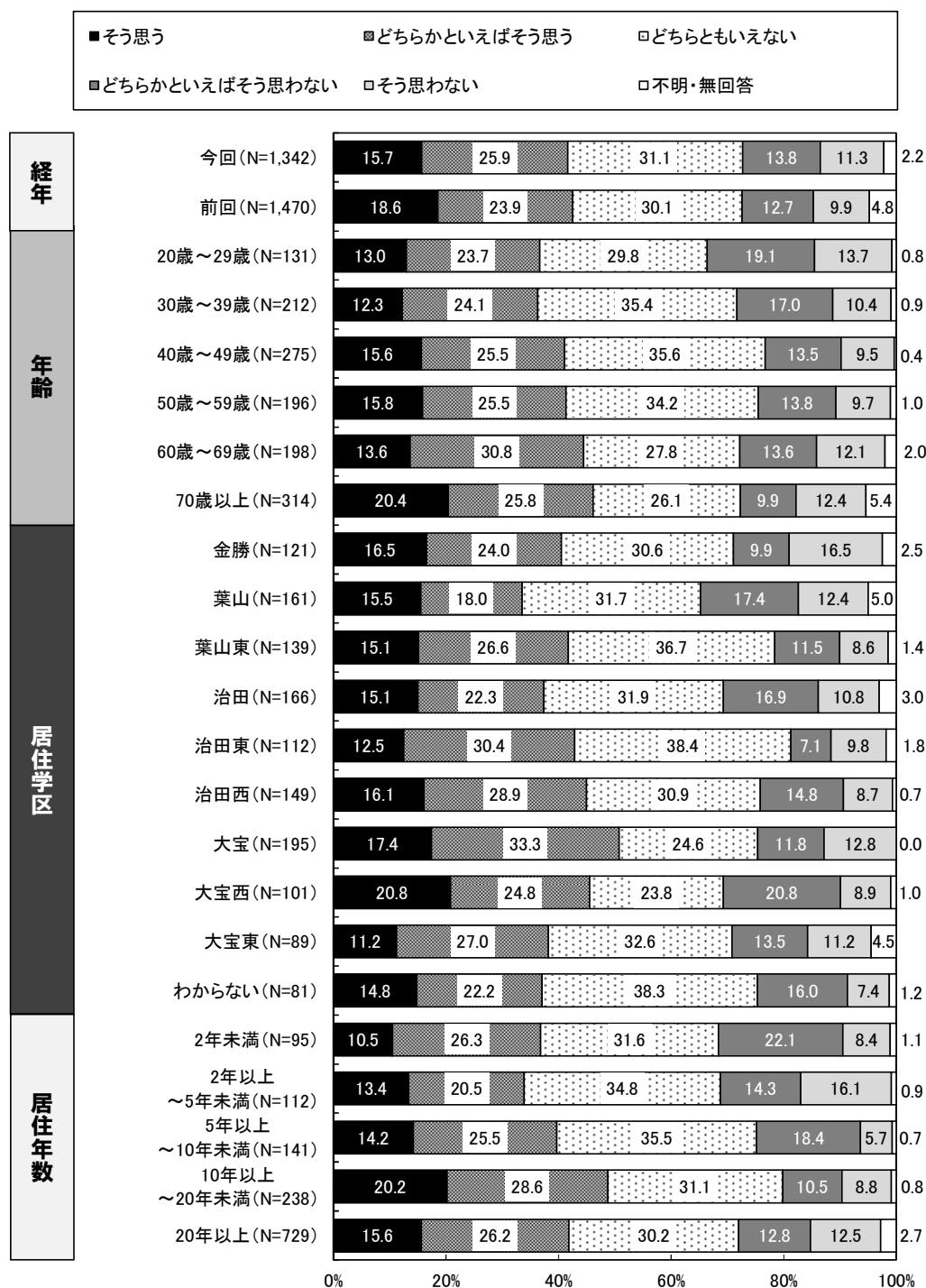
問 2-19. 部落差別問題学習は部落差別を知らない人にまで知らせることになり、差別を広げている

前回調査と比較すると、『そう思う』が 0.9 ポイント低く、『そう思わない』が 2.5 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、30 歳以降、年代が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなっています。

居住学区別にみると、大宝において『そう思う』が5割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、10 年以上～20 年未満において『そう思う』が5割弱と他の年数と比べて高くなっています。



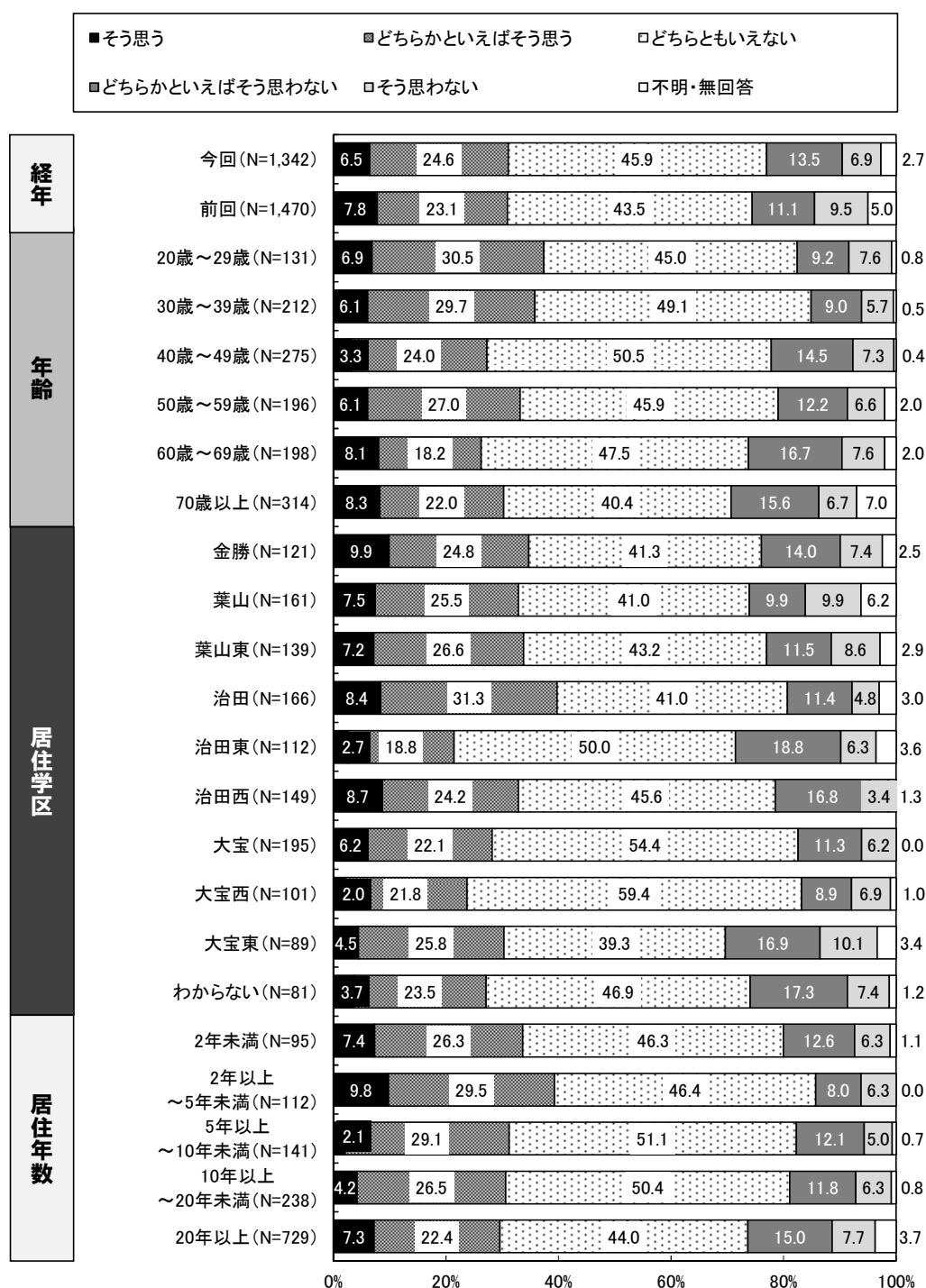
問 2-20. 同和問題（部落差別）をはじめさまざまな人権問題について、今後もっと学びたい

前回調査と比較すると、『そう思う』『そう思わない』とも、ほぼ同様な割合となっています。

年齢別にみると、20 歳～39 歳において『そう思う』が3割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、治田において『そう思う』が4割弱と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～5年未満において『そう思う』が4割弱と他の年数と比べて高くなっています。



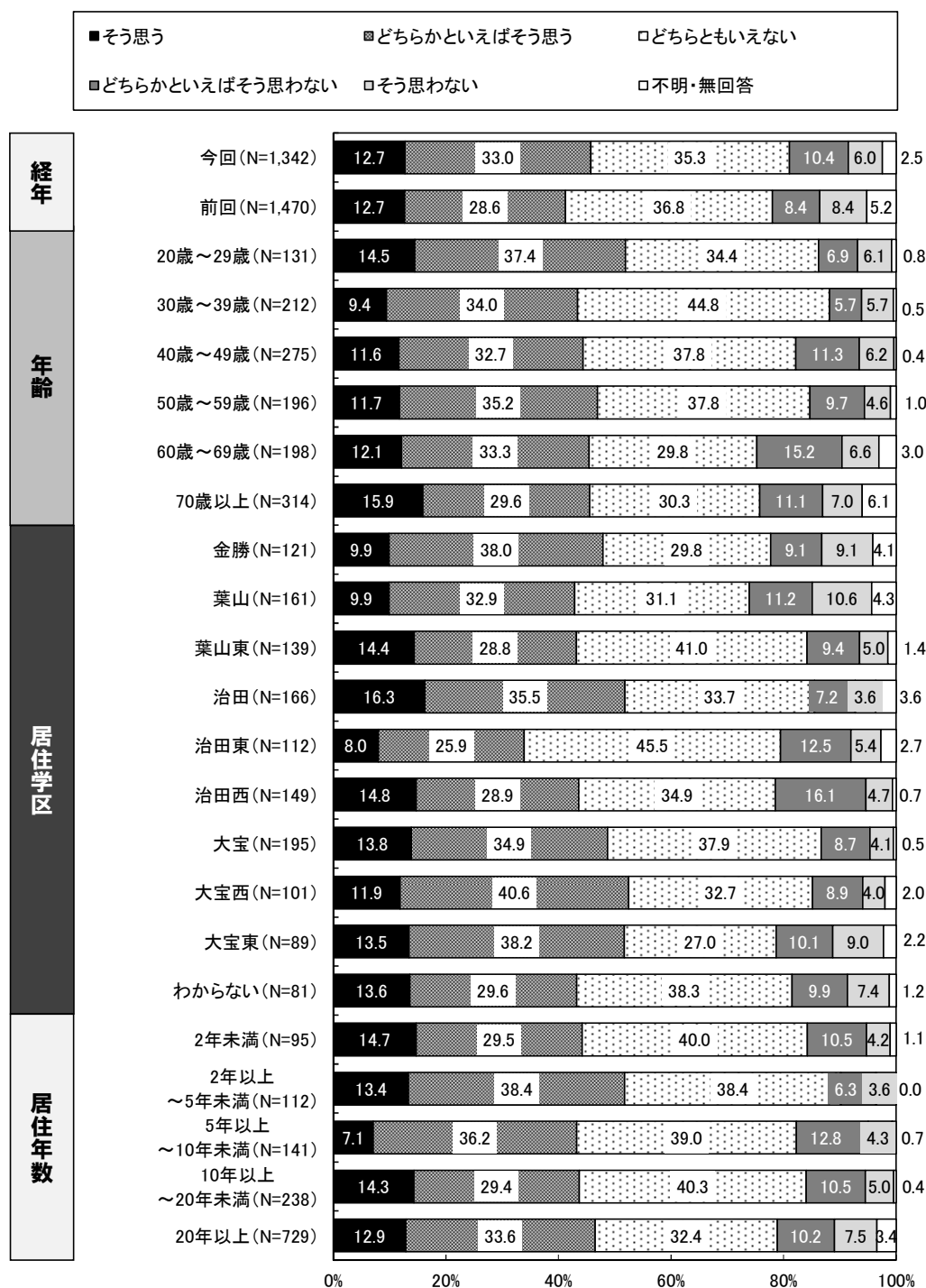
問 2-21. 同和問題（部落差別）は、人権問題全体の教育・啓発の一環として行うべきである

前回調査と比較すると、『そう思う』が 4.4 ポイント高く、『そう思わない』が 0.4 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、20 歳～29 歳において『そう思う』が 5 割強と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、治田、大宝西、大宝東において『そう思う』が 5 割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2 年以上～5 年未満において『そう思う』が 5 割強と他の年数と比べて高くなっています。



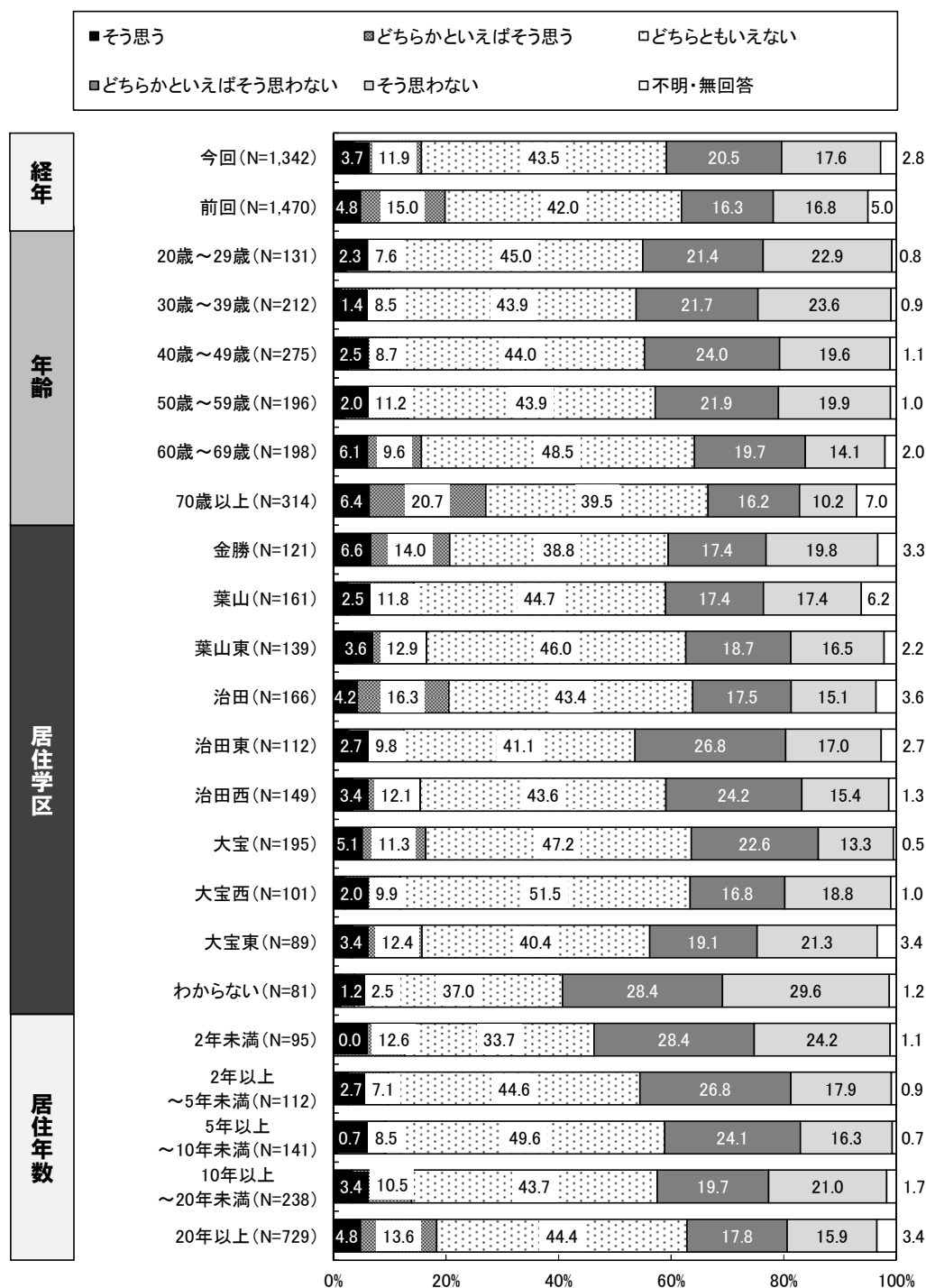
問 2-22. 地区別懇談会に積極的に参加したい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 4.2 ポイント低く、『そう思わない』が 5.0 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、70 歳以上において『そう思う』が 2 割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、金勝、治田において『そう思う』が 2 割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、20 年以上において『そう思う』が 2 割弱、2 年未満において『そう思わない』が 5 割半ばとそれぞれ他の年数を比べて高くなっています。



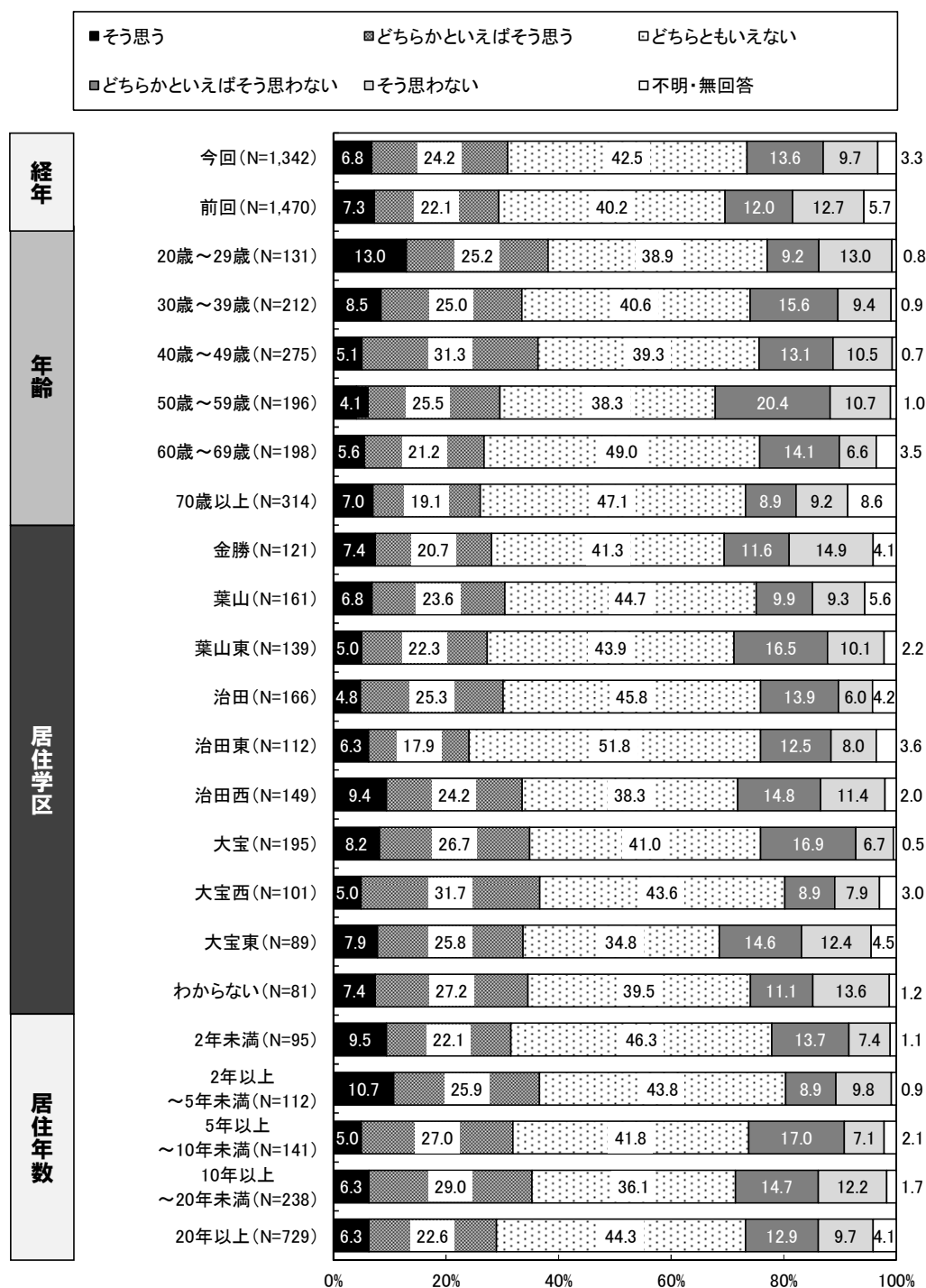
問 2-23. 学校での人権・同和問題学習は、差別解消に役立った

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.6 ポイント高く、『そう思わない』が 1.4 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、20 歳～49 歳において『そう思う』が3割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

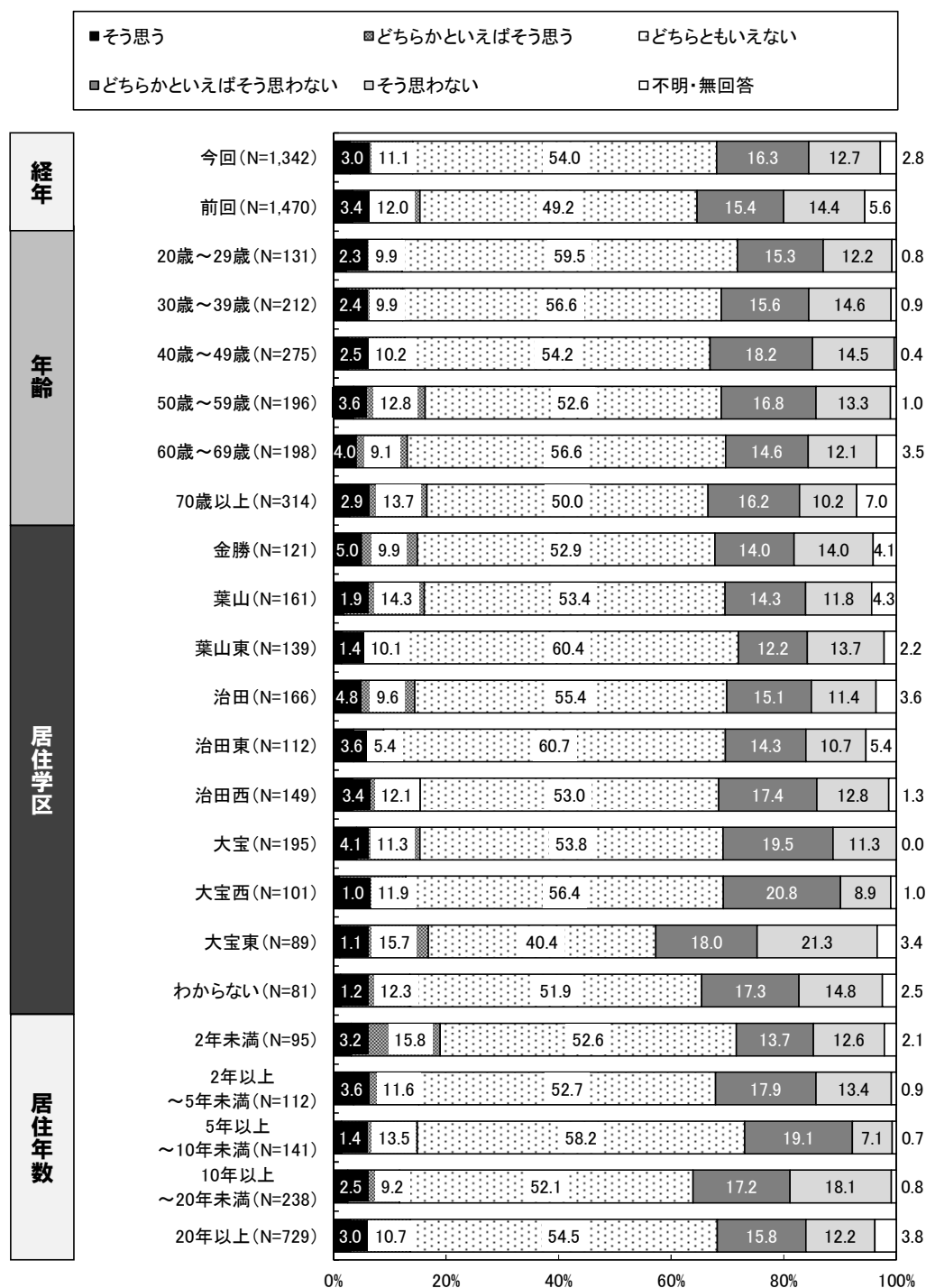
居住学区別にみると、金勝、葉山東、治田東において『そう思う』が2割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

居住年数別にみると、5年未満において「そう思う」が1割と他の年数と比べて高くなっています。



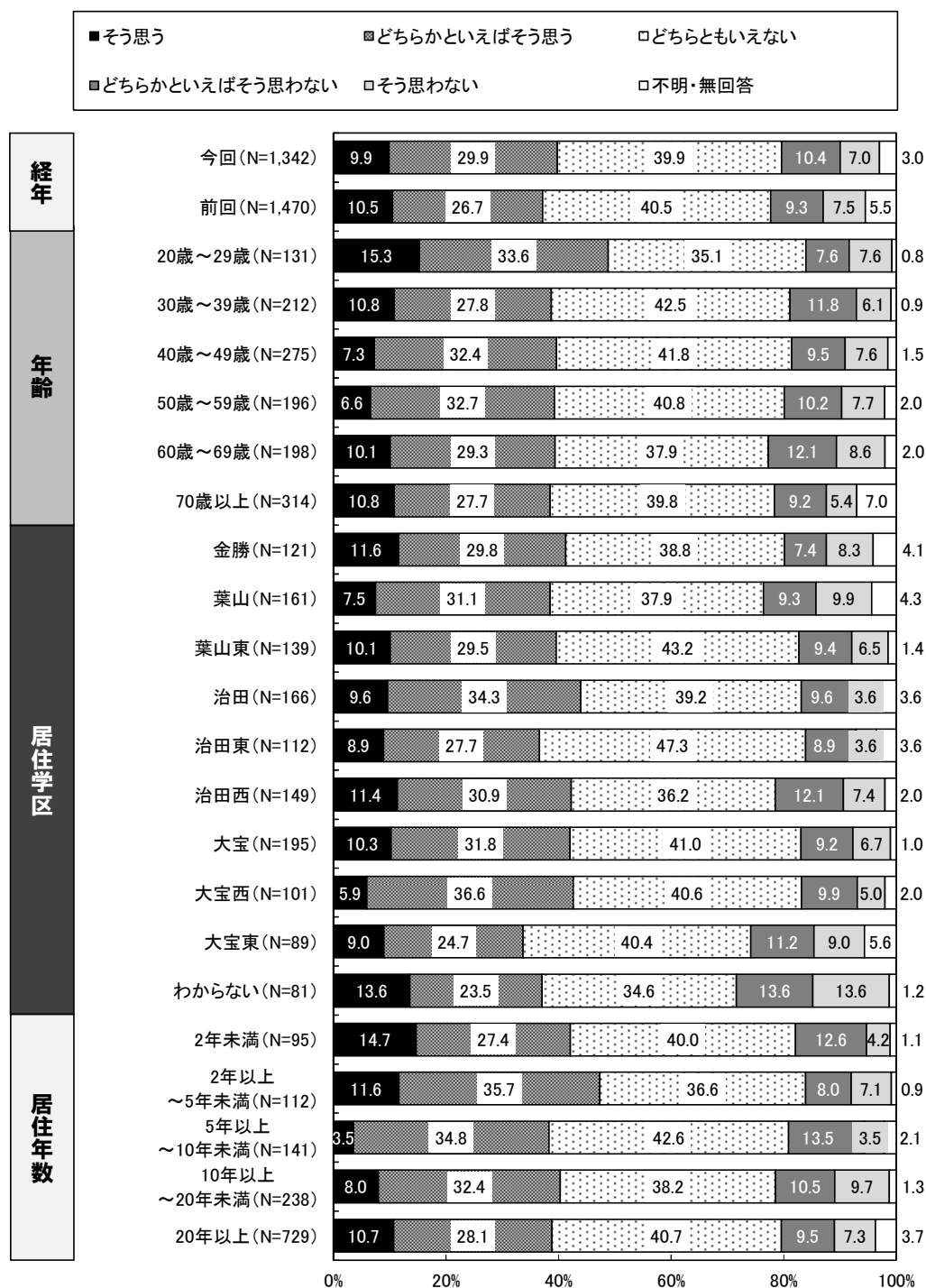
問 2-24. 国民的課題である同和問題（部落差別）解決にむけての教育・啓発は、他の人権問題よりも特に重点的に行うべきである

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.3 ポイント、『そう思わない』が 0.8 ポイント低くなっています。
年齢別でみると、50 歳以上において『そう思う』が 1 割半ばと他の年代と比べて高くなっています。
居住学区別にみると、大宝東において『そう思わない』が 4 割弱と他の地区と比べて高くなっています。
居住年数別にみると、2 年未満において『そう思う』が 2 割弱と他の年数と比べて高くなっています。



問 2-25. 同和問題（部落差別）および他の人権問題については、積極的な教育・啓発を行うべきである

前回調査と比較すると、『そう思う』が 2.6 ポイント、『そう思わない』が 0.6 ポイント高くなっています。
 年齢別でみると、20 歳～29 歳において『そう思う』が5割弱と他の年代と比べて高くなっています。
 居住学区別にみると、大宝東において『そう思う』が3割半ばと他の地区と比べて低くなっています。
 居住年数別にみると、2年以上～5年未満において『そう思う』が4割半ばと他の年数と比べて高くなっています。

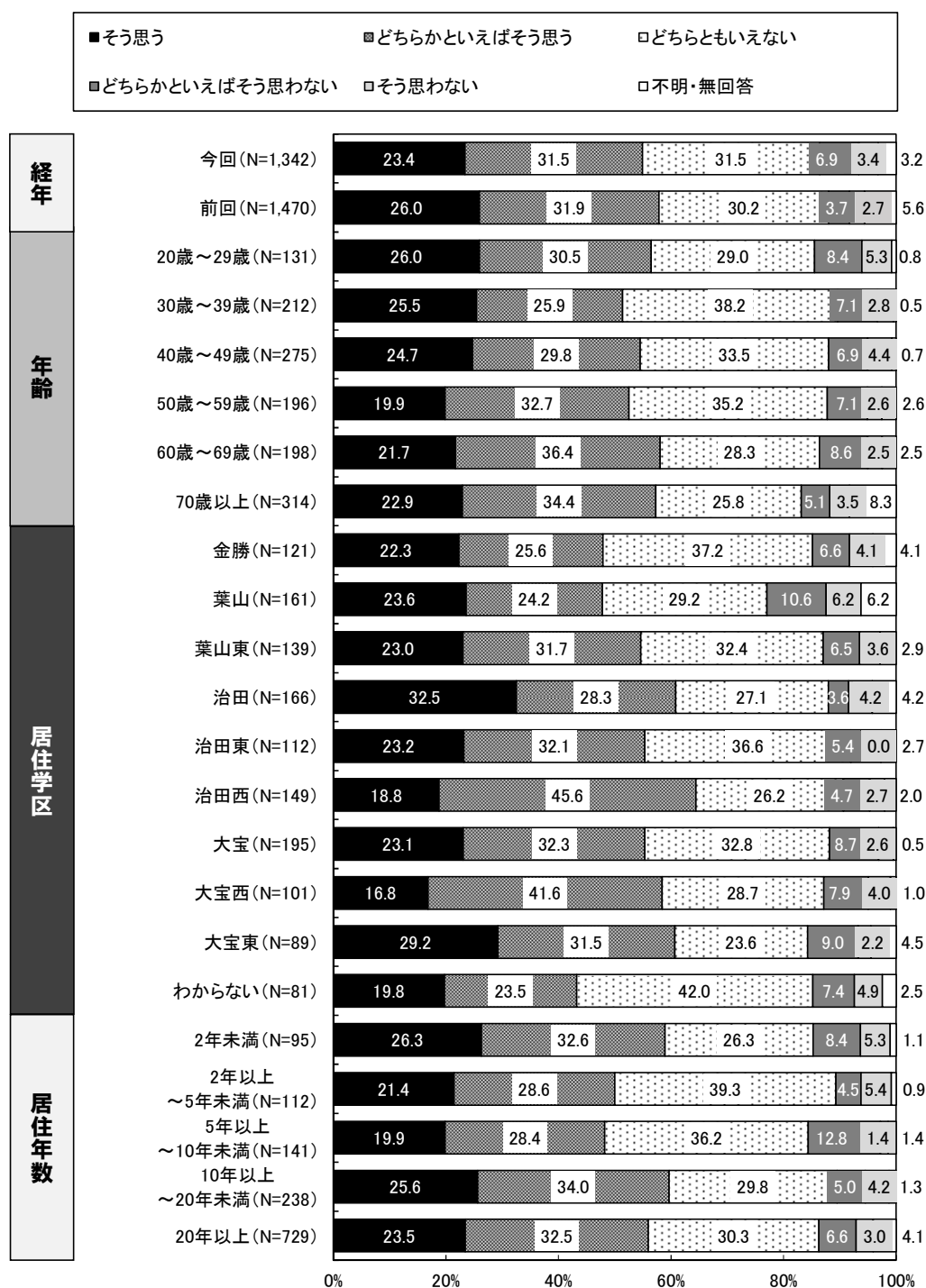


問 2-26. 人権意識を高めるためには、同和問題（部落差別）だけを取りあげて教育・啓発を行うのは誤りである

前回調査と比較すると、『そう思う』が 3.0 ポイント低く、『そう思わない』が 3.9 ポイント高くなっています。年齢別にみると、全ての年代において『そう思う』の割合が5割台であり、ほぼ同様な分布となっています。

居住学区別にみると、治田、治田西、大宝東において『そう思う』が6割以上と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～10 年未満において『そう思う』が5割以下と他の年数と比べて低くなっています。

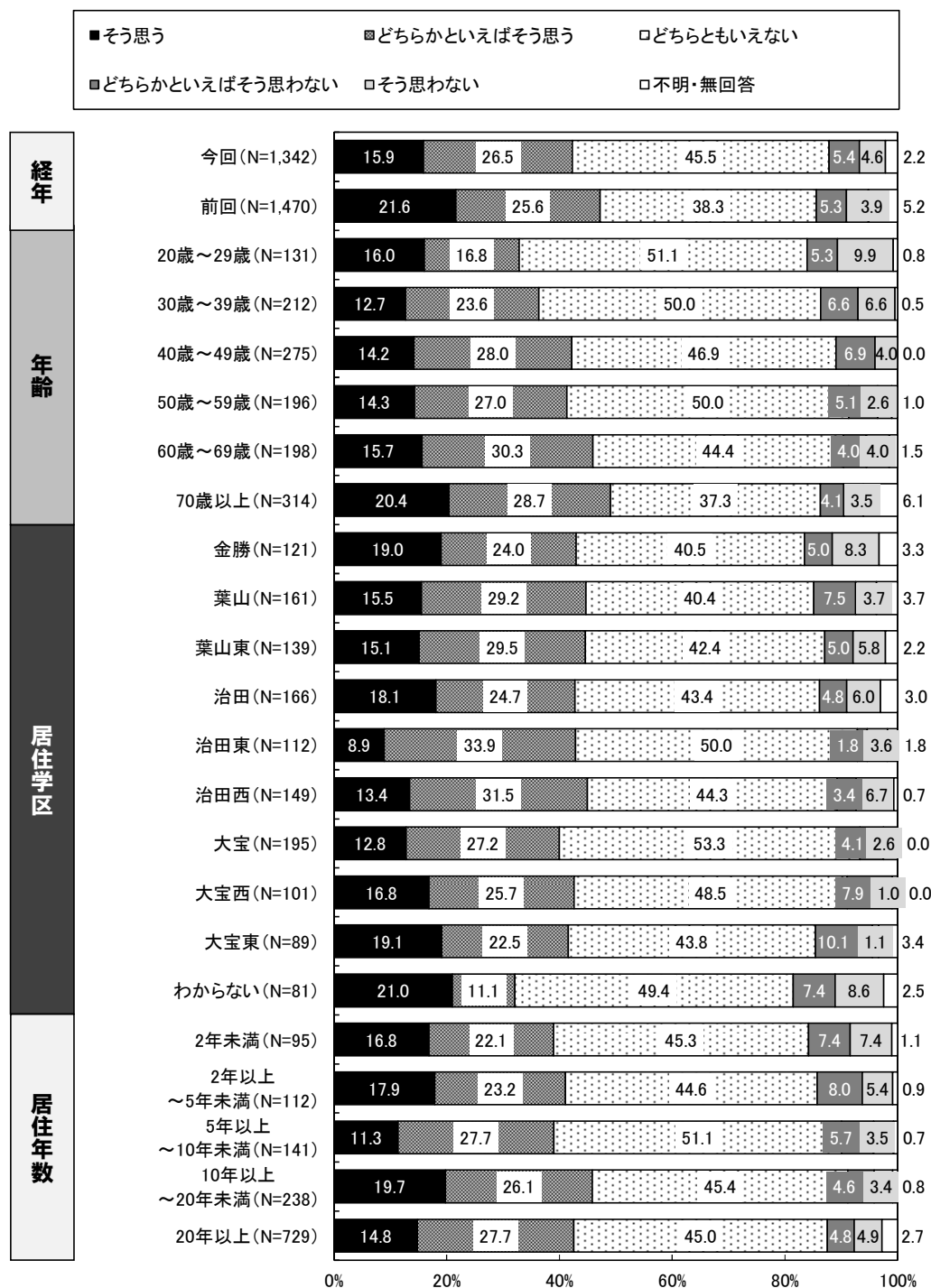


問 2-27. 障がいのある人や、病気、女性、子ども、高齢者等の人権問題についての教育・啓発のほ
うが同和問題（部落差別）より重要である

前回調査と比較すると、『そう思う』が 4.8 ポイント低く、『そう思わない』が 0.8 ポイント高くなっています。
年齢別にみると、年代が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなる傾向があります。

居住学区別にみると、全ての地区において『そう思う』が4割台であり、ほぼ同様な分布となっています。

居住年数別にみると、10 年以上～20 年未満において『そう思う』が4割半ばと他の年数と比べて高くなっ
ています。



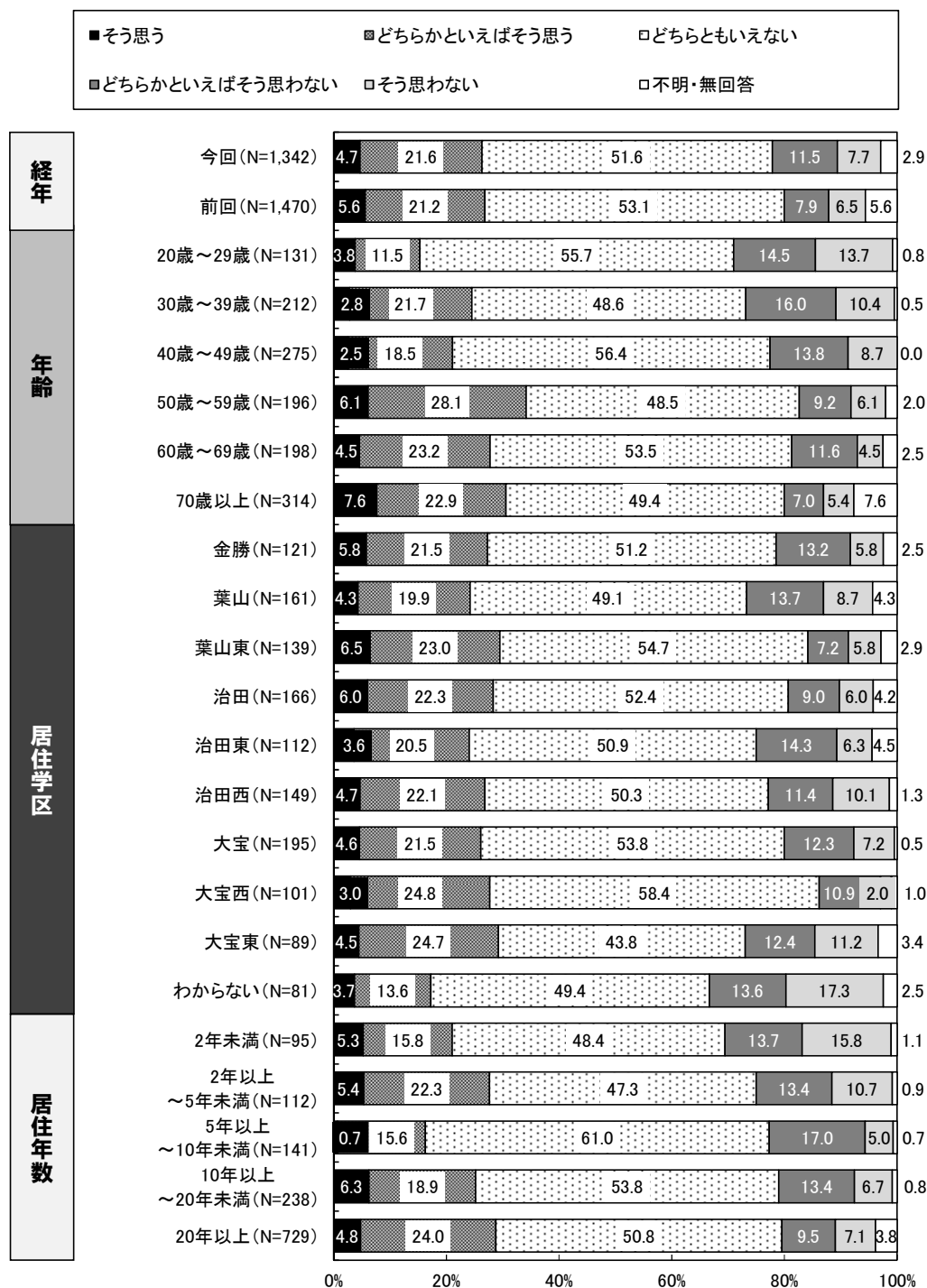
問 2-28. 差別を解消するために努力している

前回調査と比較すると、『そう思う』が 0.5 ポイント低く、『そう思わない』が 4.8 ポイント高くなっています。

年齢別にみると 50 歳～59 歳において『そう思う』が 3 割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

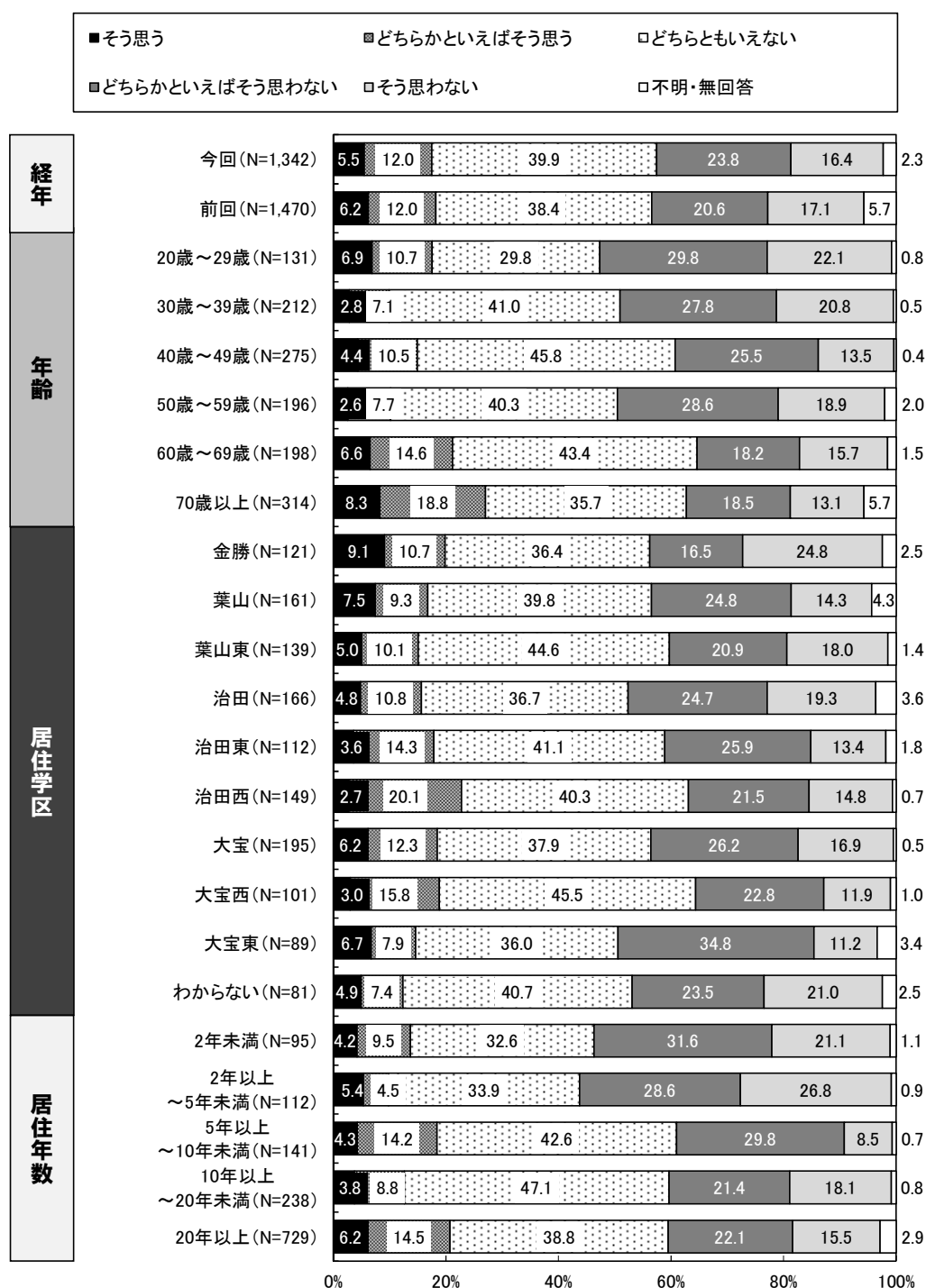
居住学区別にみると、全ての地区において『そう思う』が 2 割台であり、ほぼ同様な分布となっています。

居住年数別にみると、5 年以上～10 年未満において『そう思う』が 1 割半ばと他の年数と比べて低くなっています。



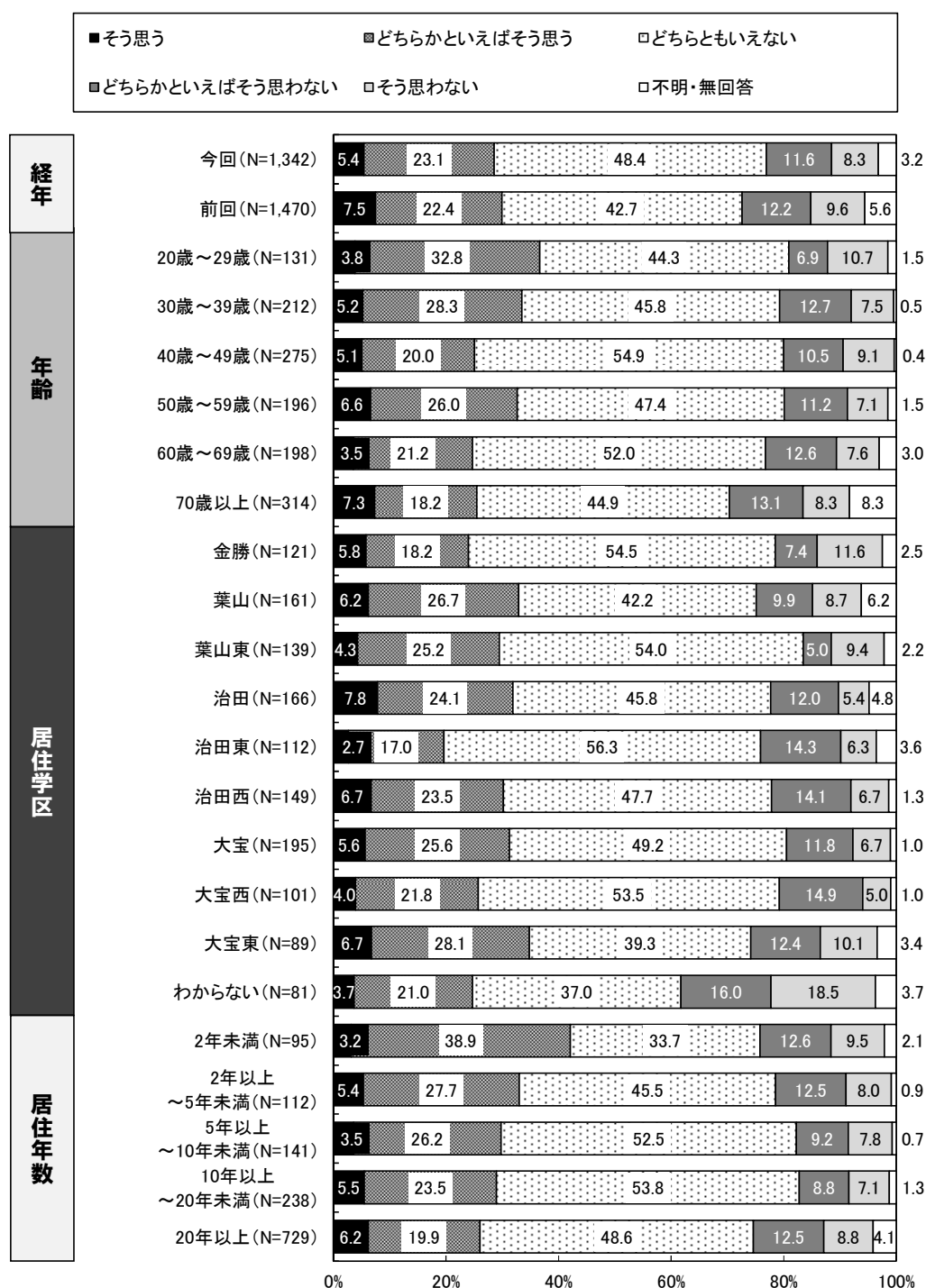
問 2-29. 差別の解消はむずかしいので、そっとしておいたほうがよい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 0.7 ポイント低く、『そう思わない』が 2.5 ポイント高くなっています。
 年齢別にみると、60 歳以上において『そう思わない』が3割強と他の年代と比べて低くなっています。
 居住学区別にみると、治田西において『そう思う』が2割強と他の地区と比べて高くなっています。
 居住年数別にみると、5年未満において『そう思わない』が半数以上と他の年数と比べて高くなっています。



問 2-30. 家族でもっと人権・同和問題について話し合うべきだ

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.4 ポイント、『そう思わない』が 1.9 ポイント低くなっています。
年齢別にみると、20 歳～29 歳において『そう思う』が3割半ばと他の年代と比べて高くなっています。
居住学区別にみると、治田東において『そう思う』が2割弱と他の地区と比べて低くなっています。
居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が低くなっています。



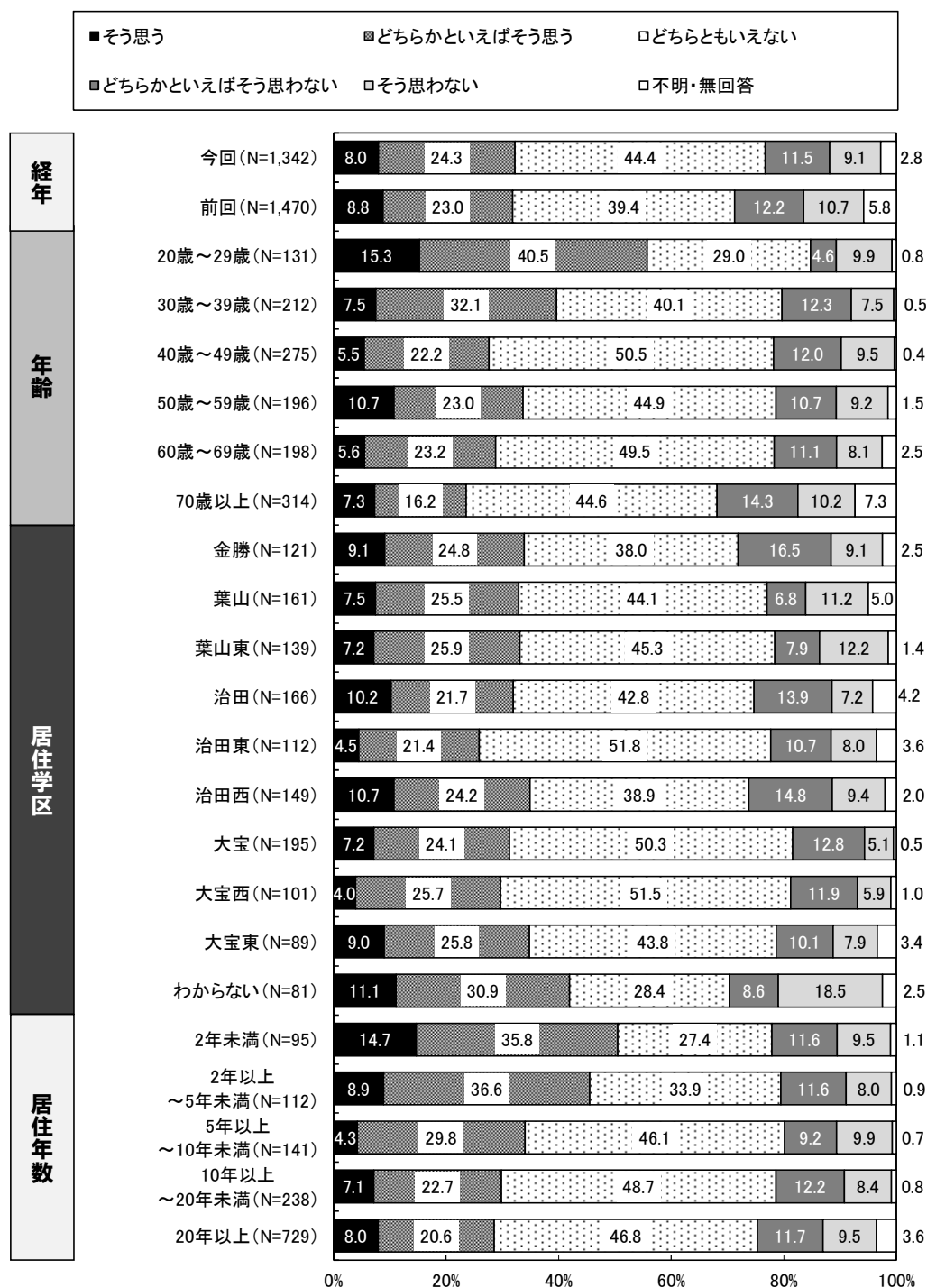
問 2-31. 学校でもっと人権・同和問題について、学習の機会を増やすべきだ

前回調査と比較すると、『そう思う』が 0.5 ポイント高く、『そう思わない』が 2.3 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、20 歳～29 歳において『そう思う』が5割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

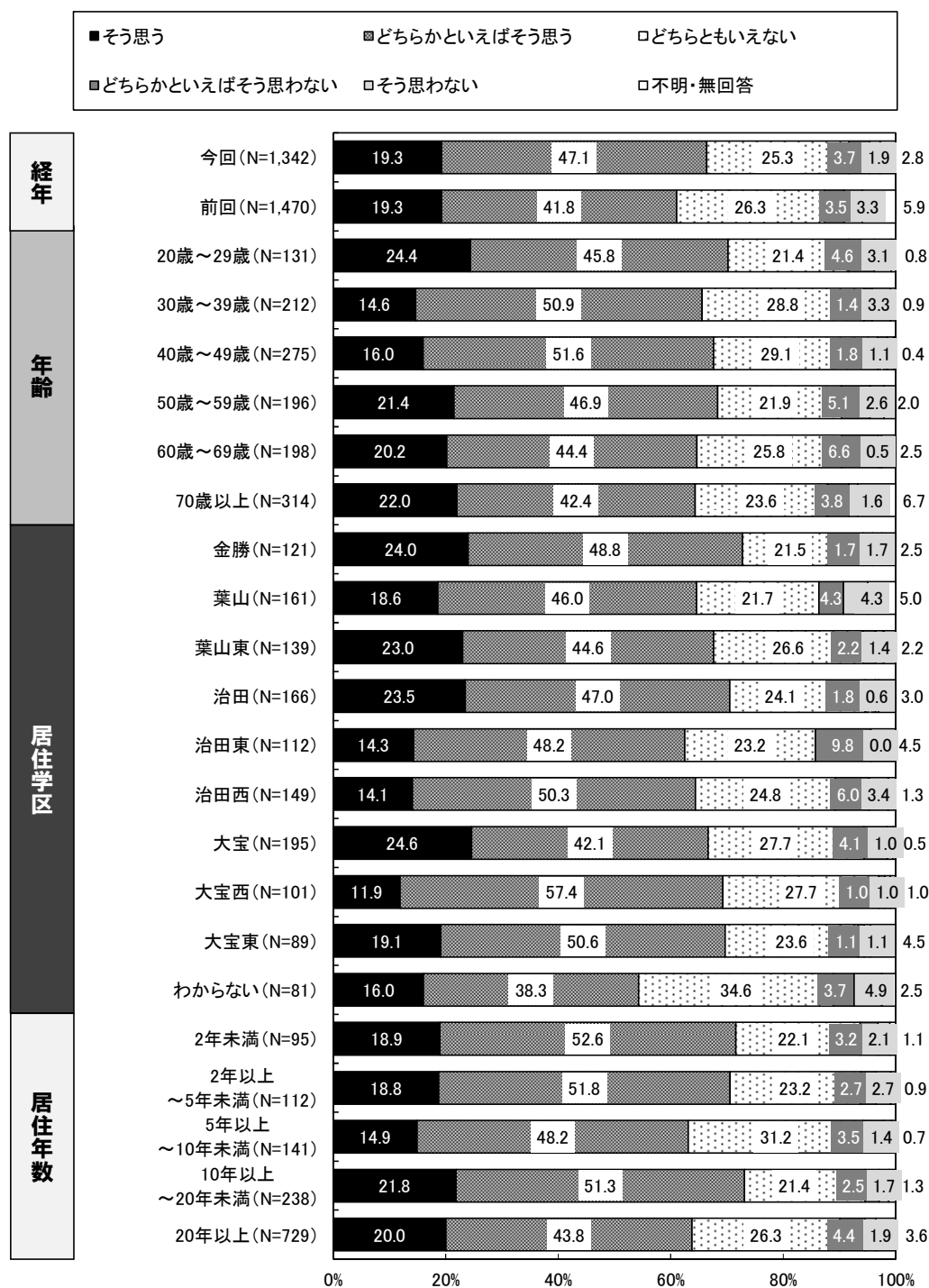
居住学区別にみると、治田東において『そう思う』が2割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

居住年数別にみると、5年未満において『そう思う』が4割半ば～5割と、5年以上の年数と比べて高くなっています。



問 2-32. 差別をしないように人権意識を高め、日常生活に生かしたい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 5.3 ポイント高く、『そう思わない』が 1.2 ポイント低くなっています。
年齢別、居住学区別、居住年数別の全てにおいて、『そう思う』が6割以上の高い割合になっています。



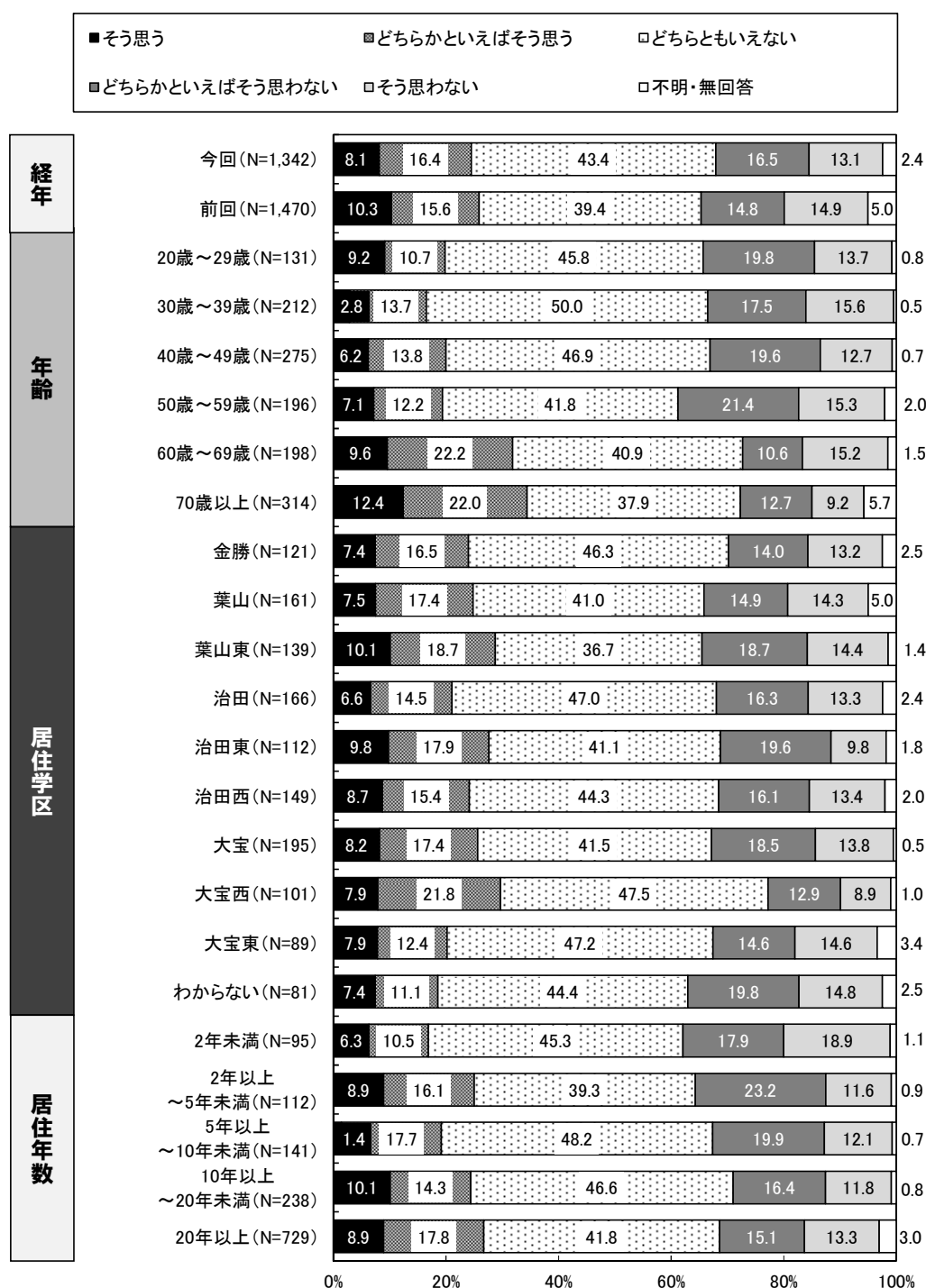
問 2-33. 同和問題（部落差別）は近い将来、解決する

前回調査と比較すると、『そう思う』が 1.4 ポイント低くなっています。

年齢別にみると、60 歳以上において『そう思う』が3割以上と他の年代と比べて高くなっています。

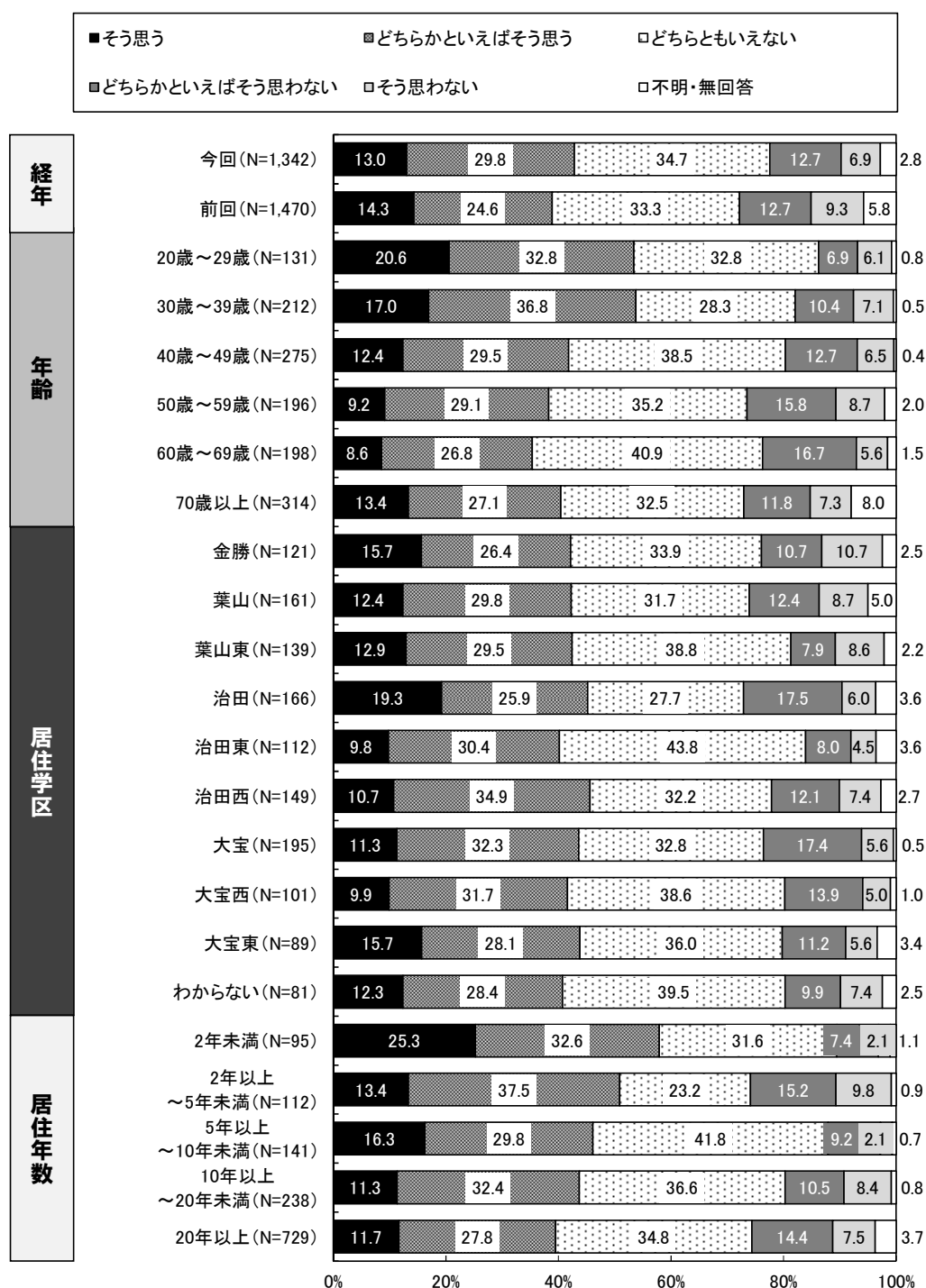
居住学区別にみると、大宝西において『そう思う』が3割弱と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年未満において『そう思う』が1割半ばと他の年数と比べて低くなっています。



問 2-34. 差別を解消するために何をすればよいかわからない

前回調査と比較すると、『そう思う』が 3.9 ポイント高く、『そう思わない』が 2.4 ポイント低くなっています。
 年齢別にみると、39 歳以下において『そう思う』が 5 割半ばと他の年代と比べて高くなっています。
 居住学区別にみると、全ての地区において『そう思う』が 4 割～4 割半ばに分布しています。
 居住年数別にみると、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が低くなっています。

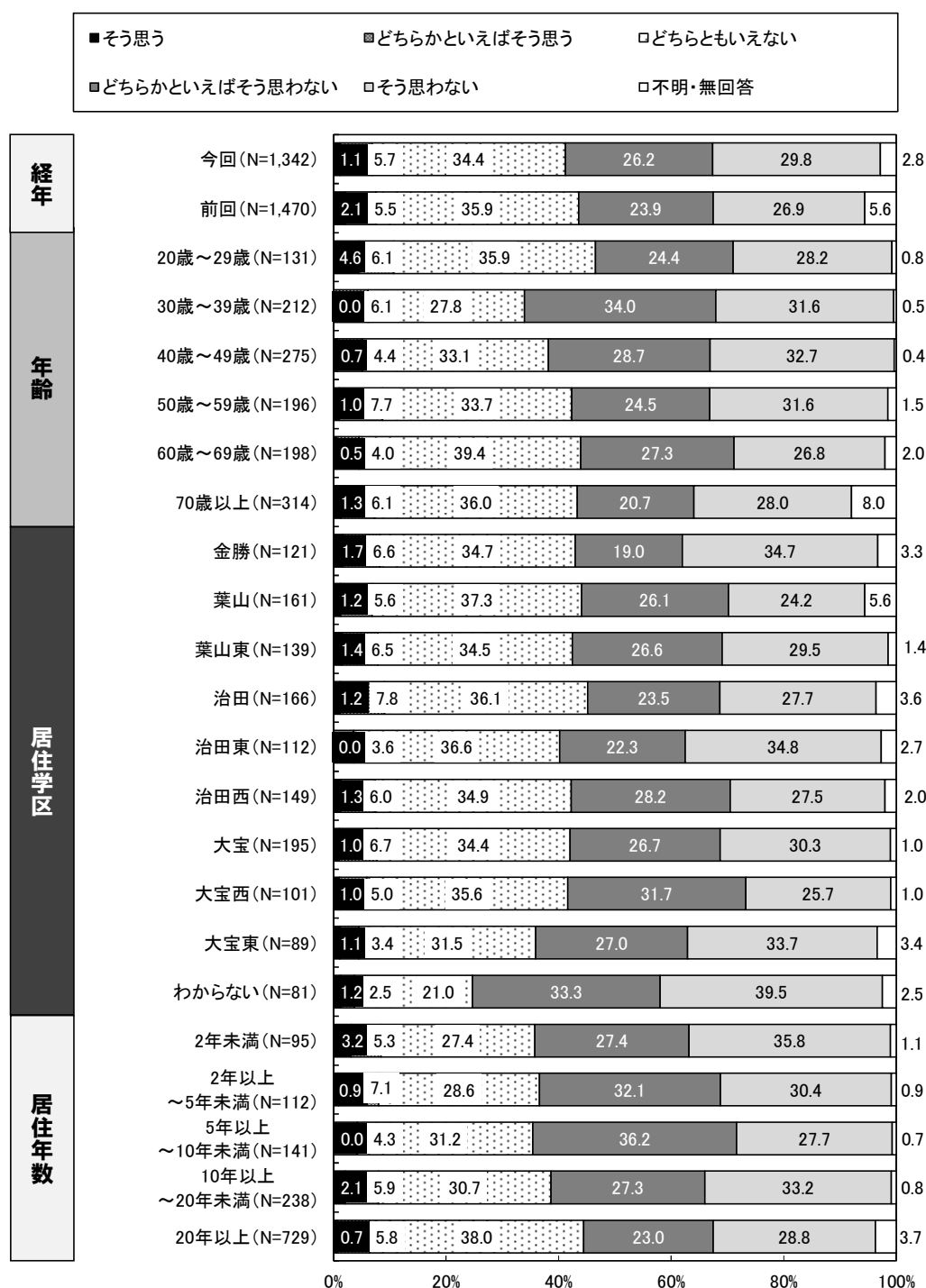


問 2-35. 一人ひとりが尊重される集団や社会を築くため、リーダーになって努力したい

前回調査と比較すると、『そう思う』が 0.8 ポイント低く、『そう思わない』が 5.2 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20 歳～29 歳において『そう思う』が1割と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別、居住年数別にみると、全てにおいて『そう思う』が1割未満と低く、また『そう思わない』は5割以上と高くなっています。



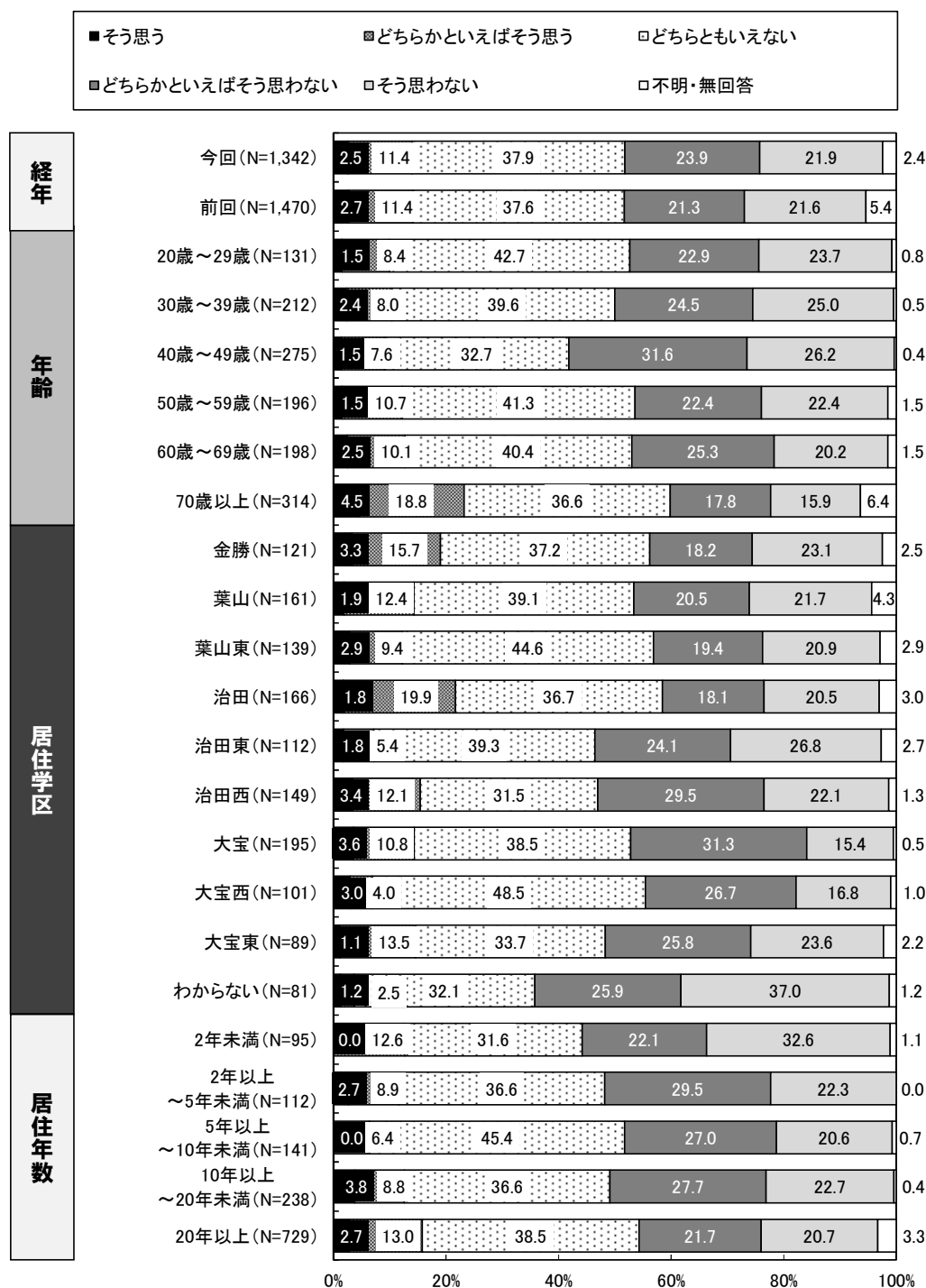
問 2-36. 人権・同和問題の講演会や研修会に積極的に参加したい

前回調査と比較すると、『そう思わない』が 2.9 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、40 歳～49 歳において『そう思わない』が6割弱、70 歳以上において『そう思う』が2割半ばと、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

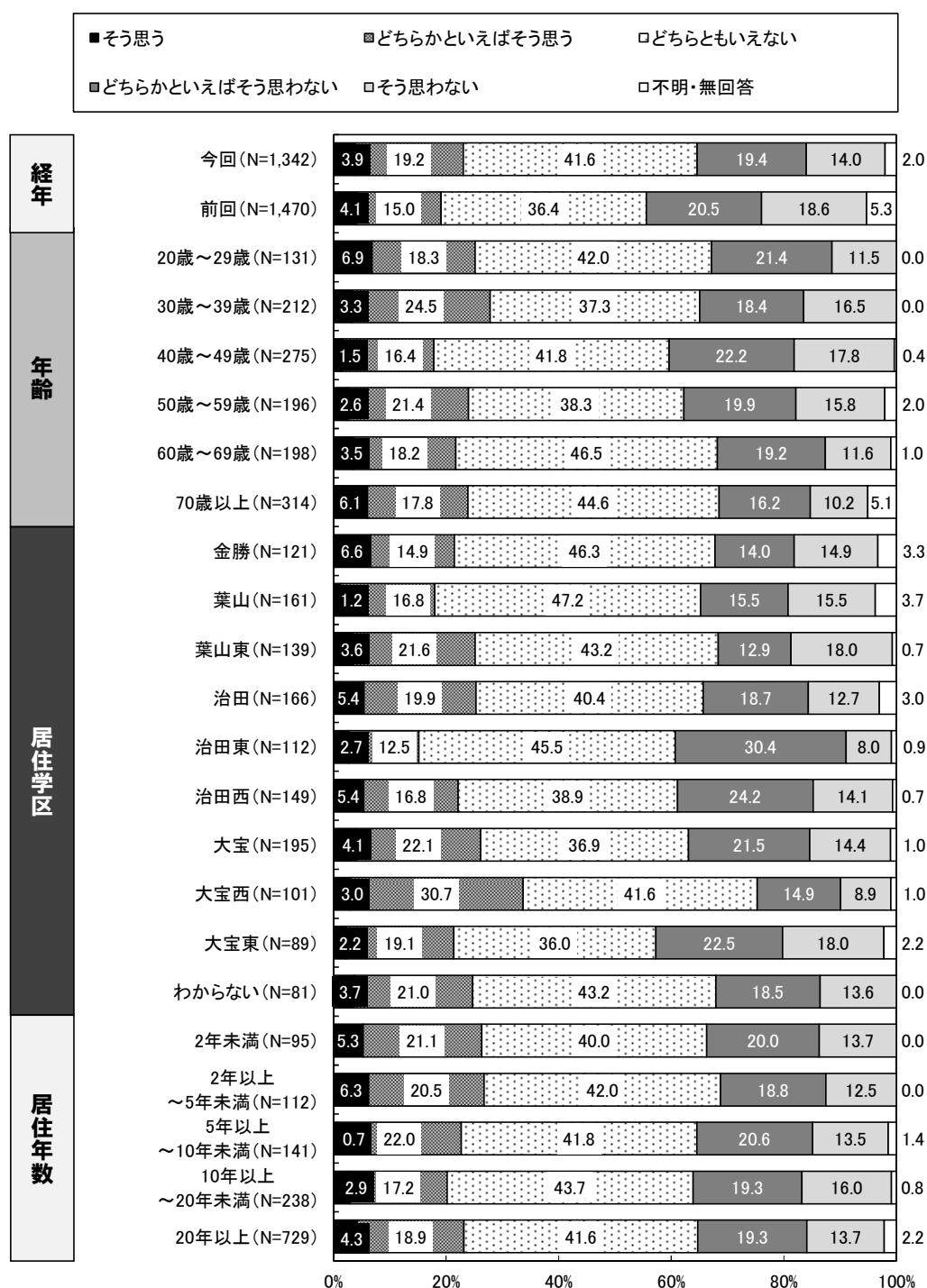
居住学区別にみると、治田において『そう思う』が2割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、20 年以上において『そう思う』が1割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



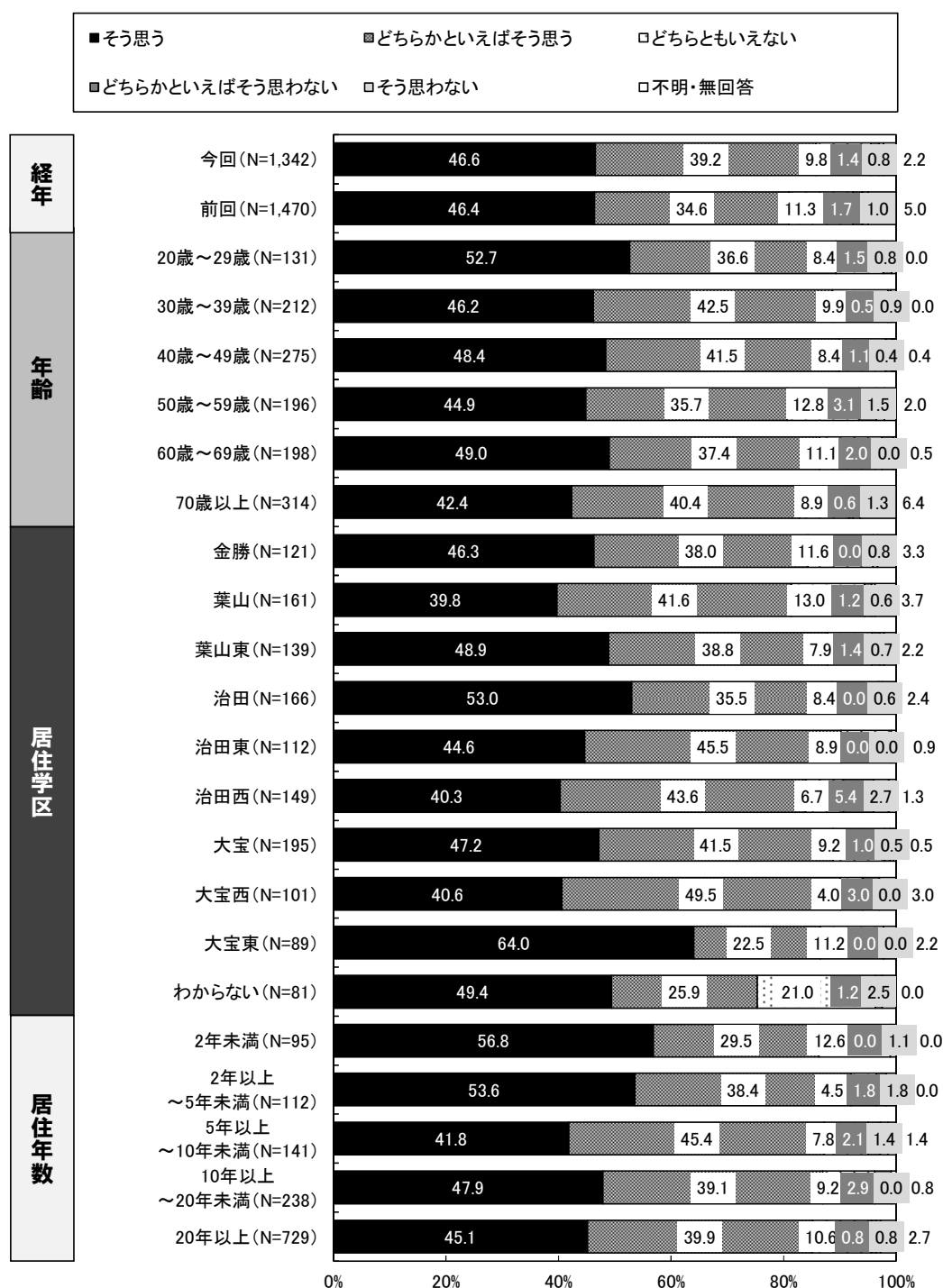
問 2-37. 部落差別問題学習を積極的にすすめれば、人々の差別意識や偏見はなくなっていく

前回調査と比較すると、『そう思う』が 4.0 ポイント高く、『そう思わない』が 5.7 ポイント低くなっています。
年齢別にみると、30 歳～39 歳において『そう思う』が3割弱と他の年代と比べて高くなっています。
居住学区別にみると、大宝西において『そう思う』が3割半ばと他の地区と比べて高くなっています。
居住年数別にみると、全てにおいて『そう思う』が2割～2割半ばに分布しています。



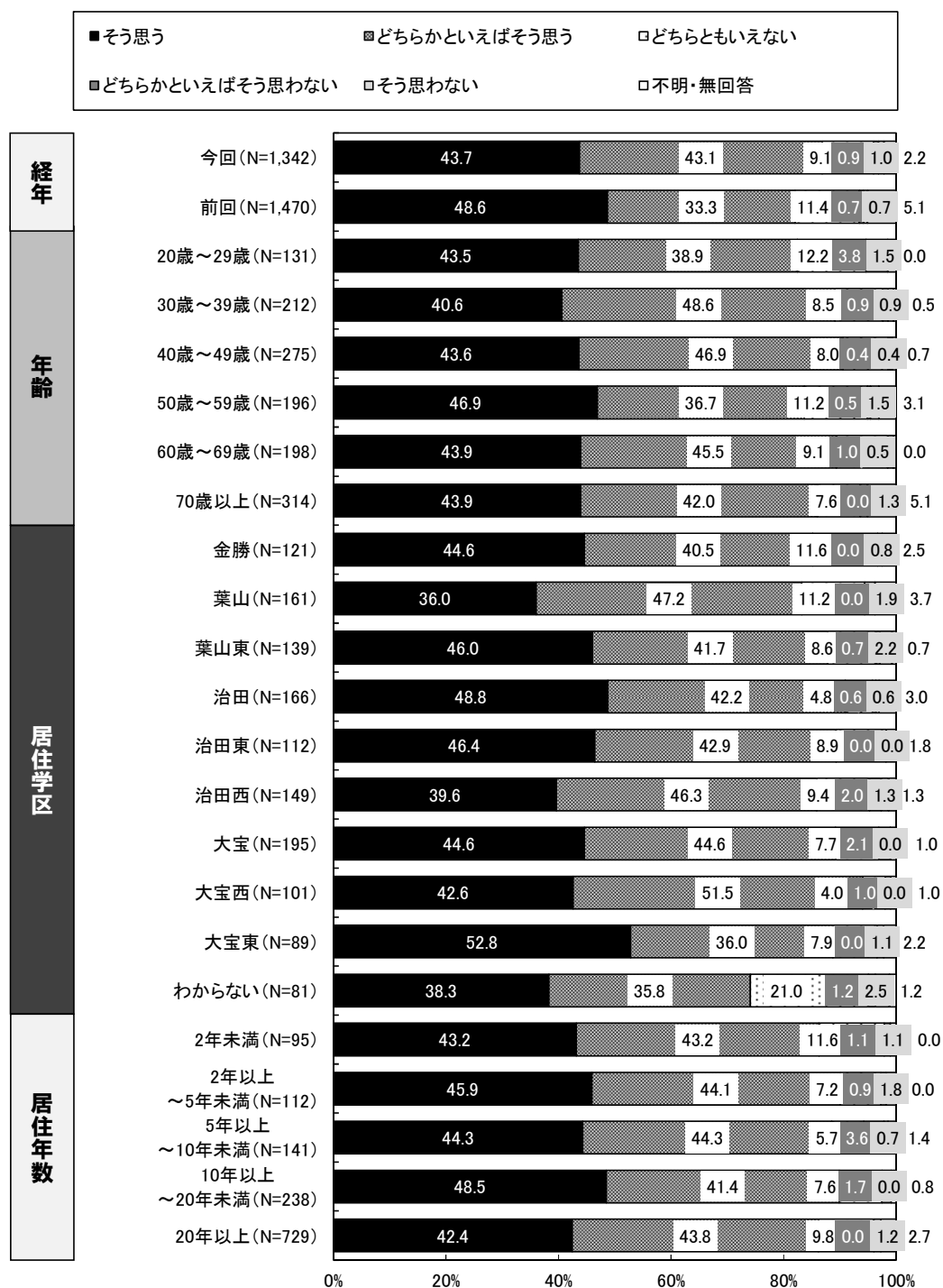
問 2-38. 命の大切さ、人間の尊厳、人間らしい生き方を学ぶのも人権学習である

前回調査と比較すると、『そう思う』が 4.8 ポイント高く、『そう思わない』が 0.5 ポイント低くなっています。
年齢別にみると、20～29 歳において「そう思う」5割半ばと他の年代と比べて高くなっています。
居住学区別にみると、大宝東において「そう思う」が6割半ばと他の地区と比べて高くなっています。
居住年数別にみると、全てにおいて『そう思う』が8割半ば以上に分布しています。



問 2-39. さまざまな人権問題の解決には、人を信頼し、認め合える豊かな人間関係づくりが大切である

前回調査と比較すると、『そう思う』が 4.9 ポイント、『そう思わない』が 0.5 ポイント高くなっています。
年齢別にみると、50 歳～59 歳において「そう思う」が4割半ばと他の年代と比べて高くなっています。
居住学区別にみると、葉山において「そう思う」が3割半ばと他の地区と比べて低くなっています。
居住年数別にみると、全てにおいて『そう思う』が8割半ば～9割に分布しています。



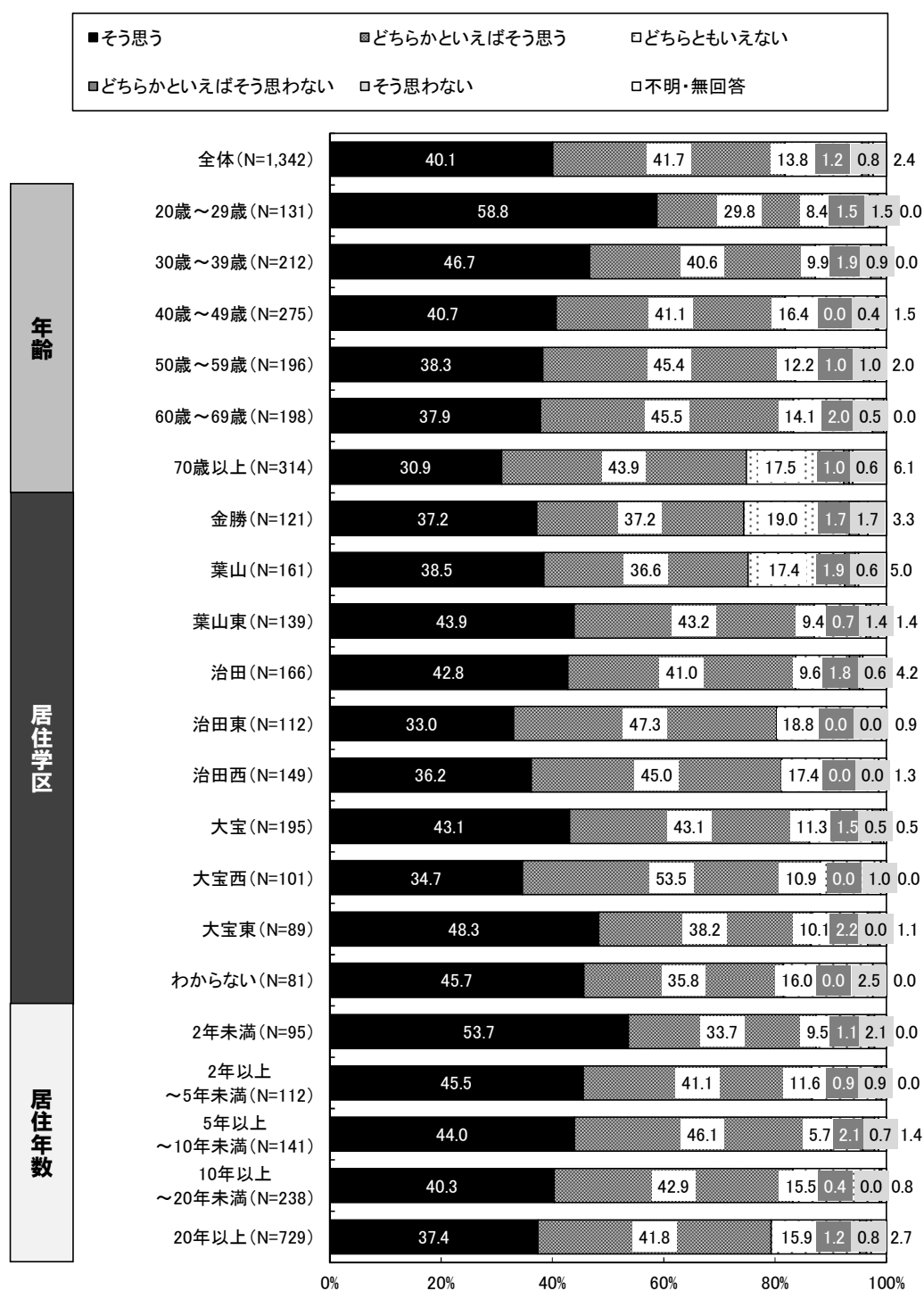
問2-40. 家事・育児や介護など、男女が共同して担う社会の仕組みをもっと整備するべきだ

全体では、『そう思う』が81.8%、『そう思わない』が2.0%になっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれて「そう思う」の割合が低くなっています。

居住学区別にみると、金勝、葉山において『そう思う』7割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

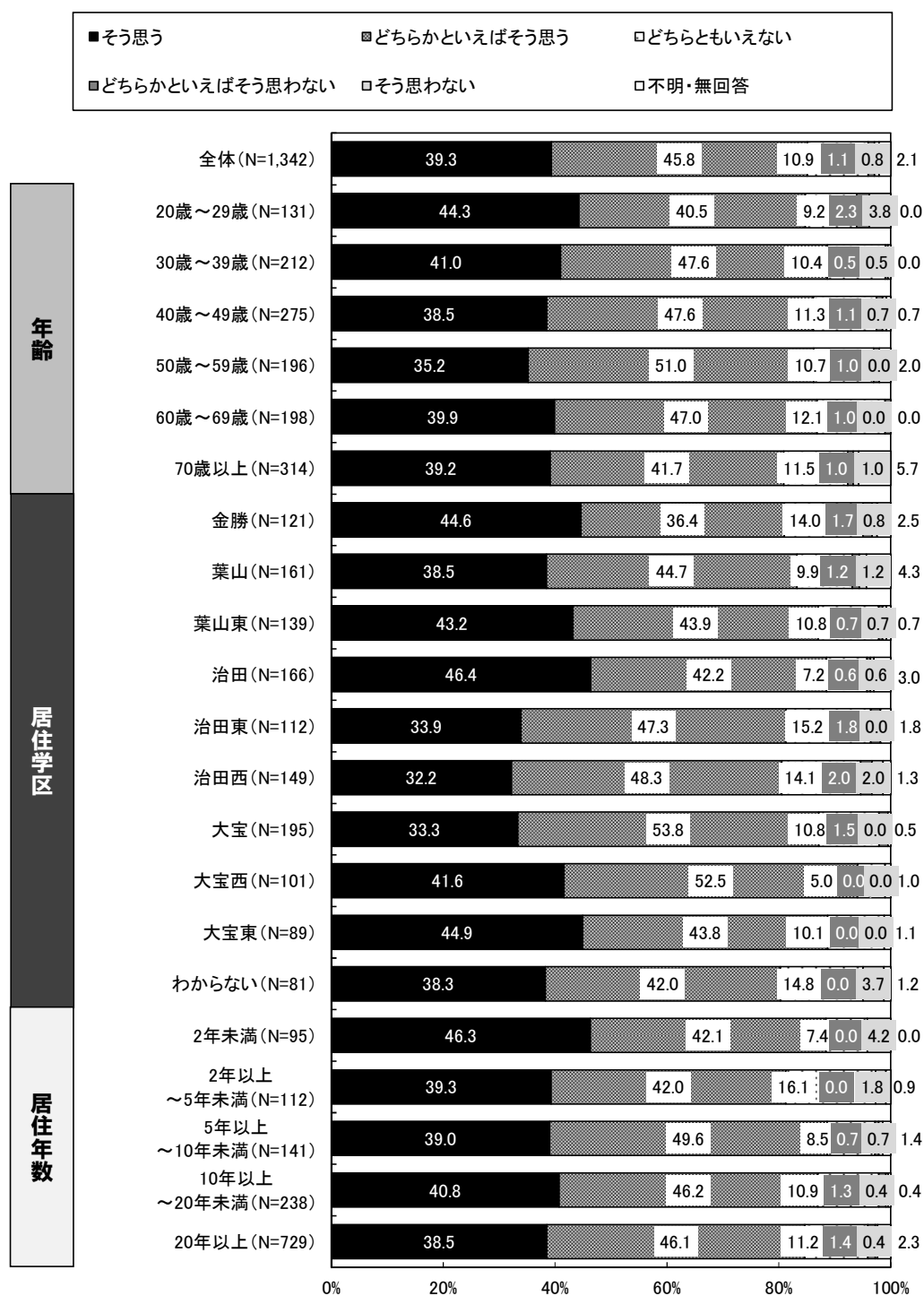
居住年数別にみると、年数が上がるにつれて「そう思う」の割合が低くなっています。



問 2-41. 障がいのある人に対する不当な扱いを減らし、合理的配慮について考えていく必要がある

全体では、『そう思う』が 85.1%、『そう思わない』が 1.9%になっています。

年齢別、居住学区別、居住年数別の全てにおいて、『そう思う』が8割以上の高い割合になっています。

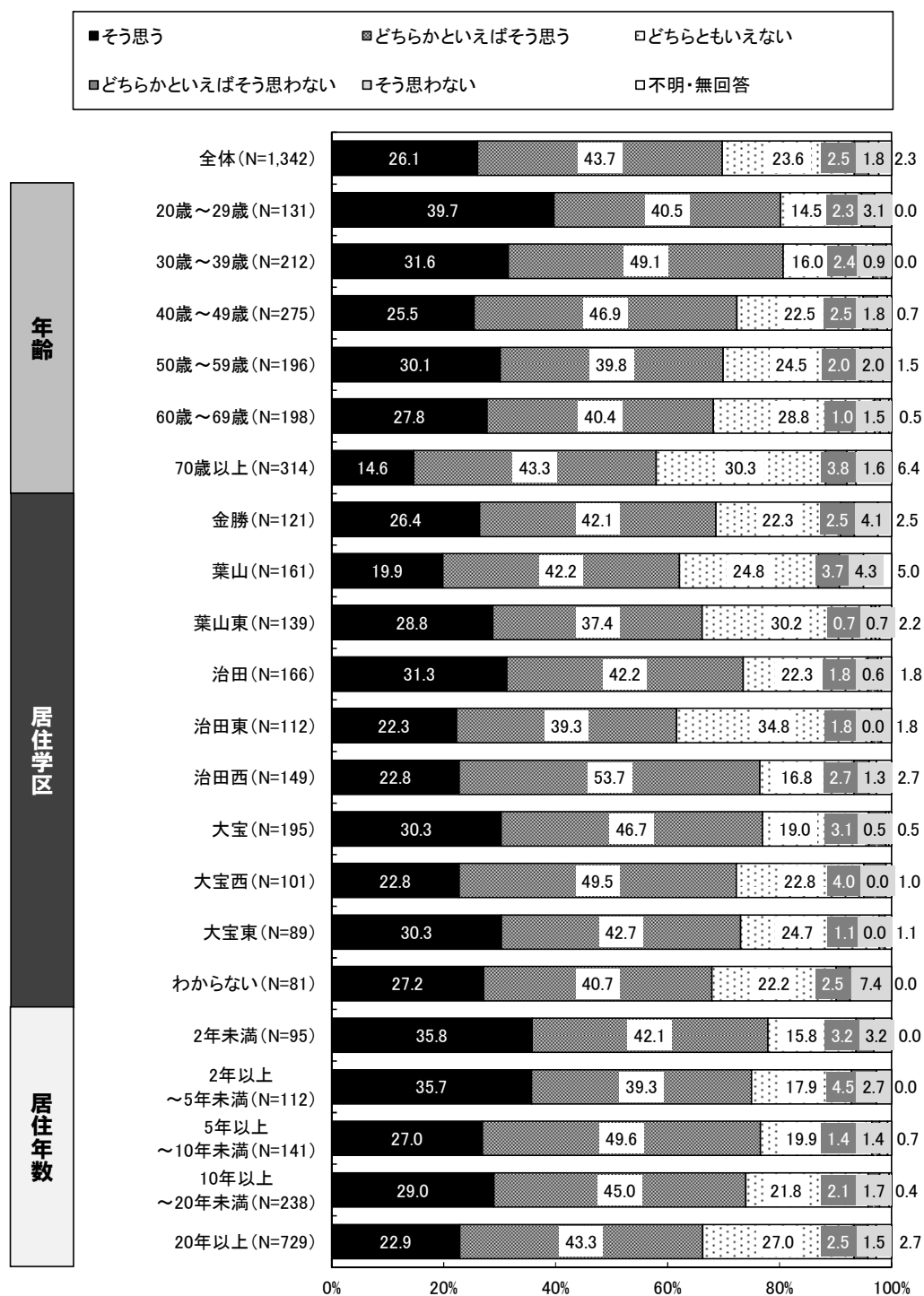


問 2-42. 外国人の生活習慣や文化への理解や認識を深めていくべきだ

全体では、『そう思う』が 69.8%、『そう思わない』が 4.3%になっています。

年齢別、居住年数別にみると、年代、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が低くなる傾向があります。

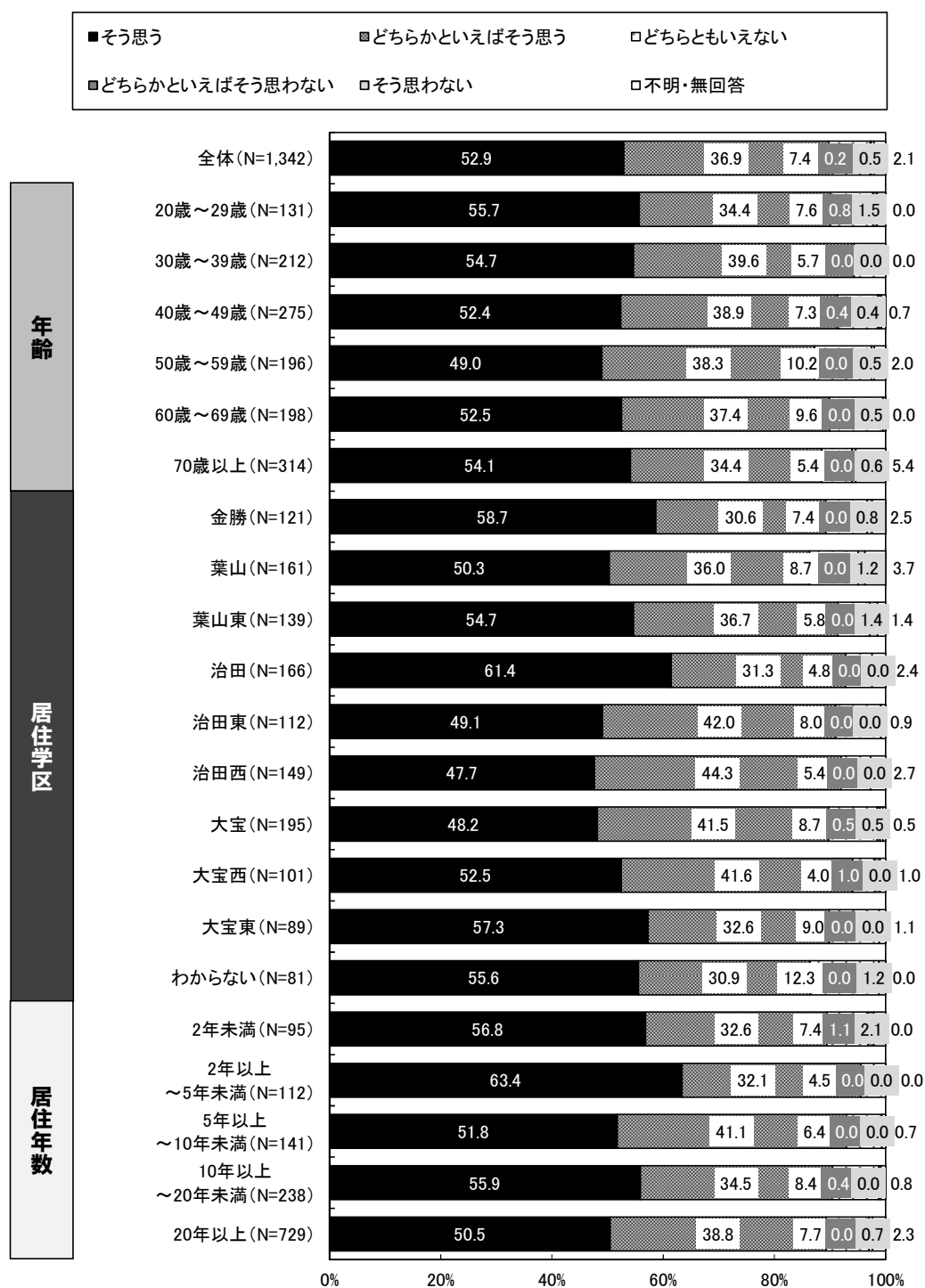
居住学区別にみると、治田東において『そう思う』が6割強と他の地区と比べて低くなっています。



問2-43. 子どもを一人の人間として尊重し、親（保護者）や社会は子どもを守るべきだ

全体では、『そう思う』が89.8%、『そう思わない』が0.7%になっています。

年齢別、居住学区別、居住年数別の全てにおいて、『そう思う』が8割半ば以上の高い割合になっています。



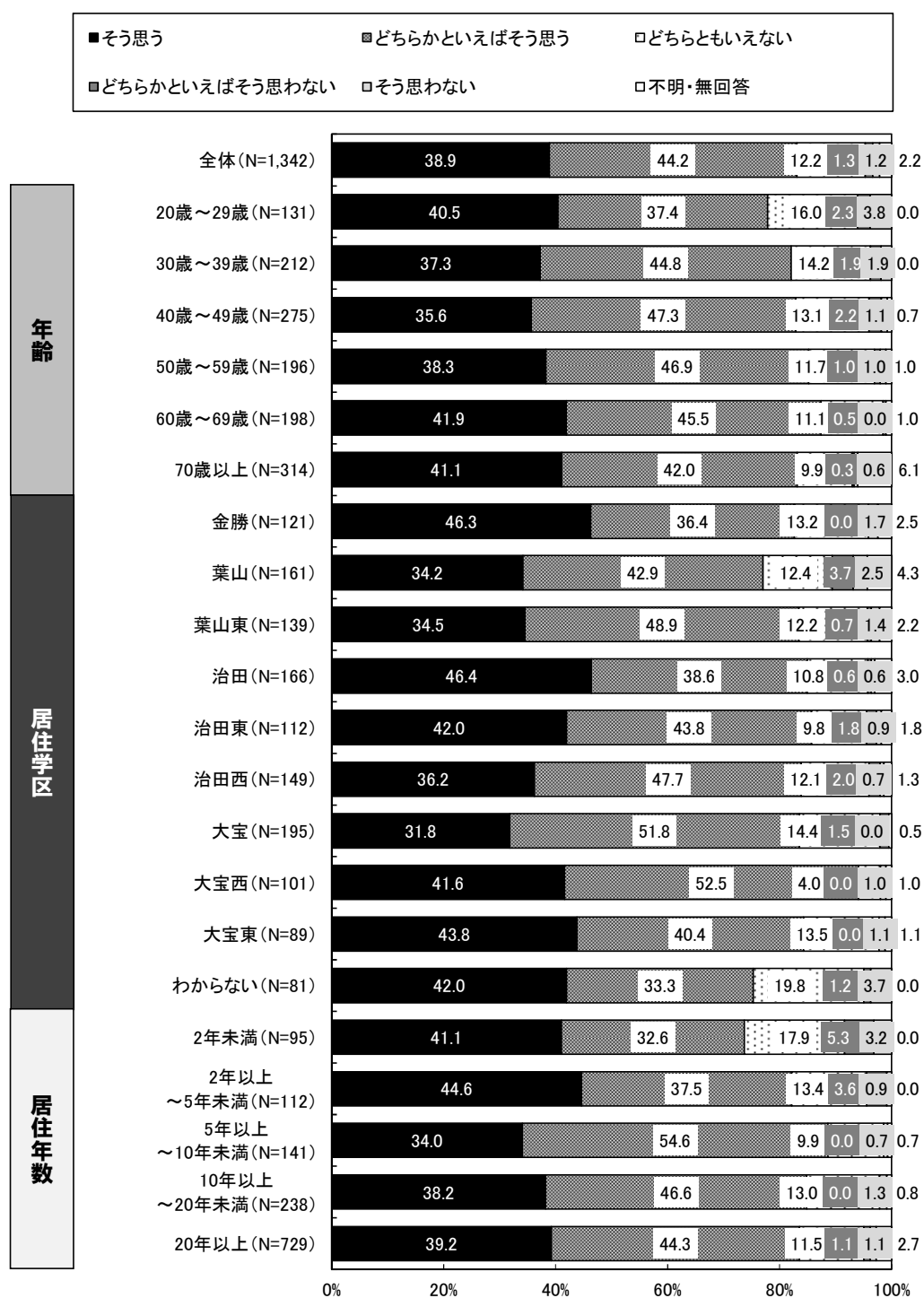
問2-44. 高齢者が暮らしやすくするために、社会の仕組みづくりを進めていく必要がある

全体では、『そう思う』が83.1%、『そう思わない』が2.5%になっています。

年齢別にみると、20歳～29歳において『そう思う』8割弱と他の年代と比べて低くなっています。

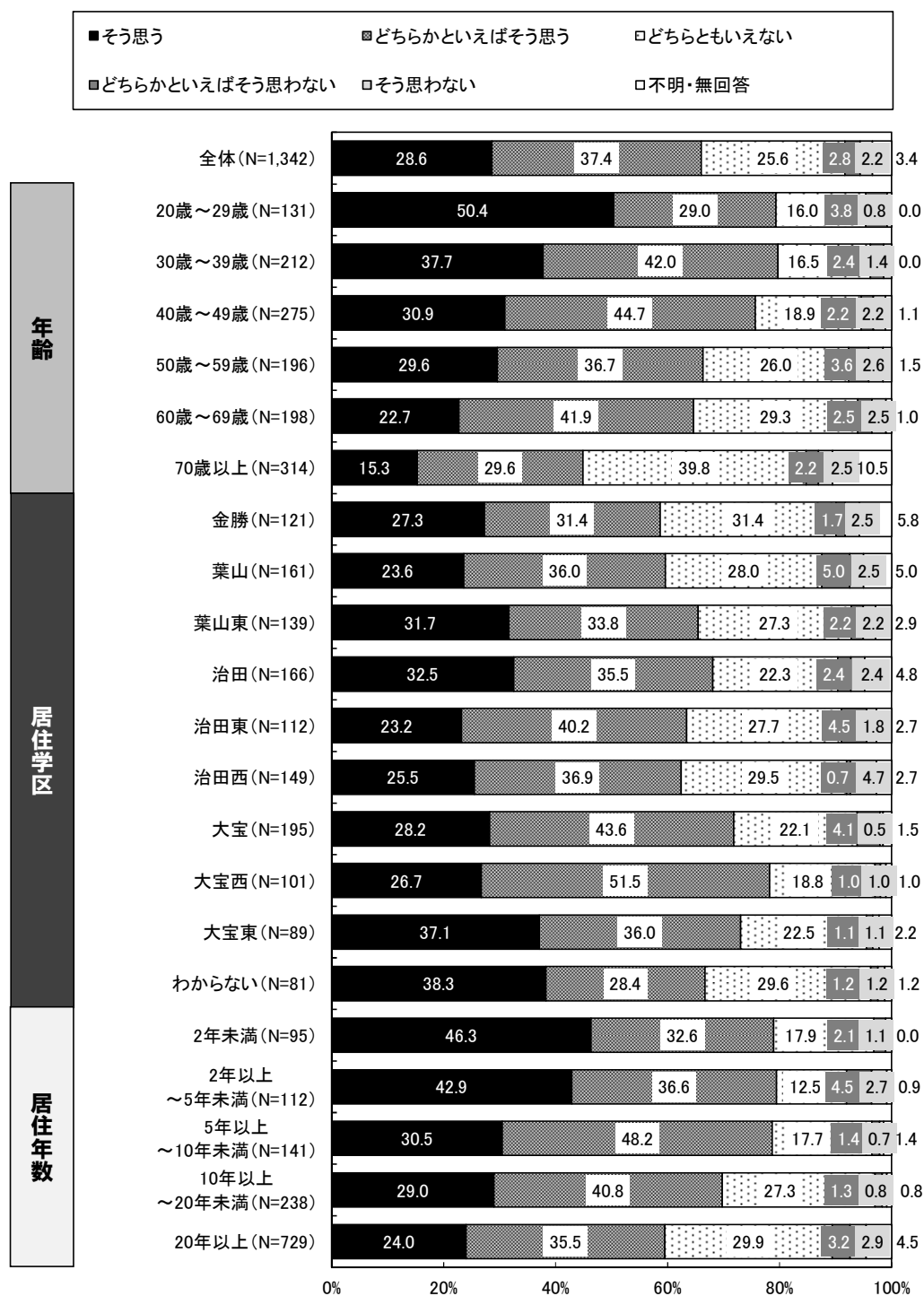
居住学区別にみると、大宝西において『そう思う』が9割半ばと他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年未満において『そう思う』が7割半ばと他の年数と比べて低くなっています。



問 2-45. LGBT 等といった性の多様性について理解を深め、社会の仕組みづくりを整備していくべきだ

全体では、『そう思う』が 66.0%、『そう思わない』が 5.0%になっています。
年齢別、居住年数別にみると、年代、年数が上がるにつれて『そう思う』の割合が低くなっています。
居住学区別にみると、大宝西において『そう思う』8割弱と他の地区と比べて高くなっています。



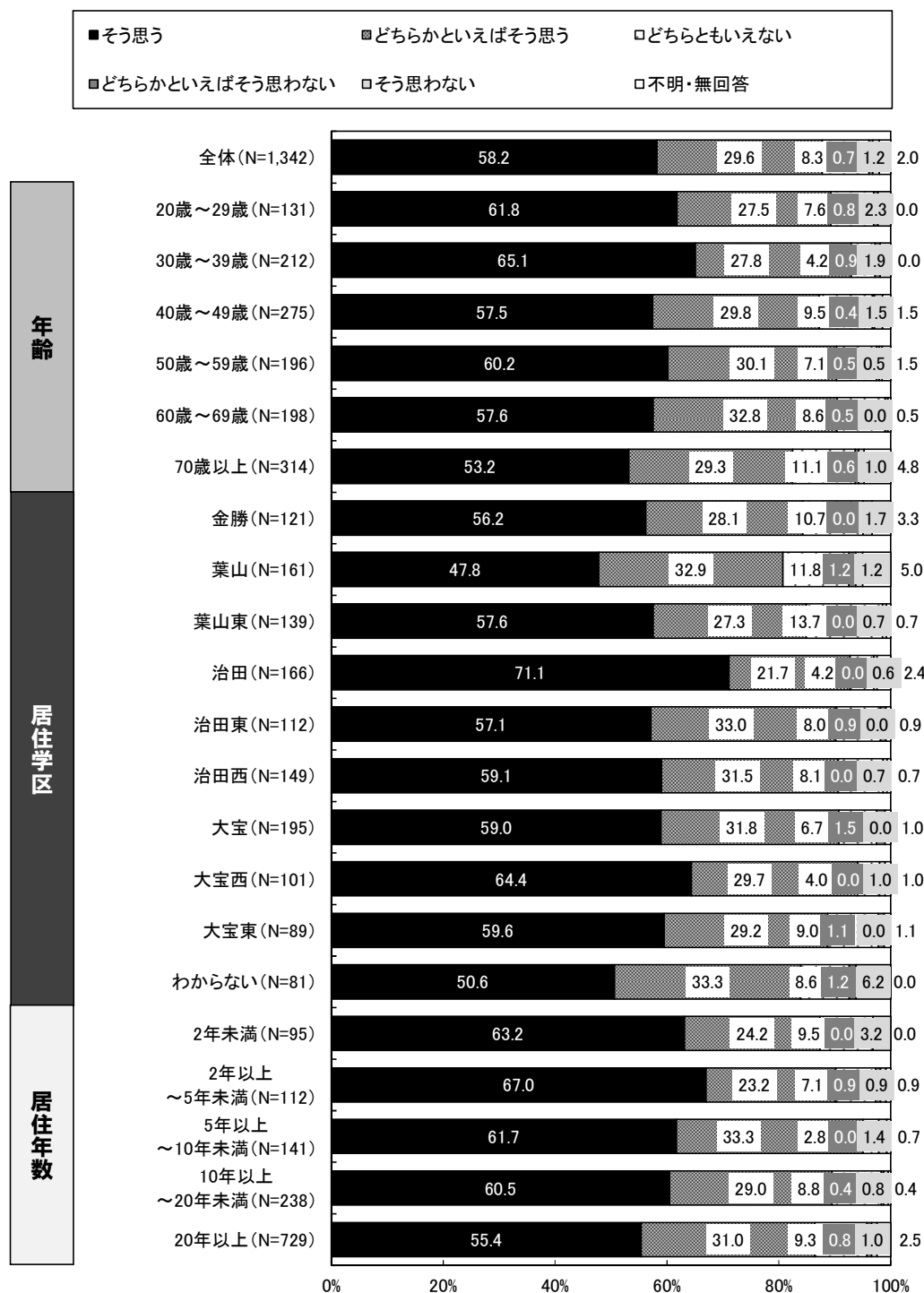
問2-46. インターネットや SNS による情報は、差別や偏見を広げることがあるので、注意する必要がある

全体では、『そう思う』が 87.8%、『そう思わない』が 1.9%になっています。

年齢別にみると、30 歳～39 歳において『そう思う』が9割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、治田において『そう思う』が7割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、5年以上～10 年未満において『そう思う』が9割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



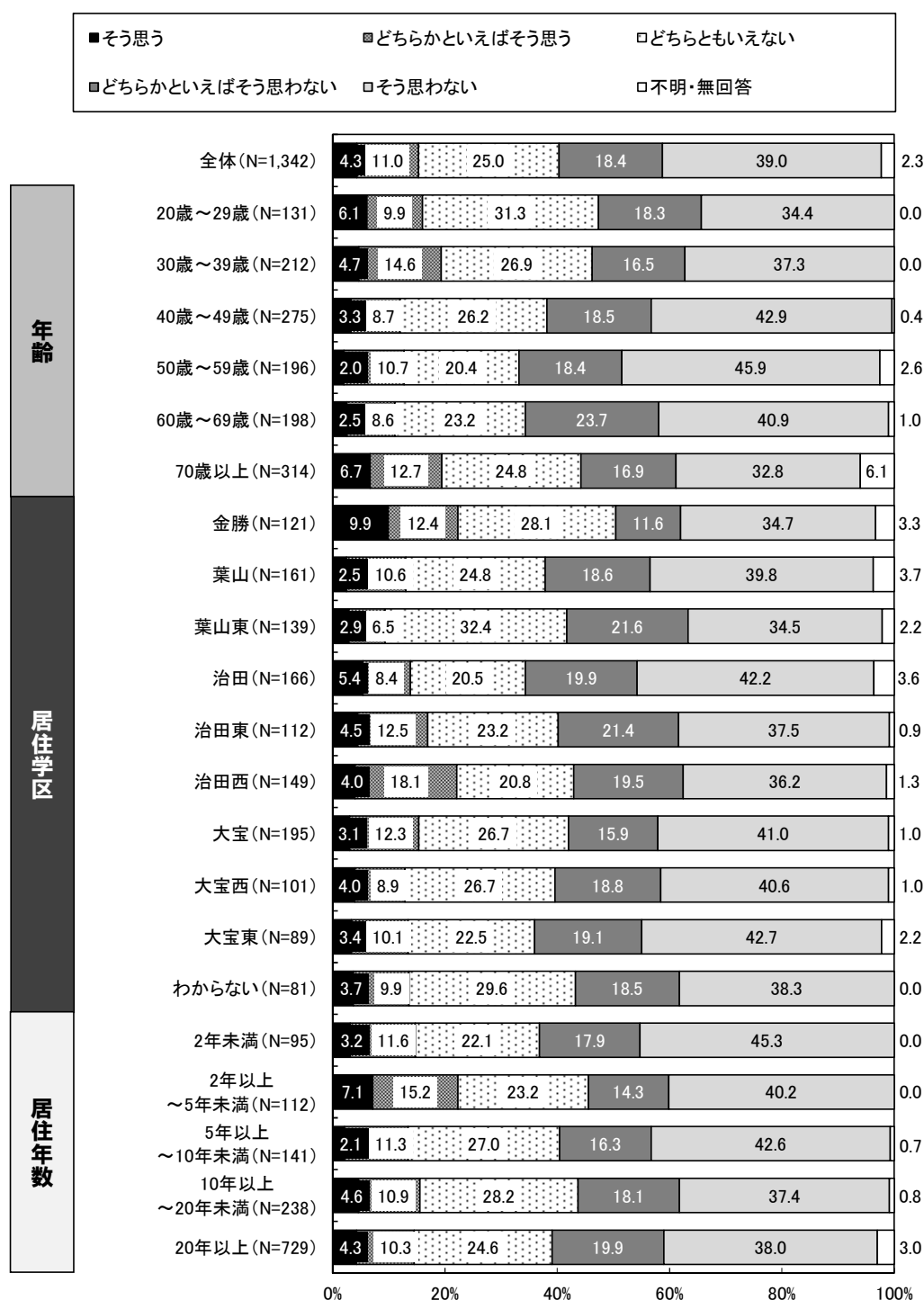
問 2-47. 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、医療従事者や罹患者を避けるのはしかたがない

全体では、『そう思う』が 15.3%、『そう思わない』が 57.4%になっています。

年齢別にみると、20 歳～69 歳において、年代が上がるにつれて『そう思わない』の割合が高くなっています。

居住学区別にみると、治田、大宝東において『そう思わない』6割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～5年未満において『そう思う』が2割強と他の年数と比べて高くなっています。



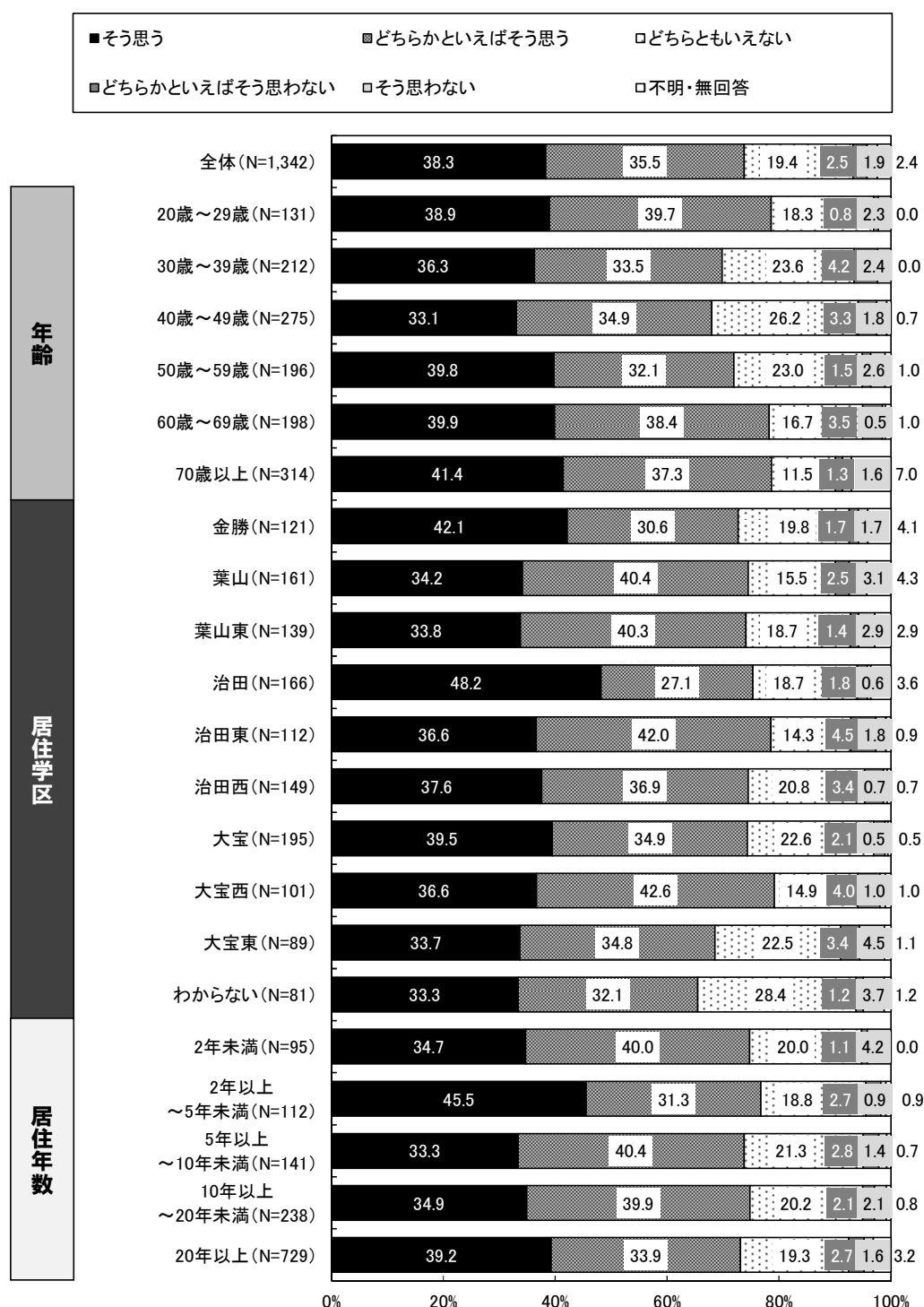
問 2-48. 災害時や緊急事態宣言時には、一層人権を大切にすることが重要である

全体では、『そう思う』が 73.8%、『そう思わない』が 4.4%になっています。

年齢別にみると、30 歳～49 歳において『そう思う』が7割弱と他の年代と比べて低くなっています。

居住学区別にみると、治田において「そう思う」が5割弱と他の地区と比べて高くなっています。

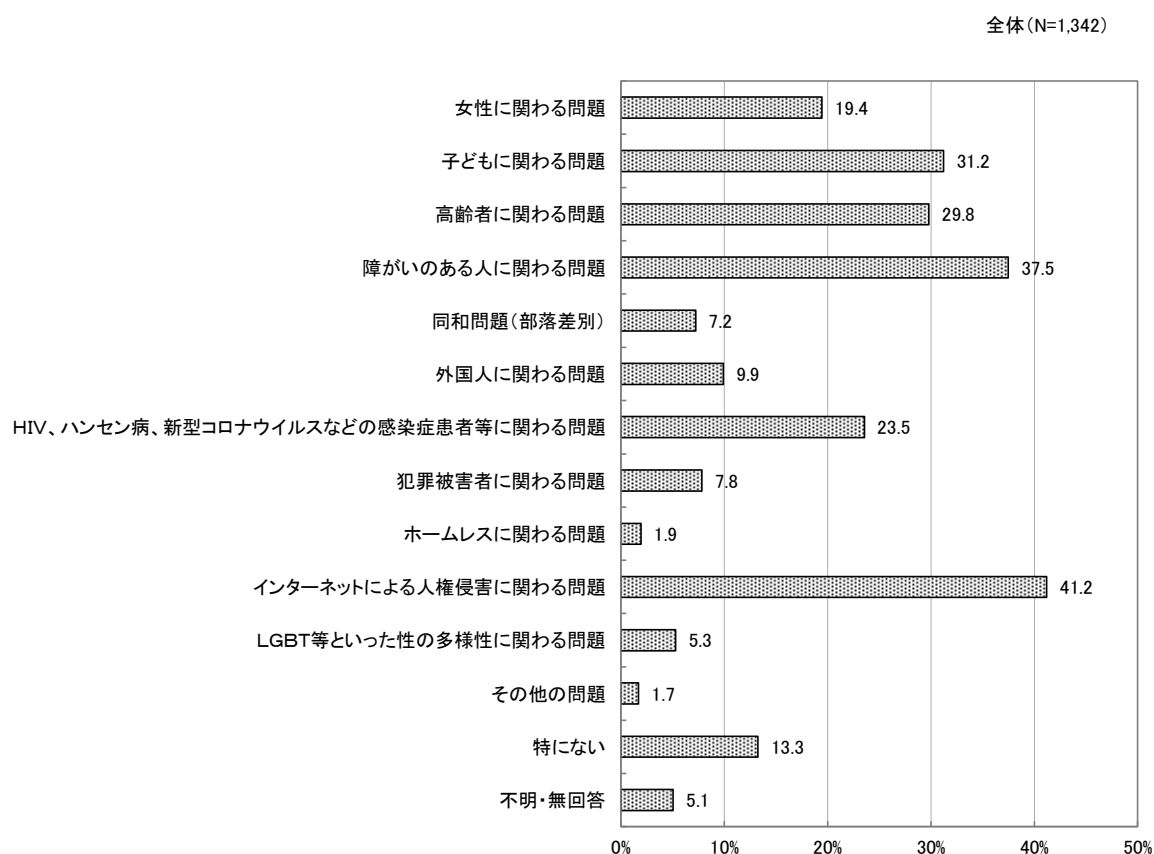
居住年数別にみると、全ての年数において『そう思う』の割合が7割半ばに分布しています。



問2-49. あなたの身の回りにある解決すべき人権問題はどれですか。
以下の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

【全体】

身の回りにある解決すべき人権問題についてみると、「インターネットによる人権侵害に関わる問題」が41.2%と最も高く、次いで「障がいのある人に関わる問題」が37.5%、「子どもに関わる問題」が31.2%、「高齢者に関わる問題」が29.8%となっています。



■基本属性別

年齢別にみると、20 歳～39 歳において「女性に関わる問題」が3割弱と、また 60 歳以上において「高齢者に関わる問題」が4割半ば～5割強と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、全ての地区において全体とほぼ同様な傾向がうかがえます。

居住年数別にみると、2年未満において「女性に関わる問題」が4割弱と、また 20 年以上において「高齢者に関わる問題」が4割弱と他の年数と比べて高くなっています。

単位: %

	女性に関 わる問題	子どもに関 わる問題	高齢者に関 わる問題	障がいのある人 に関わる問題	同和問題 (部落差 別)	外国人に 関わる問題	HIV、ハン セン病、新 型コロナウ イルスなど の感染症 患者等に 関わる問題	犯罪被害 者に関わ る問題	ホームレス に関わる 問題	インター ネットによ る人権侵 害に関わ る問題	LGBT等と いった性の 多様性に 関わる問題	その他の 問題	特にな い	不明・無回 答
全体(N=1,342)	19.4	31.2	29.8	37.5	7.2	9.9	23.5	7.8	1.9	41.2	5.3	1.7	13.3	5.1
年齢														
20歳～29歳(N=131)	29.0	19.8	11.5	35.9	3.8	19.1	25.2	10.7	3.8	38.9	17.6	1.5	12.2	4.6
30歳～39歳(N=212)	29.2	42.5	10.4	34.4	5.2	8.5	24.5	4.7	1.4	50.9	7.5	2.4	13.7	1.9
40歳～49歳(N=275)	17.5	38.5	17.1	38.9	7.6	10.5	22.2	9.5	1.5	50.9	5.1	1.5	13.1	2.2
50歳～59歳(N=196)	19.9	30.1	32.1	39.3	7.1	12.2	28.6	9.2	2.0	42.3	5.1	3.1	11.2	3.6
60歳～69歳(N=198)	15.7	26.3	42.9	34.8	10.1	9.1	21.2	8.1	1.0	39.9	2.5	1.0	16.2	6.1
70歳以上(N=314)	13.4	26.4	52.2	40.4	7.6	5.7	22.6	6.4	2.5	28.0	1.0	1.0	13.1	8.6
居住学区														
金勝(N=121)	14.9	28.1	38.8	40.5	5.0	13.2	24.0	6.6	0.0	38.0	1.7	3.3	9.9	7.4
葉山(N=161)	20.5	37.9	28.0	39.8	8.7	8.1	19.3	5.6	2.5	33.5	4.3	0.6	15.5	6.8
葉山東(N=139)	22.3	28.8	35.3	30.9	5.0	6.5	24.5	7.2	1.4	38.8	6.5	3.6	10.8	7.2
治田(N=166)	22.3	27.7	22.9	38.0	7.2	13.9	27.1	7.8	1.8	44.6	5.4	2.4	11.4	5.4
治田東(N=112)	14.3	33.9	33.9	40.2	3.6	12.5	17.9	7.1	2.7	40.2	4.5	1.8	15.2	4.5
治田西(N=149)	18.8	36.9	31.5	39.6	8.1	7.4	23.5	6.7	2.7	42.3	6.0	0.7	10.7	3.4
大宝(N=195)	19.0	31.8	26.2	36.9	8.7	8.7	26.2	7.7	1.0	42.6	5.6	1.5	17.9	2.6
大宝西(N=101)	19.8	33.7	28.7	34.7	12.9	6.9	24.8	8.9	0.0	47.5	4.0	1.0	13.9	3.0
大宝東(N=89)	21.3	25.8	29.2	41.6	7.9	5.6	22.5	14.6	3.4	52.8	6.7	1.1	11.2	3.4
わからない(N=81)	24.7	22.2	25.9	37.0	3.7	18.5	25.9	11.1	6.2	34.6	11.1	0.0	14.8	1.2
居住年数														
2年未満(N=95)	37.9	32.6	13.7	31.6	4.2	9.5	26.3	7.4	3.2	44.2	7.4	0.0	16.8	1.1
2年以上～5年未満(N=112)	21.4	32.1	13.4	35.7	6.3	14.3	17.9	10.7	5.4	50.0	10.7	1.8	11.6	3.6
5年以上～10年未満(N=141)	21.3	41.8	17.7	45.4	5.0	7.8	29.1	9.9	0.7	47.5	6.4	3.5	9.2	3.5
10年以上～20年未満(N=238)	18.5	37.4	24.8	39.1	6.7	11.8	23.5	8.0	2.5	42.4	6.3	0.8	12.2	3.4
20年以上(N=729)	17.1	27.2	38.3	37.0	8.2	9.1	23.2	7.1	1.4	38.1	3.8	1.8	14.4	5.9

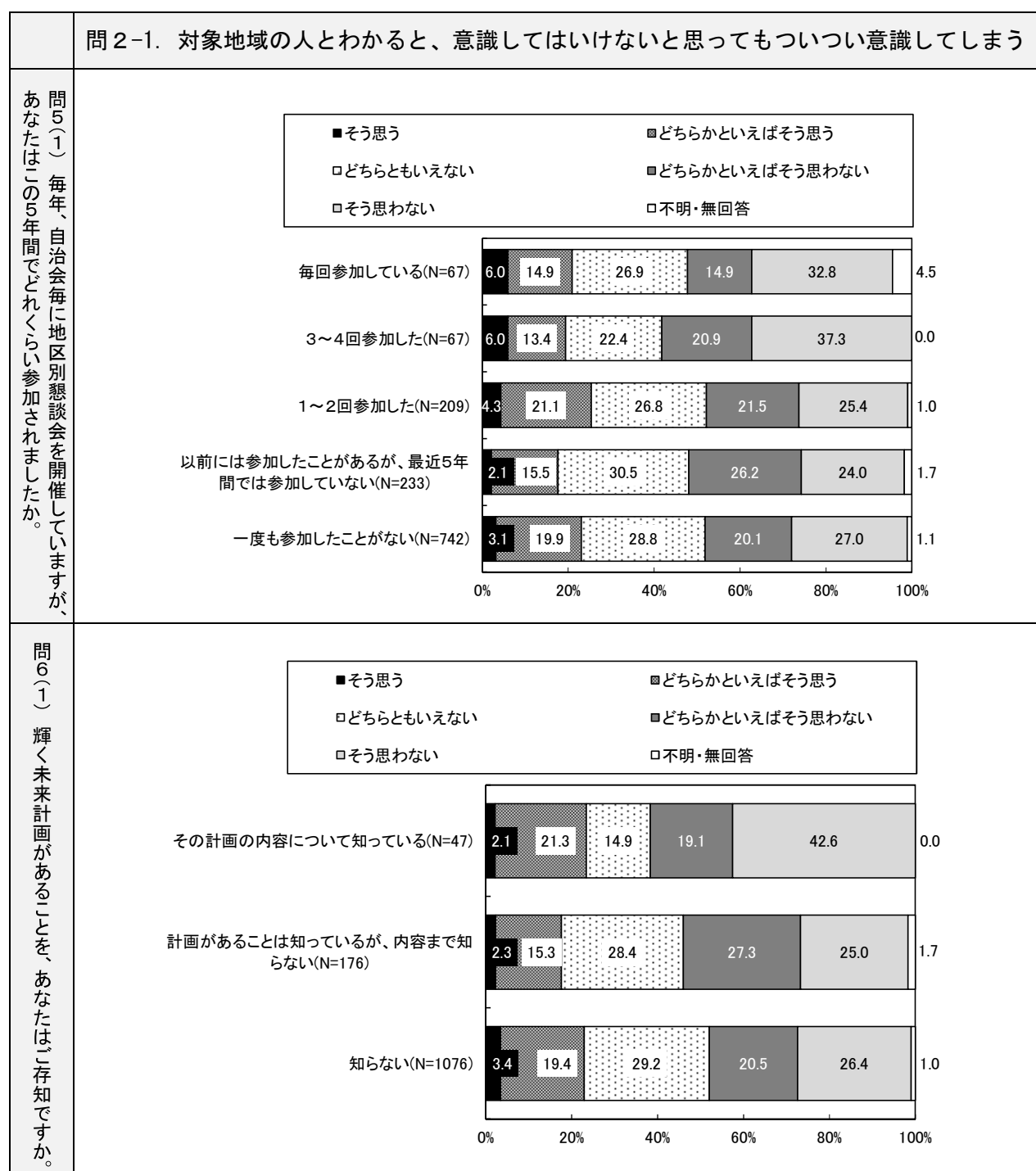
※各項目とも、上位3番目まで網掛けをしています。

■問2-1の回答者の状況 ～啓発機会に触れた経験について①～

＜問2-1 × 問5(1)・問6(1)＞

＜問2-1. 対象地域の人とわかると、意識してはいけな思ってもついつい意識してしまう＞に回答した人の内訳をみると、地区別懇談会の参加経験では、〔3～4回参加した〕人において『そう思わない』が6割弱と、他の参加経験と比べて高くなっています。

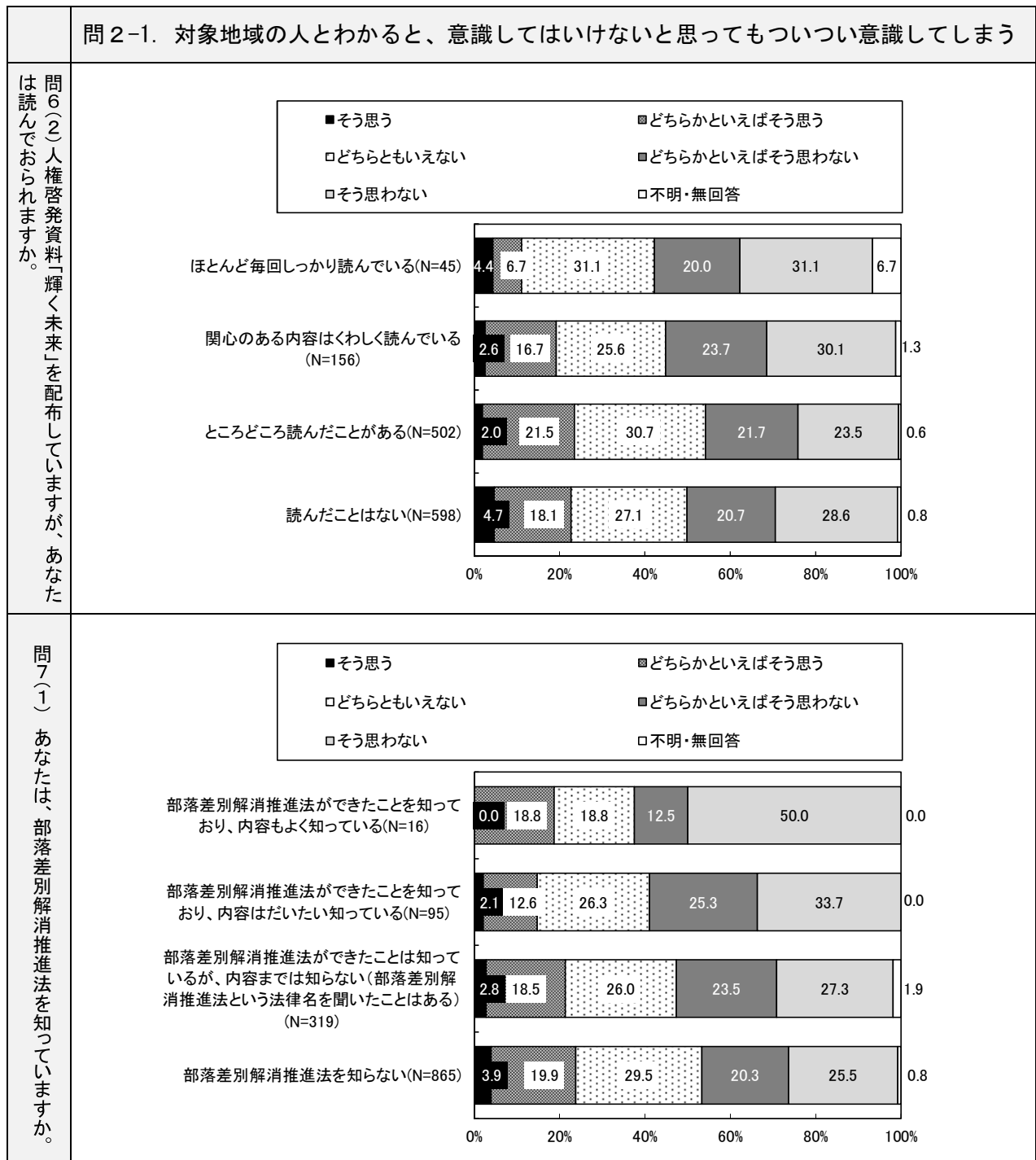
「輝く未来計画」の認知度では、〔その計画の内容について知っている〕〔計画があることは知っているが、内容まで知らない〕人において、『そう思わない』が6割強～7割強と、〔知らない〕人と比べて高くなっています。



<問2-1 × 問6(2)・問7(1)>

人権啓発資料「輝く未来」の閲読状況では、[関心のある内容はくわしく読んでいる]人において『そう思わない』が5割半ばと、他の閲読状況と比べて高くなっています。

「部落差別解消推進法」の認知度では、[部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容もよく知っている]人において『そう思わない』が6割強と、他の認知度と比べて高くなっています。

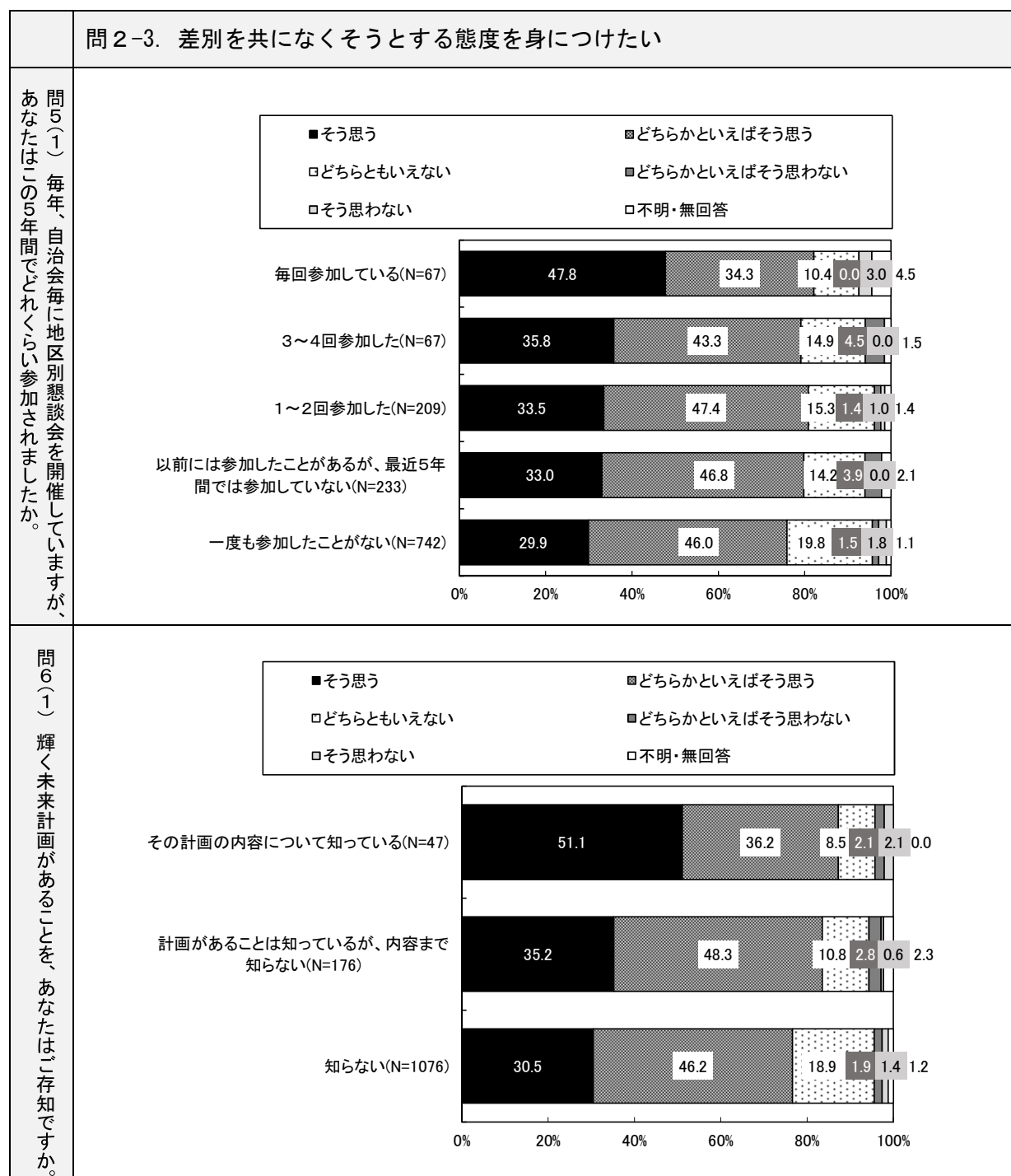


■問2-3の回答者の状況 ～啓発機会に触れた経験について②～

<問2-3 × 問5(1)・問6(1)>

<問2-3. 差別を共になくそうとする態度を身につけたい>に回答した人の内訳をみると、地区別懇談会の参加経験では、[毎回参加している]人において『そう思う』が8割強と、他の参加経験と比べて高くなっています。

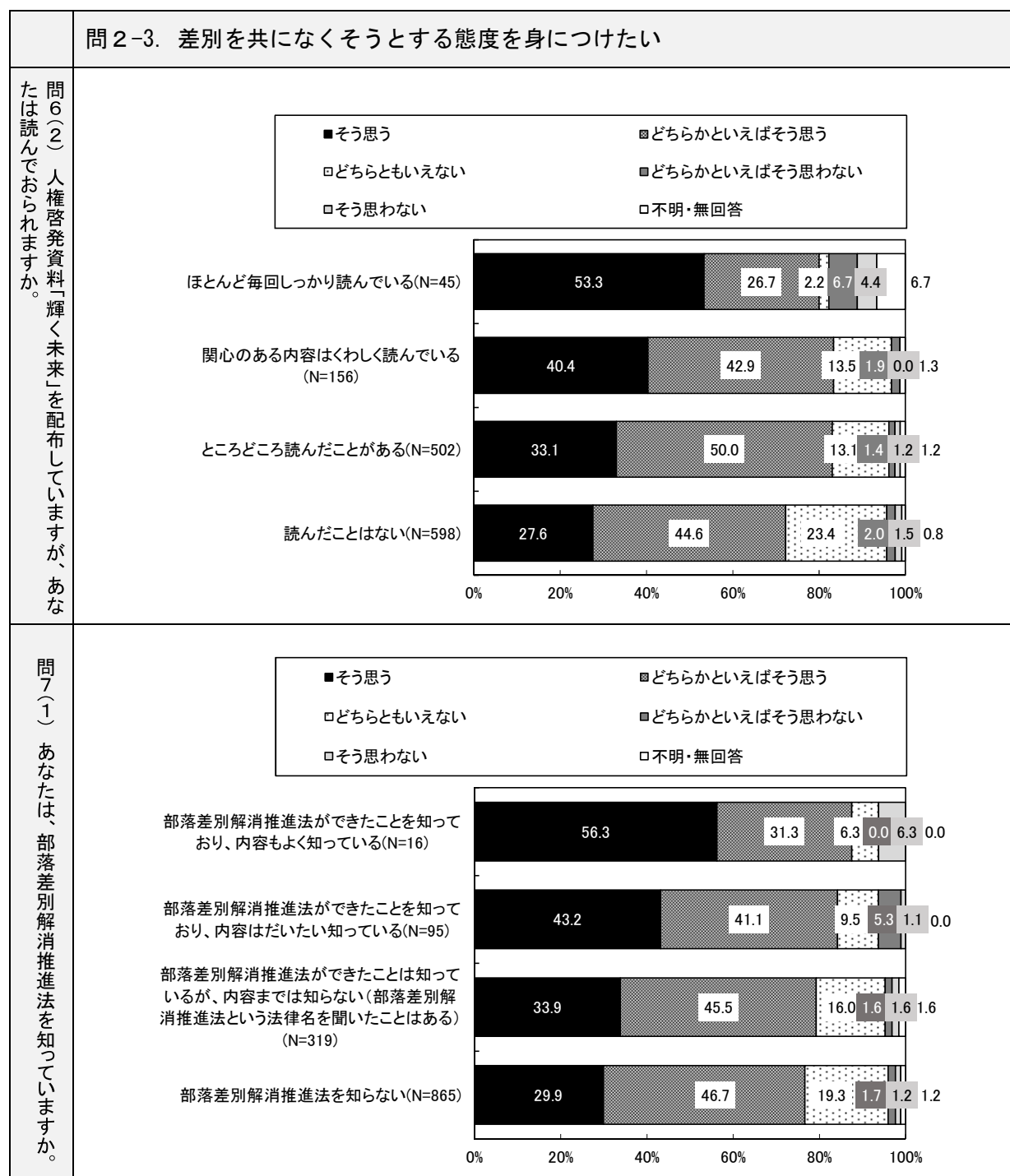
「輝く未来計画」の認知度では、[その計画の内容について知っている]人において、『そう思う』が8割半ばになっています。



<問2-3 × 問6(2)・問7(1)>

人権啓発資料「輝く未来」の閲読状況では、[関心のある内容はくわしく読んでいる]人において『そう思う』が8割半ばと、他の閲読状況と比べて高くなっています。

「部落差別解消推進法」の認知度では、[部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容もよく知っている]人において『そう思う』が8割半ばと、他の認知度と比べて高くなっています。



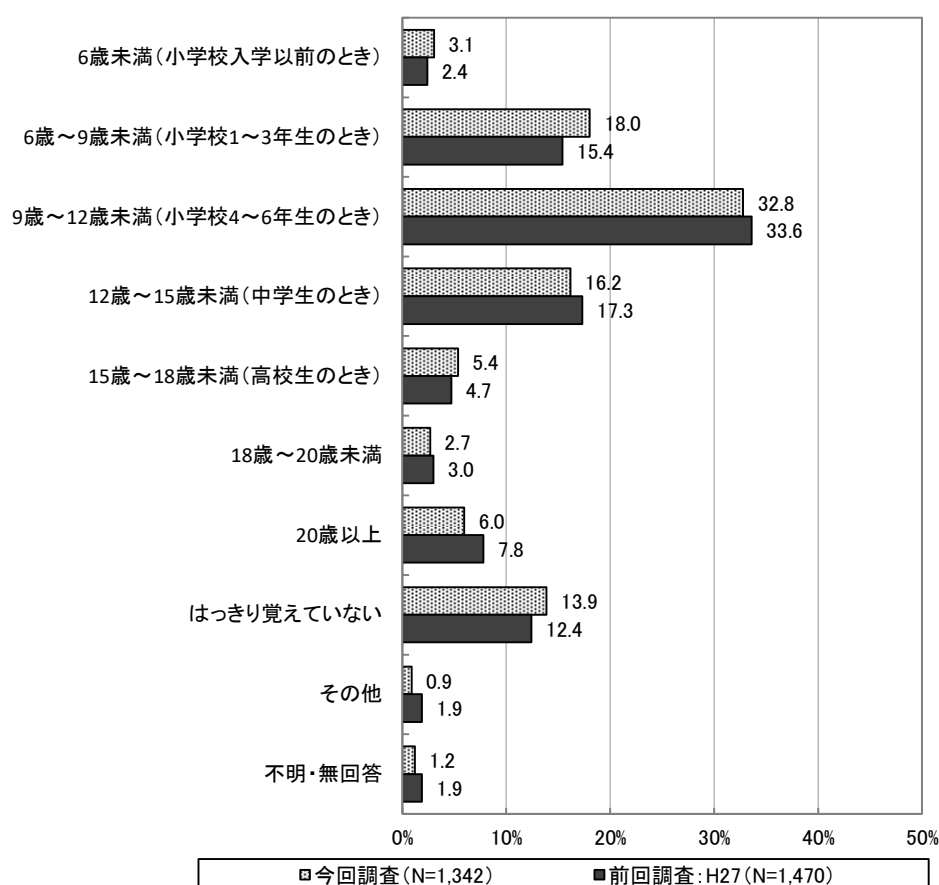
3. 同和問題について

問3. (1) あなたが、同和問題（部落差別）について、はじめて知ったのは、いつ頃ですか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と経年比較

同和問題（部落差別）についてはじめて知ったのはいつ頃かについてみると、「9歳～12歳未満（小学校4～6年生のとき）」が32.8%と最も高く、次いで「6歳～9歳未満（小学校1～3年生のとき）」が18.0%、「12歳～15歳未満（中学生のとき）」が16.2%となっています。

前回調査との比較では、ほぼ同様な傾向となっています。

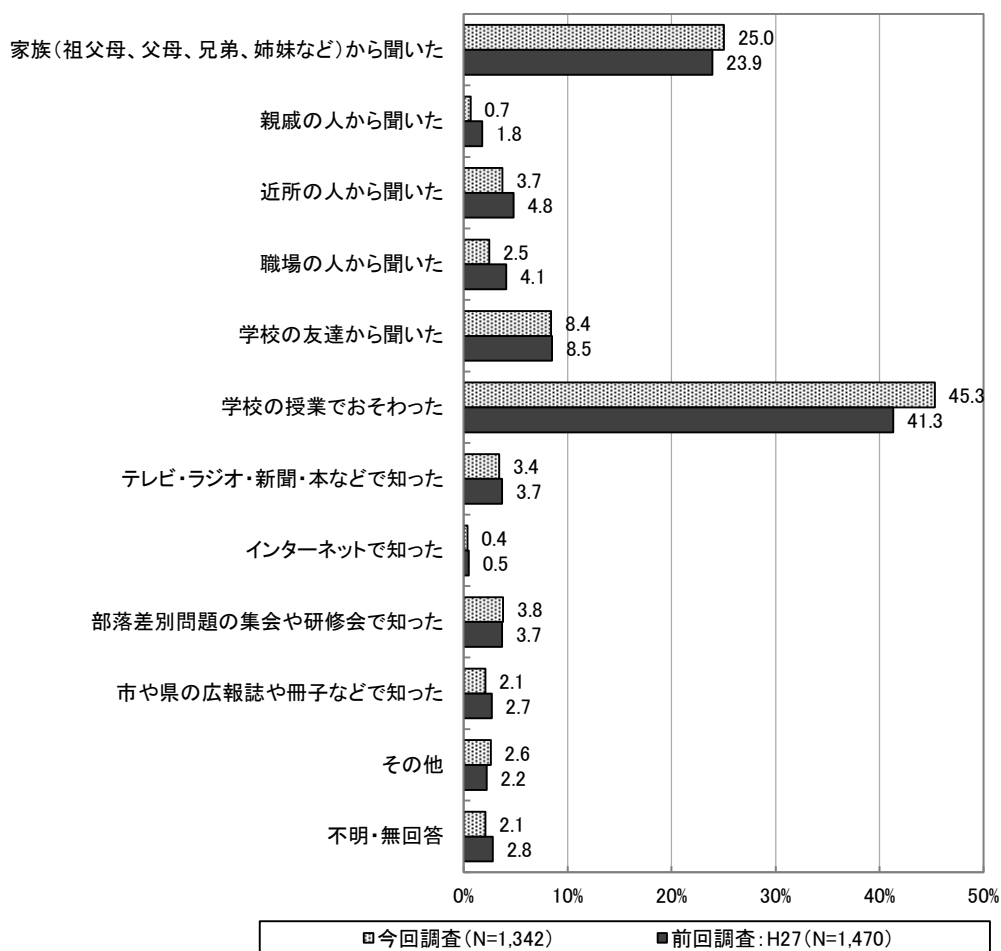


(2) あなたが、同和問題（部落差別）について、はじめて知ったきっかけは、何からですか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と経年比較

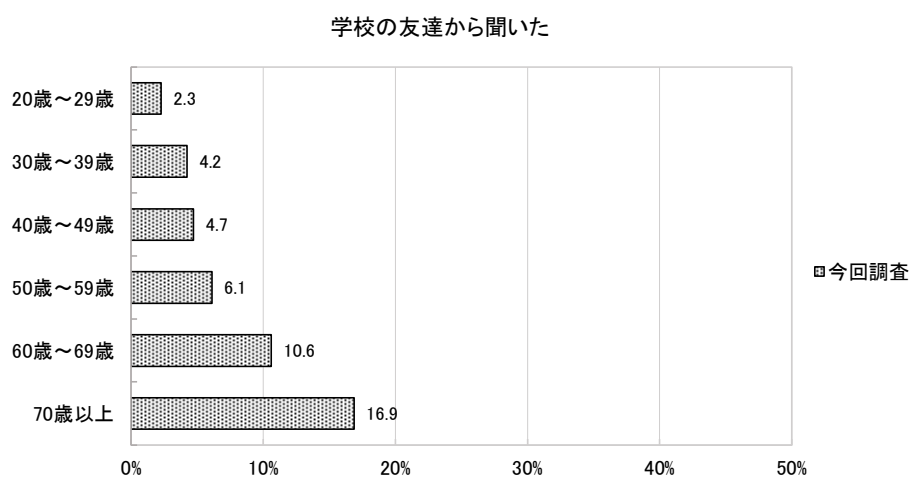
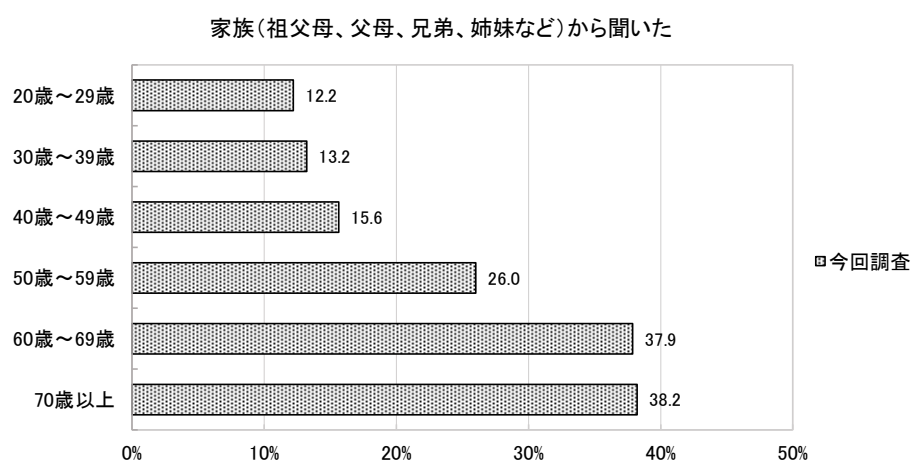
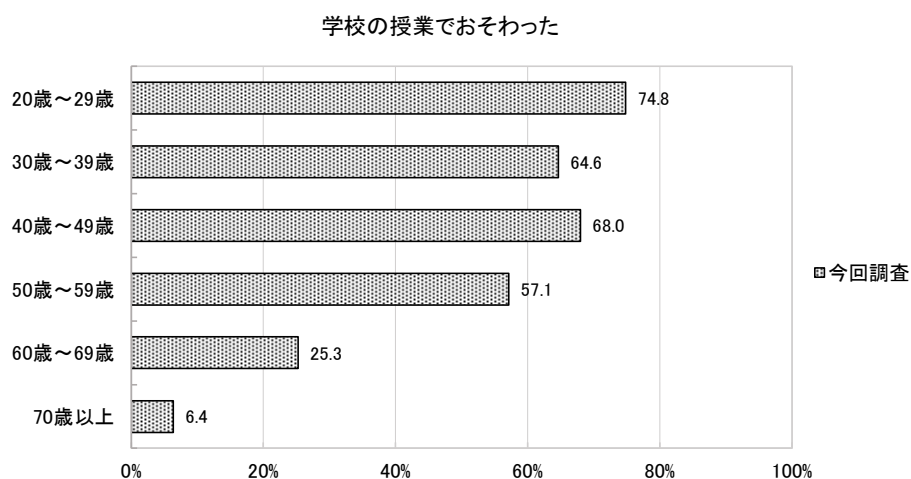
同和問題（部落差別）についてはじめて知ったきっかけについてみると、「学校の授業でおそわった」が45.3%と最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟、姉妹など）から聞いた」が25.0%、「学校の友達から聞いた」が8.4%となっています。

前回調査と比較すると、全てにおいてほぼ同様な割合であるが、「学校の授業でおそわった」では4.0ポイント高くなっています。



■年齢比較

今回調査の上位3番目までを年齢別にみると、「学校の授業でおそわった」では20歳～29歳が7割半ば、「家族(祖父母、父母、兄弟、姉妹など)から聞いた」では60歳以上が3割半ば、「学校の友達から聞いた」では70歳以上が1割半ばと、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。



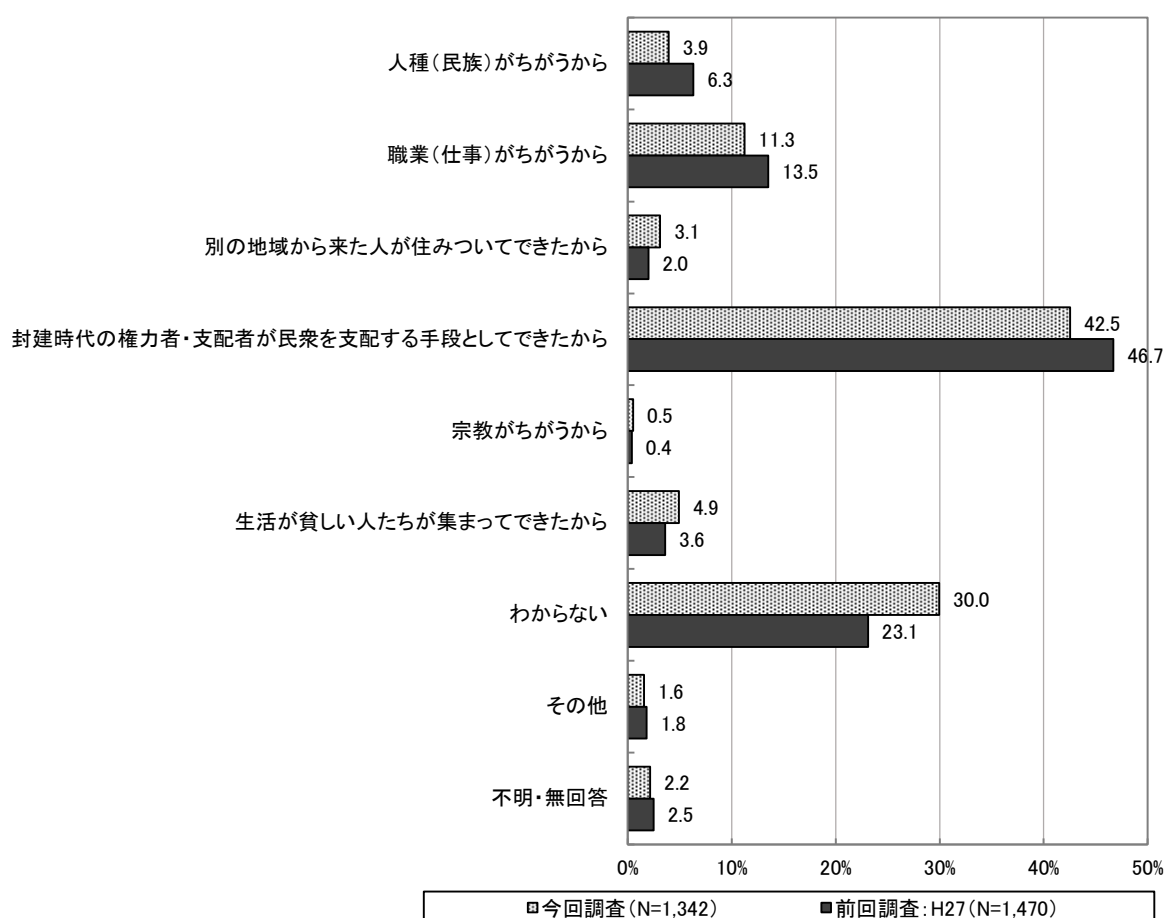
(3) あなたは対象地域がどういう理由でできたと考えておられますか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と経年比較

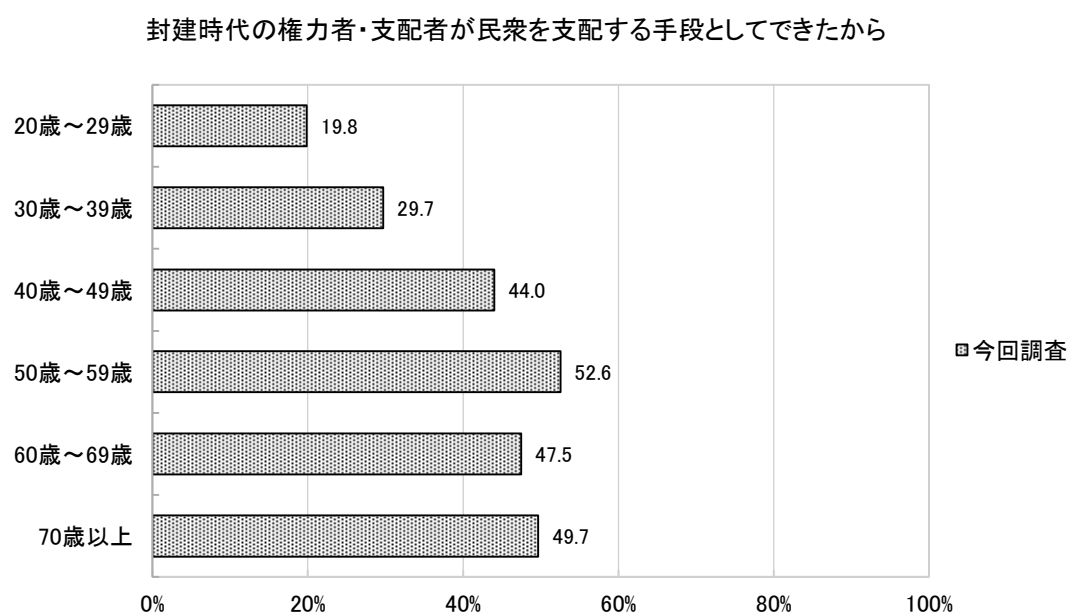
対象地域がどういう理由でできたかについてみると、「封建時代の権力者・支配者が民衆を支配する手段としてできたから」が42.5%と最も高く、次いで「わからない」が30.0%、「職業(仕事)がちがうから」が11.3%となっています。

前回調査と比較すると、「封建時代の権力者・支配者が民衆を支配する手段としてできたから」では4.2ポイント低くなっています。



■ 年齢比較

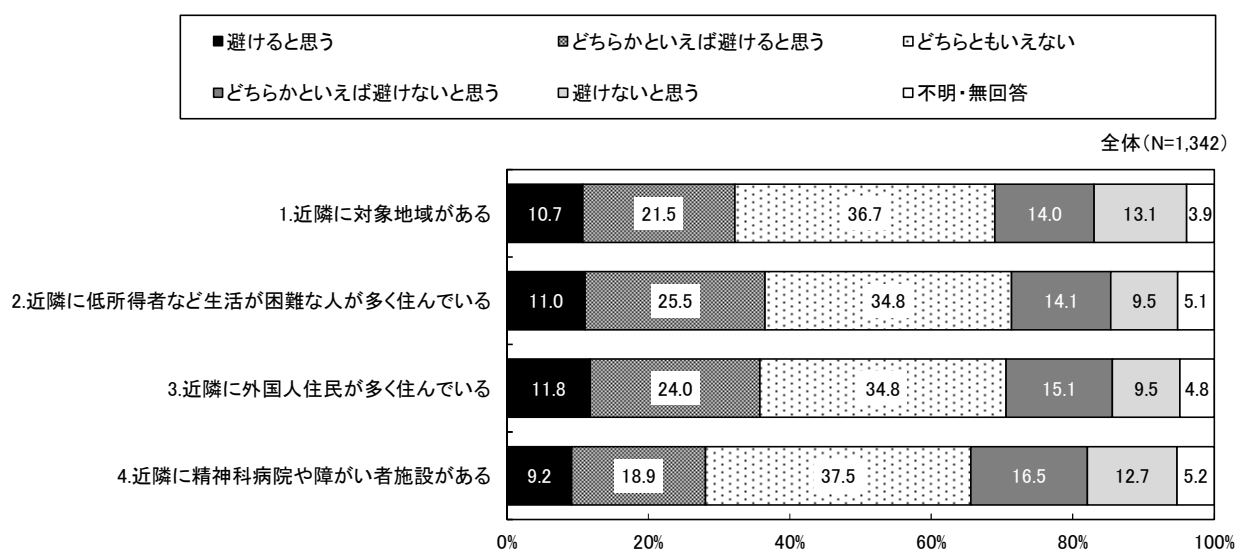
今回調査の最も高かった「封建時代の権力者・支配者が民衆を支配する手段としてできたから」を年齢別にみると、50 歳～59 歳が5割半ばと他の年代と比べて高くなっています。また、20 歳～39 歳では3割未満と低くなっています。



(4) あなたが住宅を選ぶ際の条件について、あなたはどのように思われますか。
それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体

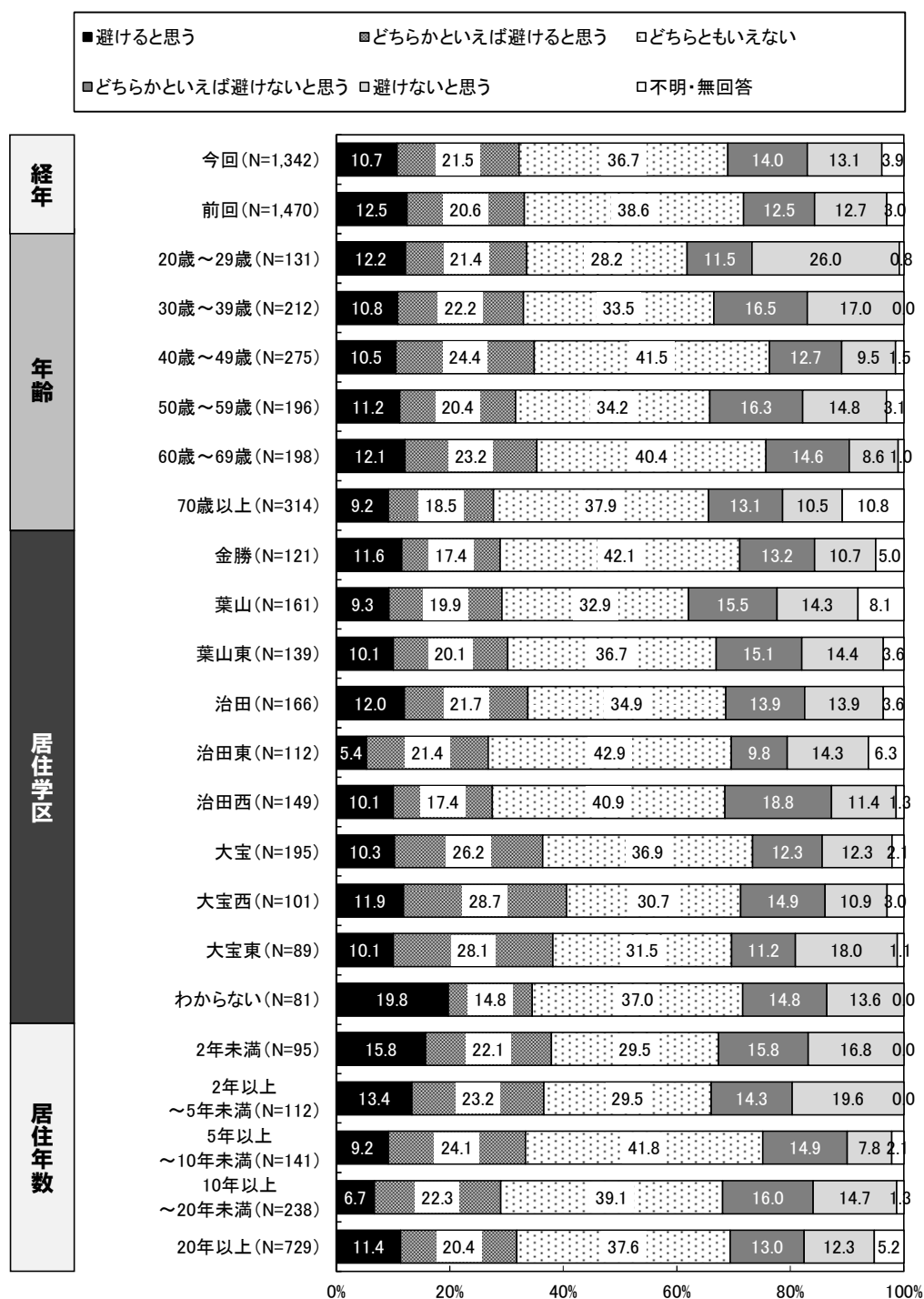
住宅を選ぶ際の条件についてみると、「近隣に低所得者など生活が困難な人が多く住んでいる」「近隣に外国人住民が多く住んでいる」において『避けると思う』が3割半ばと、他の項目と比べて高くなっています。



■基本属性別

問3(4)-1. 近隣に対象地域がある

前回調査と比較すると、『避けると思う』が0.9ポイント低く、『避けないと思う』が1.9ポイント高くなっています。
 年齢別にみると、20歳～29歳において『避けないと思う』が3割半ばと他の年代と比べて高くなっています。
 居住学区別にみると、大宝西において『避けると思う』が4割強と他の地区と比べて高くなっています。
 居住年数別にみると、5年未満において『避けると思う』と『避けないと思う』が3割半ば～4割弱と、他の年数と比べて高くなっています。



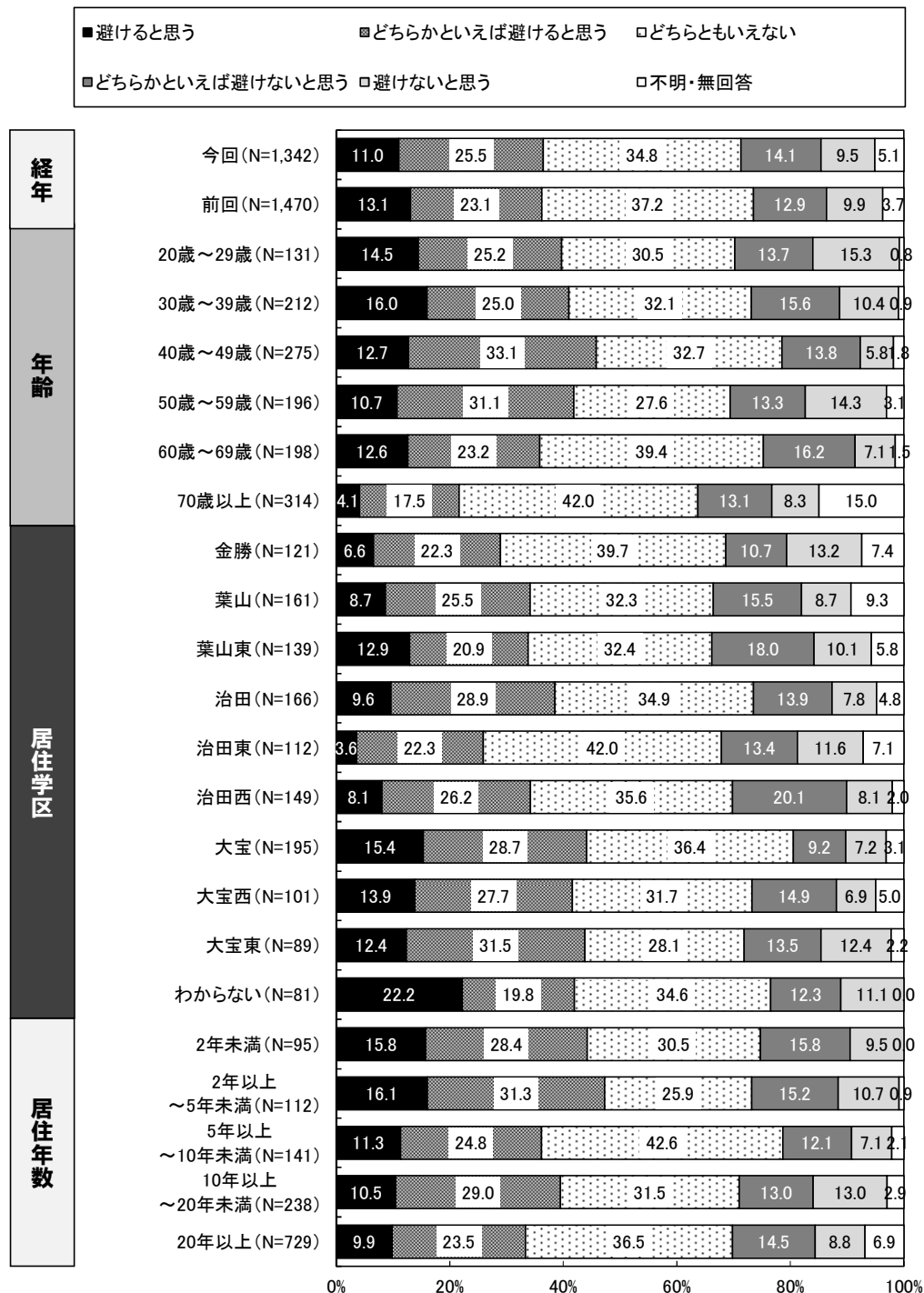
問3(4)-2. 近隣に低所得者など生活が困難な人が多く住んでいる

前回調査と比較すると、『避けないと思う』が0.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、40歳～49歳において『避けると思う』が4割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、治田東において『避けると思う』が2割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

居住年数別にみると、5年未満において『避けると思う』が4割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



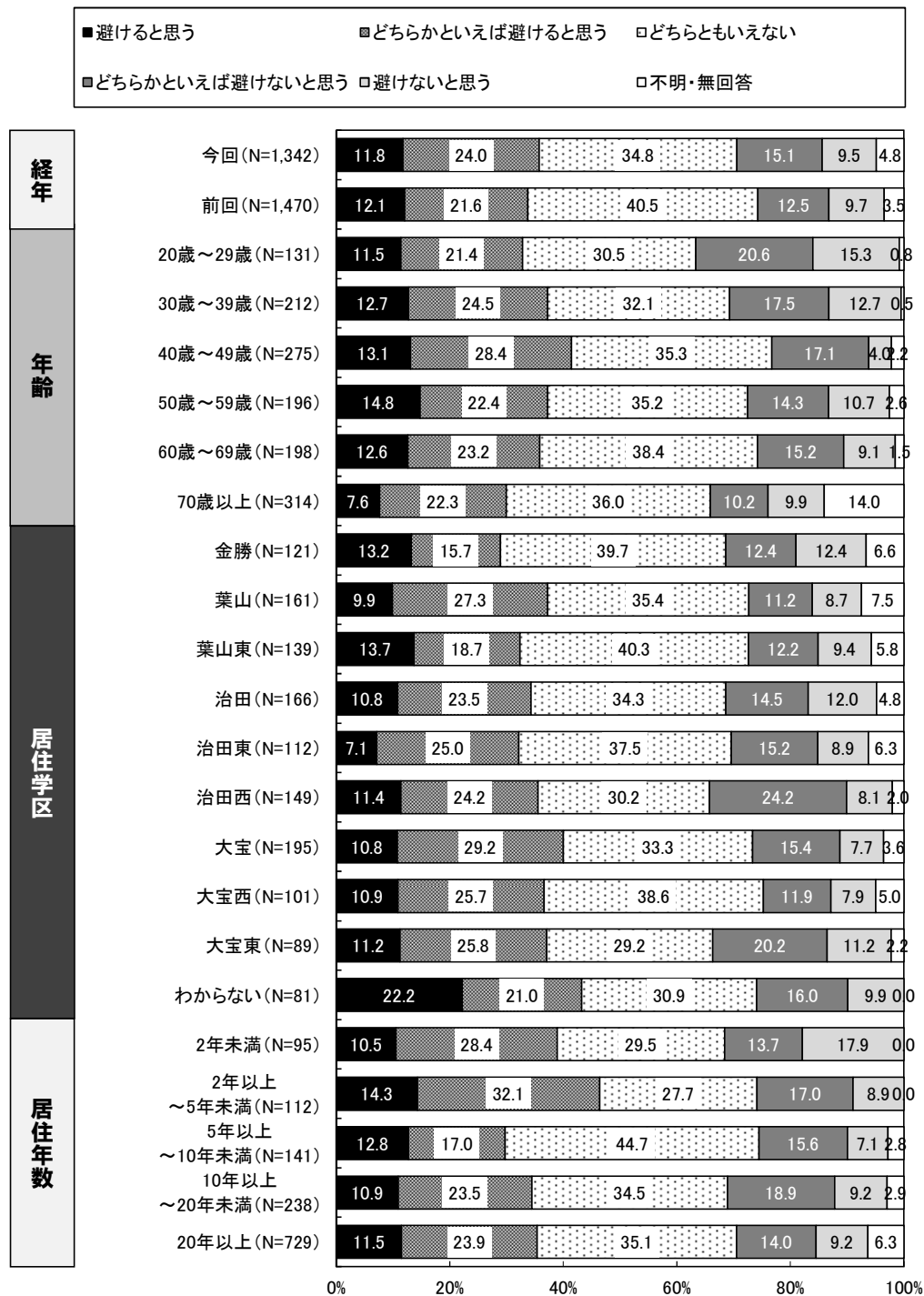
問3(4)-3. 近隣に外国人住民が多く住んでいる

前回調査と比較すると、『避けると思う』が 2.1 ポイント、『避けないと思う』が 2.4 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、40 歳～49 歳において『避けると思う』が4割強と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、大宝において『避けると思う』が4割と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～5年未満において『避けると思う』が4割半ばと他の年数と比べて高くなっています。



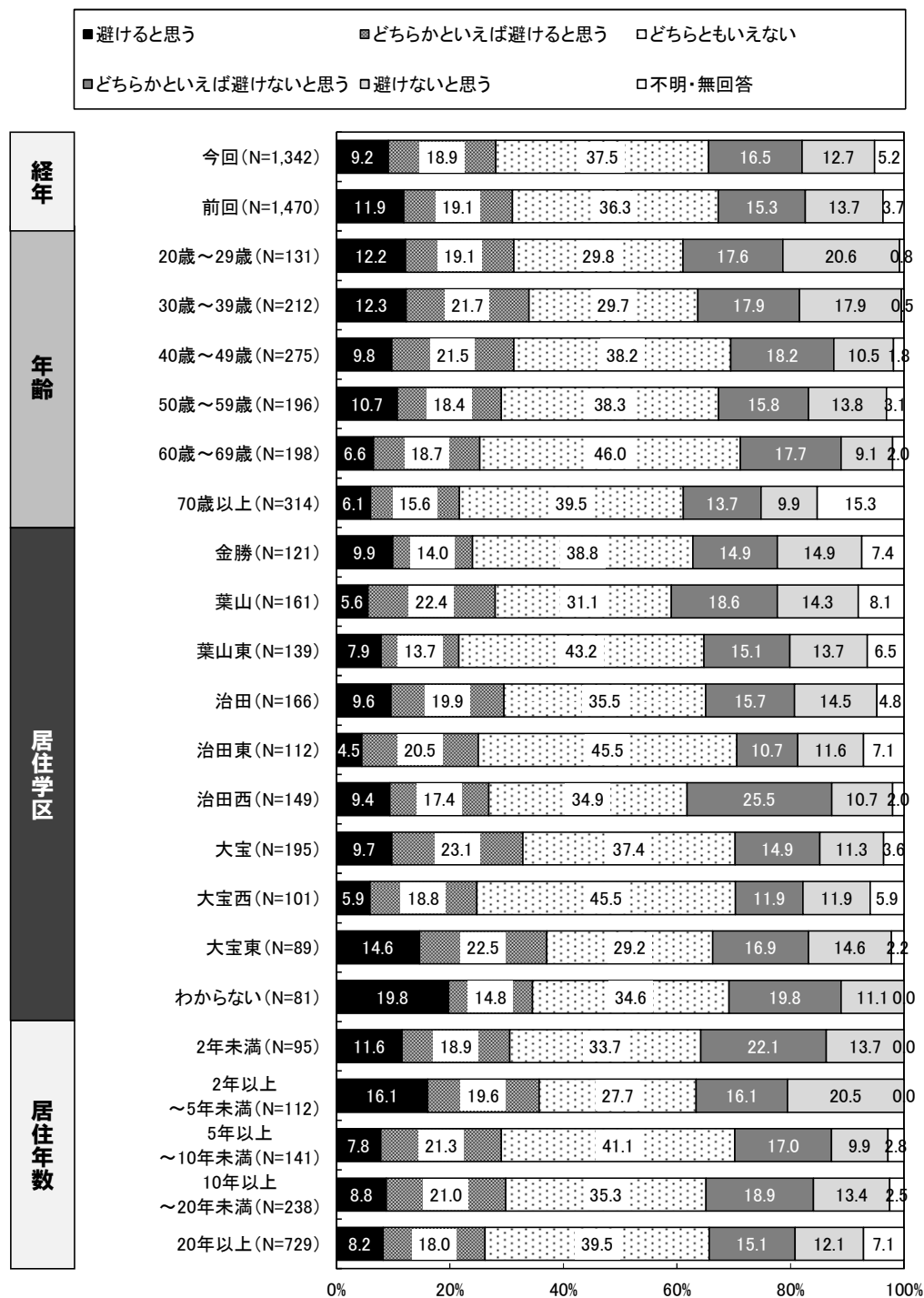
問3(4)-4. 近隣に精神科病院や障がい者施設がある

前回調査と比較すると、『避けると思う』が2.9ポイント低くなっています。

年齢別にみると、年代が高くなるにつれて『避けると思う』の割合が低くなる傾向があります。

居住学区別にみると、大宝、大宝東において『避けると思う』が3割半ばと他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～5年未満において『避けると思う』と『避けないと思う』が3割半ばと他の年数と比べて高くなっています。

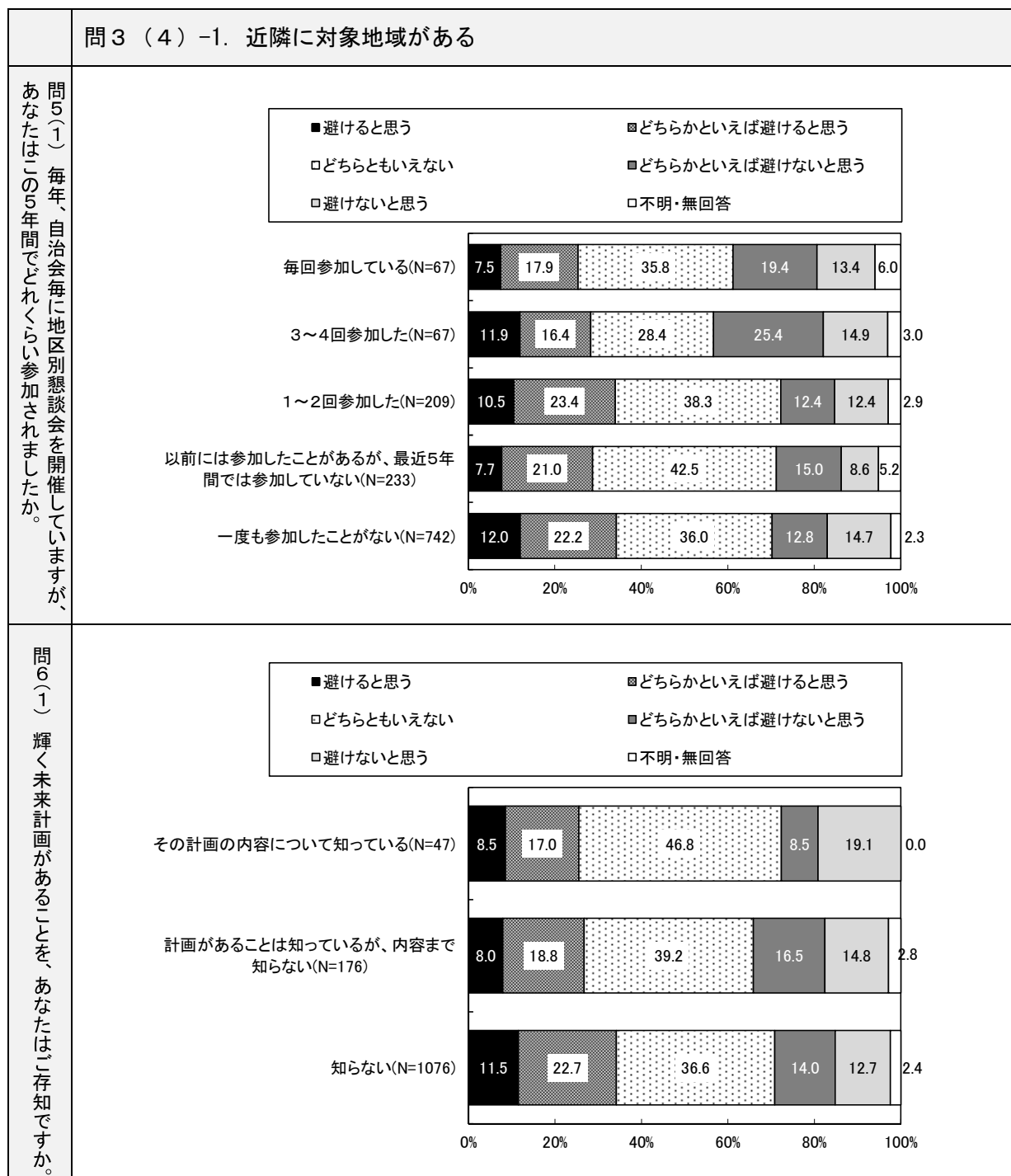


■問3(4)-1の回答者の状況 ～啓発機会に触れた経験について③～

＜問3(4)-1 × 問5(1)・問6(1)＞

＜問3(4)-1. 近隣に対象地域がある＞に回答した人の内訳をみると、地区別懇談会の参加経験では、[3～4回参加した]人において『避けないと思う』が4割強と、他の参加経験と比べて高くなっています。

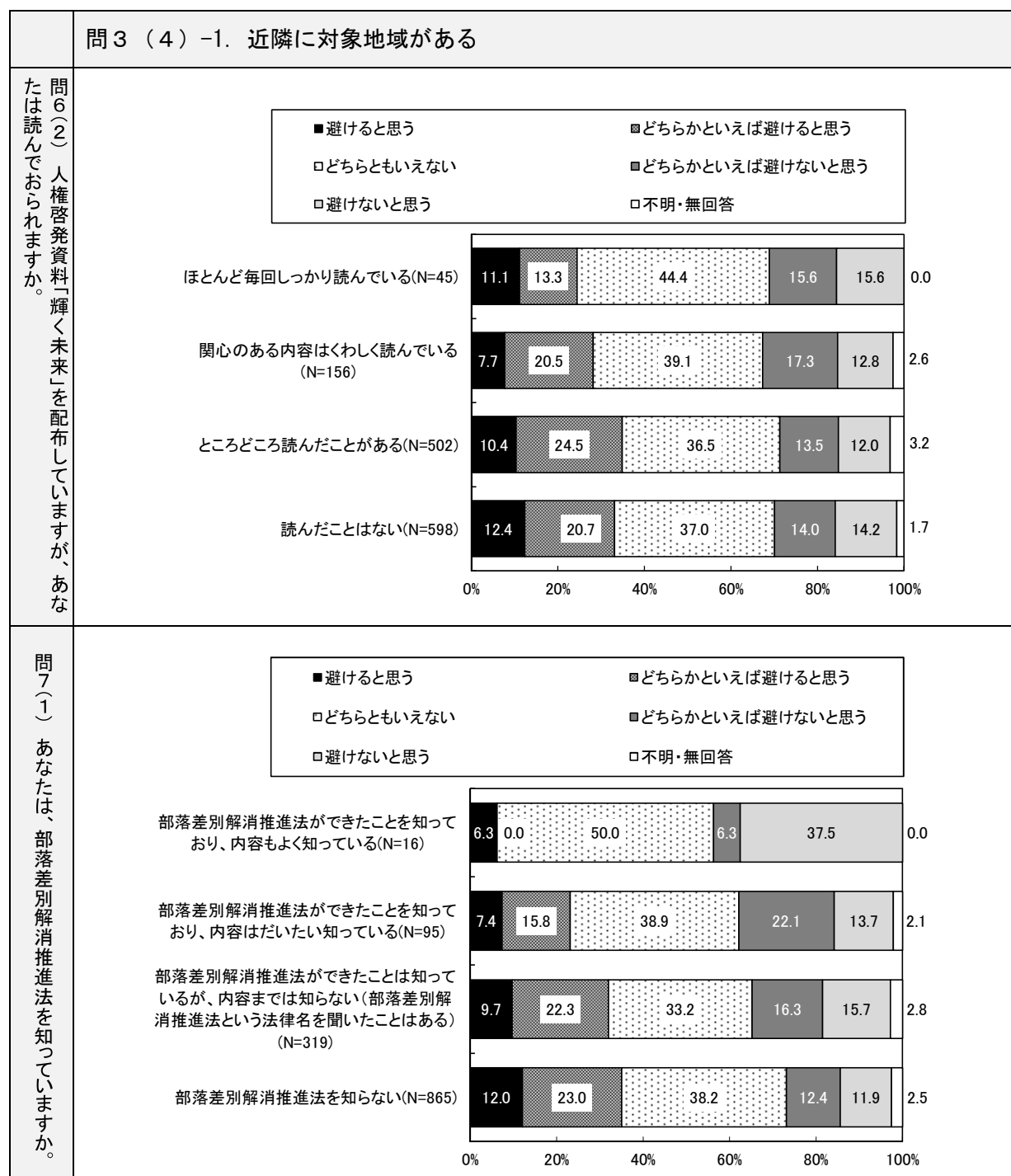
「輝く未来計画」の認知度では、認知度が低いほど『避けると思う』の割合が高くなっています。



<問3(4)-1 × 問6(2)・問7(1)>

人権啓発資料「輝く未来」の閲読状況では、[ところどころ読んだことがある]人において『避けると思う』が3割半ばと、他の閲読状況と比べて高くなっています。

「部落差別解消推進法」の認知度では、認知度が低いほど『避けると思う』の割合が高くなっています。

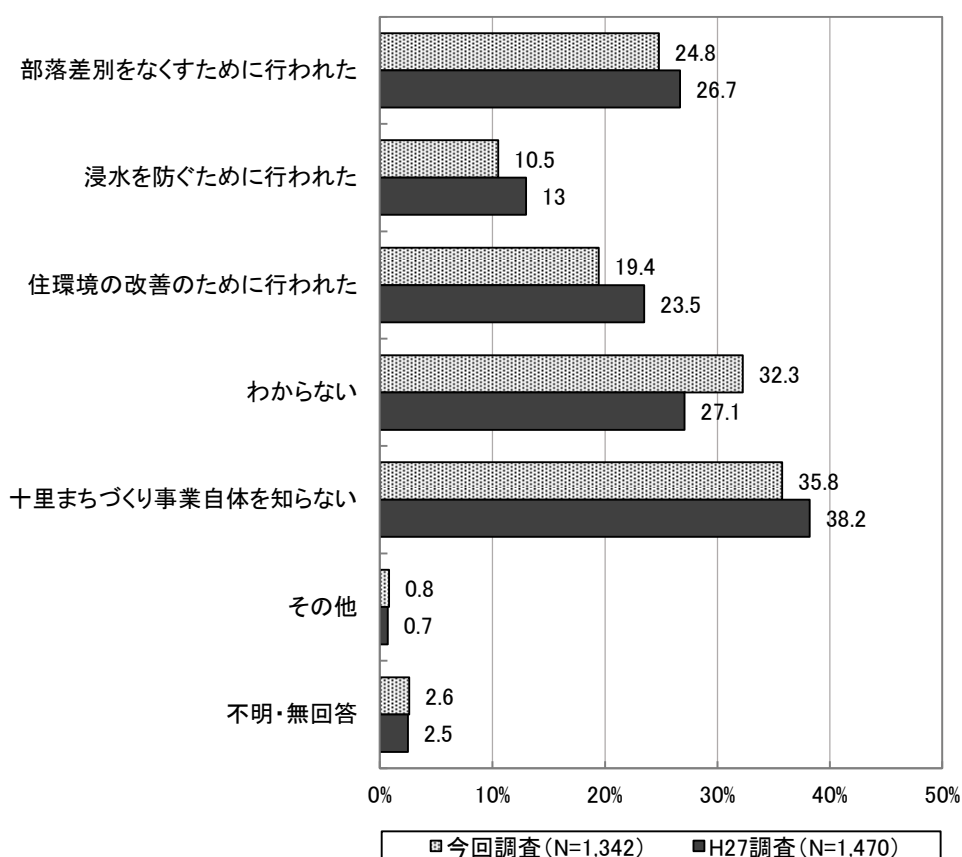


(5) 栗東市では、国の補助を受け、1997 年から 6 年という歳月をかけて、十里まちづくり事業を地域の住民と行政とが一体となって取り組みました。
このことについて、あなたはどうか考えかを、お答えください。

①なぜ、十里まちづくり事業が行われたかについてお答えください。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

■全体と経年比較

なぜ、十里まちづくり事業がなされたかについてみると、「十里まちづくり事業自体を知らない」が 35.8%と最も高く、次いで「わからない」が 32.3%となっており、半数以上が十里まちづくり事業について「知らない」、「わからない」と回答していることから、十里まちづくり事業があまり浸透していないことがうかがえます。

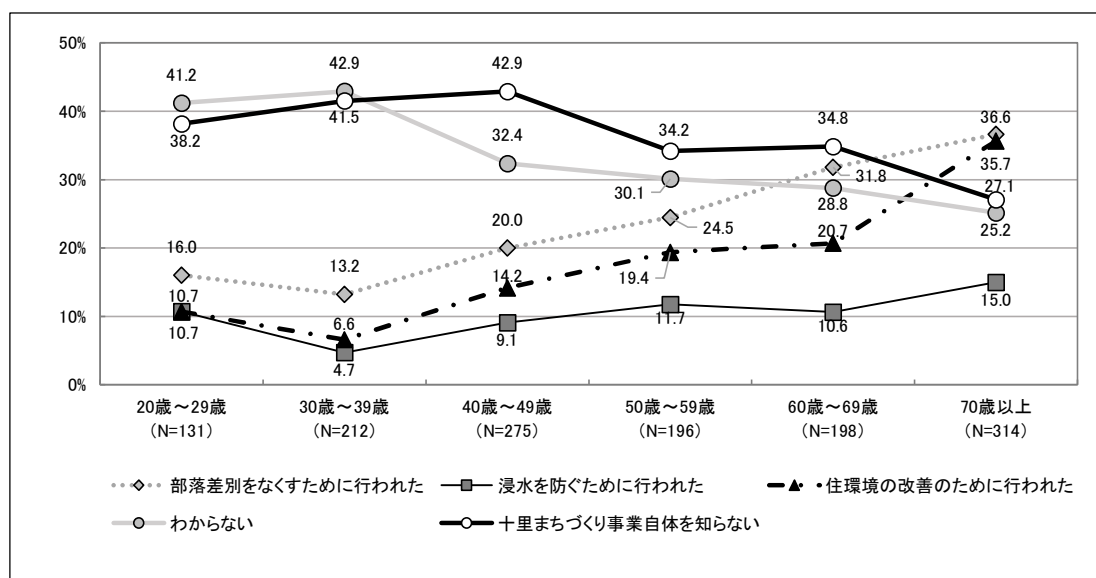


■基本属性別

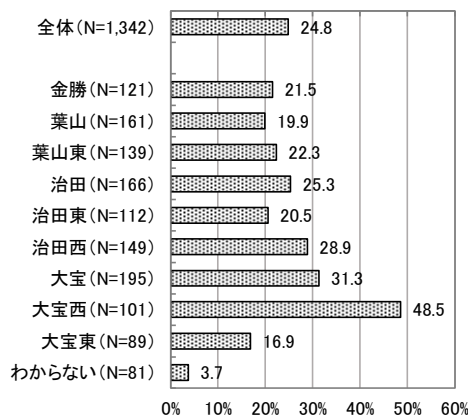
年齢別にみると、20 歳～49 歳にかけて「わからない」と「十里まちづくり事業自体を知らない」を合わせたわからない人の割合が、7割半ば～8割半ばと他の年代と比べて高くなっています。また、70 歳以上においては「部落差別をなくすため」が最も高くなっています。

居住学区別にみると、大宝西において「わからない」と「十里まちづくり事業自体を知らない」を合わせたわからない人の割合が5割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

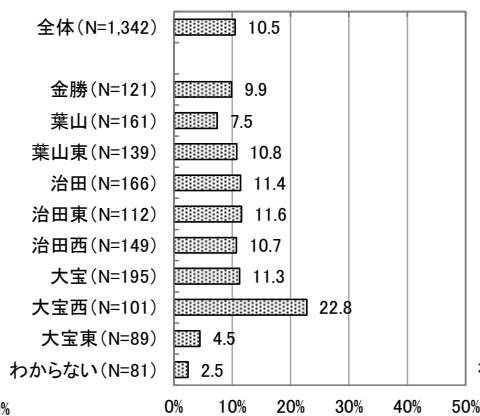
年齢 × 十里まちづくり事業が実施された理由



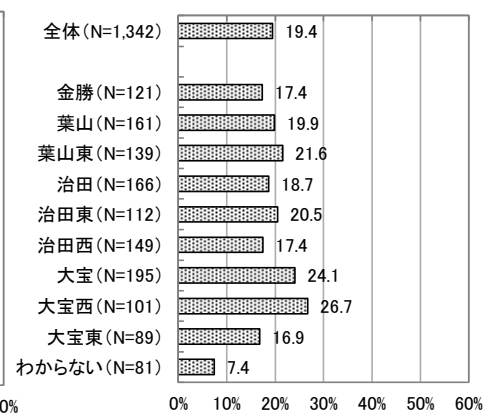
居住学区 × 部落差別をなくすために行われた



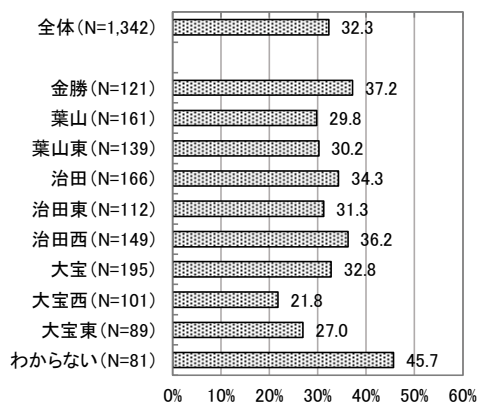
居住学区 × 浸水を防ぐために行われた



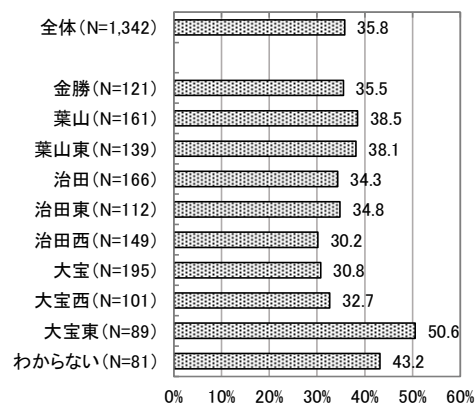
居住学区 × 住環境の改善のために行われた



居住学区 × わからない



居住学区 × 十里まちづくり事業自体を知らない



■問3(5)①の回答者の状況 ～啓発機会に触れた経験について④～

<問3(5)① × 問5(1)・問6(1)>

<問3(5)①. なぜ、十里まちづくり事業が行われたかについて>に回答した人の内訳をみると、地区別懇談会の参加経験では、〔毎回参加している〕〔以前には参加したことがあるが、最近5年間ではない〕人においては「部落差別をなくすため」、〔3～4回参加した〕人においては「住環境の改善のため」、〔一度も参加したことがない〕人においては「わからない」「十里まちづくり事業自体を知らない」の割合が最も高くなっています。

「輝く未来計画」の認知度では、〔その計画の内容について知っている〕人においては「部落差別をなくすため」、〔計画があることは知っているが、内容まで知らない〕人においては「住環境の改善のため」、〔知らない〕人においては「十里まちづくり事業自体を知らない」の割合が最も高くなっています。

問3（5）①. なぜ、十里まちづくり事業が行われたかについて

問5（1） 毎年、自治会毎に地区別懇談会を開催していますが、あなたはこの5年間でどれくらい参加されましたか。

単位：％

	部落差別をなくすため	浸水を防ぐため	住環境の改善のため	わからない	十里まちづくり事業自体を知らない	その他	不明・無回答
毎回参加している(N=67)	47.8	22.4	43.3	25.4	22.4	1.5	1.5
3～4回参加した(N=67)	35.8	16.4	38.8	14.9	35.8	1.5	0.0
1～2回参加した(N=209)	37.3	19.1	32.1	19.1	32.1	1.0	1.0
以前には参加したことがあるが、最近5年間では参加していない(N=233)	30.0	15.9	27.0	24.5	28.8	0.0	4.3
一度も参加したことがない(N=742)	16.8	5.0	9.8	41.1	41.0	0.7	1.6

問6（1） 輝く未来計画があることを、あなたはご存知ですか。

単位：％

	部落差別をなくすため	浸水を防ぐため	住環境の改善のため	わからない	十里まちづくり事業自体を知らない	その他	不明・無回答
その計画の内容について知っている(N=47)	66.0	38.3	53.2	8.5	10.6	2.1	0.0
計画があることは知っているが、内容まで知らない(N=176)	46.6	23.9	47.2	17.6	21.0	0.6	0.6
知らない(N=1076)	20.0	7.2	13.8	35.9	40.1	0.7	1.6

<問3(5)① × 問6(2)・問7(1)>

人権啓発資料「輝く未来」の閲読状況では、「ほとんど毎回しっかり読んでいる」「関心のある内容はくわしく読んでいる」人において「部落差別をなくすため」、「ところどころ読んだことがある」「読んだことはない」人において「十里まちづくり事業自体を知らない」の割合が最も高くなっています。

「部落差別解消推進法」の認知度では、認知している人は「部落差別をなくすため」、知らない人は「十里まちづくり事業自体を知らない」の割合が最も高くなっています。

問6(2) 人権啓発資料「輝く未来」を配布していますが、あなたは読んでおられますか。

問3 (5) ①. なぜ、十里まちづくり事業が行われたかについて

単位：％

	部落差別をなくすため	浸水を防ぐため	住環境の改善のため	わからない	十里まちづくり事業自体を知らない	その他	不明・無回答
ほとんど毎回しっかり読んでいる(N=45)	48.9	28.9	48.9	8.9	24.4	2.2	0.0
関心のある内容はくわしく読んでいる(N=156)	42.3	18.6	30.8	20.5	30.1	0.0	0.6
ところどころ読んだことがある(N=502)	24.7	11.0	23.1	32.3	35.5	0.4	2.0
読んだことはない(N=598)	19.6	6.9	11.7	37.1	40.0	1.2	1.2

問7(1) あなたは、部落差別解消推進法を知っていますか。

単位：％

	部落差別をなくすため	浸水を防ぐため	住環境の改善のため	わからない	十里まちづくり事業自体を知らない	その他	不明・無回答
部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容もよく知っている(N=16)	50.0	18.8	31.3	6.3	37.5	6.3	0.0
部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容はだいたい知っている(N=95)	45.3	17.9	31.6	22.1	23.2	1.1	0.0
部落差別解消推進法ができたことは知っているが、内容までは知らない(部落差別解消推進法という法律名を聞いたことはある)(N=319)	36.1	17.6	33.2	21.3	28.8	0.6	2.2
部落差別解消推進法を知らない(N=865)	18.5	6.9	13.1	38.3	40.7	0.7	1.5

②十里まちづくり事業について、あなたはどのようにお考えですか。あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■基本属性別

十里まちづくり事業についてどう考えているかについてみると、「わからない」が73.9%と最も高く、次いで「部落差別の解消に役立っている」が12.4%、「対象地域だけがよくなっている」が8.4%となっています。

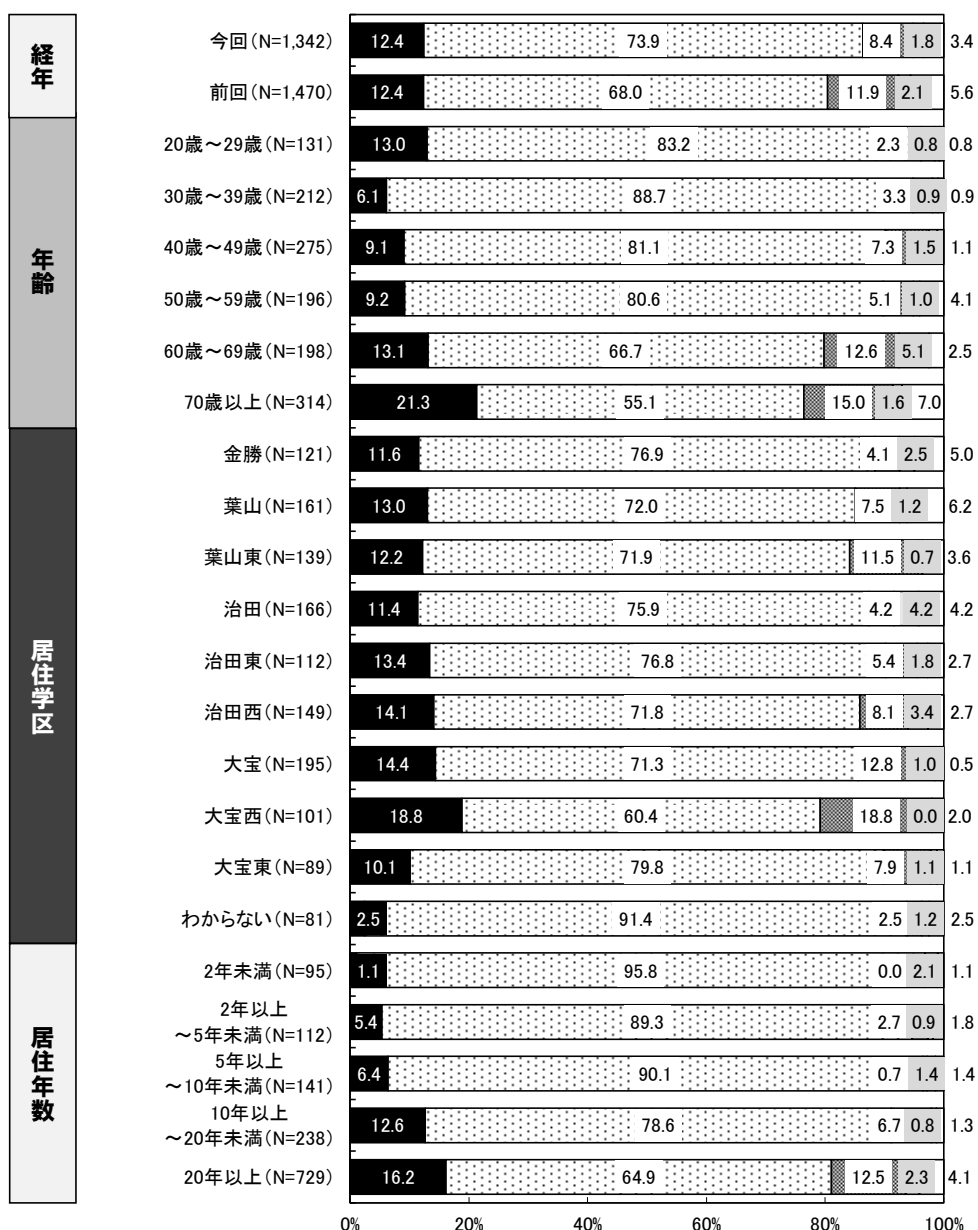
前回調査と比較すると、「対象地域だけがよくなっている」が3.5ポイント低くなっていますが、「わからない」が5.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上において「部落差別の解消に役立っている」「対象地域だけがよくなっている」の割合が最も高くなっています。

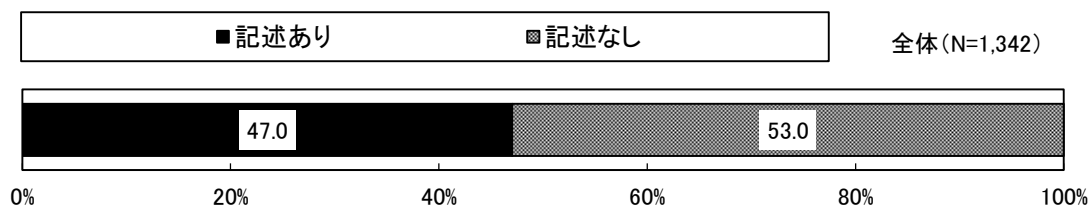
居住学区別にみると、大宝西において「部落差別の解消に役立っている」「対象地域だけがよくなっている」の割合が最も高くなっています。

居住年数別にみると、年数が高くなるにつれて「部落差別の解消に役立っている」の割合が高くなっています。

■部落差別の解消に役立っている □わからない ■対象地域だけがよくなっている □その他 □不明・無回答



③なぜ今も差別が残っていると思いますか。（自由記述のため未掲載、回答数は以下の通り。）

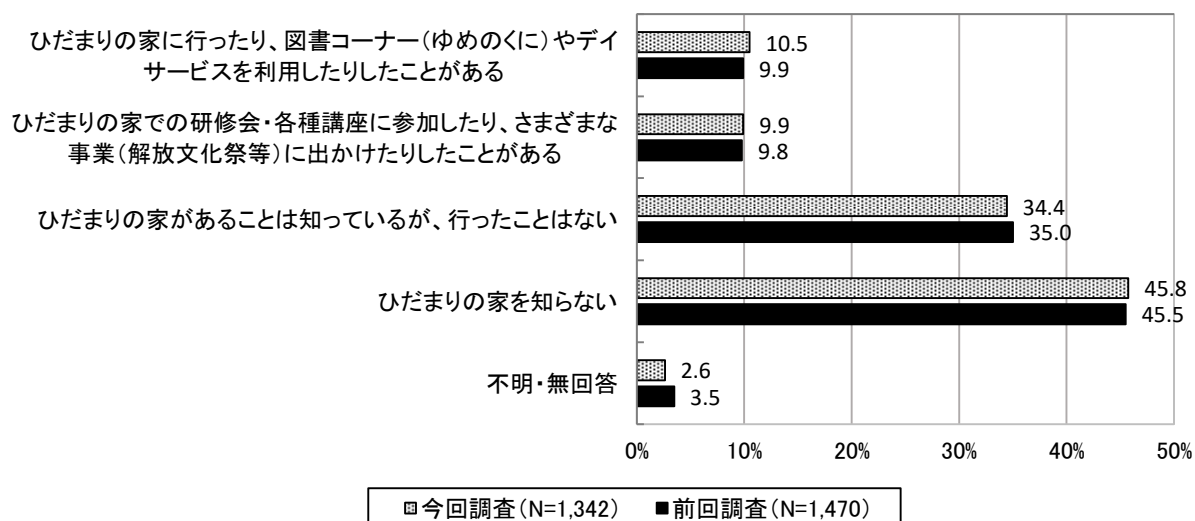


④福祉と人権のまちづくりの発信拠点としてのひだまりの家（地域総合センター）についてお答えください。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

■全体

ひだまりの家（地域総合センター）についてみると、「ひだまりの家を知らない」が 45.8%と最も高く、次いで「ひだまりの家があることは知っているが、行ったことはない」が 34.4%、「ひだまりの家に行ったり、図書コーナーやデイサービスを利用したりしたことがある」が 10.5%となっています。

前回調査との比較では、ほぼ同様な割合となっています。



■基本属性別

年齢別にみると、69歳より若い年代においては「ひだまりの家を知らない」の割合が最も高くなっています。

居住学区別にみると、大宝地域の3地区においては「ひだまりの家があることは知っているが、行ったことはない」、それ以外の地区では「ひだまりの家を知らない」の割合が最も高くなっています。

居住年数別にみると、全てにおいて「ひだまりの家を知らない」の割合が最も高くなっています。

単位：％

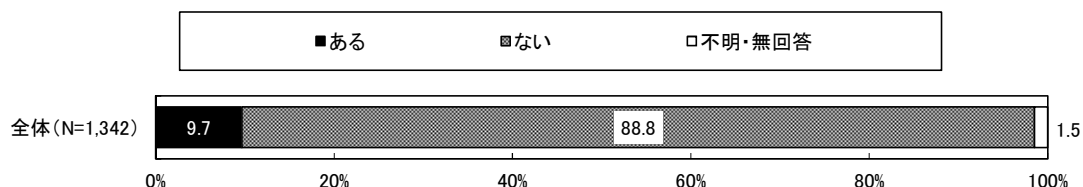
	ひだまりの家に行ったり、図書コーナー（ゆめのくに）やデイサービスを利用したりしたことがある	ひだまりの家での研修会・各種講座に参加したり、さまざまな事業（解放文化祭等）に出かけたりしたことがある	ひだまりの家があることは知っているが、行ったことはない	ひだまりの家を知らない	不明・無回答
今回調査(N=1,342)	10.5	9.9	34.4	45.8	2.6
前回調査(N=1,470)	9.9	9.8	35.0	45.5	3.5
年齢					
20歳～29歳(N=131)	16.8	5.3	26.7	51.9	0.0
30歳～39歳(N=212)	7.5	8.0	26.4	60.4	0.5
40歳～49歳(N=275)	14.2	10.5	37.5	40.7	1.1
50歳～59歳(N=196)	9.7	9.7	37.2	44.9	3.1
60歳～69歳(N=198)	4.5	10.1	32.3	52.0	2.5
70歳以上(N=314)	10.5	11.8	40.8	35.4	5.4
居住学区					
金勝(N=121)	6.6	5.8	38.8	47.1	3.3
葉山(N=161)	6.2	6.8	28.6	54.7	5.0
葉山東(N=139)	5.0	8.6	30.9	55.4	1.4
治田(N=166)	6.6	6.0	33.7	51.8	3.6
治田東(N=112)	9.8	10.7	35.7	42.0	4.5
治田西(N=149)	8.7	8.7	40.9	43.0	2.0
大宝(N=195)	19.5	10.3	38.5	34.9	1.0
大宝西(N=101)	30.7	32.7	34.7	15.8	1.0
大宝東(N=89)	6.7	11.2	41.6	40.4	1.1
わからない(N=81)	2.5	1.2	14.8	82.7	0.0
居住年数					
2年未満(N=95)	1.1	0.0	12.6	84.2	2.1
2年以上～5年未満(N=112)	5.4	3.6	25.9	67.0	0.0
5年以上～10年未満(N=141)	9.9	8.5	31.2	53.2	0.7
10年以上～20年未満(N=238)	18.1	12.6	35.7	38.2	0.8
20年以上(N=729)	10.0	11.2	39.1	39.2	3.3

4. 差別や人権侵害について

問4. (1) あなたは、ここ5年以内で、差別や人権侵害を受けたことがありますか。
どちらかの番号に○印をつけてください。

■全体

ここ5年以内で、差別や人権侵害を受けたことがあるかについてみると、「ない」が88.8%となっています。

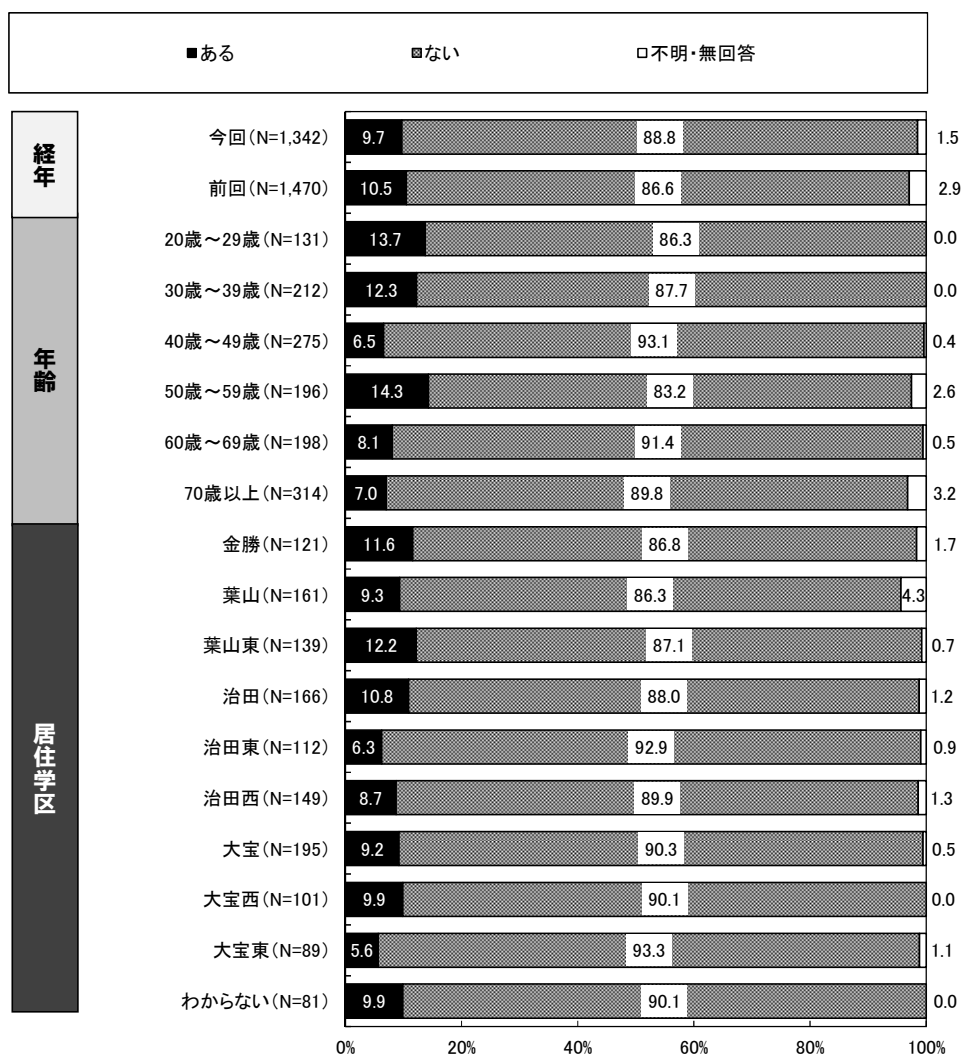


■基本属性別

前回調査と比較すると、「ある」が0.8ポイント低く、「ない」が2.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20歳～39歳、50歳～59歳において「ある」が1割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、金勝、葉山東、治田において「ある」が1割強と他の地区と比べて高くなっています。



(2) 問4.(1)で、「1. ある」と答えた方にうかがいます。

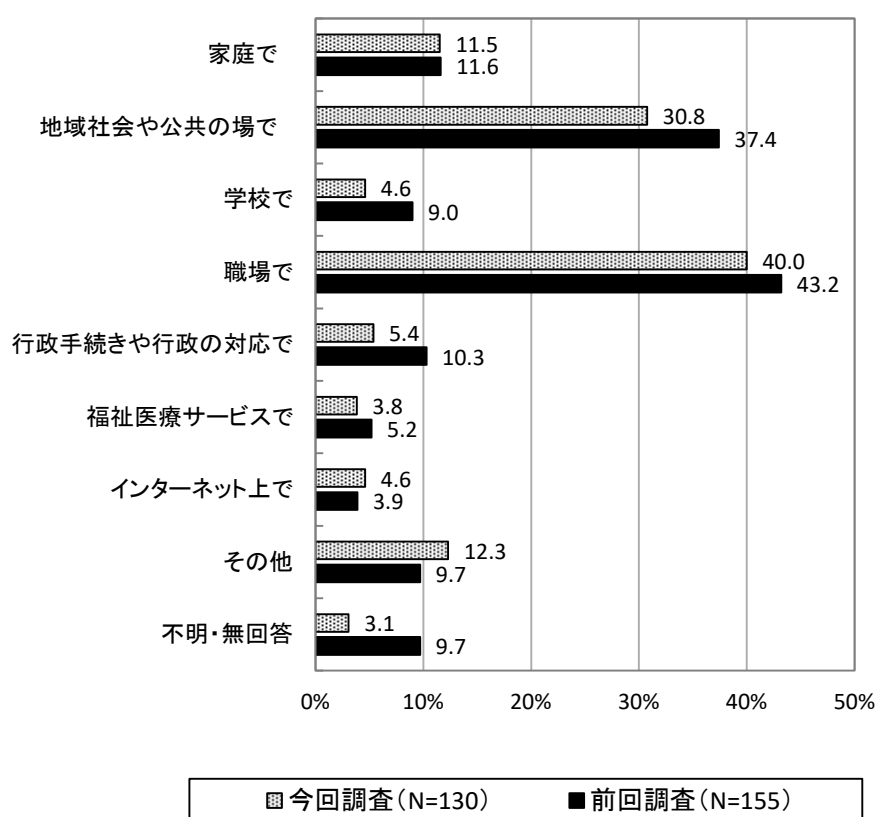
それは、どのような場面で、どのような内容でしたか。次の「ア」から「ク」の場面と、「1」から「8」の内容の中で、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

【場面】

■全体

差別や人権侵害をどのような場面で受けたかについてみると、「職場で」が40.0%と最も高く、次いで「地域社会や公共の場で」が30.8%、「その他」が12.3%となっています。

前回調査との比較では、ほぼ同様な傾向となっています。



■基本属性別

年齢別にみると、20 歳～59 歳にかけて「職場で」、60 歳以上において「地域社会や公共の場で」の割合が最も高くなっています。

居住学区別にみると、金勝において「職場で」が6割半ば、治田東において「地域社会や公共の場で」が約4割半ばと最も高くなっています。

単位：％

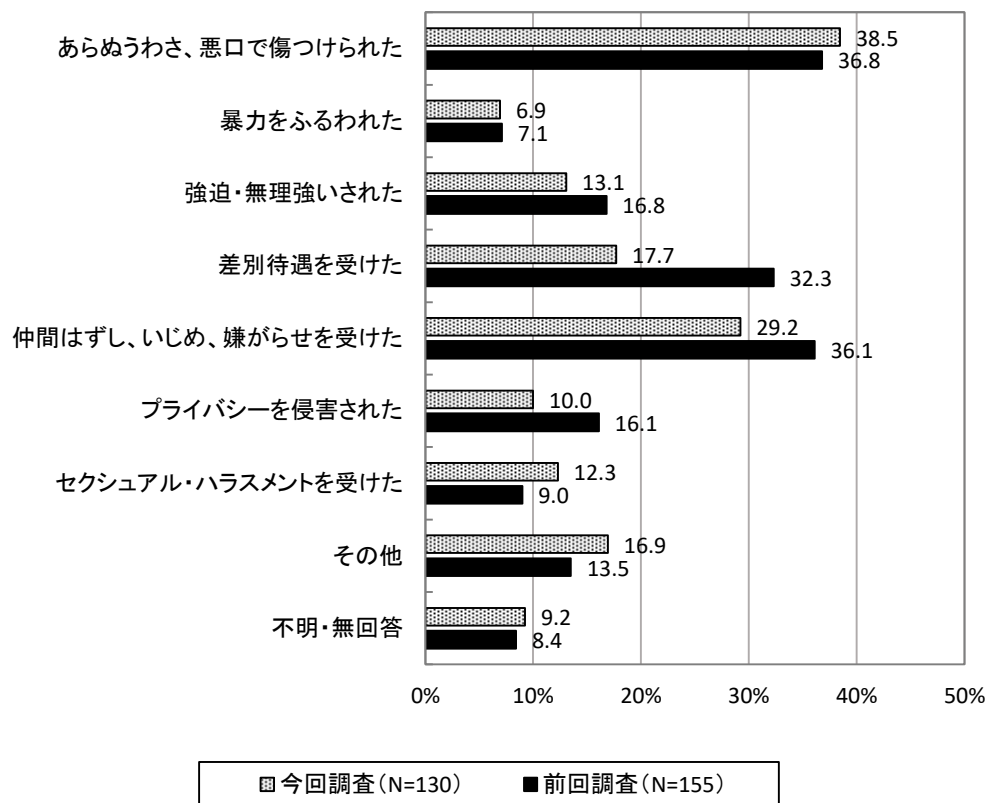
	家庭で	地域社会 や公共の 場で	学校で	職場で	行政手続 きや行政 の対応で	福祉医療 サービスで	インター ネット上で	その他	不明・無回 答
今回(N=130)	11.5	30.8	4.6	40.0	5.4	3.8	4.6	12.3	3.1
前回(N=155)	11.6	37.4	9.0	43.2	10.3	5.2	3.9	9.7	9.7
年齢									
20歳～29歳(N=18)	5.6	16.7	16.7	38.9	0.0	11.1	11.1	5.6	5.6
30歳～39歳(N=26)	15.4	11.5	11.5	50.0	3.8	0.0	3.8	19.2	3.8
40歳～49歳(N=18)	11.1	55.6	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳～59歳(N=28)	14.3	14.3	0.0	53.6	0.0	3.6	10.7	14.3	0.0
60歳～69歳(N=16)	6.3	50.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	6.3	6.3
70歳以上(N=22)	13.6	50.0	0.0	22.7	18.2	9.1	0.0	22.7	0.0
居住学区									
金勝(N=14)	14.3	35.7	7.1	64.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
葉山(N=15)	33.3	33.3	0.0	26.7	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0
葉山東(N=17)	11.8	23.5	5.9	41.2	11.8	0.0	0.0	11.8	5.9
治田(N=18)	16.7	27.8	5.6	27.8	0.0	5.6	16.7	16.7	5.6
治田東(N=7)	0.0	42.9	14.3	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
治田西(N=13)	0.0	30.8	0.0	46.2	7.7	0.0	0.0	15.4	7.7
大宝(N=18)	5.6	33.3	5.6	27.8	0.0	0.0	5.6	22.2	0.0
大宝西(N=10)	10.0	40.0	10.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大宝東(N=5)	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【内容】

■全体

差別や人権侵害を受けたときどのような内容だったかについてみると、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」が 38.5%と最も高く、次いで「仲間はずし、いじめ、嫌がらせを受けた」が 29.2%、次いで「差別待遇を受けた」が 17.7%となっています。

前回調査との比較では、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」が 1.7 ポイント高く、「仲間はずし、いじめ、嫌がらせを受けた」が 6.9 ポイント、「差別待遇を受けた」が 14.6 ポイントそれぞれ低くなっています。



■基本属性別

年齢別にみると、20 歳～49 歳、70 歳以上において「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」、50 歳～69 歳にかけて「仲間はずし、いじめ、嫌がらせを受けた」の割合が最も高くなっています。

居住学区別にみると、ほとんどの地区において「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」が高くなっています。

単位：％

	あらぬうわ さ、悪口で 傷つけられ た	暴力をふる われた	強迫・無理 強いされた	差別待遇を 受けた	仲間はず し、いじめ、 嫌がらせを 受けた	プライバ シーを侵害 された	セクシュア ル・ハラスメ ントを受け た	その他	不明・無回 答
今回 (N=130)	38.5	6.9	13.1	17.7	29.2	10.0	12.3	16.9	9.2
前回 (N=155)	36.8	7.1	16.8	32.3	36.1	16.1	9.0	13.5	8.4
年齢									
20歳～29歳 (N=18)	38.9	16.7	16.7	16.7	16.7	11.1	16.7	5.6	16.7
30歳～39歳 (N=26)	42.3	3.8	15.4	15.4	38.5	0.0	15.4	15.4	7.7
40歳～49歳 (N=18)	50.0	5.6	22.2	44.4	16.7	16.7	11.1	11.1	0.0
50歳～59歳 (N=28)	32.1	3.6	7.1	0.0	35.7	10.7	10.7	21.4	7.1
60歳～69歳 (N=16)	31.3	6.3	6.3	12.5	43.8	0.0	12.5	18.8	6.3
70歳以上 (N=22)	40.9	9.1	13.6	27.3	22.7	22.7	9.1	27.3	9.1
居住学区									
金勝 (N=14)	50.0	21.4	28.6	14.3	35.7	21.4	21.4	7.1	0.0
葉山 (N=15)	33.3	13.3	20.0	20.0	20.0	13.3	6.7	26.7	0.0
葉山東 (N=17)	35.3	11.8	23.5	17.6	35.3	11.8	23.5	11.8	5.9
治田 (N=18)	27.8	5.6	11.1	16.7	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1
治田東 (N=7)	71.4	0.0	14.3	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	28.6
治田西 (N=13)	23.1	0.0	0.0	23.1	23.1	0.0	0.0	30.8	7.7
大宝 (N=18)	38.9	0.0	5.6	16.7	38.9	5.6	5.6	11.1	11.1
大宝西 (N=10)	30.0	0.0	10.0	20.0	30.0	0.0	20.0	20.0	0.0
大宝東 (N=5)	80.0	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0

(3) 問4.(1)で、「ある」と答えた方にうかがいます。

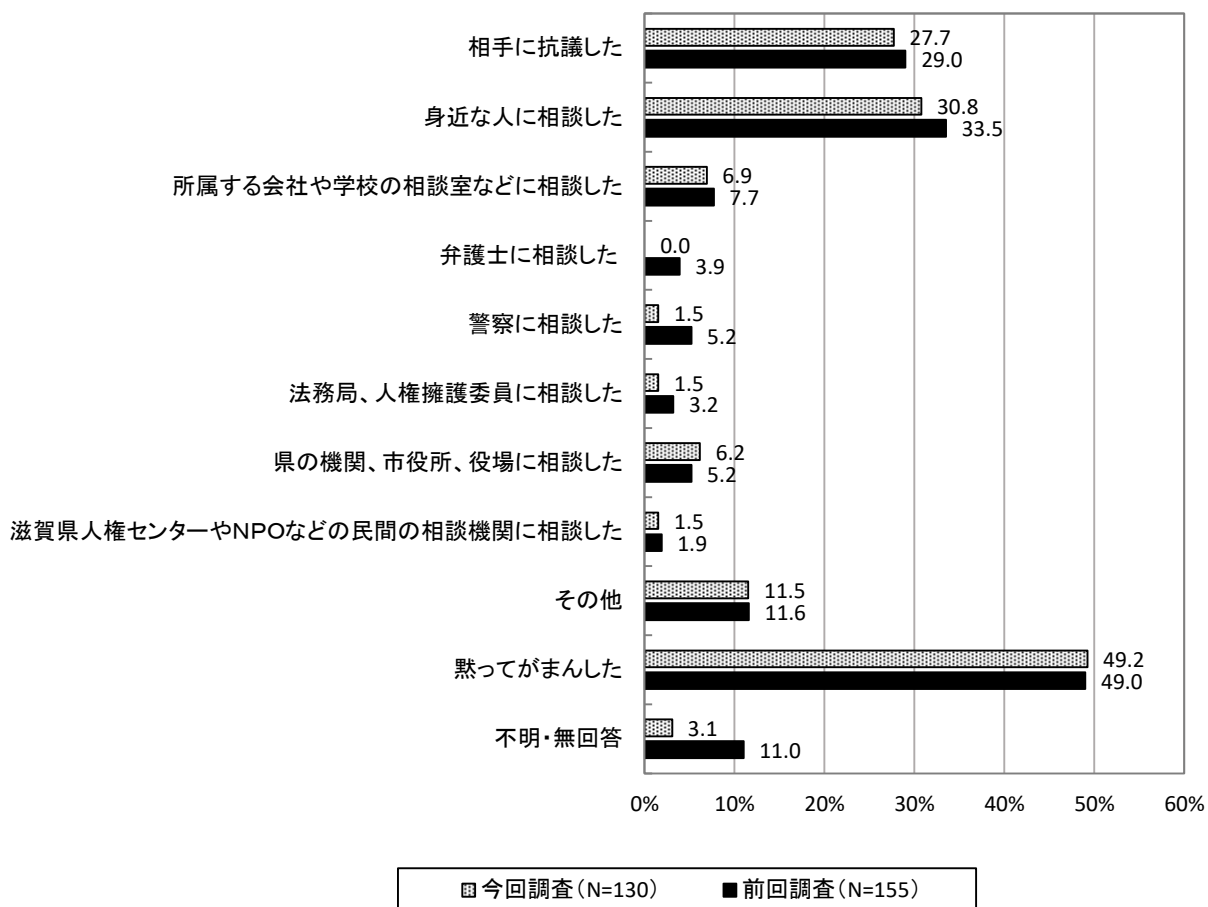
差別や人権侵害を受けたときに、どのような対応をされましたか。

「1」から「8」の内容の中で、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

■全体

差別や人権侵害を受けたときに、どのような対応をされたかについてみると、「黙ってがまんした」が49.2%と最も高く、次いで「身近な人に相談した」が30.8%、「相手に抗議した」が27.7%となっています。

前回調査との比較では、ほぼ同様な傾向となっています。



■基本属性別

年齢別にみると、20 歳～59 歳、70 歳以上において「黙ってがまんした」、60 歳～69 歳において「身近な人に相談した」の割合が最も高くなっています。

居住学区別にみると、ほとんどの地区において「黙ってがまんした」が高くなっています。

単位：％

	相手に抗議した	身近な人に相談した	所属する会社や学校の相談室などに相談した	弁護士に相談した	警察に相談した	法務局、人権擁護委員に相談した	県の機関、市役所、役場に相談した	滋賀県人権センターやNPOなどの民間の相談機関に相談した	その他	黙ってがまんした	不明・無回答
今回(N=130)	27.7	30.8	6.9	0.0	1.5	1.5	6.2	1.5	11.5	49.2	3.1
前回(N=155)	29.0	33.5	7.7	3.9	5.2	3.2	5.2	1.9	11.6	49.0	11.0
年齢											
20歳～29歳(N=18)	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	55.6	0.0
30歳～39歳(N=26)	30.8	34.6	19.2	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	46.2	3.8
40歳～49歳(N=18)	16.7	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	22.2	61.1	0.0
50歳～59歳(N=28)	25.0	25.0	10.7	0.0	7.1	3.6	7.1	3.6	21.4	46.4	3.6
60歳～69歳(N=16)	25.0	43.8	0.0	0.0	0.0	6.3	12.5	6.3	6.3	37.5	0.0
70歳以上(N=22)	45.5	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	54.5	0.0
居住学区											
金勝(N=14)	42.9	21.4	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1	7.1	35.7	50.0	0.0
葉山(N=15)	33.3	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	6.7	40.0	0.0
葉山東(N=17)	47.1	35.3	5.9	0.0	0.0	0.0	17.6	0.0	5.9	47.1	0.0
治田(N=18)	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	11.1	50.0	5.6
治田東(N=7)	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	14.3
治田西(N=13)	23.1	30.8	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	46.2	0.0
大宝(N=18)	27.8	44.4	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	11.1	33.3	0.0
大宝西(N=10)	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	70.0	0.0
大宝東(N=5)	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0

5. 地区別懇談会について

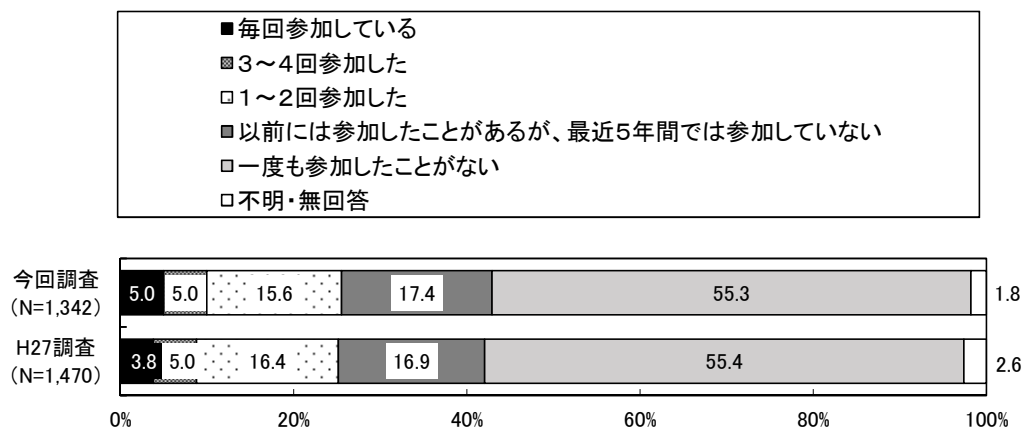
問5. 栗東市では、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていくために、毎年、各自治会で地区別懇談会を開催しています。

(1) あなたは地区別懇談会にこの5年間でどれくらい参加されましたか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と経年比較

地区別懇談会のこの5年間の参加状況についてみると、「一度も参加したことがない」が55.3%と最も高く、次いで「以前には参加したことがあるが、最近5年間では参加していない」が17.4%、「1～2回参加した」が15.6%となっています。

前回調査と比較すると、「毎回参加している」が1.2ポイント高くなっています。

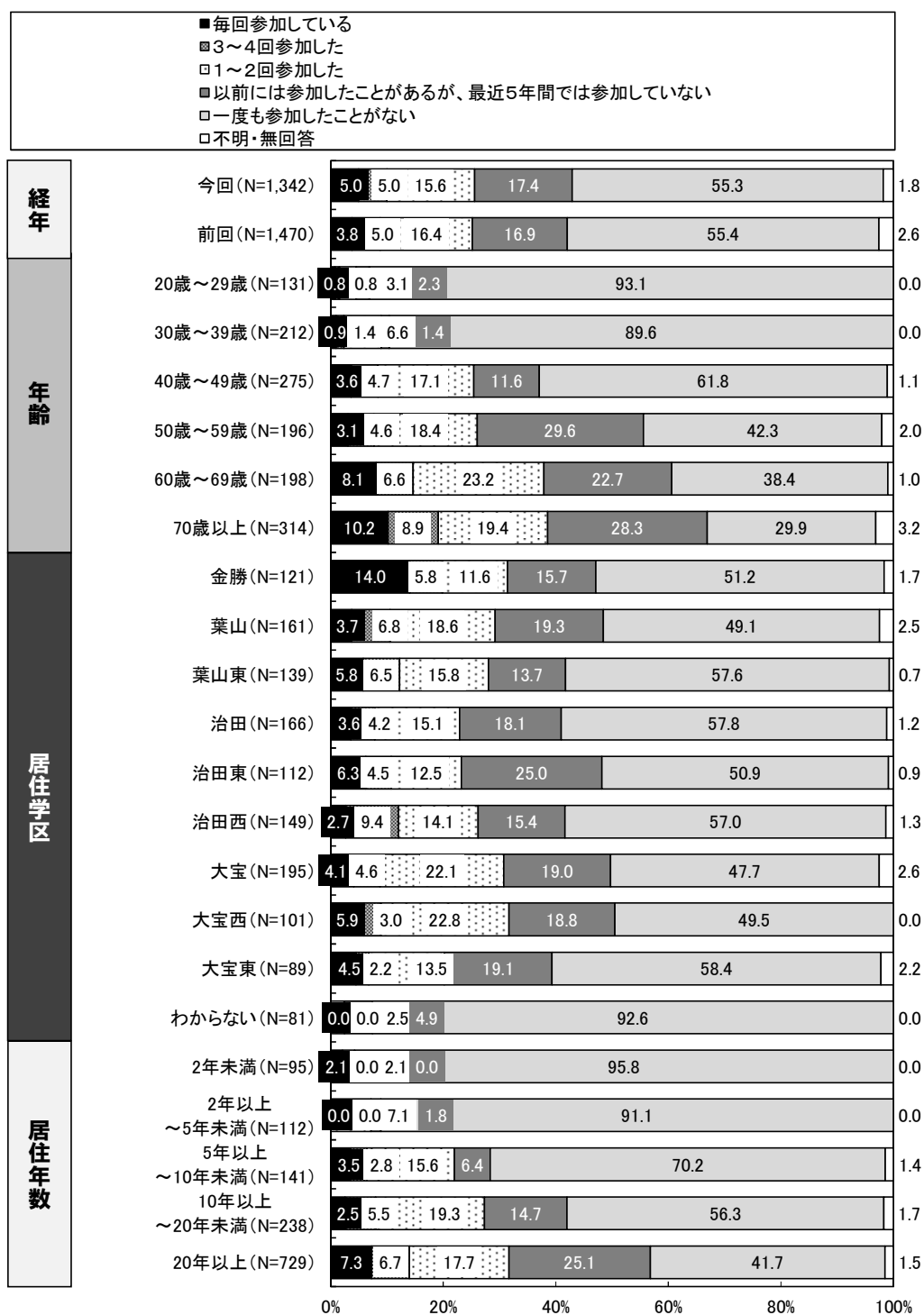


■基本属性別

年齢別にみると、20歳から39歳において「一度も参加したことがない」が9割前後と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、金勝において「毎回参加している」が1割半ばと他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、5年未満において「一度も参加したことがない」が9割を超えており、他の年数と比べると高くなっています。この割合は、年数が上がるにつれて低くなっています。



※地区別懇談会に最近の５年間で参加した人は次の（２）～（５）の問いに、参加したことのない人は（６）～（７）の問いに教えてください。

それぞれについて、あてはまる番号に１つだけ○印をつけてください。

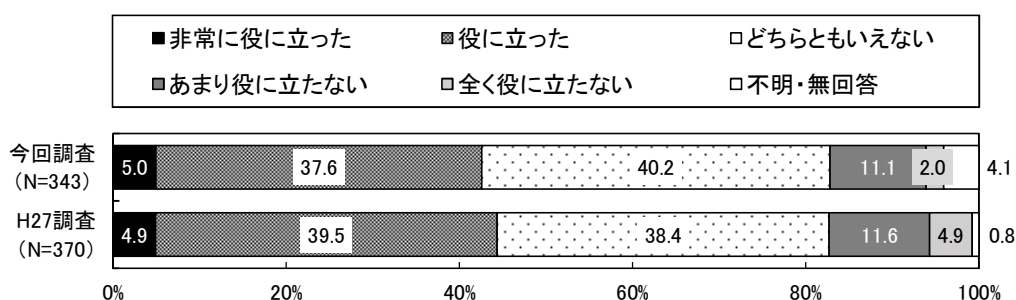
〈最近５年間で参加した人〉 ※問５．（１）で「１」「２」「３」と答えた方

（２）人権・同和問題の認識を深めるために役立ちましたか。

■全体と経年比較

人権・同和問題の認識を深めるために役立ったかについてみると、「非常に役に立った」と「役に立った」を合わせた『役に立った』の割合が 42.6%、「あまり役に立たない」と「全く役に立たない」を合わせた『役に立たない』の割合が 13.1%となっています。

前回調査と比較すると、『役に立たない』が 3.4 ポイント低くなっています。

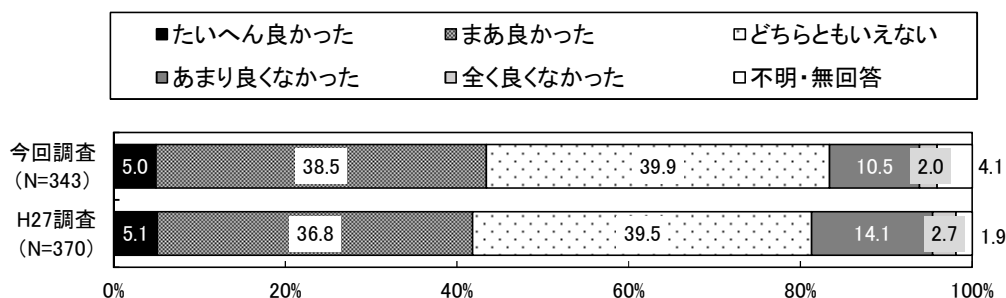


（３）内容ややり方についてどう思いますか。

■全体と経年比較

地区別懇談会の内容ややり方についてみると、「たいへん良かった」と「まあ良かった」を合わせた『良かった』の割合が 43.5%、「あまり良くなかった」と「全く良くなかった」を合わせた『良くなかった』の割合が 12.5%となっています。

前回調査と比較すると、『良かった』が 1.6 ポイント高くなっています。

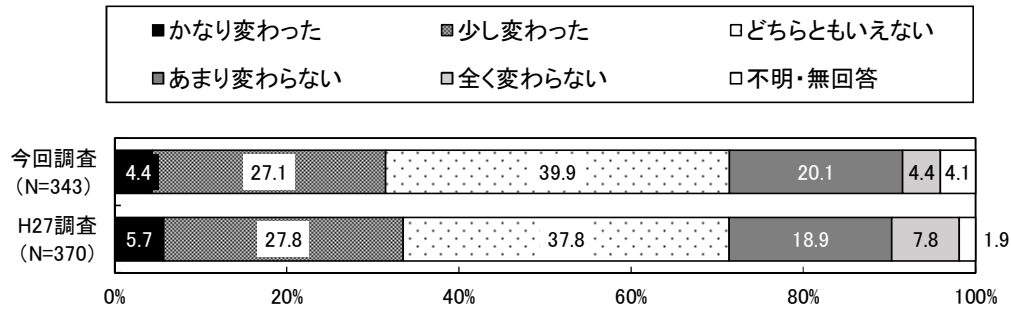


（４）参加することで、部落差別やその他の差別について考え方が変わりましたか。

■全体と経年比較

参加することで、部落差別やその他の差別の考え方が変わったかについてみると、「かなり変わった」と「少し変わった」を合わせた『変わった』の割合が 31.5%、「あまり変わらない」と「全く変わらない」を合わせた『変わらない』の割合が 24.5%となっています。

前回調査と比較すると、『変わった』が 2.0 ポイント低くなっています。

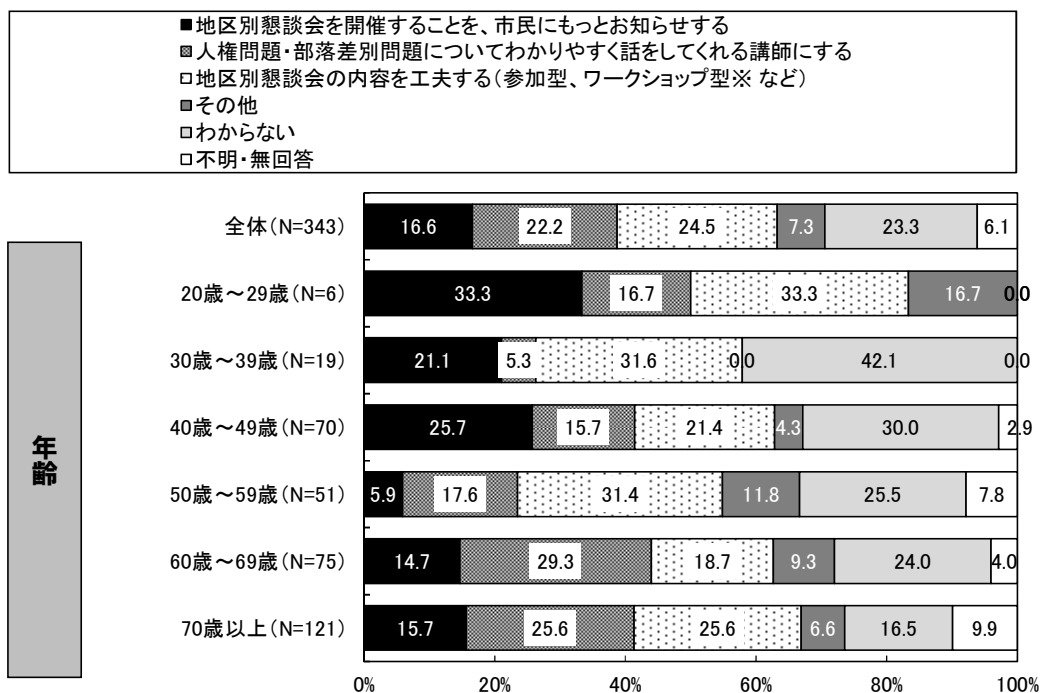


（５）地区別懇談会への参加者を増やすためには、どのようなことをすればいいと思いますか。
あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

■全体と年齢比較

地区別懇談会への参加を増やすためには、どのようなことをすればいいかについてみると、「地区別懇談会の内容を工夫する」が 24.5%と最も高く、次いで「わからない」が 23.3%、「人権問題・部落差別問題についてわかりやすく話をしてくれる講師にする」が 22.2%となっています。

年齢別にみると、20 歳～29 歳、50 歳～59 歳において「地区別懇談会の内容を工夫する」が3割強と他の年代と比べて高くなっています。



〈最近5年間で参加したことのない人〉 ※問5. (1) で「4」または「5」と答えた方

(6) どうして参加されなかったのか、また、参加されなくなったのですか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と基本属性別

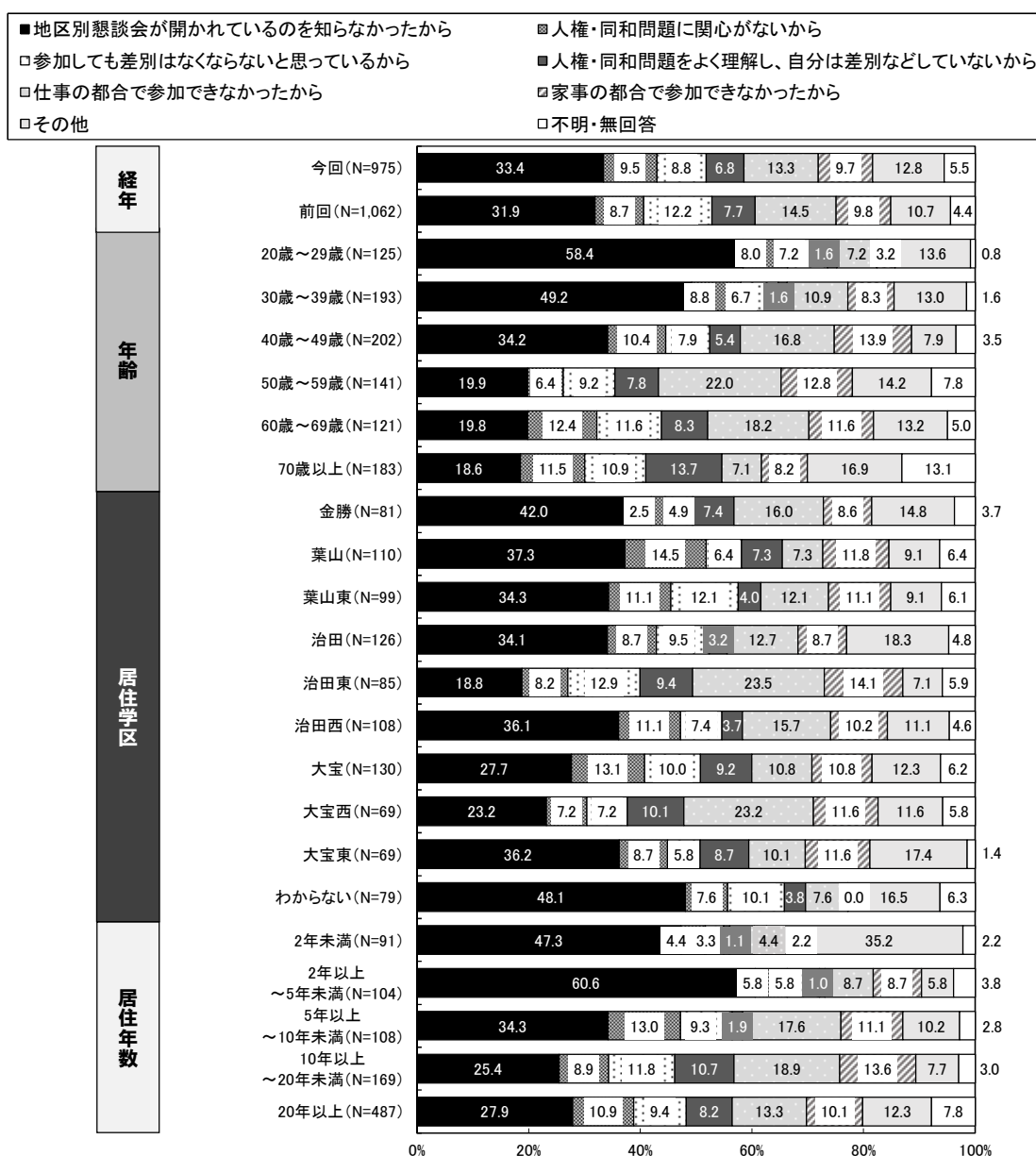
どうして参加されなかったのか、また、参加されなくなったのかについてみると、「地区別懇談会が開かれているのを知らなかったから」が33.4%と最も高く、次いで「仕事の都合で参加できなかったから」が13.3%、「その他」が12.8%となっています。

前回調査と比較すると、「地区別懇談会が開かれているのを知らなかったから」が1.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれて「地区別懇談会が開かれているのを知らなかったから」の割合が低くなっています。

居住学区別にみると、金勝において「地区別懇談会が開かれているのを知らなかったから」が4割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～5年未満において「地区別懇談会が開かれているのを知らなかったから」が6割強と他の年数と比べて高くなっています。



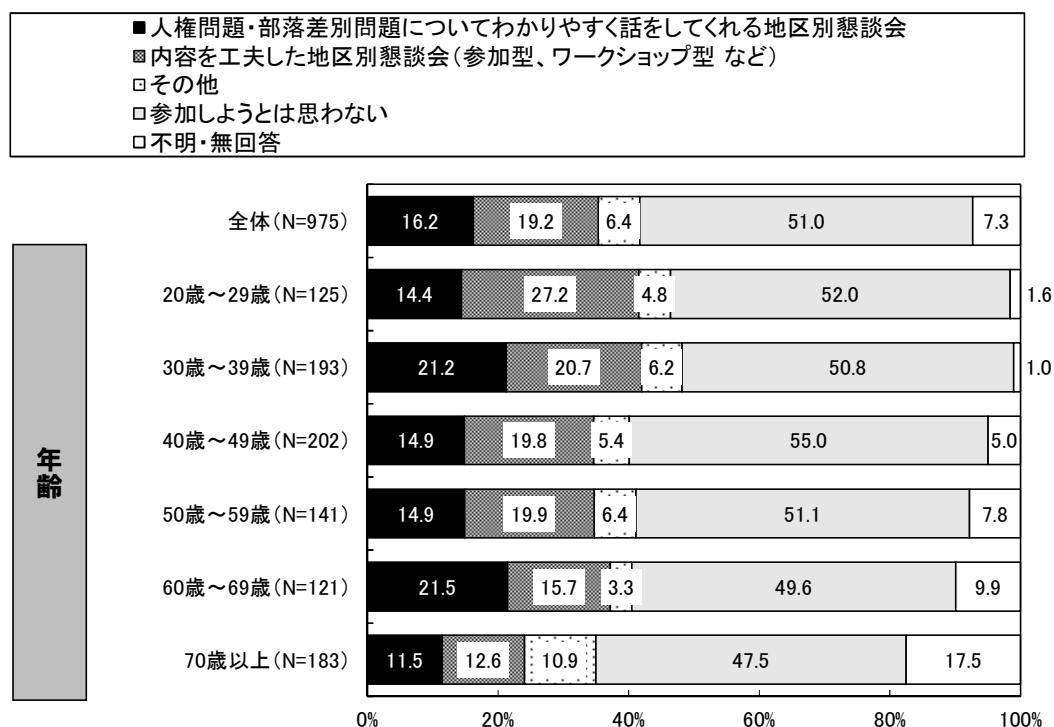
(7) どのような地区別懇談会だったら参加してみようと思いますか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と年齢比較

どのような地区別懇談会だったら参加してみようと思うかについてみると、「参加しようとは思わない」が51.0%と最も高く、次いで「内容を工夫した地区別懇談会」が19.2%、「人権問題・部落差別問題についてわかりやすく話をしてくれる地区別懇談会」が16.2%となっています。

年齢別にみると、30歳～39歳、60歳～69歳において「人権問題・部落差別問題についてわかりやすく話をしてくれる地区別懇談会」、「内容を工夫した地区別懇談会」が2割強、20歳～29歳において「内容を工夫した地区別懇談会」が2割半ばと他の年代と比べて高くなっています。



6. 人権・同和教育に関する取り組みについて

問6. (1) 栗東市では、2016（平成28）年度より、第四次輝く未来計画（人権・同和教育推進5ヶ年計画）をすすめてきました。あなたは、この計画をご存じですか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

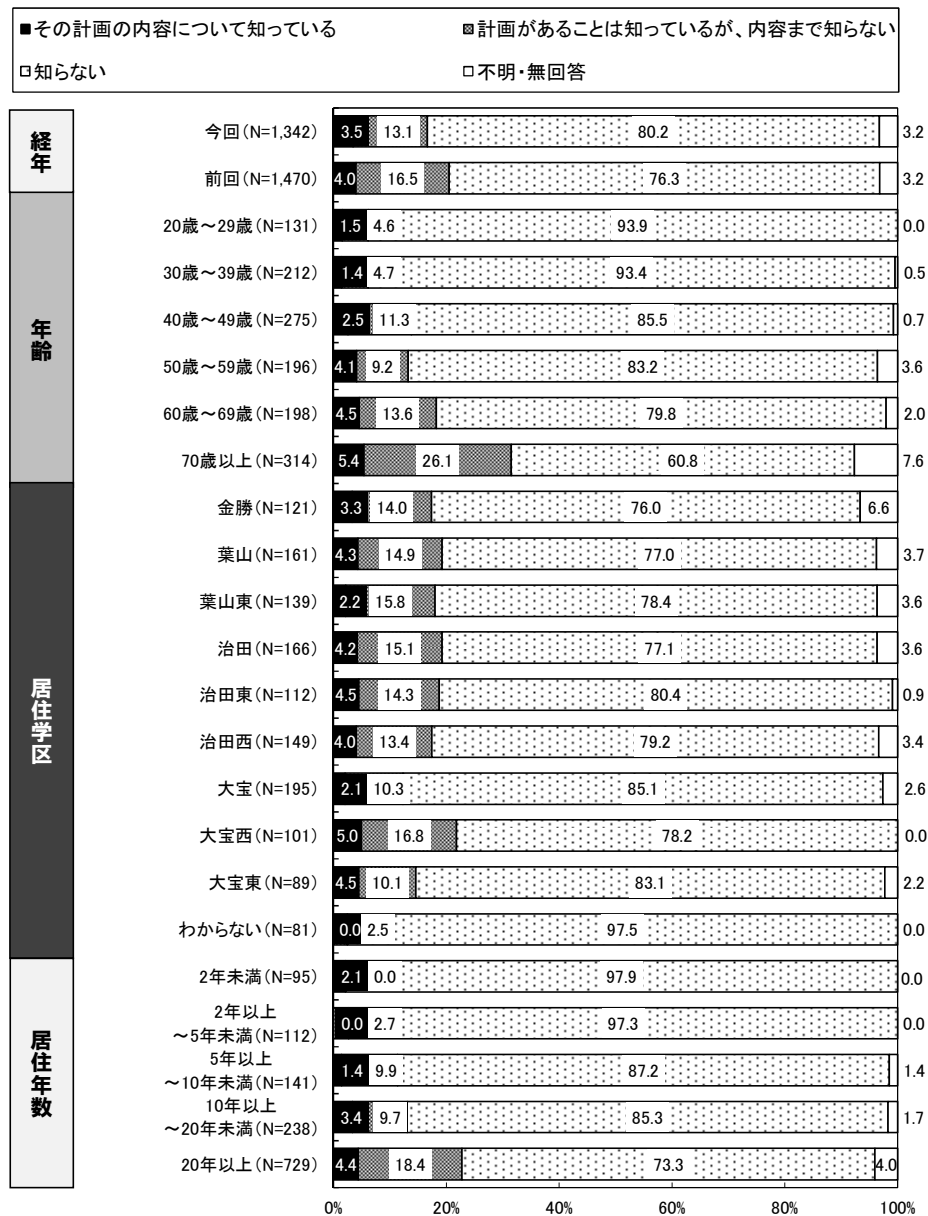
■全体と基本属性別

栗東市の「輝く未来計画」を知っているかについてみると、「知らない」が80.2%と8割を占めており、次いで「計画があることは知っているが、内容まで知らない」が13.1%、「その計画の内容について知っている」が3.5%となっています。

前回調査と比較すると、「計画があることは知っているが、内容まで知らない」が3.4ポイント低く、「知らない」が3.9ポイント高くなっています。

年齢別、居住年数別にみると、年代、年数が下がるにつれて「知らない」の割合が高くなっています。

居住学区別にみると、大宝西において「その計画の内容について知っている」と「計画があることは知っている」を合わせた『知っている』の割合が2割強と他の地区と比べて高くなっています。

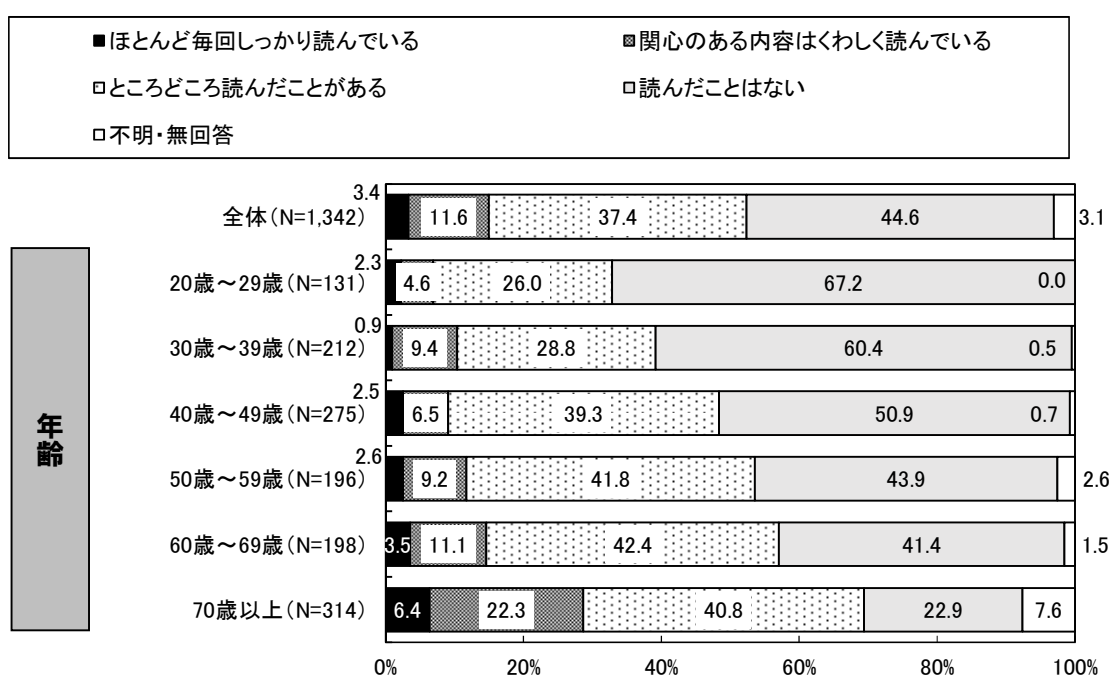


(2) 栗東市では、2016（平成 28）年度より、全戸配布している「広報りっとう 12月号」の折り込みで人権啓発資料「輝く未来」を配布していますが、あなたは読んでおられますか。あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と年齢比較

栗東市の人権啓発資料「輝く未来」を読んでおられるかについてみると、「ほとんど毎回しっかり読んでいる」と「関心のある内容はくわしく読んでいる」と「ところどころ読んだことがある」を合わせた『読んだことがある』の割合が 52.4%と半数以上になっています。

年齢別にみると、年代が下がるにつれて「読んだことがない」の割合が高くなっています。



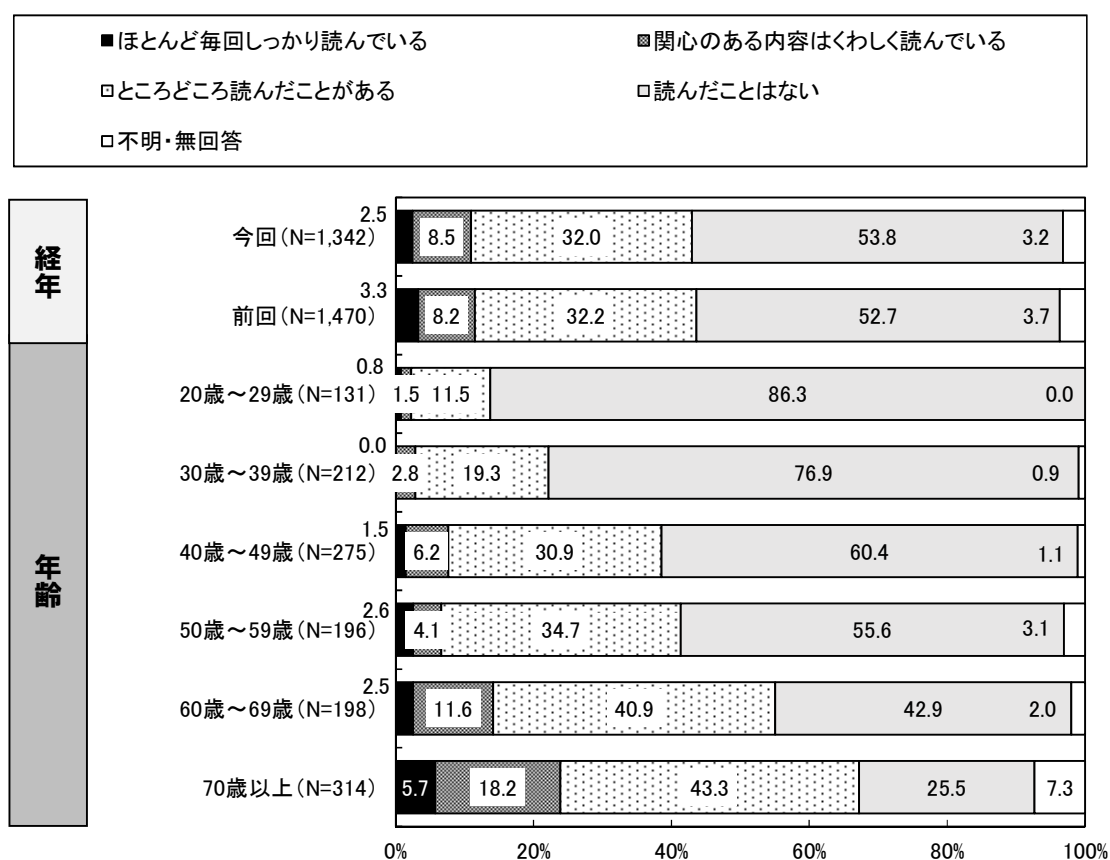
(3) 栗東市人権・同和教育推進協議会より「みんなの同推協」を、年2回全戸配布していますが、あなたは読んでおられますか。
 あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体と経年・年齢比較

栗東市人権・同和教育推進協議会「みんなの同推協」を読んでおられるかについてみると、「読んだことはない」が 53.8%と最も高く、次いで「ところどころ読んだことがある」が 32.0%、「関心のある内容はくわしく読んでいる」が 8.5%、「ほとんど毎回しっかり読んでいる」が 2.5%となっています。「みんなの同推協」を「読んだことはない」人の割合が、読んだことがある人の割合を上回っています。

前回調査と比較すると、「読んだことはない」が 1.1 ポイント高くなっています。

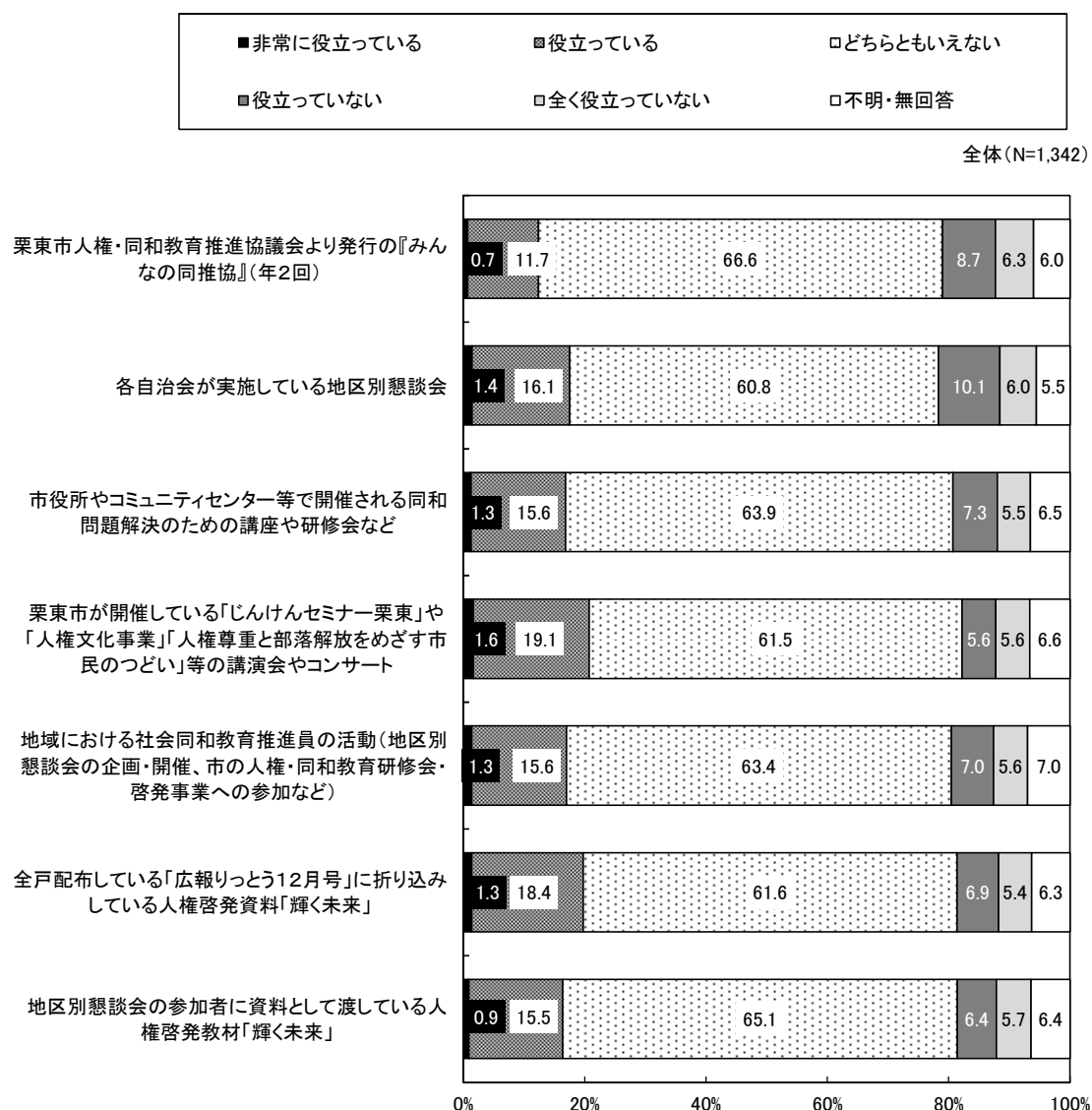
年齢別にみると、年代が下がるにつれて「読んだことがない」の割合が高くなっています。



(4) 栗東市が現在まで実施してきた次の「1」から「7」に挙げる教育・啓発事業は、人権・同和問題の解決にむけて、どの程度役立っていると思いますか。
それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

■全体

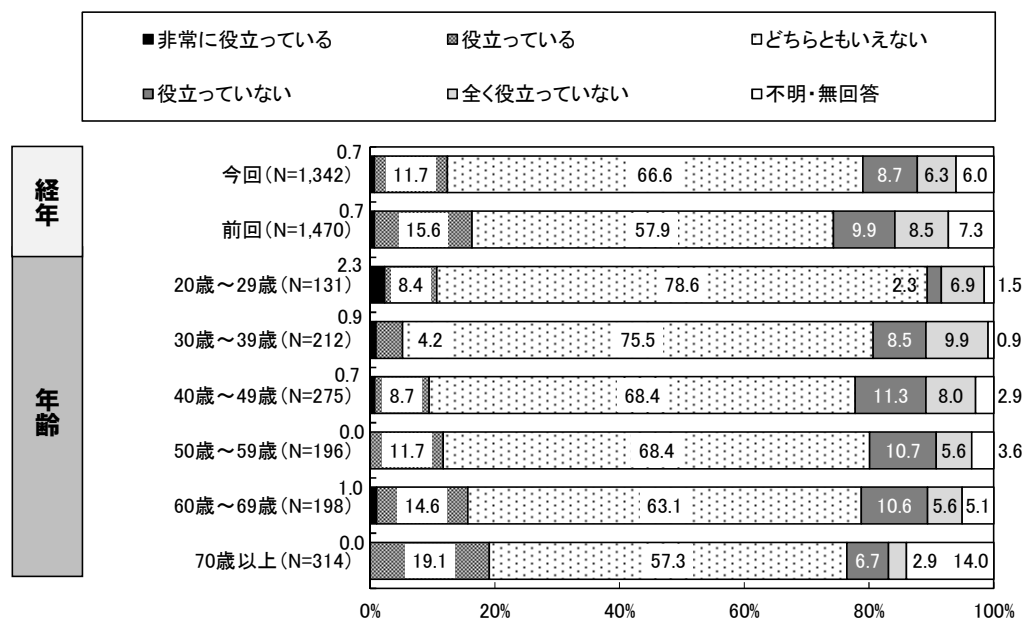
栗東市が現在まで実施してきた教育・啓発事業は、人権・同和問題の解決にむけて、どの程度役立っているかについてみると、「非常に役立っている」と「役立っている」を合わせた『役立っている』の割合は、「栗東市が開催しているくじんけんセミナー栗東>やく人権文化事業>く人権尊重と部落解放をめざす市民のつどい>等の講演会やコンサート」が2割強と、他と比べて高くなっています。



問6(4)-1. 栗東市人権・同和教育推進協議会より発行の『みんなの同推協』(年2回)

■経年・年齢比較

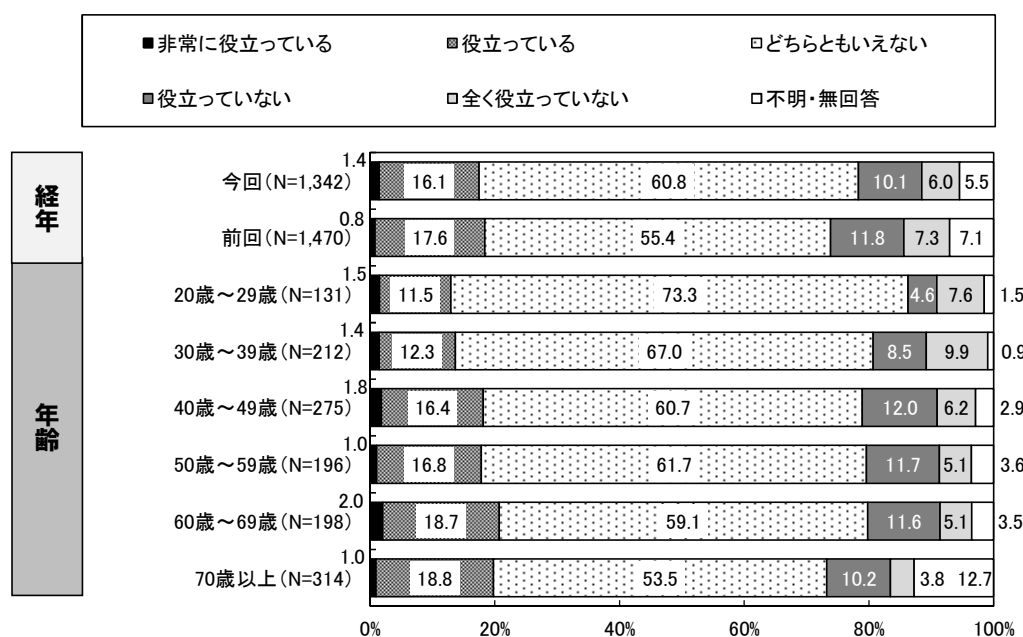
前回調査と比較すると、『役立っている』は3.9ポイント、『役立っていない』は3.4ポイント低くなっています。
年齢別にみると、70歳以上において『役立っている』が2割弱と他の年代と比べて高くなっています。



問6(4)-2. 各自治会が実施している地区別懇談会

■経年・年齢比較

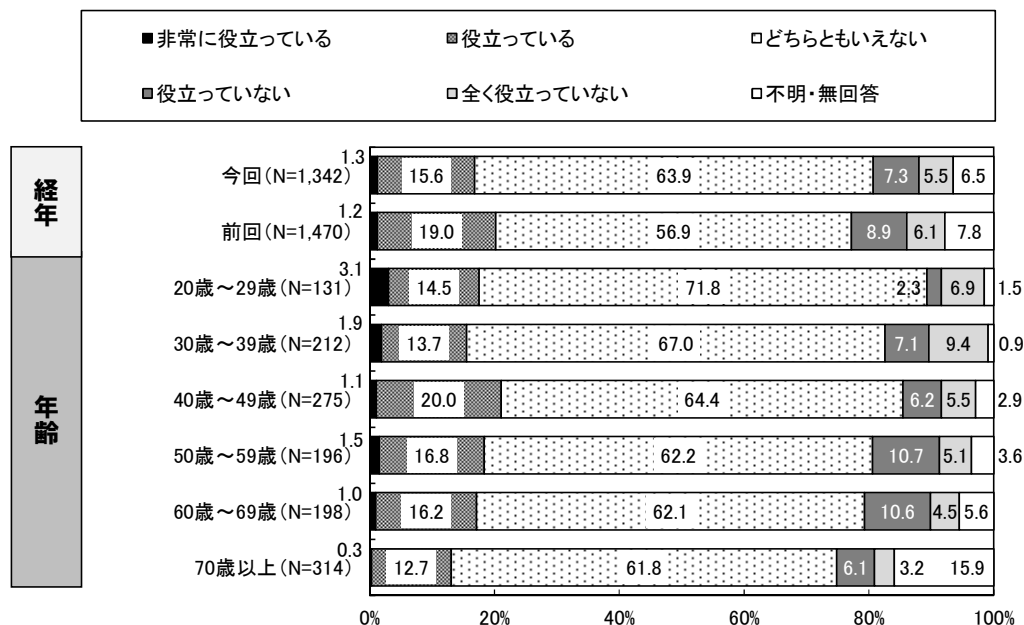
前回調査と比較すると、『役立っている』は0.9ポイント、『役立っていない』は3.0ポイント低くなっています。
年齢別にみると、年代が上がるにつれて『役立っている』の割合が高くなっています。



問6(4)-3. 市役所やコミュニティセンター等で開催される同和問題解決のための講座や研修会など

■経年・年齢比較

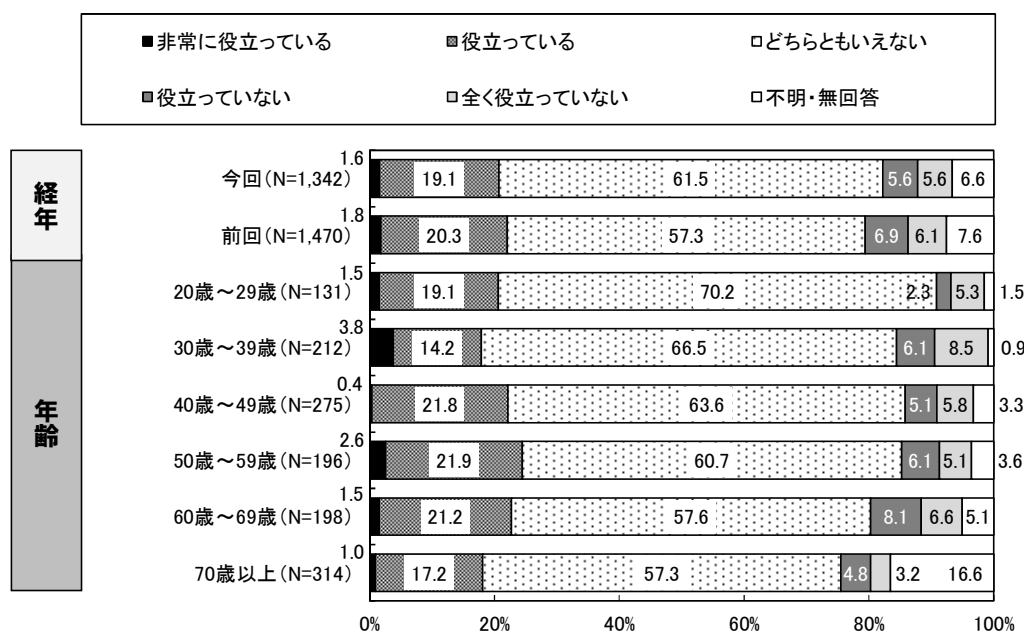
前回調査と比較すると、『役立っている』は3.3ポイント、『役立っていない』は2.2ポイント低くなっています。年齢別にみると、40歳～49歳において『役立っている』が2割強と他の年代と比べて高くなっています。



問6(4)-4. 栗東市が開催している「じんけんセミナー栗東」や「人権文化事業」「人権尊重と部落解放をめざす市民のつどい」等の講演会やコンサート

■経年・年齢比較

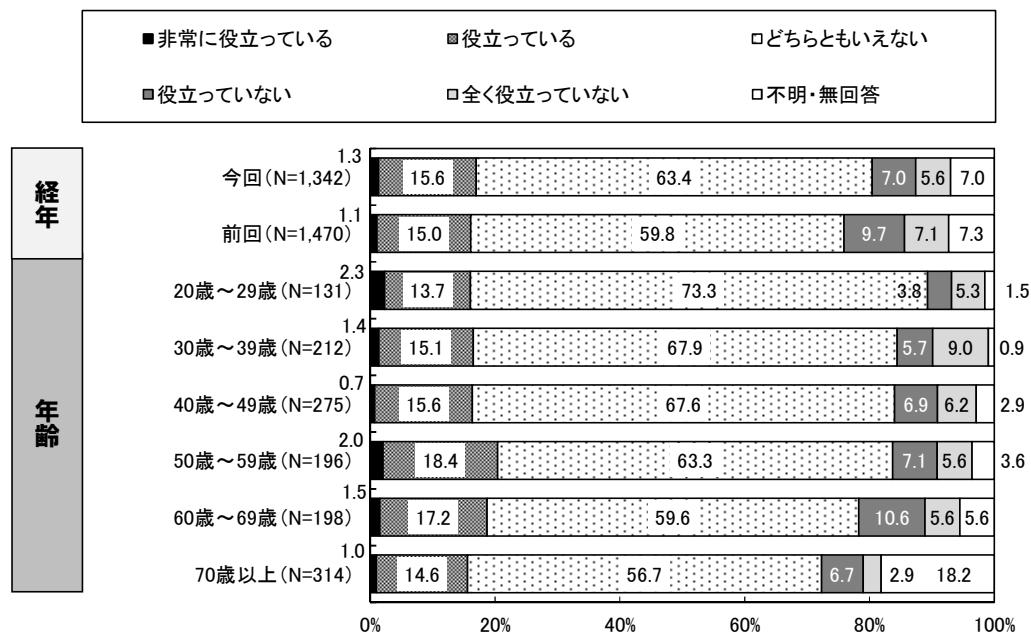
前回調査と比較すると、『役立っている』は1.4ポイント、『役立っていない』は1.8ポイント低くなっています。年齢別にみると、40歳～69歳において『役立っている』が2割半ばと他の年代と比べて高くなっています。



問6(4)-5. 地域における社会同和教育推進員の活動

■経年・年齢比較

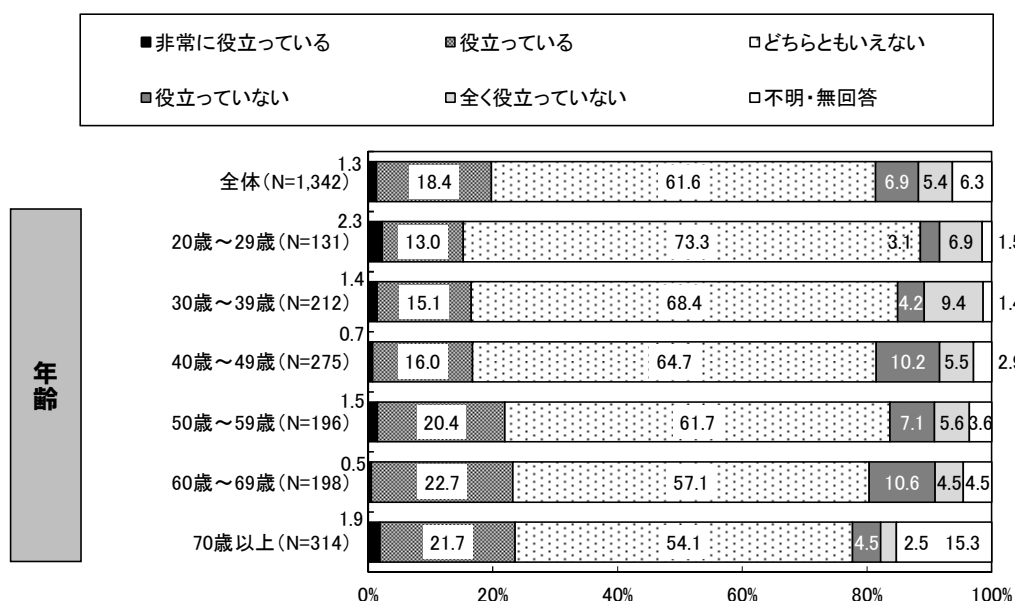
前回調査と比較すると、『役立っている』は0.8ポイント高く、『役立っていない』は4.2ポイント低くなっています。
年齢別にみると、50歳～59歳において『役立っている』が2割強と他の年代と比べて高くなっています。



問6(4)-6. 全戸配布している「広報りっとう12月号」に折り込みしている人権啓発資料「輝く未来」

■年齢比較

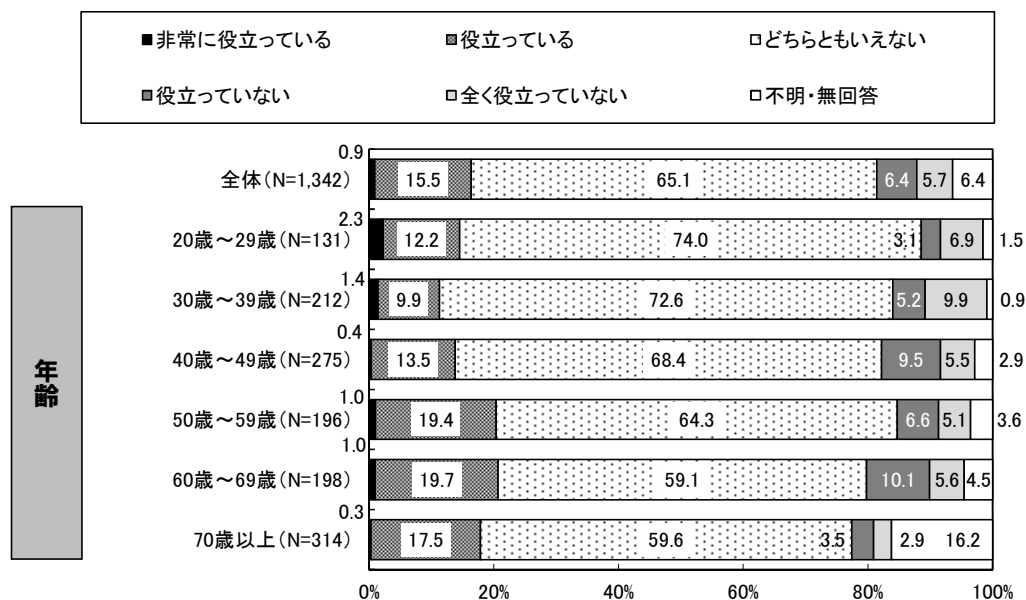
年齢別にみると、年代が上がるにつれて『役立っている』の割合が高くなっています。



問6(4)-7. 地区別懇談会の参加者に資料として渡している人権啓発教材「輝く未来」

■年齢比較

年齢別にみると、50歳～69歳において『役立っている』が2割強と他の年代と比べて高くなっています。



7. 部落差別解消推進法に関する認知度等について

問7. (1) 2016(平成28)年12月に、部落差別解消推進法(正式名称: 部落差別の解消の推進に関する法律)が施行されました。あなたは、部落差別解消推進法を知っていますか。あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

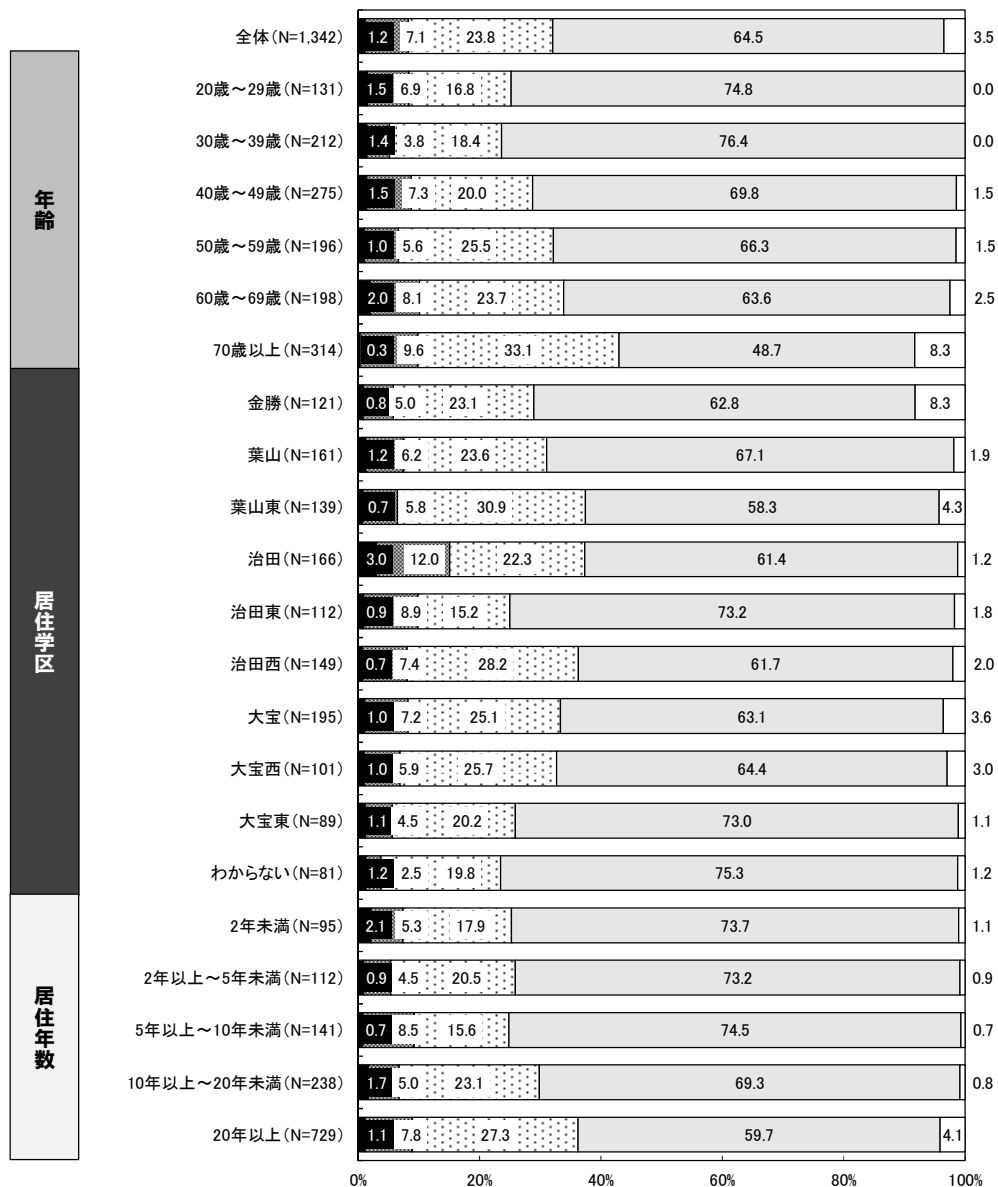
■全体

「部落差別解消推進法」を知っているかについてみると、「知らない」が64.5%と6割以上を占めており、次いで「法律ができたことは知っているが、内容までは知らない(法律名を聞いたことはある)」が23.8%、「法律ができたことを知っており、内容はだいたい知っている」が7.1%となっています。

年齢別、居住年数別にみると、年代、年数が上がるにつれて「知らない」の割合が低くなっています。

居住学区別にみると、葉山東において「知らない」が6割弱と他の地区と比べて低くなっています。

- 部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容もよく知っている
- ▣部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容はだいたい知っている
- 部落差別解消推進法ができたことは知っているが、内容までは知らない(部落差別解消推進法という法律名を聞いたことはある)
- 部落差別解消推進法を知らない
- 不明・無回答



(2) 部落差別解消推進法について、知っていること・そうだと思うことの番号すべてに○印をつけてください。

■全体

「部落差別解消推進法」について、知っていること・そうだと思うことについてみると、「知らない・わからない」が 60.7%と6割を占めており、次いで「部落差別の解消にむけて、国民一人一人が取り組む必要がある」と明言している」が 16.8%、「部落差別は現在も存在すると明言している」が 16.4%となっています。

年齢別にみると、20 歳～29 歳において「知らない・わからない」の割合が7割強と他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、大宝西において「部落差別は現在も存在すると明言している」が2割強と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別でみると、2年未満、5年以上～10 年未満において「知らない・わからない」が7割強と他の年数と比べて高くなっています。

単位：％

	「部落差別は現在も存在する」と明言している	「部落差別の解消にむけて、国民一人一人が取り組む必要がある」と明言している	インターネット上で悪質な部落差別が後を絶たないから、部落差別解消推進法ができた	部落差別解消推進法ができたことで、人権を尊重するまちづくりが進んだ	知らない・わからない	不明・無回答
全体(N=1,342)	16.4	16.8	6.1	8.4	60.7	9.7
年齢						
20歳～29歳(N=131)	16.8	20.6	5.3	3.1	70.2	2.3
30歳～39歳(N=212)	22.2	14.6	6.1	5.7	67.0	2.8
40歳～49歳(N=275)	17.1	19.6	7.6	7.3	66.2	5.1
50歳～59歳(N=196)	13.8	15.3	5.1	5.1	67.9	6.6
60歳～69歳(N=198)	15.2	16.7	6.1	10.6	59.1	10.1
70歳以上(N=314)	14.6	15.9	6.1	14.3	46.2	20.4
居住学区						
金勝(N=121)	13.2	20.7	7.4	8.3	59.5	12.4
葉山(N=161)	13.0	19.3	5.0	11.2	59.6	6.8
葉山東(N=139)	18.0	16.5	6.5	4.3	55.4	14.4
治田(N=166)	19.3	21.1	7.8	11.4	59.0	6.6
治田東(N=112)	14.3	11.6	5.4	8.0	64.3	13.4
治田西(N=149)	19.5	14.1	5.4	10.1	62.4	6.7
大宝(N=195)	15.9	17.4	6.7	6.7	60.0	10.8
大宝西(N=101)	20.8	19.8	5.0	8.9	61.4	6.9
大宝東(N=89)	15.7	14.6	7.9	7.9	68.5	6.7
わからない(N=81)	14.8	11.1	4.9	3.7	69.1	3.7
居住年数						
2年未満(N=95)	18.9	14.7	8.4	3.2	70.5	2.1
2年以上～5年未満(N=112)	19.6	17.0	8.0	1.8	65.2	5.4
5年以上～10年未満(N=141)	14.2	17.7	3.5	5.0	70.2	4.3
10年以上～20年未満(N=238)	17.6	16.8	5.9	10.9	68.1	4.2
20年以上(N=729)	15.6	17.1	6.3	9.9	55.7	12.9

(3) あなたは、部落差別を解消することができますか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。また、その理由をお書きください。

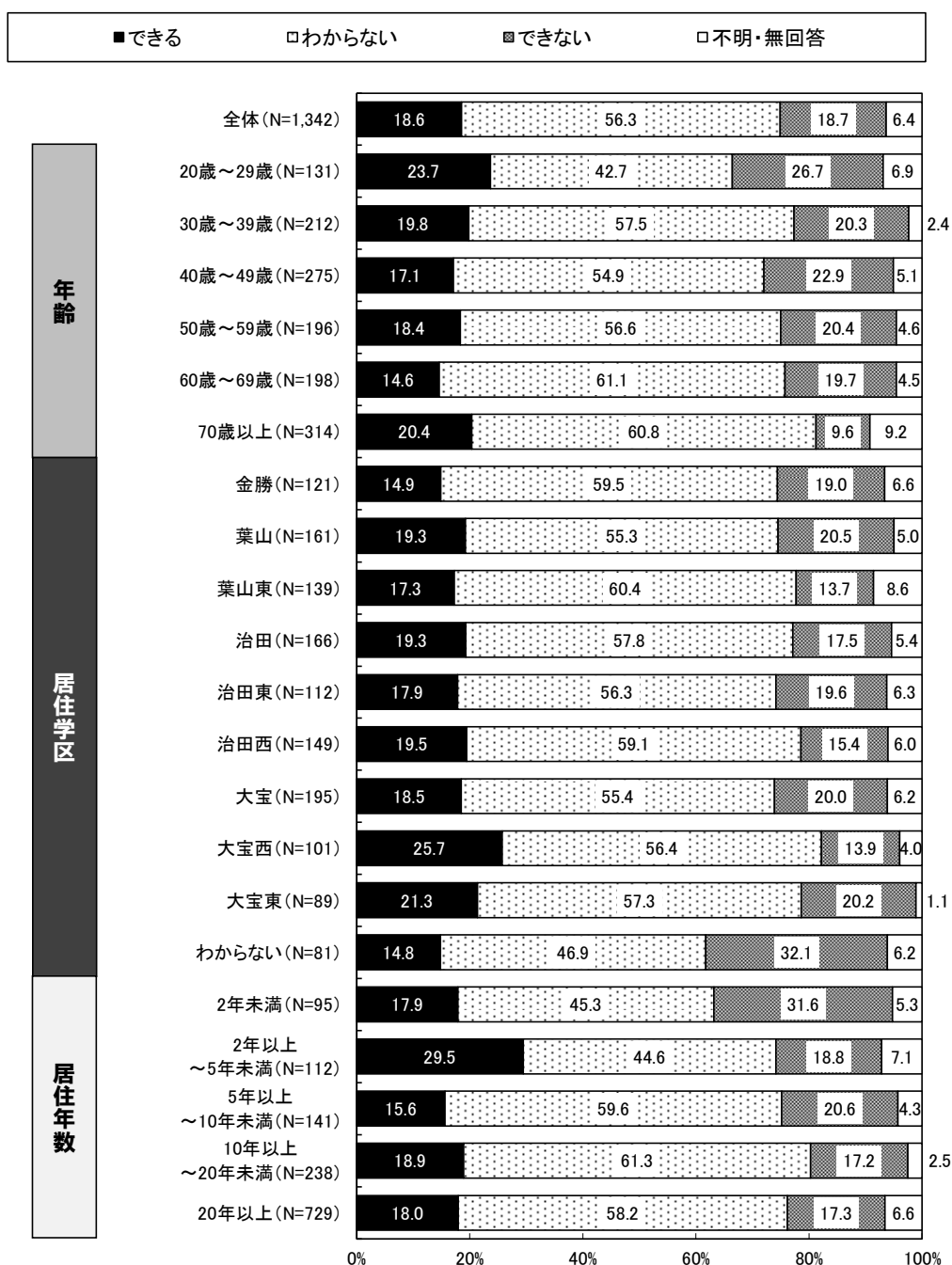
■全体と基本別属性

部落差別を解消することができるかについてみると、「わからない」が 56.3%と半数以上を占めており、「できない」が 18.7%、「できる」が 18.6%とほぼ同数になっています。

年齢別にみると、20 歳～29 歳において「できない」と「できる」がそれぞれ2割半ばと、他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、大宝西、大宝東において「できる」が2割台と他の地区と比べて高くなっています。

居住年数別にみると、2年以上～5年未満において「できる」が3割弱、2年未満において「できない」が3割強と、他の年数と比べてそれぞれ高くなっています。

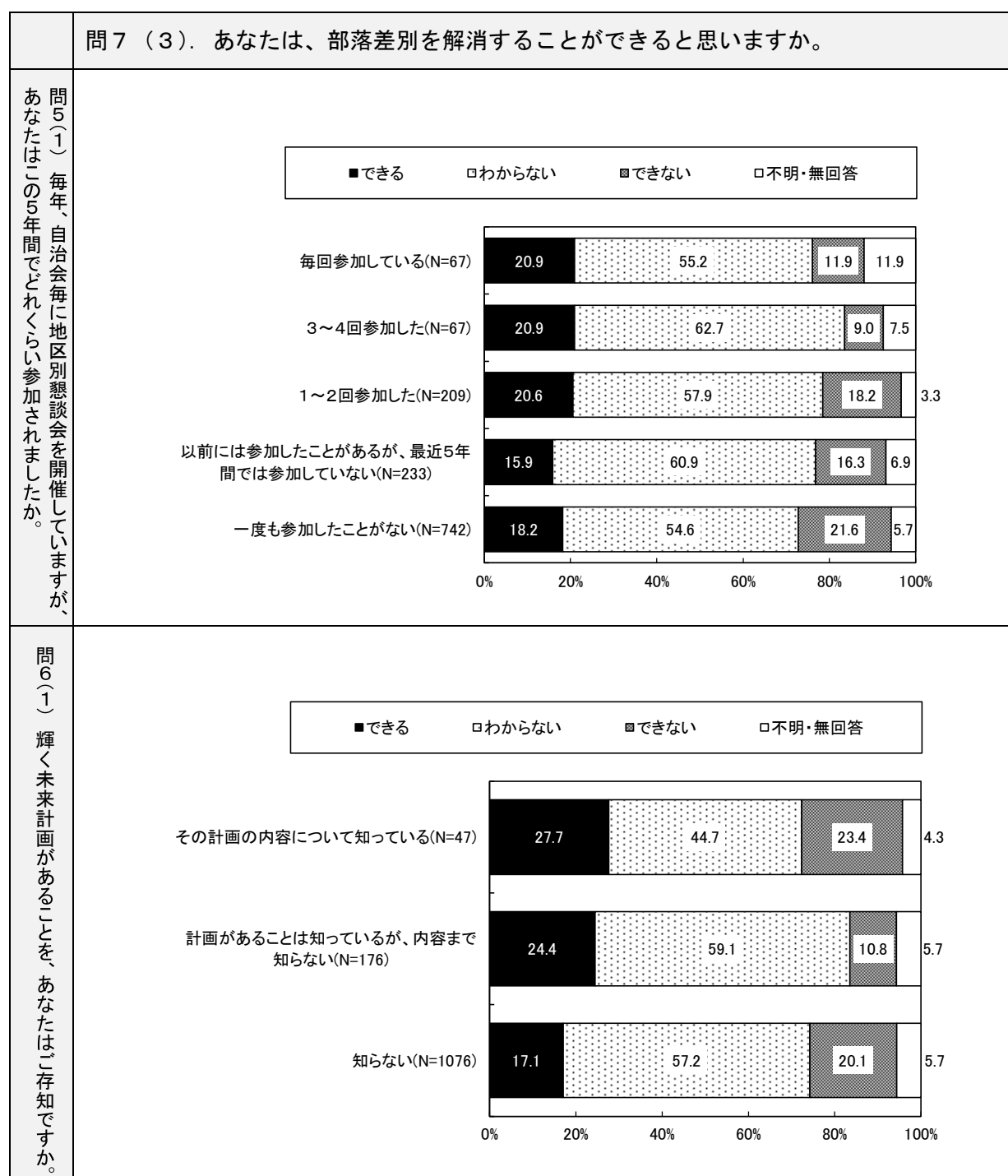


■問7(3)の回答者の状況 ～啓発機会に触れた経験について⑤～

＜問7(3) × 問5(1)・問6(1)＞

＜問7(3). あなたは、部落差別を解消することができますか＞に回答した人の内訳をみると、地区別懇談会の参加経験では、〔毎回参加している〕〔3～4回参加した〕〔1～2回参加した〕人においては「できる」、〔一度も参加したことがない〕人においては「できない」の割合が最も高くなっています。

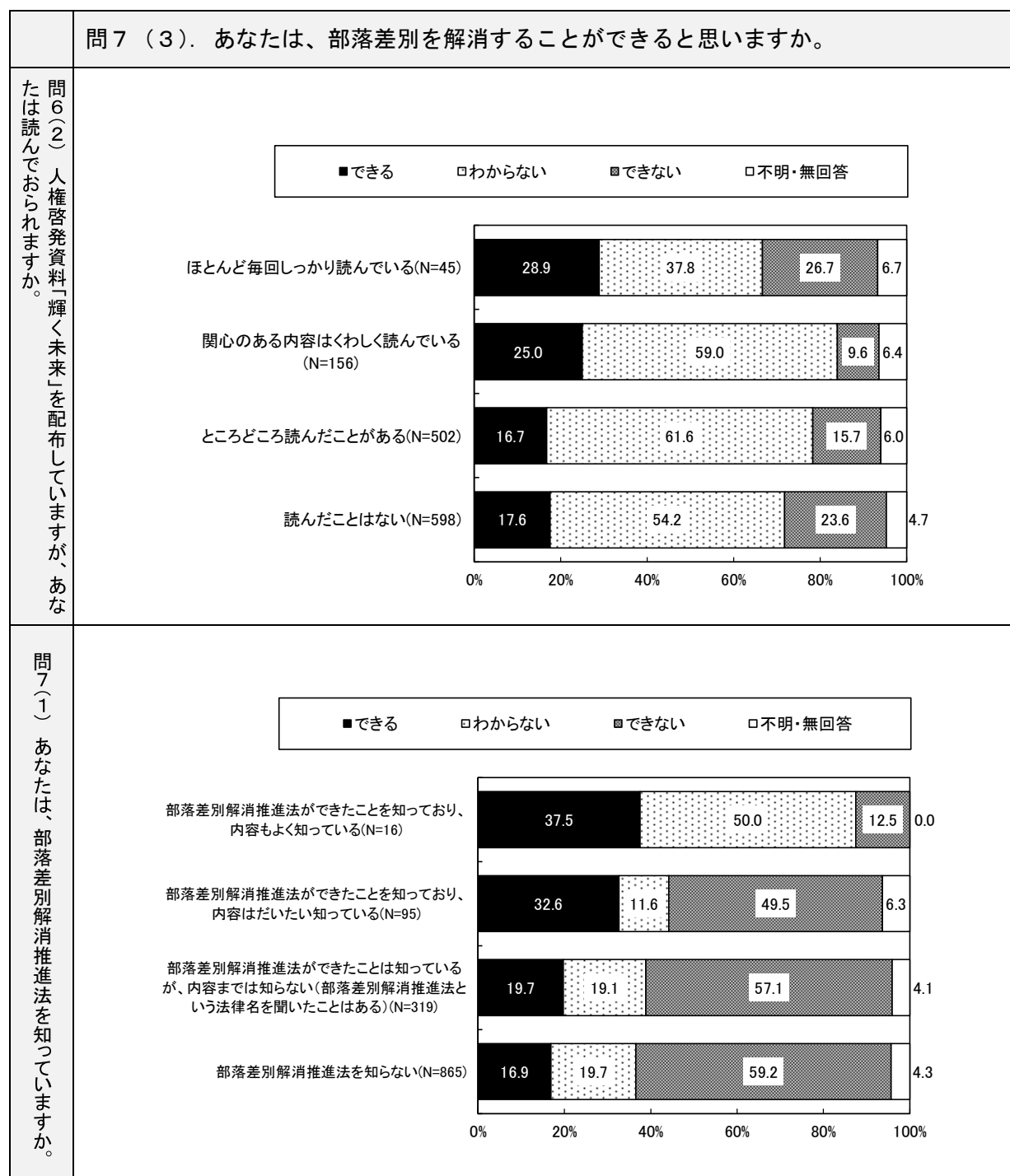
「輝く未来計画」の認知度では、〔その計画の内容について知っている〕人においては「できる」と「できない」の割合が、それぞれ最も高くなっています。



<問7(3) × 問6(2)・問7(1)>

人権啓発資料「輝く未来」の閲読状況では、[ほとんど毎回しっかり読んでいる]人においては「できる」と「できない」の割合が、それぞれ最も高くなっています。

「部落差別解消推進法」の認知度では、[部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容もよく知っている]人においては「できる」と「できない」の割合が、それぞれ最も高くなっています。



8. 市民が思う、栗東市の人権尊重に対するまちの姿について

問8. あなたは、今の栗東市は「人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。
 あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

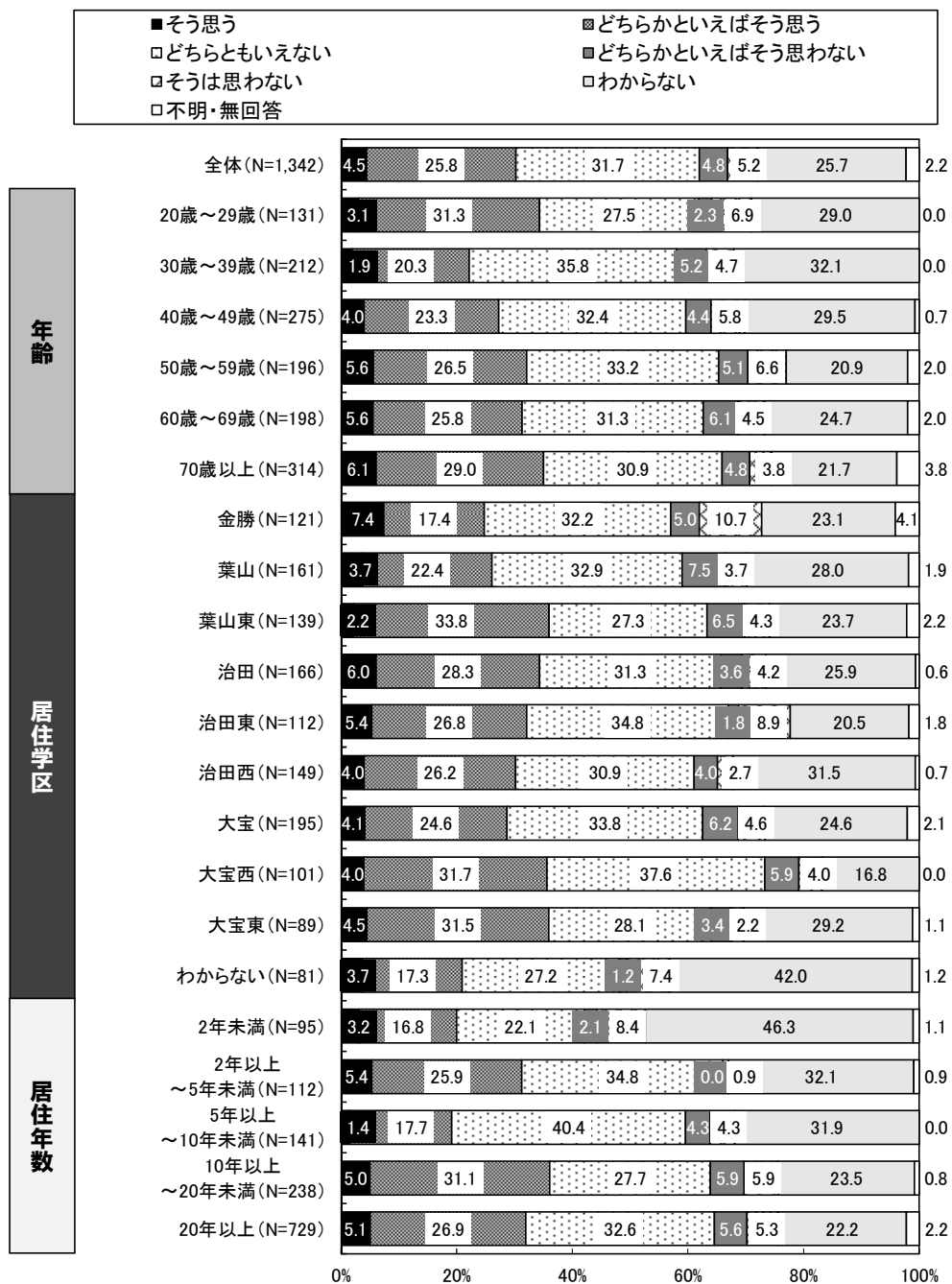
■全体と基本別属性

今の栗東市は人権が尊重されるまちになっていると思うかについてみると、「どちらともいえない」が31.7%と最も高く、次いで『そう思う』が30.3%、「わからない」が25.7%となっています。

年齢別にみると、20歳～29歳、70歳以上において『そう思う』が3割半ばと他の年代と比べて高くなっています。

居住学区別にみると、金勝、葉山において『そう思う』が2割半ばと他の地区と比べて低くなっています。

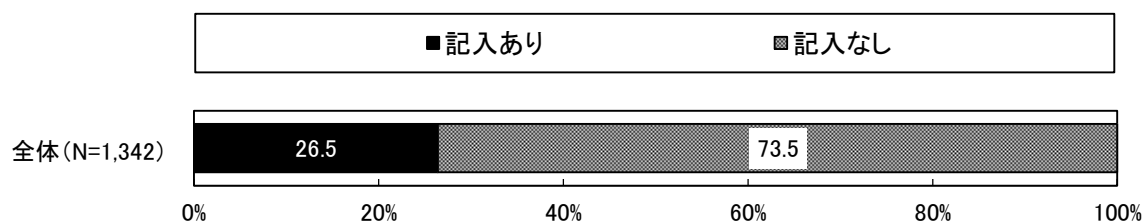
居住年数別にみると、2年未満において「わからない」が4割半ば、10年以上～20年未満において『そう思う』が3割半ばと、他の年数と比べてそれぞれ高くなっています。



9. 人権・同和問題に関する自由意見、回答者ご自身のことについて

問9. 人権・同和問題について日頃からお感じのことや、今まで聞いた話や体験などありましたら、ご自由にお書きください。

(自由記述のため未掲載、回答数は以下の通り。)

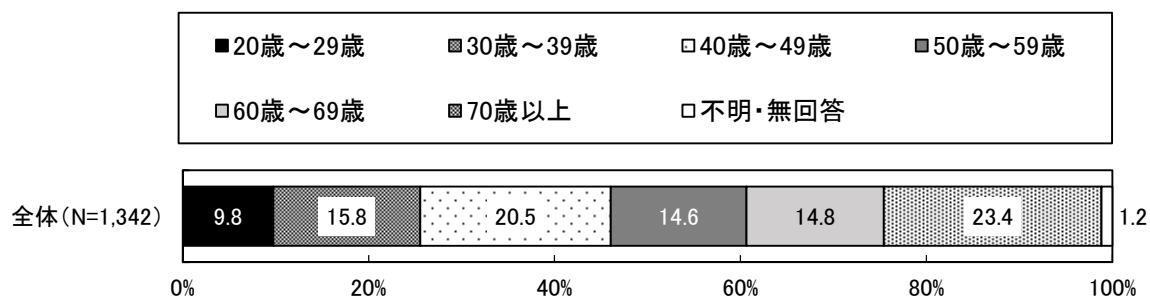


A. あなたの年齢は、次のどれに該当しますか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

■全体

年齢についてみると、「70 歳以上」が 23.4%と最も高く、次いで「40 歳～49 歳」が 20.5%、「30 歳～39 歳」が 15.8%となっています。

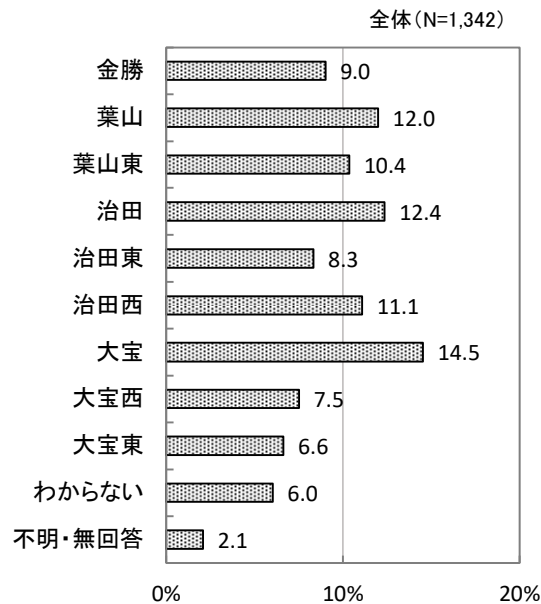


B. あなたのお住まいの学区はどこですか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

■全体

お住まいの学区についてみると、「大宝」が 14.5%と最も高く、次いで「治田」が 12.4%、「葉山」が 12.0%となっています。

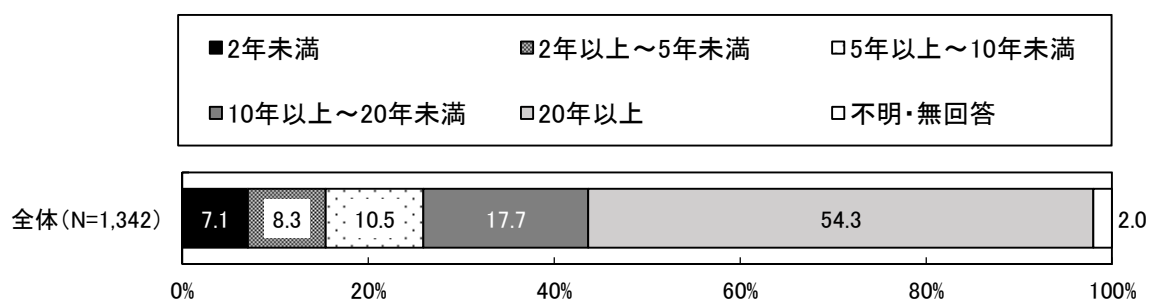


C. あなたは、栗東市に住まれて何年になりますか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

■全体

栗東市に住まれて何年になるかについてみると、「20 年以上」が 54.3%と最も高く、次いで「10 年以上～20 年未満」が 17.7%、「5 年以上～10 年未満」が 10.5%となっています。



資料編（調査票）

「人権・同和問題に関する住民意識調査」 のご協力について（お願い）

日頃より栗東市の人権・同和教育推進のため、格別のご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、栗東市ではあらゆる差別や偏見をなくし、一人ひとりが尊重され誰もが参画できるまちづくりをめざして取り組んでいます。現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する不安から、感染者や医療従事者等への差別や偏見といった悲しい事例も報道されていますが、こうした方々を傷つけるような不当な差別や偏見も決してあってはならないものです。

このたび、1985（昭和 60）年以来、5 年毎に実施しています「人権・同和問題に関する住民意識調査」を実施し、市民の皆様の同和問題をはじめ人権にかかわることについてのお考えを聞かせていただき、今後の教育、啓発活動を進めていくうえでの参考にしたいと考えております。

今回、栗東市に居住の皆様の中から 3,000 人の方々を無作為に選び、本アンケート用紙を送らせていただきました。

あなた個人のお名前や回答の内容が公表されることは決してありませんし、個人の秘密は厳守されますので、日頃のお考えをそのままお書きくださるようお願いいたします。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

調査票に回答をご記入のうえ、**8月28日（金）までに**、お名前を書かずに同封の返信用封筒でご返送ください。

この調査についてのご質問がありましたら、下記へお問い合わせください。

2020（令和 2）年 8 月 栗 東 市

〈お問い合わせ先〉
栗東市教育委員会事務局人権教育課
担当 前田・稗田
〒520-3088 栗東市安養寺一丁目 13 番 33 号
TEL：077-551-0133
FAX：077-551-0149

調 査 票

- ・同和問題（部落差別）とは、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、日本国民の一部の人々が、長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられ、日常生活のうえで様々な差別を受けるなどしている、我が国固有の重大な人権問題です。
- ・設問中に出てくる「対象地域」とは、旧地域改善対策特別措置法第1条に規定する地域（いわゆる同和地区）という意味です。

問 1

世の中のあり方や人間の生き方について次のような意見があります。あなたはどのように思われますか。それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

	そう 思う	どちらか といえば そう 思う	どちらとも いえ ない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない
1. 自分の今の生活は充実している	1	2	3	4	5
2. 社会のいろいろな矛盾には、しかたがないとあきらめずに、解決しようと努力したい	1	2	3	4	5
3. 私たちの社会では、うまく立ち回っている人間だけが得をする	1	2	3	4	5
4. ホンネとタテマエを上手に使い分けないと損をする	1	2	3	4	5
5. 他人の権利をいちいち尊重していたら、自分が不利になるだけだ	1	2	3	4	5
6. 人間の社会には、差別は必ずあるものだ	1	2	3	4	5
7. 結婚式をするのなら大安の日を選びたい	1	2	3	4	5
8. 家の間取りを考えるとときには、鬼門など方角のことを考えた方がよい	1	2	3	4	5
9. 葬式に参列したあとは、清めの塩をまかないと、気分が落ちつかない	1	2	3	4	5
10. 世間の人がどう見ているのか、気になるタイプだ	1	2	3	4	5

問 2

人権・同和問題をめぐってさまざまな意見があります。あなたはどのように思われますか。それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1. 対象地域の人とわかると、意識してはいけな いと思ってもついつい意識してしまう	1	2	3	4	5
2. 差別を受けた人のくやしさは、とても人ごと とは思えない	1	2	3	4	5
3. 差別を共になくそうとする態度を身につけ たい	1	2	3	4	5
4. 現在、同和問題（部落差別）で一番深刻なこ とは、就労の安定である	1	2	3	4	5
5. 現在、同和問題（部落差別）で一番深刻なこ とは、結婚についてである	1	2	3	4	5
6. 同和問題（部落差別）は、私とは関係ない話 だ	1	2	3	4	5
7. 差別された人の訴えや願いにもっと耳をか たむけたい	1	2	3	4	5
8. 同和問題（部落差別）は、なくなりつつあ り、人々の意識からだんだん消えつつある	1	2	3	4	5
9. 人権尊重のまちづくりのため環境をよくする のは行政の責務だ	1	2	3	4	5
10. 部落差別は、大げさに取りあげることでも ない	1	2	3	4	5
11. 差別的言動があったとき、誤りを指摘でき る	1	2	3	4	5
12. 同和問題（部落差別）について自分自身に 問いかけなおしたい	1	2	3	4	5
13. 部落差別とたたかっている人たちとの交流 の機会をもっと増やすべきだ	1	2	3	4	5
14. 栗東市は、基本的人権が尊重されている市 である	1	2	3	4	5
15. 市民一人ひとりの人権意識は、5年前に比 べて高くなっている	1	2	3	4	5
16. 差別を解消するために、努力している人々 を応援したい	1	2	3	4	5
17. もし、わが子が対象地域の人とつき合っ ていたら、悩んでしまう	1	2	3	4	5
18. 地区別懇談会や講演会・研修会は、人権・ 同和問題の正しい理解に役立っている	1	2	3	4	5

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
19. 部落差別問題学習は、部落差別を知らない人にまで知らせることになり、差別を広げている	1	2	3	4	5
20. 同和問題（部落差別）をはじめさまざまな人権問題について、今後もっと学びたい	1	2	3	4	5
21. 同和問題（部落差別）は、人権問題全体の教育・啓発の一環として行うべきである	1	2	3	4	5
22. 地区別懇談会に積極的に参加したい	1	2	3	4	5
23. 学校での人権・同和問題学習は、差別解消に役立った	1	2	3	4	5
24. 国民的課題である同和問題（部落差別）解決にむけての教育・啓発は、他の人権問題よりも特に重点的に行うべきである	1	2	3	4	5
25. 同和問題（部落差別）および他の人権問題については、積極的な教育・啓発を行うべきである	1	2	3	4	5
26. 人権意識を高めるためには、同和問題（部落差別）だけをとりあげて教育・啓発を行うのは誤りである	1	2	3	4	5
27. 障がいのある人や、病気、女性、子ども、高齢者等の人権問題についての教育・啓発のほうが同和問題（部落差別）より重要である	1	2	3	4	5
28. 差別を解消するために努力している	1	2	3	4	5
29. 差別の解消はむずかしいので、そっとしておいたほうがよい	1	2	3	4	5
30. 家族でもっと人権・同和問題について話し合うべきだ	1	2	3	4	5
31. 学校でもっと人権・同和問題について、学習の機会を増やすべきだ	1	2	3	4	5
32. 差別をしないように人権意識を高め、日常生活に生かしたい	1	2	3	4	5
33. 同和問題（部落差別）は近い将来、解決する	1	2	3	4	5
34. 差別を解消するために何をすればよいかわからない	1	2	3	4	5
35. 一人ひとりが尊重される集団や社会を築くため、リーダーになって努力したい	1	2	3	4	5
36. 人権・同和問題の講演会や研修会に積極的に参加したい	1	2	3	4	5

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
37. 部落差別問題学習を積極的にすすめれば、人々の差別意識や偏見はなくなっていく	1	2	3	4	5
38. 命の大切さ、人間の尊厳、人間らしい生き方を学ぶのも人権学習である	1	2	3	4	5
39. さまざまな人権問題の解決には、人を信頼し、認め合える豊かな人間関係づくりが大切である	1	2	3	4	5
40. 家事・育児や介護など、男女が共同して担う社会の仕組みをもっと整備するべきだ	1	2	3	4	5
41. 障がいのある人に対する不当な扱いを減らし、合理的配慮について考えていく必要がある	1	2	3	4	5
42. 外国人の生活習慣や文化への理解や認識を深めていくべきだ	1	2	3	4	5
43. 子どもを一人の人間として尊重し、親（保護者）や社会は子どもを守るべきだ	1	2	3	4	5
44. 高齢者が暮らしやすくするために、社会の仕組みづくりを進めていく必要がある	1	2	3	4	5
45. LGBT 等といった性の多様性について理解を深め、社会の仕組みづくりを整備していくべきだ	1	2	3	4	5
46. インターネットや SNS による情報は、差別や偏見を広げることがあるので、注意する必要がある	1	2	3	4	5
47. 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、医療従事者や罹患者を避けるのはしかたがない	1	2	3	4	5
48. 災害時や緊急事態宣言時には、一層人権を大切にすることが重要である	1	2	3	4	5

49. あなたの身の回りにある解決すべき人権問題はどれですか。

以下の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

- | | |
|---------------------------------------|------------------|
| 1. 女性に関わる問題 | 2. 子どもに関わる問題 |
| 3. 高齢者に関わる問題 | 4. 障がいのある人に関わる問題 |
| 5. 同和問題（部落差別） | 6. 外国人に関わる問題 |
| 7. HIV、ハンセン病、新型コロナウイルスなどの感染症患者等に関わる問題 | |
| 8. 犯罪被害者に関わる問題 | 9. ホームレスに関わる問題 |
| 10. インターネットによる人権侵害に関わる問題 | |
| 11. LGBT 等といった性の多様性に関わる問題 | |
| 12. その他の問題（具体的に記入してください：_____） | |
| 13. 特になし | |

問 3

(1) あなたが、同和問題（部落差別）について、はじめて知ったのは、いつ頃ですか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 6歳未満（小学校入学以前するとき）
2. 6歳～9歳未満（小学校1～3年生するとき）
3. 9歳～12歳未満（小学校4～6年生するとき）
4. 12歳～15歳未満（中学生するとき）
5. 15歳～18歳未満（高校生するとき）
6. 18歳～20歳未満
7. 20歳以上
8. はっきり覚えていない
9. その他（具体的に書いてください： _____）

(2) あなたが、同和問題（部落差別）について、はじめて知ったきっかけは、何からですか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 家族（祖父母、父母、兄弟、姉妹など）から聞いた
2. 親戚の人から聞いた
3. 近所の人から聞いた
4. 職場の人から聞いた
5. 学校の友達から聞いた
6. 学校の授業でおそわった
7. テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った
8. インターネットで知った
9. 部落差別問題の集会や研修会で知った
10. 市や県の広報誌や冊子などで知った
11. その他（具体的に書いてください： _____）

(3) あなたは対象地域がどういう理由でできたと考えておられますか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 人種（民族）がちがうから
2. 職業（仕事）がちがうから
3. 別の地域から来た人が住みついてできたから
4. 封建時代の権力者・支配者が民衆を支配する手段としてできたから
5. 宗教がちがうから
6. 生活が貧しい人たちが集まってできたから
7. わからない
8. その他（具体的に書いてください： _____）

- (4) あなたが住宅を選ぶ際の条件について、あなたはどのように思われますか。
それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

	避 け る と 思 う	ど ち ら か と い え ば 避 け る と 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば 避 け な い と 思 う	避 け な い と 思 う
1. 近隣に対象地域がある	1	2	3	4	5
2. 近隣に低所得者など生活が困難な人が多く住んでいる	1	2	3	4	5
3. 近隣に外国人住民が多く住んでいる	1	2	3	4	5
4. 近隣に精神科病院や障がい者施設がある	1	2	3	4	5

- (5) 栗東市では、国の補助を受け、1997年から6年という歳月をかけて、十里まちづくり事業を地域の住民と行政とが一体となって取り組みました。
このことについて、あなたはどうお考えかを、お答えください。

- ① なぜ、十里まちづくり事業が行われたかについてお答えください。
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 部落差別をなくすために行われた
2. 浸水を防ぐために行われた
3. 住環境の改善のために行われた
4. わからない
5. 十里まちづくり事業自体を知らない
6. その他（具体的に書いてください： _____）

- ② 十里まちづくり事業について、あなたはどうお考えですか。
あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 部落差別の解消に役立っている
2. 対象地域だけがよくなっている
3. わからない
4. その他（具体的に書いてください： _____）

- ③ なぜ今も部落差別が残っていると思いますか。あなたのお考えをお書きください。

- ④ 福祉と人権のまちづくりの発信拠点としてのひだまりの家（地域総合センター）についてお答えください。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. ひだまりの家に行ったり、図書コーナー（ゆめのくに）やデイサービスを利用したりしたことがある
2. ひだまりの家での研修会・各種講座に参加したり、さまざまな事業（解放文化祭等）に出かけたりしたことがある
3. ひだまりの家があることは知っているが、行ったことはない
4. ひだまりの家を知らない

問 4

- (1) あなたは、ここ5年以内で、差別や人権侵害を受けたことがありますか。
どちらかの番号に○印をつけてください。

1. あ る
2. な い

- (2) 問4－(1)で、「1. ある」と答えた方にうかがいます。
それは、どのような場面で、どのような内容でしたか。次の「ア」から「ク」の場面と、「1」から「8」の内容の中で、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

【場面】

- ア. 家庭で
- イ. 地域社会や公共の場で
- ウ. 学校で
- エ. 職場で
- オ. 行政手続きや行政の対応で
- カ. 福祉医療サービスで
- キ. インターネット上で
- ク. その他 ※具体的に書いてください

()

【内容】

1. あらぬうわさ、悪口で傷つけられた
2. 暴力をふるわれた
3. 強迫・無理強いされた
4. 差別待遇を受けた
5. 仲間はずし、いじめ、嫌がらせを受けた
6. プライバシーを侵害された
7. セクシュアル・ハラスメントを受けた
8. その他 ※具体的に書いてください

()

- (3) 問4－(1)で、「1. ある」と答えた方にうかがいます。
差別や人権侵害を受けたときに、どのような対応をされましたか。
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 相手に抗議した
2. 身近な人に相談した
3. 所属する会社や学校の相談室などに相談した
4. 弁護士に相談した
5. 警察に相談した
6. 法務局、人権擁護委員に相談した
7. 県の機関、市役所、役場に相談した
8. 滋賀県人権センターやNPOなどの民間の相談機関に相談した
9. その他（具体的に書いてください：)
10. 黙ってがまんした

問 5

栗東市では、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていくために、毎年、各自治会で地区別懇談会を開催しています。

(1) あなたは地区別懇談会にこの5年間でどれくらい参加されましたか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 毎回参加している
2. 3～4回参加した
3. 1～2回参加した
4. 以前には参加したことがあるが、最近5年間では参加していない
5. 一度も参加したことがない

※地区別懇談会に最近の5年間で参加した人は次の(2)～(5)の問いに、参加したことのない人は(6)～(7)の問いに教えてください。

それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

〈最近5年間で参加した人〉 ※問5－(1)で「1」「2」「3」と答えた方

(2) 人権・同和問題の認識を深めるために役立ちましたか。

非常に役に 立った	役に立った	どちらとも いえない	あまり役に 立たない	全く役に 立たない
1	2	3	4	5

(3) 内容ややり方についてどう思いますか。

たいへん 良かった	まあ良かった	どちらとも いえない	あまり良く なかった	全く良く なかった
1	2	3	4	5

(4) 参加することで、部落差別やその他の差別について考え方が変わりましたか。

かなり変わった	少し変わった	どちらとも いえない	あまり変わら ない	全く変わらない
1	2	3	4	5

(5) 地区別懇談会への参加者を増やすためには、どのようなことをすればいいと思いますか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 地区別懇談会を開催することを、市民にもっとお知らせする
2. 人権問題・部落差別問題についてわかりやすく話をしてくれる講師にする
3. 地区別懇談会の内容を工夫する(参加型、ワークショップ型※ など)
4. その他()
5. わからない ※参加者が自主的に体験する講習会

〈最近5年間で参加したことのない人〉 ※問5－(1)で「4」または「5」と答えた方

(6) どうして参加されなかったのか、また、参加されなくなったのですか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 地区別懇談会が開かれているのを知らなかったから
2. 人権・同和問題に関心がないから
3. 参加しても差別はなくならないと思っているから
4. 人権・同和問題をよく理解し、自分は差別などしていないから
5. 仕事の都合で参加できなかったから
6. 家事の都合で参加できなかったから
7. その他（具体的に：

）

(7) どのような地区別懇談会だったら参加してみようと思いますか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. 人権問題・部落差別問題についてわかりやすく話をしてくれる地区別懇談会
2. 内容を工夫した地区別懇談会（参加型、ワークショップ型 など）
3. その他（
4. 参加しようとは思わない

）

問 6

(1) 栗東市では、2016（平成 28）年度より、第四次輝く未来計画（人権・同和教育推進5ヶ年計画）をすすめてきました。あなたは、この計画をご存じですか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. その計画の内容について知っている
2. 計画があることは知っているが、内容まで知らない
3. 知らない

(2) 栗東市では、2016（平成 28）年度より、全戸配布している「広報りっとう12月号」の折り込みで人権啓発資料「輝く未来」を配布していますが、あなたは読んでおられますか。

あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. ほとんど毎回しっかり読んでいます
2. 関心のある内容はくわしく読んでいます
3. ところどころ読んだことがある
4. 読んだことはない

(3) 栗東市人権・同和教育推進協議会より『みんなの同推協』を、年2回全戸配布していますが、あなたは読んでおられますか。あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1. ほとんど毎回しっかり読んでいる
2. 関心のある内容はくわしく読んでいる
3. ところどころ読んだことがある
4. 読んだことはない

(4) 栗東市が現在まで実施してきた次の「1」から「7」に挙げる教育・啓発事業は、人権・同和教育の解決にむけて、どの程度役立っていると思いますか。

それぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

	役立 非常に っている	役立 っている	ど ちらとも いえ ない	役立 っていない	役立 全く っていない
1. 栗東市人権・同和教育推進協議会より発行の『みんなの同推協』(年2回)	1	2	3	4	5
2. 各自治会が実施している地区別懇談会	1	2	3	4	5
3. 市役所やコミュニティセンター等で開催される同和教育解決のための講座や研修会など	1	2	3	4	5
4. 栗東市が開催している「じんけんセミナー栗東」や「人権文化事業」「人権尊重と部落解放をめざす市民のつどい」等の講演会やコンサート	1	2	3	4	5
5. 地域における社会同和教育推進員の活動(地区別懇談会の企画・開催、市の人権・同和教育研修会・啓発事業への参加など)	1	2	3	4	5
6. 全戸配布している「広報りっとう12月号」に折り込みしている人権啓発資料「輝く未来」	1	2	3	4	5
7. 地区別懇談会の参加者に資料として渡している人権啓発教材「輝く未来」	1	2	3	4	5

問 7

- (1) 2016（平成 28）年 12 月に、部落差別解消推進法（正式名称：部落差別の解消の推進に関する法律）が施行されました。あなたは、部落差別解消推進法を知っていますか。
あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

1. 部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容もよく知っている
2. 部落差別解消推進法ができたことを知っており、内容はだいたい知っている
3. 部落差別解消推進法ができたことは知っているが、内容までは知らない（部落差別解消推進法という法律名を聞いたことはある）
4. 部落差別解消推進法を知らない

- (2) 部落差別解消推進法について、知っていること・そうだと思うことの番号すべてに○印をつけてください。

1. 「部落差別は現在も存在する」と明言している
2. 「部落差別の解消にむけて、国民一人一人が取り組む必要性がある」と明言している
3. インターネット上で悪質な部落差別が後を絶たないから、部落差別解消推進法ができた
4. 部落差別解消推進法ができたことで、人権を尊重するまちづくりが進んだ
5. 知らない・わからない

- (3) あなたは、部落差別を解消することができると思いますか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。また、その理由をお書きください。

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

理由

問 8

あなたは、今の栗東市は「人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そうは思わない
6. わからない

問 9

人権・同和問題について日頃からお感じのことや、今まで聞いた話や体験などありましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただきまして本当にありがとうございました。
最後に、あなたご自身のことについておたずねいたします。

A. あなたの年齢は、次のどれに該当しますか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 20 歳～29 歳 | 2. 30 歳～39 歳 |
| 3. 40 歳～49 歳 | 4. 50 歳～59 歳 |
| 5. 60 歳～69 歳 | 6. 70 歳以上 |

B. あなたのお住まいの学区はどこですか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

- | | | | |
|--------|-----------|--------|--------|
| 1. 金 勝 | 2. 葉 山 | 3. 葉山東 | 4. 治 田 |
| 5. 治田東 | 6. 治田西 | 7. 大 宝 | 8. 大宝西 |
| 9. 大宝東 | 10. わからない | | |

C. あなたは、栗東市に住まれて何年になりますか。

あてはまる番号に 1 つだけ○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 2 年未満 | 2. 2 年以上～5 年未満 |
| 3. 5 年以上～10 年未満 | 4. 10 年以上～20 年未満 |
| 5. 20 年以上 | |

ご協力いただきありがとうございました。ご多用のところ誠に恐縮ですが、返信用の封筒に入れて、8月28日(金)までにご投函いただきますようよろしくお願いいたします。